



世界大戦と宣傳

情報宣傳研究資料

第四輯

昭和十三年一月
内閣情報部

310
137



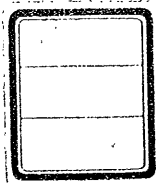


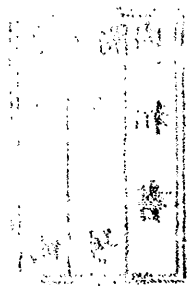
世界大戦と宣傳

情報宣傳研究資料

第四輯

昭和十三年一月
内閣情報部





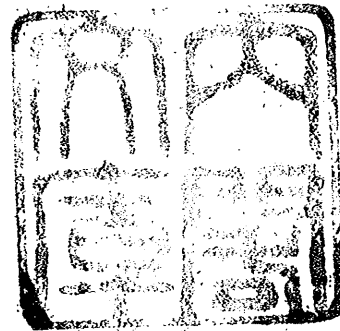
本輯は事務上参考の爲ヘルマンワ・ンデルシ
エツク著「世界大戦と宣傳」ヘルリン、一九三六
年發行を翻譯せるものなり

310
137



ノースクリフ卿
アメリカ漫画

内閣文庫	
和書	八九四九六号 冊

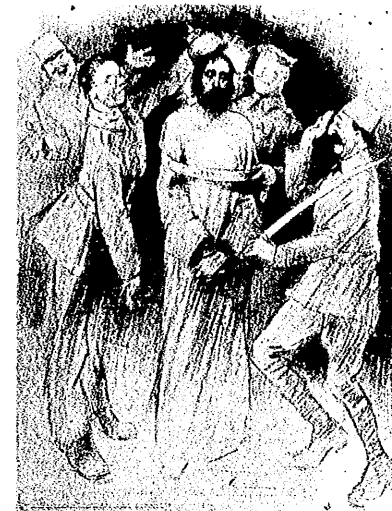




1916年のヨーロッパ
 ベルン・ハルザーに対する宣傳畫、「力は最上の法である。而して何が法であるかといふ事は戦争といふ仲裁裁判によつて決定される。」(プロシヤ主義及獨逸文明に対する英國の宣傳の例、141頁参照)



「航空郵便」第31號
 「獨逸民衆よ、諸君は戦争の盃を諸君の戦友の死骸の最後の一つ迄飲まねばならぬのだ！」(革命宣傳の例、213頁参照)



而して彼等は跪き彼を侮辱せり！(ルイ・レーメーカーの惨行宣傳の例、231頁参照)



「眞實」第12號
 我は自衛の爲に行動せり(206頁参照)



戦場の獨逸兵 (「パンチの大戦漫畫」より185頁参照)



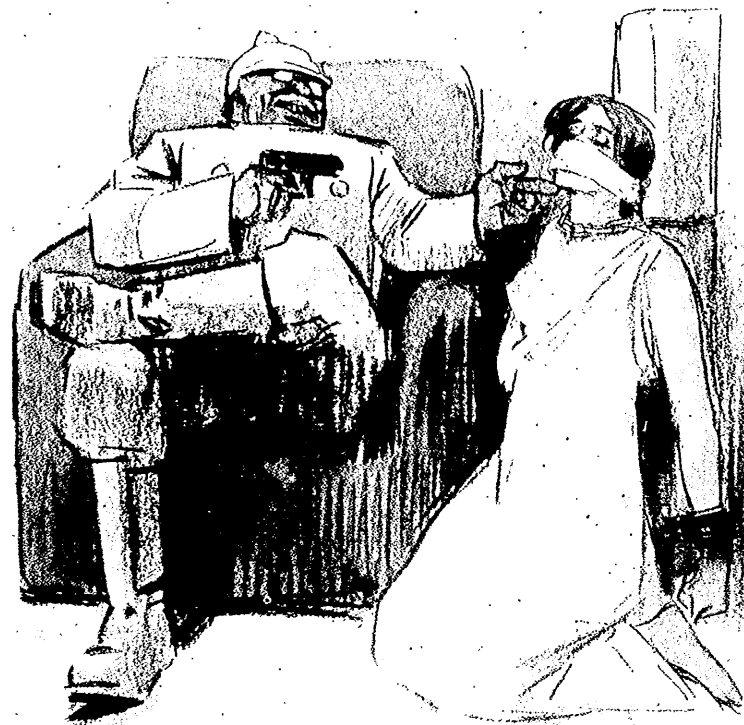
「航空郵便」第 25 號

軍國主義は罪なき獨逸兵を死に驅り立てる。哀れな兵士はたゞ「墓の鐵十字勳章」を與へられるにすぎない。(獨逸軍國主義に對する宣傳の例、212 頁参照)



森のまひご

サリヴァン「皇帝の冠」ロンドン、1915 より



獨逸文明

ルイ・レヌーカーの修行畫 (231 頁参照)



「航空郵便」第 31 號 a

巨大な罫機の中へ「貴族」及獨逸戰爭成金によつて衰れた兵士の全軍が追込まれる。「今日は君達(我々の仲間)が——明日は自分が!」(革命宣傳の例、212 頁参照)



「航空郵便」第 59 號

獨逸多數派社會主義者(カイン)は「ロシアの自由」(アベル)を倒す。後方には「インターナショナル」の祭壇に燭が揚つてゐる。(革命宣傳の例、213 頁参照)

目次

序言.....一頁

緒言.....四頁

第一部

第一編 ノースクリフ卿が参加する迄の英國の戦争宣傳

第一章 英國の宣傳の基礎.....二一

第二章 英國の宣傳組織.....二七

第一節 官廳の宣傳.....三三

第二節 新聞宣傳と檢閲.....六一

第三章 英國の宣傳の手段と目的.....八九

第一節 傳道宣傳.....一〇五

第二節 獨逸文化に對する宣傳.....一一五

第三節 ホーエンツォレルン王朝に對する宣傳.....一二一



鴛鳥に説教するチルビツツ狐

「親愛なるオランダ鴛鳥諸君！我輩は海洋の自由の鳥に戦ひつゝあるのである。」レーメーカー漫畫より

第四節 慘行宣傳……………一七
 第五節 戦線宣傳……………一五

第二部

第二編 ノースクリフ卿の戦争宣傳

第一章 原則、力及組織……………三三
 第二章 構成及方策……………二四
 第一節 オーストリー・ハンガリーに對する宣傳……………二四
 第二節 獨逸に對する宣傳……………二六
 第三節 聯合宣傳……………二六
 第三章 影響及結果……………二五
 第一節 革命の準備……………二五
 第二節 平和の準備……………二六
 第四章 ノースクリフ新聞の宣傳……………二七
 第三編 ノースクリフ卿、卿の人となり……………三六

序 言

本書に於て扱はんとするところは世界大戰の始から獨逸に於ける一九一八年十二月の革命の勃發に至る迄の英國の戦争宣傳の叙述である。茲に解明せんとする主要問題は敵の宣傳の手段及形式を究明しこの宣傳の精神と獨逸國民の精神状態との因果關係を究め、かくして獲られた知識を宣傳術及宣傳學に資せんとするにある。

ウィルヘルム皇帝の時代に於ては知識階級は宣傳の本質を忘却してゐた。世界大戰に於ける獨逸の反對宣傳の失敗はこの状態に歸因しなければならぬ。アドルフ・ヒットラーの建設した「新しき獨逸」は宣傳の必要を認め、國家的に之に着手した。宣傳の本質、法則、基礎及原則を研究せんとする我々にとつては、正に世界大戰に於ける敵の戦争宣傳が有益にして且啓發に富む資料を與へて呉れるのである。我々としては世界大戰に於ける聯合國の政治的宣傳と獨逸人の精神状態を結付けることは非常に困難であるし、且亦之を欲すことは出来ないものであるから、それだけ我々は敵の宣傳を正確に認識することによつて、一般的政治宣傳の條件を多くの點に於て變更しなければならぬであらう。

宣傳大臣ゲッベルス博士によつて模範的に行はれてゐる如く、實際に國民の中に入り込むといふ方法をとる所の、勝れた目的をよく意識した宣傳のみが今日に於て、世界大戰に於ける失敗を避け



ることが出来る。余は信ずるのである。此の信念は亦結局世界大戦に於けるイギリスの宣傳事業の包括的觀念を與へんと努力することの著述の眞の價値を是認するものである。

我々は研究に依つて得た結果から近世に於ける政治的宣傳に與へられる意義を鋭く且適確に把握し、且つこれを國務大臣ゲッベルス博士によりて國民啓蒙と宣傳の爲に創設せられた宣傳省の最初から成功を收め且つ決定的であつた原則と、緊密な關係に置かんとするものである。この意味に於て本書の内容は新しき獨逸に於ける宣傳の建設に努力するものである。英國の宣傳事業に關する知識と實驗の蒐集から、獨逸宣傳にとつては、將來の爲の新しき且決定的な方向が生ずるのである。

この仕事の遂行は容易ではなかつた。就中宣傳に關する公式の英國の資料が缺乏してゐた。ノースクリフ卿の特殊な所として概觀的な活動は別として、英國の戰爭宣傳は非常に分裂してゐたものであり、機關は非常に多岐に亘り、不統一であつた。然り、正しく暗中模索であつたので、許された資料の調達及機關の發見、就中それを總括する事及組織づける事は決して容易な仕事ではなかつた。併し獨逸に於て入手し得る獨逸及英國の最も重要な資料及び出版の日までに存在した文献は、研究の中に入れた。著者は同時にシュツトガルト戰爭叢書で出版された、「世界大戦における英國宣傳に關する書籍解題」の中に、右の題目にとつて注目すべき一切の書物を、概觀的に且實用になる範圍に總括して置いた。

(2)

研究は主として對獨英國宣傳に制限されるが、他の國に於ける英國の宣傳も、獨逸に直接觸れる範圍内で同時に叙述しておいた。

文献目録には最も重要な資料を引用した。併し多數の最も注意すべき宣傳文献は、この著書の中で叙述の適當な場所に擧げておいた。

ミュンヘン大學の新聞研究所長、博士カール・デスター教授に先づ第一に心からなる絶大なる感謝をせねばならぬ。彼は余に感謝すべき總括的にして、多面的なる題目を提起し、忠告と實行をもつて余を支持し著作に對する有益なる示唆を與へた。又、余はミュンヘンの博士アーノルド・オスカーマイエル教授の有益なる激勵に對して、恭しく感謝せねばならぬ。余の課題の遂行の爲の特記すべき資料は、シユロス・ローゼンシユタインのシュツトガルト戰爭叢書からとつた。此處に余は就中戰爭叢書編輯長フリードリッヒ・フェルガー氏に對し彼の親切と、熱心なる努力に對し、心からなる感謝を述べたい。又マックス・グンツェンホイゼル氏に對しては學問的な誠實なる協力に對し感謝したい。

(3)

緒論

戦前既に早くもイギリス新聞及宣傳の獨逸に對する統一の突撃が始つた。外交に關してはイギリス新聞は多かれ少かれイギリス政府の代辯者であつた。政府機關新聞の外、反對派の新聞も内部的にはその自主獨立性を抛棄することなしに、外部に對しては政府を代辯する備準が出来てゐたのであつた。

イギリスの新聞は、イギリスの國家生活の不可缺の基礎である。新聞は輿論を作り、これを指導する。政治新聞は一定の政治的觀念及世界觀の爲に働く政黨の機關から出来てゐた。

英國に於ては二黨政治組織の原則による政治的發展の結果、固有の政府新聞は存在せずして、政黨新聞のみが存在してゐた。併しそれは政黨が新聞を持つてゐるのではない。イギリス新聞の政黨的態度は傳統とそれから生ずる讀者層と、新聞の屬する資本と、資本の有する目的に基くのである。

此處に於てか輿論に影響を與へんとする出版者と政黨指導者の試みは、新聞の主要内容となるのである。新聞を出來るだけ自由に働かせることはあらゆる關係者の考へである。イギリスには官廳の新聞乃至半官の新聞はないが、政府は新聞と最も密接な關係にある。特に外國に比して高い英國文明の長所であると誇らかに強調せられる點の一つは、政府と聯合する新聞は卑められ、輿論は味

(4)

方せず、権力者と關係を有する新聞は裏切り者であると呼ばれるといふことである。(デビリウス、イングラント、二卷、シュツトガルト、一九二四年、第二卷、四百二頁)

英國は他面に於て統一せる輿論に反對する政府を持たない。常に唯々として統治する政黨を持つ。各政府は常に自分の政黨の新聞で政論機關を動かす。英國では屢々微細の點まで政府の意圖が新聞に教へられ、新聞はそれを如何に書くべきか、それはどこまで行くべきか、又時々當面する問題は如何なる意味に歸すべきかといふ事を正確に知つてゐる。この精神的適應と協力の主なる利益を政府は勿論持つのである。イギリスの如何なる政府も反對を無くする努力をしない。又その希望もないであらう。

蓋し、政府にとつては自分の新聞又は政府に迎合する新聞が重要であるのではなくて、正に全出版物、即ち新聞、雜誌及政治論の全論調が重要なのである。故に政府は出來るだけ獨立の政治及生活の一切の勢力から影響されない新聞を得ようと努力するであらう。蓋しかゝる新聞からのみ實際起つた事、反對派が行ひ、言ひ、目的として告げる所の事を知ることが出來るであらう。政府が政府側でも新聞に種々の獎勵をなし、情報収集と中繼の仕事を援助し、全世界に於ける結合を設備し、建設するに努力してゐるといふことは、これと關係があるのである。

英國に於ては十九世紀に於て新聞と政治との協力は益々決定的となつた。穀物關稅に對するコブ

(5)

デンの闘争（一八三八—一八四六年）は殆ど全然議會と絶縁して新聞の助けを借りて戦ひ抜かれた。グラッドストーン（デビリウス、三九七頁）は一八七九年—八〇年に亘り彼の選挙區ミドロシアンで、即ち下院の外で、デズレリーに對する大論戦をした。チャムバレーンは南亞戦争の後、同様に英國で集會と新聞で、保護關稅の爲に戦つた。ロイド・デョーデの全生涯にとつては彼の地方の民衆に對する呼びかけは一見して著るしいものである。従つて民衆に指導者の思想を通報し、教育し、絶えず新しく教へ込む新聞機關こそ彼の政府の本來の支柱であつたのである。

十九世紀末のイギリスの精神的體驗は帝國主義であつた。遂には世界大戦の勃發に迄及んだ英獨對立の尖鋭化は、大戦前の新聞及宣傳に最も明白に表はれた。一九〇〇年の艦隊法及び殊にエドワード七世の包圍政策を招來した一九〇四年の英佛條約以後、英國新聞の獨逸に對する態度は非常に敵對的となつた。一八九六年以來即ち居酒屋主人の電報の公表以後、英國新聞の獨逸國及獨逸人に對する捏造、曲解、嫌疑、誹謗は看過し得ないものであつた。

獨逸の奸計、土地所有欲、戦争熱に就いての英國新聞の不平と訴へを一切簡約にでも収集しやうとすればそれだけで全卷が滿されるであらう。獨逸は英國と他の列強との間に到る所で不和を計つたとせられた。獨逸の政治家及新聞の不調和な言動は連絡を缺き、憎惡は尖鋭化した。外國に於けるあらゆる獨逸の計畫、就中ロンドンに於ける多くの新聞に於ける企ては感情を悪化した。世界平

和運動の最中に於て獨逸の企ては、就中當時浸透せざるを得なかつた反獨の潮流に河床を準備した。（デー、英國と新聞、ハムブルグ、一九一五年、三九頁参照）眞理の道を開拓したる一切のものを壓迫せんとする戦闘方法が明かにとられた。（シーマン、敵國の新聞は如何にして戦争を準備し、これを強要したか。ベルリン一九一九年参照）政治的空氣には新聞が書き立てた政治的憎惡が浸潤した。

英國が條約上の關係でなくとも友好關係から反獨的二國同盟加盟國に泣付いたことは疑ない。その結果は世界大戦であつた。英國の新聞はこの時以來一定の目的を立てることが出來た。歐洲の均衡維持といふ、古い、今は用ゐられてゐない標語が今や獨逸の急激に増大する海上の實權及貿易の實權を歐洲の脅威なりとする英國の主張の爲に役立つた。

英國の新聞及宣傳の影響は年々増大した。その助力によつて佛蘭西の新聞は味方となり、フランスの復讐心は煽動せられ、獨、佛關係は破壊された。ロシアの新聞も全くイギリスの輿論に依存し、最も鋭く反獨的態度を示した。英吉利世界帝國の内部的な世界的連絡は獨逸に對する輿論の世界的聯合の前提となつた。

一九一四年八月世界大戦が勃發した時には、殆ど全部の英國新聞は長い手によつて準備せられたところの國際反獨宣傳の旗の下に立つた。無數の公私の機關がイギリス新聞の執拗な陣營を獨自の

宣傳により強化し、支援した。ロイター及アパスの情報部は専ら英佛の権力政策に役立つた。イギリス新聞の人道の標語は反獨的宣傳の最小の細胞にも充滿する突撃力を與へた。

故に一九一四年の宣戰後直ちに力強く巧妙に煽動的形式に於ける精神的戰爭が始つた。この戰は精神的價值を少くとも軍艦及黒表(デイベリウス、I、一一五頁)と同等に評價する國民のみが力強く巧妙に遂行し得るのである。若しも此の精神的戰爭を、既に平和の裡に始められ、それを遂行する國民が宣戰の時に既に果實を收穫し得る程の効果を與へる様な良き宣傳の意味に解するならば、それに該當するのはイギリスの新聞及宣傳のみである。

イギリス政府にとつては狹隘な反獨的な精神が殆ど總ての新聞及最も有力な政治論文をも支配したことは量り難い價值があつた。新聞は自ら國家機能の保持者を以て任じ、又政治家及資本家の或る團體の個人的な目的の代表者と任じたばかりでなく、新聞は自らあらゆる手段を以て危機に曝されたイギリス世界帝國を擁護する爲に輿論を喚起したのである。常に好戰的で憎惡に満ちた多くの新聞はもとより、眞面目な客觀的な新聞及英國左翼黨の政論機關も激烈な攻撃精神を表した。それは最高の人道主義の目的、イギリス帝國の強さと光榮の爲の感激、決然たる且犠牲的な祖國愛、憎惡、破壊意思を備へたものであつた。

内部的に政策が確立するや、國際的に此の政策を及ぼす爲には英語が世界語として有する地位及

び英國新聞の世界的普及の故にあまり障害がなかつた。

模範的な迅速と、鞏固と、突撃力を以てイギリスの宣傳機關は活動を開始した。それは始めから精神的力と物質的力に、又理想主義者と利己主義者に同時に向けられていたので、殆どそれに双方向ふことは出来なかつたのである。

新聞の活潑な宣傳に、間もなく無数の官廳の、半官的な或ひは官廳の援助の下にある私的機關が並行した。それらが精神的戰爭の指導を計畫的に且際限なく開始したのであつた。新聞、雜誌、パンフレット、書物、貼札、繪、漫畫、フィルム、劇場、學校、教會、政黨、經濟が宣傳に役立つた。

戰爭宣傳といふ全能の武器は、宣戰の日から正確に認識せられ、評價せられ、従つて亦益々戰爭の煽動の爲に用ひられた。政治宣傳は國民にとつては、世界帝國の爲の倫理的規準は國民主義的、利己主義的利益の中にあるといふイギリスの見解の強調として現はれた。

第一部

第一編 ノースクリフ卿が参加する迄の英國の戦争宣傳

第一章 英國の宣傳の基礎

宣傳は世界大戰に於ける我々の敵の手に於ては、最も強力なる武器であつた。啓蒙の時代、近代交通機關の時代にあつては、輿論に對する意識的影響たる宣傳は益々政治の手段となつた。世界大戰に於ける我々の敵による宣傳の利用は勝利を齎す新しい武器の意義を獲得した。如何なる政府と雖もその背後に意思と信仰に於て統一せられ、確乎たる信念を有する國民を持たずしては勝利を博することが出来ない。他面に於て亦如何なる政府も、國民の精神状態に對し、宣傳的效果を目的とする一切の手段を以て影響を與へ得ぬ場合は、かくの如く内的及外的に決斷を有する國民を背後に持たぬのである。敵の宣傳が世界大戰に勝つたのであると云はれるが、更に正確にいへば獨逸の國民意思の分裂が世界大戰の敗亡を來したといへるのである。

遙かに大戰から遠去かり、アドルフ・ヒットラーの包括的な事業が國民共同體の内部の統一的な

精神的態度の維持の意味を明かにした今日、聯合國は軍隊に依らずして「思想の參謀本部」即ちその大規模に設備せられた宣傳機關の助けによつて世界大戰に勝つた事が知られて來た。

獨逸はその宣傳に於て巧妙でもなく、好運でもなかつた。公明な政治によつても許容せられ、道徳的なりと感ぜられる限界内に於てすら、獨逸の世界大戰に於ける宣傳は全く不十分であつた。而してそれは組織の規模に關してのみではなかつた。獨逸に於ては、宣傳は餘りにも永い間、輕視せられ、政治宣傳の専門家の養成を怠つてゐたのである。

しかし、宣傳の任務は國民を英雄的に滅亡せしむるに非ずして、國民の生活を維持するにある。過去に於ては戰鬪の勝利の量が戰爭の勝敗を決定したが、現代及將來に於ては經濟戰が之に加はり、世界大戰が明白に教へた所によれば、現代の最新の武器として宣傳が之に加はつたのである。

戰爭の精神的指導の手段及戰鬪方法は尙種々あるだらうが、大衆に對する影響といふ全く新しい觀點は將來に於ける宣傳の効果を益々高めるであらう。(ハゲモツスキー「宣傳と國民の力」、オルデンブルグ、一九三三年版、ハゲモツスキー「國民指導の任務に於けるラデオ」、ライプツヒ、一九三四年版、リュデツケ「國家指導の手段としての日刊新聞」、ハムブルグ、一九三二年版一八二頁以下、グツベルス「グツベルスの言葉」戰爭と勝利からの言葉。オルデンブルグ、一九三三年版七二頁、テートリツヒ「ヒットラーと共に勢力へ」。十一版ミュンヘン、一九三四年版六六頁、シュミ

ット・パウリー、「ヒットラーを取り巻く人々」、増補改定版、ベルリン、一九三三年版四七頁以下、ドミツラン「國家觀念としての宣傳手段」、アルトナ、一九三二年版八八頁、ヒットラー「余の戰」、二五一版、ミュンヘン、一九三三年版一九九頁、クリーク、「國民政治教育」、一四版、ライプツヒ、一九三三年三七頁、ペーメル、「世界新聞の鏡に照した第三國」、ライプツヒ、一九三四年版參照) 戰爭宣傳の任務は明かに抵抗意思を強化することによる敵に對する統一的意思想の形成、同盟國の獲得、同盟國との既存の親善關係の確保、敵の精神の動搖分裂である。觀念と組織と宣傳とが結合すべきであるといふことは、即ち社會的觀念形成、社會的意思想の提起の領域は必然的に宣傳の領域でもあるといふ事は、この研究の對象である。同様に亦政治的宣傳、特に政治的に興奮せる時代、就中戰時に於ける政治的宣傳は、事實社會生活の全範圍に行き亘り、もしも統一的にして的確な成功を目的とするならば、社會生活の一切の分野に浸透せねばならぬといふ確信も、この研究の對象である。しかしこのことは形式的宣傳のみでは出來ぬ。宣傳は亦效果的でなければならぬ。宣傳は力強く且つ反對の努力が出來るだけ消滅するやうに行はねばならぬといふことは常に重じなければならぬ宣傳の實際的任務である。

この任務を遂行する道は無限に多様である。その爲の一般的公式のないことは恰も勝利の爲の公式が無いと同様であるが、併し一つ重要な事がある。即ち敵の精神的態度のみならず、自分の味方

とせんことを欲する者の精神的態度をも正確に認識することである。

この心理の眞に堪能なる支配は、特にイギリスをして、世界の輿論の前に獨逸の漫畫を描かしめ、我々の嘗ての敵及中立國人の心に錨をしっかりと下すことを可能としたのであつた。その結果對獨逸は人道の命令による又宗教的教理の爲の、全キリスト教徒の爲の戦となつた。理想と、それを脅す敵に對する憎悪が廣まつた。諸國民を振り難い戦争の犠牲に向はせる爲には憎悪を、概念及事物に對する憎悪のみならず、現實の人に對する憎悪を煽動せざるを得なかつた。佛蘭西の戦争宣傳は「唯一の攻撃者」「戦争の責任者」に對する憎悪と、激昂をたきつけることは容易に出来た。蓋し獨逸軍が佛蘭西の領土に在つたからである。戦争行為によつて破壊された地方は、破壊を徹に入り細を穿つて描いたる宣傳文學を提供した。

あらゆる宣傳は宣傳の行はれる空間に依存する。即ちその宣傳の行はれる一定地域の住民又はその宣傳の關係する利害關係を有する一定地域の住民に依存するのである。宣傳は一定の思想と力との領域に於て勢力を得せしめねばならぬから、宣傳の影響を受け、指導せらるべき國民と宣傳との結合は解き難く且絶對的である。この意味に於て一切の宣傳はその目的を國民乃至國家の中に有し、而して、國民の生活を保證し、輿論を組織的に形成し、政治行動に影響を與へる爲に用ひられる政治論的手段の總括を意味する。かくして國民の内的な統一とその獨特の本質を認識し、あらゆる

る階級及大衆の總體から一般的な精神的なものを把握し、共通の分母の上に載せるといふ困難な任務が果されるのである。この任務が果されるならば、それは政治宣傳に取つて非常に價値あることである。即ち國民の考へ方に適合することによつて宣傳を受入れる能力は高まり、宣傳は或る程度實行に移されるのである。宣傳によつて行はうと思ひ且つ實行する事が國民の目的に役立ち、國民に適合することが證明されるならば、一切の人の精神的結合といふ目的と問題、國民の政治的融合、優れた全く唯一の共通觀念に對する歸依は、氣持の變動といふ危険によつて脅かされることはないのである。あらゆる政治的宣傳の基礎と條件はこの國民の統一の意識である。

或る國民は非常に倫理的であり、他の國民は非常に理性的である。各宣傳は別々に計畫され、異つた形式の影響を與へるべきであらう。この事は手段の選擇についてののみならず、その利用方法について、又その目的についても妥當するのである。目的は宣傳の上であり、宣傳を規定し、何が當面の問題なるかを、深い眼で見るとやうに鼓舞するのである。(オスワルド・シュベングラの「西洋の没落」に於て、新聞陣營について、彼の述べてゐる言葉は賛成されるであらう)新聞陣營は他の方法を以てする戦争の繼續乃至準備として生じた。その前哨戦、示威運動、襲撃、突撃の戦術は十九世紀の間に於て、最初の發砲の前に勝を制し得る程度に發達した。蓋し新聞がその間に戦争に勝つてゐたからである。(13)

良き宣傳は實際の政治的事件に遙に先立たねばならぬ。宣傳は政治の指導者でなければならぬ。而して世界の輿論が氣がつかぬ様に、世界の輿論を作らねばならぬ。政治的意圖が實行に移される前に、世界をしてその意圖の必然性と道徳的正當性を確信せしめねばならぬ。求むる事柄は精神的結果として自ら生ずる如くに實果が生じなければならぬ。

宣傳が實際的な政治手段として役立つを得るならば、宣傳は眞の勢力を生み、權力要素となり、権力的地位の強化に利用され得るといふ事を意味する。國の政治を支持する爲に、宣傳が政府及官廳と緊密に協力するならば、大衆に對する影響は適確且確實に遂行される。又政治上の敵乃至反對派に或事件の知識を禁じ、又輿論を喚起し得るばかりでなく、自分自身の目的の爲にそれを積極的に利用し得るのである。畢竟この際事實の報告が重要ではなくして（蓋しそれなら新聞は自ら遙によく供給し得るだらう）むしろ輿論の包括的影響の達成及統一の輿論形成の爲の熟考された組織が重要なのである。

戦争と關係のある一切の事物の心理學的觀察は國民精神の知識を最も重要な宣傳の武器として用うるに至らしめた。精神界の將軍の掌中にある戦争手段としての心理學——この光榮ある思想を實行に移すことは世界大戦に於てはイギリス人に保留せられた。あくまで行動を目的としてしかし決して攻撃者の任務は忘るゝことなしに、英國の宣傳は學問的證明材料を以てせず、常に神の正義と

世界の良心に呼び掛けることによつて活動した。

英國の宣傳は、ラテン民族にあつては直ちにその民族的性向から生ずる様な無軌道性に流れず益益客觀的になる冷靜さを以て活動し、而して佛蘭西人や伊太利人が殆ど病的な程國民的な興奮の中に用ひたと同様の手段を、冷い熱慮と又同様に冷い慎重さを以て利用した。此の際、しかも、軍事的狀況が決して勝利の希望を正當としなかつた時にあつて、聯合國の結局の勝利に對する不動の自信が英國の宣傳にはあつたのである。

感情的契機は全く重要である。大衆をして戦争の正當性を確信せしむるのが重要なのではなくして、大衆に確固たる道徳的原則を注入し、或ひは大衆に客觀的説明によつて、戦争の幸福なる結果に對する信頼を與へることが、重要なのである。イギリスの宣傳の意圖は全く異つてゐた。教育、道徳、慣習、法律から生ずる障害は故意に無視されて大衆はその指導者に戦争繼續の爲の意思のない道具として引渡されねばならなかつた。正義と共に進め!! 理性と共に進め!! しかし兩方ともそれらしい姿を維持しろ!! たゞ憎むべき敵の屈服といふ思想の爲に仕へよ!!

世界大戦の初には戦争宣傳の盲目的な怒調が支配的であつた。あらゆる障害を根本から除く爲に「フン及野蠻人に對する愛國的十字軍」としての戦ひの爲の激昂を覺醒する爲には、獨逸人は臆病で、貪欲で、嘔吐きで、劣等で、殘酷で、犯罪癖があると極印を押されねばならなかつた。たゞか

くの如くして、心配、激昂、憎悪、輕蔑、勝利の確信を同時に呼び起し得たのである。たゞかくの如くして始めからあらゆる反省が不可能にされたのである。

英國新聞宣傳及戰爭宣傳はすべての戰爭宣傳の中核をなす四個の決定的原則から出發した。

先づ自分の國民に當面の戰爭觀念を吹込み、これを焚きつけ、國民をして敵に對する憎悪と嫌惡に満たさしめ、唯敵を倒すことによつてのみ戰爭を終結するといふ熱狂的祖國愛を煽る爲に總ゆる手段を盡すことが必要であつた。

次に全聯合國に同様の精神を吹込み、聯合國が自己の目的とイギリスの目的とを同一なりと考へさせる様にする必要があつた。

更に中立國は益々敵に對する憤激と嫌惡を増し、イギリスの使命に對する好意によつて充されねばならなかつた。

而して最後に宣傳の最も重要な任務として敵國民の弱點を握み、敵國民の内心的抵抗を動搖破壞し、而して敵國民をしてその政府によつて誤つて指導され、欺かれ、滅亡に導かれたのだといふ確信を抱かせることが必要であつた。それは敵國民がその精神的強みと自己の立場の正當性に對する信頼を失ひ、敵が從來よりも有効に破壊を續け得るに違ひないといふ恐怖を與へる爲であつた。

イギリスは間もなく戰爭は軍事的、航海的、經濟的武器による戦闘によつてのみならず就中心理

的武器による戦闘によつて勝利が得られるといふことを看取した。軍事的興奮、宣傳活動乃至は内政的意氣消沈の結果としてこの心理的效果が生ずる迄は軍隊及び國民の精神的態度は勿論敵の影響をあまり感受しなかつた。これを感受し興奮する空氣を作る爲に、宣傳工作の永續が始めから必要であつた。(スチュアート著「クリュー・ハウスの秘密」ロンドン一九二〇年版二頁)

これを英國は、精神的戰爭の方法に依つて永續した。宣傳指導者は敵を知ること、その長所と短所を極めて正確に研究することが、從來誤れる方向に使用せられた出費及び力の浪費を避ける爲に最も重要なことを看取した。

あらゆる宣傳は敵の弱點に向けられた。敵は強いか弱い、強い刺戟に容易に反應するか否か、敵は勇敢であるか怯懦であるか、敵は軟弱であるか鋼鐵の如く堅いか、敵は宣傳に近づき易いかどうかはよく知らねばならなかつた。(バンゼ「世界大戰に於ける空間と國民」、オルデンブルグ、一九三二年版一〇一頁) 意思追及の信じがたき粘り、新しい補助手段の發明に於ける迷ふことなき努力、就中何物によるも決して害し得ぬところの敵を倒さんと欲する頑強さ、之等はイギリスの宣傳に益々新しい突進力を與へた性質であつた。内政上の對立、政争、アイルランドとの軋轢等は國民の死活に關する問題に當面して中止された。政府の政策及宣傳の遂行方法はイギリス國民性の強さを頼みとしたものである。

正に世界大戦の始から英國政府側が直接或ひは間接に行つた宣傳に或事情が役に立つた。即ち新聞の戦争通信は政府に依存した。政府が通信を出した。軍事通信の政府依存及敵の軍事報告の報導を禁じた検閲は政論の統一戦線の形成にとつても宣傳の統一にとつても同様に必要であつた。

ノースクリフ卿が始めて獨立の戦争通信員の要求を再び實行することが出来た。敵國の爲にする宣傳指導を引受ける前に、彼は自ら戦争通信員として西部戦線で彼自身の新聞の爲に働いた。

政府の發した軍隊情報のみによる新聞の統一は宣傳的に英國の情報部ロイテル通信によつて強化された。ロイテル通信は佛蘭西の情報部たるアパス通信と協力した。英佛共同の通信の成果は種々起つた。即ち外國に於ては戦争事件に關する他の情報は得られなかつたので必然的にアパスとロイテル通信に頼つた事、更に獨逸殖民地の新聞も祖國と完全に切斷されたので(フリーバー「一九一四—一八の世界大戦に於ける佛蘭西の宣傳」、ミュンヘン、一九二八年版、一四頁)この情報を印刷した程であつた。ロイテル通信はその情報を以て全世界の無数の新聞を支配し、偏へに反獨的な意圖の下に聯合國の政策の爲に活動した。此處に於てか歐洲及海外に於て、自らは背後にあつて宣傳的企畫の條件を巧みに作ることに出来た力が働いた。輿論は準備せられ、指導せられ、獲得せられ、聯合國に都合のいゝ方向に導かれ、遂には、輿論の墮落となる様に敲き込まれた。

眞理と事實に對する誠實を意識的に抛棄してロイテル通信は、新聞と宣傳を濫用した。獨逸の新

聞の論調を轉載する際は意味を曲げて短縮し、個々の記述を關聯から切り離し、決して獨逸國民の大多數の輿論を述べずして、單にその見界が正に英國政府に迎合的なりと思はれる、一部の勢力のない人々の見解を述べた箇所を好んで掲載した。

新聞を政治的道具に利用せんとする目的の爲に物質的手段を豊富に利用することによつて一部のイギリス新聞の繼續的な支配を生じた。特に世界大戦の最初の二年に於ては、ロイテル通信は第一級の宣傳的勢力であつた。イギリスの情報部はイギリスの殖民地、アメリカ、アジヤ、就中中立國に於て、イギリスの宣傳の勢力範圍を擴大した。中立國を経て、アメリカ及東部アジヤと通信しやうとする獨逸の企ては、イギリスの海底電線の獨占によつて失敗した。

力強い宣傳は強力な中央政府の権力と統一的な確な政策なしには不可能である。イギリス及フランスに於ては、戦争の間に於て、弱體政府は強力政府と交代し、同じ情勢からして宣傳の重要性は高まつた。

かくて英國に於ては明かに二つの部分に區別することが出来る。第一期はアスクキス内閣及その後のアスクキス聯合内閣の前半であつて、主として中立國の同情を獲やうとする努力に充されてゐた。第二期はロイド・ジョージが内閣を指導した時期であつて、獨逸に對する直接的な宣傳的攻撃を目的としてゐた。國民の注意は完全に宣傳戦に向けられていたので内部的戦争は止んだ。戦争の後

年は宣傳機關の設立と擴張にとつて決定的となつた。政府は宣傳機關を經濟手段を以て支援した。軍人、外交家、學者、文士、經濟の指導者、新聞記者はこの仕事に引入られた。ノースクリフ卿は、特別の研究の際はイギリスの宣傳員と共同して、戦線宣傳及對内宣傳を指導した外國の宣傳員の協力に信頼した。

國內宣傳は、勝利の確實性を感銘せしめ、反撃を聲明し、軍事的成功を強調し、國民の經濟的・財政的・組織的強さを疑なく信せしめ、食料及原料の調達を緩和せんと試みねばならなかつた。(シユテルン・ルーバート、政治的道具としての宣傳「ベルリン、一九二一年版五五頁、ブルートツイン濃書、「獨逸國民に對する破壊的宣傳」ベルリン、一九二五年版參照)中立國に對しては、中立國の權利義務、その經濟的自由を害する恐あるあらゆる戦争手段の聲明、更に戦争の目的は寛大にして人道的なる事を強調することが必要である。聯合國に對しては絶へず諍つたり、脅したりして、その仕事を最も高い程度に刺戟し、自分の仕事は程よく自立せしめる必要があつた。敵に對しては、そのやつてゐる事は結局失敗として極印づけられること及同盟國間乃至はその國民の階級内部の不和が勃發する様に印象づけることが重要であつた。

攻撃は先づ獨逸民族に直接向けられた。次に獨逸帝國の最も強い支柱たるプロシヤに向けられた。此の際「プロシヤイズム」に對する世界的憎惡、帝國、ホーエンツォレルン君主政體及「カイゼル

イズム」に對する世界的憎惡が養はれた。獨逸國民共同體の基礎たる正義が攻撃された。最後の力強い宣傳戦は獨逸精神の破壊と、古い獨逸の個人的所有觀念の破壊とを目的とした。これは資本に對する憎惡の爲の宣傳であつた。最後の價值ある物として「ドイツの神」が攻撃された。

宣傳の精神に現はれた非「アングロ・サクソン」文化業蹟の意識的輕視、特に獨逸の民族的特質の完全なる誤解は奇怪な事であつた。實にイギリスの文明は獨逸の宗教改革と獨逸のロマンチック(デベリッス、I、二〇三頁)なしには考へられず、又あらゆる時代に海峽を越えて來つた色々の影響なしには考へられないのであつた。而して英國があらゆる民族に自由を與へたといふことは、光にあてよく見れば、奇怪な歴史の改竄であつた。しかしそれは宣傳の効果を非常に高めた。「アングロ・サクソン」の文明觀念の道德的價值が野蠻な獨逸の權力國家乃至軍國及個人の自由及權利の壓迫と對比された。此處に於てか如何にして全世界に、救濟者として近づき得るかといふ、原則的な宣傳の型が発見された。

英國の宣傳が用ひた力の組織には各方面から種々の力が押し寄せ、互に争ひ合つた。既に聯合國の勝利の希望が失はれんとした時に、この力の組織の中にノースクリフ卿が入つて來て巧に抵抗手段を顧慮し、賢明にそれを自分の意圖に利用し、かくして全宣傳戦をあらゆる迂餘曲折を通じて遂行し、遂に勝利を得たのであつた。

宣傳術に於ては、疑ひもなく英國人は模範的であつた。「獨逸帝國主義」及「プロシヤ軍國主義」に對する戰に遂にアメリカを引入れたこと及獨逸軍の精神と道徳を破壊することに成功したノースクリフ卿の宣傳はその主なる例である。緊張せる且統一的组织なき宣傳は失敗しなければならぬ。

聯合國の獨逸及中歐諸國に對する宣傳は一九一八年迄は互に秩序的且法則的な協力なしに、主として自力で行はれたので、一九一八年二月ノースクリフ卿が英國總理大臣ロイド・ジョージの要求により諸國の對敵宣傳の總合指導を引受けた時には、全聯合の宣傳活動及それと共にイギリス宣傳にとつて決定的な轉回が始つた。その結果は周知の通りである。獨逸に蒔かれた種子は飢餓と缺乏と、自國に於ける賣國行為により、養はれて伸びた。道徳、精神的抵抗力、永い間續いた鐵の如き強靱なる防禦意思は崩壊した。ノースクリフ卿及その協力者の宣傳は勝利を博した。

英國の宣傳はノースクリフ卿の携はる迄の宣傳とノースクリフ卿の行つた獨立の宣傳とに區別し得るが、聯合國の終局的勝利にとつて決定的であつた。英國の宣傳は、獨逸人の特質及精神的特徴を正當に評價していた。英國宣傳は、勝利を得る爲には戰線に於ける兵士の精神的抵抗力が、何よりも先に軟弱化されねばならぬ事を看取した。それは周到に指導せられ、用心深く行動する組織の助力を得て活動した。一九一八年ノースクリフ卿の適時な、心理的な、組織的な、技術的な巧妙な指導によつて、英國宣傳には聯合國の突撃力及持續力の爲の盡せぬ泉が開かれた。勝利に對する意

思と希望とは聯合國に於て擴大したが、一方獨逸の戰線及國內は宣傳文書の一齊射撃によつて窒息せしめられた。

ノースクリフ卿の經驗の教へる所によれば、國家防禦の爲には、軍事的總指揮と同様に、共同の敵に對する宣傳活動を總括することが重要である。宣傳政策は外務省、陸軍省、海軍省と協調せねばならぬ。ノースクリフ卿は、英國政府の政策の規準が定められ且つ之が宣傳の規準として承認されたならば、聯合國政府の宣傳機關と協調し得る爲に、聯合國政府の同意を要求すべきであるといふ事を、敵國に對する宣傳の根本原則なりと常に認めてゐた。實際、聯合國の宣傳部の代表者が規制的に會合する（スチュアート、一四七頁）ことによつて最も速かに協力が行はれるといふ現象を生じた。

一般に對敵戰爭宣傳の價值測定に當つては英國の宣傳活動を第一としなければならぬであらう。英國の宣傳は大體に於て統一的に遂行せられ、この統一にその包括的な結果が基いたのである。帝國主義的權力目的を崇高なる天賦なる英國の文化理想に奉仕する様に文化政策的に説明することが決つていたので、手段應用の問題で聯合國の宣傳員は決して疑惑、當惑する様なことはなかつた。もしも聯合國政府のどれかゞ、自分の國の事は自分で、聯合國を顧慮せずによつてゆくといふ名譽心を持つたならば、「思想的參謀本部」の突撃力は得られなかつたであらう。それが、他國に對する

英國の精神的或ひは經濟的優越によるか、又は關係者全部がノースクリン卿の卓越した識見に服した爲であるかはしばらく措き、何れにせよ、精神的戦争指導の重要問題に於ては一つの中心點が統一的且獨裁的にあらゆる必要な政策を取り得たといふ事は明らかである。

世界大戰に於ける聯合國の宣傳の大きな秘密は組織の個々の點に迄至るの統一、明白なる方向づけ、統一的な目的と觀念、民族性、倦まざる繼續、敵の本質及精神状態の正確なる知識に在つた。勿論宣傳方法は公正なものと然らざるものとをばつきり區別せずして行はれたが、利用された手段と形式が、稍高い道徳的良心の法廷の前に於ては主張し得ぬものであるといふ事は疑ない。獨逸をこの恐るべき戦争の責任者と思はせる爲に、英國に於ても大衆の激情を煽動した者は、病的な憎惡であつた。このことをすべての人に信せしめ、消し得ぬ様に心に焼き附ける爲に、言語、繪、書物により又學問、藝術、文學の力をかりて、獨逸は人類文明の最も低い段階に迄落されねばならなかつた。フン主義、野蠻主義を獨逸主義と分離し得ぬ概念として世界に感銘せしむる工作が首尾一貫して行はれた。獨逸側のあらゆる軍事的活動及あらゆる戦争行爲から、それらと不可避的に結合している慘禍を取り來り、獨逸主義として説明した。

英國の國民的目的が賅せられる場合は、責任ある大臣及その政黨は勝利の爲のあらゆる手段を是認したのである。

政策、戦争及輿論は、實際存在する統一を、意識的、活動的、創造的な意思に變じた。政治的道具たる敵の宣傳は世界大戰の終熄に決定的となつた。

第二章 英國の宣傳組織

宣傳は組織の力を借りねばならぬ。組織と宣傳とは相關聯する。常に新しくされる組織によつてのみ、勝利の精神は、絶えず増大する力と活氣とを以て、宣傳のあらゆる運河を均一に流れるであらう。

英國に於ては宣傳の組織は既に一九一四年八月に始つた。一九一八年二月ノースクリン卿が参加する迄宣傳組織の英國の體系は、種々の錯雜した個々の組織を通じて行はれてゐた。宣傳設備は臨機應變に發生し、正しい關聯と、統一的指導を缺いてゐた。戦争の最初の数年の間は、宣傳は大政策の指導者に發展せず、その遂行は、就中半官的な宣傳機關及政治組織に留保されてゐた。そしてそれらの相互の關係及それと政府との關係の個々の點の確定は困難である。

宣傳を行つた多くの機關は不明であつた。常に新しい機關が宣傳を自分勝手に行つた。協會、クラブ、會社、勞働局、商工會議所、災害及補助委員會、愛國團體が宣傳の財政を引受け、定期に宣傳事業に關する報告を發行した。

英國の新聞宣傳は大きな新聞官廳によつて統括せられずして、分散的に活動した。パリのメイゾン・ド・ラ・プレスに於ける佛蘭西宣傳の統括に劣る貧弱な組織が、個々の宣傳施設を管理した。新聞事業は一部は明かに政府の補助金を仰いでいた。

官廳的及半官廳的宣傳は一九一八年迄は正しく概観することは出来ない。戦闘開始と同時に種々の官廳が宣傳に携はつた。國家の支出によつて印刷され無償で配布された宣傳文書の多くは公の出所を蔽被する爲に内國又は外國の出版業者によつて出された。

宣傳の實行は大規模に行はれた。外交及宣傳の爲のイギリスのクラブ組織は佛蘭西の宣傳聯合の如く多様ではなかつたが、その代り個々の協會がより包括な活動を展開した。公益團體によつて宣傳擴大の爲に多くの金額が齎された。大政黨の金庫は著しい金額を外國に於ける宣傳の爲に支出した。種々な會合が熱心に行はれた。

全世界に亘る英語の知識は宣傳文書の擴大を非常に助けた。設立された宣傳機關の任務は啓蒙文書、煽動文書、戰爭文書の進る奔流を堤防を作つて調整し、屢分裂的に活動する組織を統括し、個々の文書を色々の言語に翻譯せしめ、特に國民の精神的、教育的、肉體的力を發展せしめ、涵養する事であつた。全精神生活が動員された。宣傳組織と共に國民の戰爭精神の組織が發達した。歴史、哲學、藝術及政治から獨逸に對する宣傳戰の開始の理由が引き出された。英國が世界大戰

の始めその宣傳組織によつて利用した手段は、一九一八年迄の精神的戰爭を特徴づけるものであつた。即ちそれは、啓蒙的傾向のパンフレット、攻撃的傾向のビラ、外交論文、優れた政治家の演説の公表、匿名の煽動ビラ、學問的内容の書物、歴史論文、パンフレットの形式に於ける講話、文化史的論文、獨逸皇帝に對する誹謗の書、上流人及精神的價値の高い人の論文集、獨逸皇室及獨逸軍に對するパンフレット、占領地域の慘酷に關する所謂その筋の調査委員會の報告、獨逸の慘酷な行爲の空想畫の帙の叢書(虚偽の氣持を盛つた風俗畫から厭ふべき猥褻文學まで)寫真入郵便葉書、内國及中立國に於ける演説及講演、フィルム、最も低い本能に訴へる、時には高い奢侈品の値のある美術的印刷であつた。寫真部は内國及外國の繪入雜誌に反獨的な寫真を供給した。煽動寫真の「中立國」の繪入新聞への供給には、費用は掛らなかつた。屢出來上つた繪入雜誌も送られた。

併し就中イギリスの宣傳は戰爭勃發前既に全世界の輿論に影響を及ぼしたと稱せられる傳統的方法を忠實に守つて相當買収を行つた様に思はれる。これによつてその中立國への作用の根源が英國に在ることを出來るだけ目立たせなくすることが出來た。(「ビジョン」對敵宣傳の組織と效果」ドイツ・レビュー、一九一六年、八六頁以下)

一九一四年八月檢事次長の下に新聞局が設立された。新聞局は英國の宣傳中央事務所の最初の企てであつた。こゝにはあらゆる指導、情報、調査、通知が集中し、ここからは文書、報告及英國新

聞及外國新聞に對する募兵の宣傳文が仲介された。新聞局からは外國に影響を及ぼすといふ意味で英國の政策に取つて有效な一切のものが放射された。

宣傳の遂行は出版と講演に従事し、新聞局によつて個々の點に就て忠告や指導を受けた獨立の多くの委員會によつて行はれた。これらは個人によつて作られ、個人によつて統率されていた。それらは唯その仕事に當つて、新聞局の援助を受ける範圍に於て、新聞局に従屬した。この援助は多額の財政的援助のみならず又仲介的活動としても行はれた。

即ち個人によつて且つ多くは中立國の書店から相當重要なりと認められる書物が公刊せられた場合には新聞局はその書物の普及と翻譯について配慮した。

英國の中央事務所は佛蘭西の中央事務所と緊密なる相互關係にあつた。日に二時間宛メイゾン・ド・ラ・ブレッツとロンドンの中央事務所の間に電信連絡が行はれた。(フーバー三〇頁、三一頁) 兩方の事務所は相互に連絡を密にし特別な場合にはその指導者の個人的な接觸も行はれた。例へばイギリスの新聞局長は一九一四年の秋自らパリに行つた。空中宣傳部はメイゾン・ド・ラ・ブレッツの下にはなかつた。併し就中英國の宣傳事業との結合によつて必要となつた自らの事務所が作られた。(フーバー三三頁)。

事務所のない國では最初の宣傳の企ては聯合國の外交代表者によつて行はれた。

新聞局の最も危険なる効果は、中立國の新聞に對する倦まざる用捨なき影響であつた。それらの新聞の一部は英國の資本によつて買ひ取られ、一方他の部分は少くとも英國の資本によつて監視された。純英國系の新聞として正確に特徴づけ得る新聞は、ニューヨークの「ライフ」、ベノスアイレスの「ブレンザ」、チリのサンチャゴの「メルクリオ」(ピシオフ九六頁)であつた。新聞局は後に内務省に移された。「新聞局の覺書」、ロンドン、一九一五年、クック、「新聞局の觀點よりする戦時の新聞」(ロンドン、一九二〇年)。

外交文書は從來の如く議會に對して提出されるばかりでなく普及版として民間に對しても活動を始めた。戦争文獻の一部はこれを基礎としたのである。先づ多く新しい出版と翻譯。次に評論的勞作及概觀的論文。(歐洲大戰、歐洲大戰の勃發に關する文書類聚、ロンドン、一九一五年)而して最後に戦争の原因の叙述。しかしその客觀性は一般に非常に努力されたけれども戦争の力強い調子と、自分の同盟者に對し絶えずなされる顧慮によつて、妨げられねばならなかつた。(フェスター、「戦争文獻」、デートリツヒ・シェーンフェルの特別版、「一九一四—一五の大戰」、ライプチヒ、一九一七、二卷、三八〇頁) 現在支配的となつてゐる世界大戰の責任に關する議論は、これらの叙述の大部分を宣傳なりと極印づけてしまつた。それは書肆で發行されずに、あらゆる國語に翻譯されたパンフレットの形に於て、純粹に自己目的の爲に役立つた。

これに續いて、世界大戦前既に英國によつてあらゆる手段を以て遂行せられた、巨大な文化宣傳がある。佛蘭西に於ては舊教徒の祭りや宗教的な戦争文學が遠慮なく説教せられたが、英國に於ても新約書の宣傳文學の形で同じ事が行はれた。それは獨逸皇帝と大きな獸、獨逸の生存の爲の戦争とアルマゲドンの戦とを關聯させて説いた。

宣傳文書の組織には個々の委員會が催した講演會の組織が當つた。講演の催された際に、ビラやパンフレットが配布され、その中にある繪や寫眞が報告とか論文よりも重要な役割を演じた。委員會は倦まず弛まず働いた。宣傳員は如何なる手段を以てすれば、イギリスの國民精神に最も容易に影響し得るかを發見する爲に嘗てない程根本的に獨逸の事情の研究に没頭した。

歐洲の一切の中立國に於ては、同様に戦争の最初の年に何百といふ反獨的宣傳文書が公刊せられた。それは一部は巧みに被覆した形で、一部は亂暴な誹謗を以てその目的に向けられた。同時に又當該國に於ける勢力家で、此の宣傳を助け且辯護する人を得る爲の努力がなされた。その結果は宣傳の影響力を勿論非常に高めた。

宣傳統一の試みは次の數章で述べるであらうが、戦争の間に漸次増加した。其試みは一部は成功の冠を戴いたが、一部は失敗した。ありとあらゆる、道德的には唾棄すべき手段を以てすならされた非良心的な輕蔑と誹謗は、屢々病的な形式を採つた。諸々の組織は獨逸に對する彈劾と英國の社

會的、政治的、經濟的利益の擁護に於て互に相競うた。

英國の宣傳を統一的に一つの中心點から敵國に對して形成せんとする主たる試みは、一九一七年及一九一八年に企てられた。英國の宣傳はそれまでは甚だ整備してゐるとは言へなかつたが少くとも佛蘭西の宣傳と同等であつた。(メーゾン・ド・ラ・プレスに於ける佛蘭西宣傳に關してはパンフレット「光明」一九一八年バリ、ド・ドレージャー印刷參照。英國には遺憾ながら一九一四年から一九一八年二月迄の此の種の公の敘述がない。)

事態の進展殊に戦争の見通しのつかぬ終熄に對する顧慮は、大規模な獨創的宣傳機關の設立を促すに至つた。それをノースクリフ卿が一九一八年に引受け戦争終熄迄指導したのであつた。最も實行に富むこの英國宣傳家は、最後の決定的瞬間に於て最も大きな全權を委任されて正當なる地位に就いたのである。やがて宣傳の遂行は寧ろ役人よりも卓越せる文士、新聞記者、實際政治的生活をしてゐる人々に託されるのが著しく有利なる事が證明された。(チムメ「武器なき世界大戦」、西歐諸國の對獨宣傳、その效果及防禦、シュツットガルト、一九三二年一三頁)。

一九一八年二月迄即ちノースクリフ卿の登場迄、イギリスの宣傳の組織は多數の宣傳部から構成されてゐた。それらは各々の活動を出来るだけ自由に行つた。イギリス國民の優越感、即ち正に政治的に優れた、政治的に自由な國民であるといふ感情及劣つた國民にも自由と「獨裁的プロシヤ主

義」の打破を齎さんとする使命の意識は、宣傳及其の内容に強い影響を與へた。宣傳員の態度の緊張は亦輿論の強い模範的な結合に役立つた。(一九一八年の英國戦争委員會の連絡將校たるピ・チャルマース・ミツチエルは彼の論文「宣傳」(エンチクロペヂヤ・ブリタニカ、三二卷、ロンドン及ニューヨーク、一九二二年、一七七頁以下)に於て就中英國の大新聞及出版社の自由意思による協力を強調してゐる。イギリスの新聞を援助乃至監視することは決して英國政府の特徴ではなかつた。若しも此の方向の試みが爲されたならばそれは失敗したのであつた。大新聞及出版社は熱心にその獨立を擁護しその批評の權利を擁護した。軍事的必要の限度を越へんとする、あらゆる検閲の試みを激しく攻撃し、常に勝つた。正に彼等の態度の獨立と祖國愛の強さが、彼等の自由意思による宣傳事業を最も高めたのであつた。)

第一節 官廳の宣傳

官廳の宣傳は先づ全く自立たずに實行された。イギリスの宣傳は既に世界大戰勃發前に外務省で行はれ、四つの「政治部」に分たれた。大戰勃發後思想戦線は擴大され、「外交的部局」も「非政治部」も内國及外國に於ける戦争に引入られた。あらゆる解説と影響の目的と規準は終始一貫戦争の目的を明瞭にすること、總ての政黨を戦争目的の遂行に一致せしむることであつた。

外務省の新聞部は此の目的の爲に、陸軍省、海軍省、戦時食料省、軍需品省の各々の新聞部と協

力した。新聞局との緊急且活潑な接觸は、該局が検閲を委託されてゐたので、必要となつた。その檢閲は陸軍省、海軍省、外務省、その他の指導官廳の指圖により爲されねばならなかつたのである。(エルツバツヘル「外交政策の手段としての新聞」イエナ、一九一八年、三五頁)外務省は廣範圍の、外國語すら用ひた書物或ひはパンフレットによる宣傳を行つた。外務省は英國の新聞と連絡する爲に新聞部を作り、内務省に電信制度の爲の特別任務を有する中立新聞委員會を作つた。

政府の始めの活動は公立、私立の既存の組織と接觸を保つて續けられた。その際就中外國との親善關係が政府に役立つた。明らかに官廳の宣傳の產出物として特徴付けられる特別の情報ピラ或ひは宣傳文書が發行せられたか如何かは確かでない。

尙一九一四年には外務省によつて決定的な歩みが企てられた。外務省は中立國に於てパンフレット及ピラを配布する爲の「戦争宣傳局」を作つた。(タイムズ社「戦史」二十一卷、ロンドン、一九一九、三二八頁)其の局長にはサー・エドワード・グレイによつて、實行力ある社會革命家、自由黨代議士にして「デイリー・ニュース」の共同出版者たるチャールズ・エフ・チー・マスターマンが任せられた。彼は一九〇九年乃至一九一二年の間内務省の副國務書記官であつた。宣傳部はウエリントン・ハウスで活動した。始めは宣傳局の設置は、より大きい成功を収める爲に國民に對して秘密にされた。(タイムズ、一三三頁以下)

ウエリントン・ハウスは大量の資料を分配した。大部分は私人の發表の假装の下に或ひは匿名で出版された。それは獨逸軍によつて爲された慘酷な行爲に關するブライスの有名な報告を公表した。此の報告は世界大戰に於ける聯合國の力強い宣傳的成功となつた。(ラスウェル「世界大戰に於ける宣傳技術」ロンドン、一九二七年、一九頁) 此の報告に齎された資料の大部分は個人の秘密の調査から出てゐる。

ウエリントン・ハウスは就中オランダに對する宣傳活動を統一した。チムメはオランダ英國總領事マックスに對するウエリントン・ハウスの或る協力者の手紙を引用してゐる。此の手紙はオランダに於ける宣傳パンフレットの普及に就て語り、ウエリントン・ハウスによつてとられてゐる方法の特徴を示している。即ち「我々はオランダのすべての新教の牧師の表を作つたから、數部を直接こゝから送ることが出来る。我々は一萬五千枚を印刷した。約四千枚を我々の表にある牧師の爲に用ひる。残り一萬一千枚を貴殿に送る。それに興味を持つ人々に、貴殿が之れを與へることが出来れば我々の喜びである。」とある。

大量に宣傳パンフレットを輸入することは、直に獨逸の國境にある郵便物檢閲所によつて妨げられた。併しオランダからパンフレットをばらばらにして、獨逸に於ける私人の宛名で送ることは、それと共に止むことなく、屢々成功したことは、私人によつて官廳に交付せられた多量のパンフレ

ットが證明してゐる。(チムメ、十六頁以下)

獨逸、オーストリー・ハンガリー、オランダ、スカンデナヴィヤ、スキスに向けて宣傳文書を目立たぬ様に輸入する仕事は始めの間は就中、ウエリントン・ハウスにも兼務してゐた國民保健省の官吏エス・エー・ヂェストによつて爲された。ヂェストは宣傳資料を密輸入する代理所を設立した。(タイムス、歴史、三五〇頁以下) 此の宣傳の仕事に従事した人々の名前は知り得なかつた。ヂェストは政府筋の落膽にも不拘、活動し、英國宣傳の從來の悩みであつた不安定によつても驚かなかつた。ヂェストは準備のない役所に珍しい形式で現れる宣傳に、鋭利な判決を與へた最初の一人であつた。(スチユアート、五二頁) ヂェストは後にクリュー・ハウスで、又ノースクリフエ卿の指導の下に彼の宣傳員として其の經驗を更に利用することが出来た。

ウエリントン・ハウスは中立國の爲の宣傳パンフレットの外に書物、パンフレット、新聞記事を聯合國に廣めた。(英國及北米資料目錄三卷、一九三一年は六五頁に一七〇九號の下にウエリントン・ハウスの宣傳文書の表を發表してゐる。ウエリントン・ハウス文書目錄、五八頁、(秘密) 著者は内々に出版された表を手に入れ得なかつた。) フィルム宣傳所が後にメア氏の指導下に設立されたがその外務省及内務省との關係は不明である。

陸軍省に「特別情報部」といふ小さな部が、スパイ發見の任務を以て活動した。この部は十四人

の協力者から、一九一八年の終には八百人に擴大した。「帝國々防委員會」は戦争勃發の時から、電信檢閱所を持つてゐた。そこには戦争の間四千人以上の協力者が仕事に従事した。こゝに情報の仕事及宣傳のすべての糸が集つた。一九一六年一月イギリスの參謀本部はキッチナー卿により改造せられた。而して「特別情報部」は特別の指導者を得た。宣傳所は軍事情報部の下におかれた。(アストン「秘密探偵部」ロンドン、一九三〇年、二五頁)

一九一七年一月宣傳及その色々の部局の統一及總括の廣大且大規模なる企てが起つた。外務省の情報部は一九一七年二月二〇日の戦時内閣の決議に基き設立された。ジョン・ブチャン大佐が情報部長に任命された。(ラスウェル、一九頁、ナムメ、十三頁以下) 彼は初は辯護士、戦争の始めは「タイムス」の戦争通信員、一九一六年には新聞記者としての助力者として外務省からフランスに於ける英國大本營に派遣された経歴がある。

「情報部」とウエリントン・ハウスはブチャン大佐の下に置かれた。併し、ブチャンの活動範圍は主として外務省の仕事に限られたので、既にその故に實際の總括は成功しなかつた。(一九一七年八月七日の「タイムス」参照) ブチャンは四つの異つた仕事を委託された。彼は戦時内閣の總理大臣に對して責任を負つた。顧問委員會が彼を助けた。その委員會にはバーンハム卿、ロバート・ドナルド、シー・ビー・スコット及ノースクリフ卿が加つていた。(ラスウェル一九頁以下) ノースクリフ

卿が一九一七年七月英國戦時使節としてアメリカ合衆國に渡つた際、ビーバーブルック卿が委員に任命され、後にはデヨーデ・リデル卿も委員となつた。ビーバーブルック卿はノースクリフ卿の地位を占めた。

情報部の宣傳は最初はまだ緩慢であつた。八月宣傳統一の爲の新しい試みが爲された。戦時内閣の一員でアルスター黨の首領たるサー・エドワード・カーソンが内閣によつて、部局を緊密に統括する爲種々の宣傳部を監督する任務を與へられた。戦争部は獨逸軍及獨逸國民に對する宣傳を司るより小さな部局を作つた。この「戦争部」は陸軍省と協力した。(ラスウェル、一九頁、エドワード・デングス、英帝國の政府、ロンドン、一九一八年「戦争部」の章、二六七頁の下参照) 陸軍省が主として戦線宣傳を規定した。(陸軍省の部は陸軍對敵宣傳部といつた)。

かくしてゐる間に英國に於ける精神的軍備は益々有利に發展した。最も強い推進力の一つはノースクリフ卿であつた。既に一九一五年の秋「タイムス」は「精神的軍需品」省を要求し、その大臣は、内閣に議席を有し、全新聞及情報制度を積極的方向に改造すべきであるとした。(ナムメ) 一九一七年八月「タイムス」は現在の状態に對する態度を決め、鋭い批評を行つた。

遂に一九一八年三月四日全組織は特別の情報省に發展した。カナダ人、マックス・エイトケン即ちビーバーブルック卿はランカスター公國の總理の地位にあつたが、既に長い間の要望たる情報省の

大臣となつた。ビーバーブルック卿は卓越せる組織力を持つた非常に有能な新聞人として知られてゐた。彼は内閣總理大臣及戦時内閣と直接接近してゐた。

ウェリントン・ハウスと情報部は新しい情報省となつた。ビーバーブルック卿の協力者は中でもノースクリフ卿の兄弟のローザリーミヤ卿及多くの有名な文士であつた。その中にはアーノルド・ベネット及エヴェライン・ウレンチがゐた。各國に對して特別の部長が任命せられ、毎週二回の討議に於て共同の經驗が交換せられ、新しい規程が作られた。(ステルンシルバース、五七頁、尚イ・デ・イ・ロレンツ、「歐洲の責任及運命」一卷、一九一四—一八、ストットガルト、一九三一、一九八頁参照) ローザミヤ卿は情報省と緊密に連絡して宣傳事業の價値ある支柱となつた。(タイムス、歴史)ビーバーブルック卿の情報省は直ちにフランス、ロシア、イタリア、スウェーデン、アメリカ、オランダ、インド、南アメリカに向けて特別委員を任命した。(タイムス、歴史、一〇〇—一〇八頁)

當時獨逸によつて遺憾にも怠られてゐた、この省の重要な方策の一つは、國內に戦争の目的を明瞭にし、全政黨の態度を其の追及に一致せしむる爲の官職即ち國民戦争目的委員會の創設であつた。(ステルンシルバース、五七頁) 國民戦争目的委員會は政府の補助は續いたが、間もなく上述の政府の宣傳機關たる性質を失つた。

情報省の第二の特別部の任務は、英國植民地、聯合國、中立國からの訪問者と呼ぶことであつた。それは印象的に英國の戦備を知らしめる爲であつた。この部(歡待部)の部長はダブリュウ・ジェイ・ガロウエイ大佐であつた。(タイムス、歴史)

同様に映畫宣傳も根本的に行はれた。戦争自身乃至戦争區域からの寫眞が、英國の援助と英國軍及その統帥の優秀さを正しく理解せしめるやうに編纂されて、全世界の最も小さな村や部落に迄廣められた。而してこの勿論無償で供給され、その故に喜んでとられるフィルムの爲の映畫館の無い所、例へばイタリアの田舎の如き所に於ては特に戸外の映畫館を作る爲の、一切の必要物を備へた特別の貨物自動車たる活動自動車が現れた。(ステルンシルバース)サー・ウイリアム・ジュリー及その秘書ハロルド・スナッグ氏は情報省のフィルム部の指導者であつた。(タイムス、歴史)ジュリーはこの目的の爲に、宣傳映畫「ソナム河の闘ひ」を映した。サー・バートラム・リマは情報省の戦争映畫部の組織者であつた。

ビーバーブルック卿の活動は個々の宣傳中心部の組織化に憚らなかつた。期待された結果は生じなかつた。ビーバーブルックの精細な委員會報告書が無いので、個々の宣傳事業に付いては纔かしか報告されてゐない。(エンテクロペヂヤ・ブリクリカ、三二卷、一七八頁は情報省の四つの主要部の任務を次の如く特徴づけてゐる。(1)、情報部は各國に於ける有效なる宣傳の爲の、一切の情報を受け且作り、

宣傳の言葉に代へた。特別電信及無線電信は毎日情報部の監督の下に行はれた。(2)、宣傳部は外國に於ける日々の宣傳の任務を有した。各國の爲に特別部が作られ、それは當該國の相應の組織と連絡した。(3)、宣傳資料は有線電信及無線電信を除き、新聞の論文、雜誌、ピラ、幻燈、フィルム、繪から成つてゐた。繪、幻燈及フィルムの製作及分配は戰爭委員會の手から、ビーバーブルック卿の直接手元に移された。(4)、ビーバーブルック卿の特別の注意は「個人的宣傳」に及んだ。外國の通信員と公的生活上の優れた人々を結びつけんと試みられた。「海外新聞中央部」はこの目的の爲に情報省と海外新聞記者との間の諒解所として働いた。特別の組織がイギリスに於けるアメリカ軍の慰安に従事した。イギリス自身に於て行はれた「個人的宣傳」と並んで外國に於ける情報省の代表者により同様の事が努力された。

アメリカの「廣告部」の報告(廣告部報告、公報委員會、一九一八年、二七頁以下)によれば、イギリスの情報省と協力して、アメリカの「公報委員會」によつて任命された戰爭委員會が作られた。それらの委員會は戰爭奉仕委員會及クラブ、廣告代理所、文士、藝術家、畫家、功勞ある廣告者よりなる戰爭廣告委員會を作つた。それらの委員會は月刊物、週刊物、半月刊物、農業新聞、土業、商業その他色々の出版物、家庭新聞、大學新聞を出版した。

ビーバーブルック卿の任命と、彼の情報省の組織とは既にカーゾンに對して不快の念をもつてゐ

た自由黨の強い反對と益々増大する不信用に達著した。(サムメ、一九頁)情報省では大部分保守黨系の財政家が各國に對する部を指導してゐた。此の不満は一九一八年八月五日及六日、下院で、宣傳官廳の態度に關する特別委員會の報告の際に精細に論議された。(一九一八年八月五、六日の「タイムズ」参照)その外報告は宣傳の爲の出費に論及してゐる。出費は先づ外交及機密事項の爲の基金から支辨された。(ラスウェル、四〇頁)サムメによれば、出費は一九一七年に於て七十五萬磅である。サムメは情報省の役人の數を四八五人なりとし、次の事實を教へてゐる。即ちビーバーブルック卿自身は百二十萬磅の支出を希望したのに、財政部長はその年の出費を百八十萬乃至百九十九萬磅に見積つたといふことである。

ライフ・ジョンズは、議會に於て、情報省の指導者を次の如く特徴づけた。即ちビーバーブルック卿は七つの會社の社長であり、秘書官スナッグ氏は主としてゴムに關する九つの會社の社長である。對スカンチナビヤ及對スベイン宣傳部長ハムプロ議員は銀行家兼鐵道會社社長である。對スキス宣傳部長ヤネス氏は九つの會社の社長である。アメリカの宣傳を司るブライアン大佐は六つの會社の社長であり、主として船と船の建造に興味を以てゐる。ガロウエイ大佐は五乃至六の會社の社長であり、カンリフ・オーウェン氏は三十六の會社の社長であり、アジャ及日本を含む極東の宣傳を委託されてゐると。(ラスウェル)

ライフ・ジョンズの攻撃は、私的資本主義の目的を國民的宣傳の上位に置く情報省の組織に向けられた。かくして亦、ビーバーブルック卿の協力者の多くが危いむづかしい仕事に困惑した。ロイナル通信の代表者は情報省から電信料として多額の金銭を受取つてゐたので非難された。ビーバブルック卿の監督した役所のフィルム製作は、鋭く非難された。蓋しそれらは宣傳に不適當であつたからである。のみならず宣傳省は、ロイド・ジョージが彼の最も有力な歸依者を作らんと欲して設立したのであるといふ非難が英國の新聞に掲げられた。(一九一八年八月七日の「デーリー・クロニクル」参照)

情報省に對する外務省の責任ある人々の態度が匿名の書物「力の虚飾」(ニューヨーク、一九二二年)の中に明かにされてゐる。著者によると、一群の外交有能者は、ビーバーブルック卿の指導下に働くことを拒み、外務省に鞍代へをした。ビーバーブルック卿は、彼と同様に外交の経験と外國語の知識の不完全なカナダ人を頼りにしたと、「政治家と新聞」(ロンドン、發行年不明)に於て彼自身の歴史を報告した。パリ駐在英國大使バーティー卿は外務省が一九一七年迄にパリに全く新聞事務所を建てなかつたことを歎いてゐる。(バーティー卿一九一四—一八、「日記」、二卷、二〇二頁)バーティーはビーバーブルック卿に再三パリに宣傳機關を設立する様に進言した。一九一八年三月始めてパリに英佛委員會が作られ同時に情報部が作られた。

一九一五年終りまで佛蘭西に於ける英國大本營の情報部は陸軍省の特別情報部長と協力した。最高軍事官廳は戦線に於ける任務上その注意を宣傳に向ける様に要求された。一九一六年の始め、サー・デヨーデ・マツクドノー將軍が佛蘭西から歸り、參謀本部の情報部の指導を引受けた。コツカール少將と少數の信用すべき宣傳員の援助により、廣範圍な勝れた組織が作られた。それは各々の戦線の司令部及英國宣傳機關に緊密に接觸した。軍事情報部の指導は廣大な宣傳資料を供給した。報告、捕獲文書及寫真が別々の戦線から集められ宣傳に利用された。佛蘭西に於ける英佛の大本營に於ては定期的に聯合宣傳の目的性に就て討議が行はれた。ロンドン及パリにある軍事宣傳機關の間には緊密なる意見の交換が行はれた。宣傳文の發行は全世界に亘つて組織された分配所によつて引受けられた。併へばエジプトには「アラブ事務所」が設立された。(エンチクロベチア・ブリタニカ、三二卷、一七九頁)

一九一八年二月十三日ノースクリフ卿が對敵宣傳部長に任命された。それは決定的轉回點であつた。ロイド・デヨーデにより提供された航空大臣の職を彼は拒んだ。宣傳部長としての仕事に關してはノースクリフ卿は唯内閣總理大臣の下に立ち、陸軍省及情報省に對しては唯々財政上の責任を負つた。ノースクリフ卿の宣傳の本部はクリュー侯の屋敷たるクリュー・ハウスに定められた。公の名稱としては、活動を隠蔽する爲に、英國戦争傳導機關なる肩書きが選ばれた。(スチーヴ、一八

九二―一九二二の三十年を通じて、個人的物語」二卷、ロンドン、一九二四、第二卷、一八六頁)

一九一七年十一月當時英國外務大臣であつたバルフォア氏は英國政府に「猶太人の國立宿泊所」の設立を暗示した。此の設立は獨逸の猶太人への影響を顧慮して著手され、亦同時にアメリカのユダヤ人をして戦争に参加せしめた。ルーデンドルフ將軍はバルフォアの聲明を、聯合戦争宣傳の極めて賢明なる前進なりと觀察し、獨逸が先にこの考へを握まなかつた事を遺憾とした。(ラスウェル、一七六頁)

官廳的特徴が主となつてゐる上述の宣傳組織と竝んで、英國にはその外、始めは私人側から設立せられたが、後に政府の金銭的援助を受け、その發展の過程に於て官廳的性格を持つたその他の組織があつた。

かくして一九一七年六月國民戦争目的委員會が國內宣傳に著手した。宣傳委員會はあらゆる摩擦を避ける爲に、各政黨の黨員から構成された。委員會は、明かに國家の補助金を仰いだ。議長はロイド・デョーヂ及アスキスであつた。委員會は特に平和團體の攻撃を目的とした。尙一九一七年に國民戦争目的委員會は戦時内閣によつて引繼がれかくして官廳的施設となつた。リヒノウスキイ公爵の「ロンドン傳導」に關する覺書を委員會は既に一九二八年三月始めに四百萬冊以上を廉價版で販賣した。(一九二八年三月九日の「タイムス」、エヌ・ビー・ダール、「官廳戦時組織辭典」ロンド

ン、一九二八年、一二八頁参照)

國民戦争目的委員會とアダストラル・ハウスにある陸軍省の軍事情報部とは緊密な關係にあつた。(タイムス、歴史)一九一七年こゝから飛行機で、獨逸戦線に撒く爲に、ピラが積み込まれた。この任務は航空發明委員會が軍需品發明部と共同して引受けた。

一九一六年春英國陸軍省に、英國新聞に於ける全宣傳に確固たる基礎を置く爲の、最初の大きな役所が作られた。その際要點は、既にこの宣傳事業が聯合國政府の政治的意圖と調和すべしとす點におかれた。このあらゆる省特に外務省によつても、情報と指圖を供給された宣傳機關と、新聞指導者の協力により、英國新聞事業の爲の最も人の心を惹く標語が生じた。即ち英國はたゞ止むを得ず、最も尊い動機から、民族の権利とより弱い國の擁護の爲に、民族自決權の爲に、將來の戦争を絶滅する爲に、國際聯盟設立の爲に、野蠻に對する文明の戦ひの爲に、獨逸君主政軍部財界の他くなき掠奪的帝國主義に對する戦ひの爲に、戦ふのである。と。これらに對して英國及聯合國は戦ふので、獨逸國民を敵とするのではない。と。(モーゼル、「世界大戦に於ける最高の力」ストットガルト、一九三二年、五六頁。ハムブドン・ゴードン、「陸軍省」、ロンドン、一九三五年)

陸軍省によつて、ロンドンの國際情報委員會と連絡して、官廳的軍事的戦線宣傳が行はれた。西部戦線に於ける英國の飛行機宣傳は、後にノースクリフ卿により廣く行はれたのであるが、陸軍省

にその精神的萌芽を有する。こゝでは表による叙述、ピラ、獨逸の捕虜の手紙の複寫、パンフレット、宣傳文學が占領されたベルギーの住民の爲に作られた。宣傳事業に關する官廳側の報告は恐らく出版されてゐない様である。

官廳の宣傳にとつては、ロンドンの國立印刷所が重要であつた。それは政府關係事項、就中議會の印刷物の印刷の爲の大藏省の獨立の部であつた。國立印刷所は命令による印刷物及その他の印刷物の二種類を公刊した。その出所は明かにされなかつた。國家の補助によつて製作された宣傳印刷物の大部分は内國及外國の出版者から供給された。命令による出版物製作と並んで英國政治家の宣傳演説の公表によつて、活潑な宣傳事業が展開した。演説は獨逸、イタリー、佛蘭西、丁抹、スウェーデン、オランダ、スペイン語で廣められた。

官廳の宣傳に關する英國の説明は、二十世紀に於ては輿論の支持なしには、何人も、國民に主として負擔を負はせる戰爭を行ふことは出来ぬ、といふ根本知識を以て始つた。故に自國に於て、有利な輿論を作り、之を維持することは、戰爭の結果にとつて、死活に關する重要な要素であつた。(バルトランド・ラッセル、「自由思想及官廳の宣傳」、ロンドン、一九二二年、三二頁以下)官廳の宣傳は年々その計畫を廣めた。英國々民の洞察、祖國愛、犠牲心に信賴して、宣傳は戰爭を出来るだけ無色に「敵に對する勝利」なる標語の下に描き、平和主義者を賣國奴なりと明かに特徴づける

様に考慮された。

英國の議會では多數の委員會が、輿論に影響を與へ、戰爭宣傳を強める爲に、任命された。最も重要な半官的委員會は、募集委員會及戰時節約委員會であつた。兩委員會は主として國內で活動した。併し委員會は、又、廣く中立國に普及された書物を公刊した。

補充委員會は無數の誹謗書をイギリス語、オランダ語で公刊した。その中には「井戸の中への毒の投入」といふピラがあつた。それは獨逸西南アフリカの井戸に毒を投入れることを取扱つたものである。更に佛蘭西に於ける獨逸の慘酷な行爲を扱つたジョン・ハートマン・モルガン教授のセンセイショナルな個人的報告書「不名譽な獨逸軍」募集委員會、一九一五、ロンドン、一二頁)があつた。それは雑誌「十九世紀」の一九一五年六月號に始めて掲載された。委員會の宣傳書の中でも就中二つのパンフレット即ち「所謂獨逸の暴行に關する委員會の報告に基く、獨逸の慘酷な行爲についての真相」(一九一五年)及「如何にして大戰は起つたか」が無償で分配され、その爲に廣く弘布された。

政府自身と共に委員會は二つの他の誹謗書に對して責任がある。第一は歐洲の危期に關する英國の白書(政府の國會への報告書)の大衆版である。一九一五年この書物(「大戰及その原因」、エイチ・エム・ステーションヨナリ・オフィス、ロンドン、一九一五年)の出版は三萬部と言はれる。他は所謂

ベルギー及佛蘭西に於ける獨逸の慘酷な行爲に關する「ブライスの報告書」の大衆版である。もつとも此の事に關しては既に若干の出版物もあり、又獨逸の暴行に關する委員會によつても出版されていた。(ロンドン、一九一五年、議會議事録、七、八九四號)上述のビラはこの廣大な誹謗の書物の内容を短縮した出版であつた。

獨逸の暴行に關する委員會は政府によつて任命された。委員會議長はブライス子爵であつた。彼は一九一五年獨逸の慘酷行爲に關する調査を公表した。宣傳委員會はこの報告書の公表によつて前例のない程の浮揚力を經驗した。委員會はこの報告書を「大英國」の表題の下に、地圖及寫真を附けて二巻とし、二つの異つた版として出版した。(第一部、「ベルギーに於ける獨逸軍の指揮」、第二部「法律の破滅、戦争の效用、侵略せる地域に於ける非人道的行爲」、地圖寫真なしの版も出版された。)

戦時節約委員會は、パンフレット集を「眞實」なる表題の下に出版した。該委員會は募集委員會と同様英國兵士の募集の爲の募兵所を維持し、又熱病的な廣告宣傳をイギリス及アイルランドに廣めた。

この種の宣傳委員會の第三として、國內の輿論に對する影響の爲の戦争目的委員會が、大なる役割を演じた。一九一七年十二月、政府は、議會から戦争目的委員會に任意の額の補助金を與へる權

限を與へられた。これに比し、委員會に注がれた秘密の出費は遙に莫大であつた。既に一九一六年七月宣傳費及機密費の豫算は既にその年の爲に承認された二十萬磅に追加して、三十萬磅を組入れた。戦争目的委員會は一九一七年末迄に五百萬枚のビラを廣めた。(ヘルツツヘル、三八頁)

更に半官的宣傳機關として簡単に擧ぐべきものは、帝國議會聯盟、中央經濟聯盟及ロンドンに於ける帝國運動である。この政治組織の特別團體は就中獨逸貿易及獨逸工業の攻撃を宣傳目的とした。

半官的機關の活動によつて、官廳及特に政治組織による宣傳が有効に補充された。

既に一九一四年八月末頃内閣總理大臣アスキスを名譽委員長として國民愛國團體中央委員會が作られた。(以下の中央委員會に關する詳論の基礎となつてゐるのは、中央委員會の報告書、ロンドン、カナダ・バシフィック・ビルディング、一九一六年、四〇頁である。報告書は戦争勃發以來特に一九一四年十二月二十一日以來の委員會の仕事を取扱つてゐる。)それには多くの宣傳團體が屬し、委員會は一九一四年來發展しつつある宣傳事業により、英國宣傳のより強い統括の爲の有力な要素となつた。中央委員會は恐らく一九一四年八月二十八日のアスキスの回狀に關聯して發生したものである。その中で彼は「輿論及公の努力を鼓舞し、組織する爲の聯合の努力を爲すべき時は來た」と言つた。(ラート「中央委員會の宣傳事業」、獨逸書籍業新聞、一九一六年一月一五日、一九一七年

三月十九日) 宣傳聯合の本部はカルトン・ハウス・テレイスであつた。

委員會には議員共の他公人が屬してゐた。第二の且最も重要な任務として、戦争に對し決然たる信頼せる氣持を特に勞働者階級に作る事が始められた。(サムメ、十三頁以下)

イングランド、スコットランド、ウェルズに約四百の支所が設立され、それらは多く自由意思による援助者によつて宣傳事業を遂行した。就中宣傳は一九一四年及一九一五年に於て、募兵の事業を獲さんとし、無價値な且早計な平和の爲に努力した陰險な煽動及宣傳に抵抗せんとした。

中央委員會は二百五十人の演説家を募集し、一萬五千回の集會を開いた。その集會では絶えず繰返して戦争の原因、必要性及正當性が語られた。その爲には大學教授、大學講師、巡回演説家が選ばれた。フィルム及幻燈は改心及確心させさせる爲の宣傳に役立たしめられた。「愛國車の巡回」は英國の奥地にまで行はれ、その際演説家が車から民衆に演説した。

併し宣傳の遙に廣い範圍を占めるものは、小冊子、パンフレット、ビラ、廣告の分配であつた。國民教員聯盟の助によつて學生の手に入つたかゝるビラだけでも、八十五萬枚以上である。工場地域には約九〇萬冊の宣傳書が廣められた。同様にこの文書は勞働團體その他の團體の圖書室に配布された。

これらの公刊物以外で第一位を占めるものは有名なオックスフォード・パンフレットの出版であ

る。それは戦争の最初の數年間非常に多數出された後その出版をやがて減少せしめねばならなかつた。既に一九一五年三月にはオックスフォード・パンフレットの繼續は停止された。

次に唯その印刷者の名前のみを記した印刷物も明かにこれに加へ得る。(ライト、七四二頁) かくる印刷者としては政府と親密な商會即ち、ダーリング・アンド・サンズ、アイル・アンド・スポツチス・ウツド、ハリソン・アンド・サンズ、ハツエル、ワトソン、ヴァイネイがある。トーマス・ネルソン・アンド・サンズ出版商會の名の入つてゐる印刷物もこゝに入る。これは主として翻譯であつて書店では賣出されなかつた。

國民愛國團體中央委員會自身の公刊物はパンフレット、リーフレットとビラであつた。その數は遙に百萬枚以上である。

中央委員會は更に宣傳の爲の戦時新聞(種々の基督教團體及政黨から選ばれた委員會の援助の下に出版され、レヴ・ダブリュ・テムブルによつて編輯された。オックスフォード大學出版。一九一四—一五)の出版を奨励し、それは内國及外國に非常に廣められた。パンフレットは三つの叢書の形で出版され、戦争の最初の二年間に三十六部に登つた。

ベルギー及佛蘭西に於ける獨逸の慘酷な行爲に關する非常に澤山の宣傳パンフレットが中央委員會によつて作られた。パンフレットは際限のない嫌疑と誹謗とによつて注目される。パンフレット

は多數の外國語に譯された。

殉教者エデス・カツェルに關する英國白書に竝んで、エデス・カツェルに關する無數のパンフレットが中央委員會から出版された。「彼女の生涯と殉教の物語」といふ書物は特に感情的な氣分によつて非常な影響を及した。元來宣傳組織の特別の委任なしに公刊された書物及パンフレットすら、その後は屢中央委員會及それに屬する宣傳團體により取上げられた。例へばデー・チー・チエスタートの煽動書、「ベルリンの野蠻性」の如きである。(ロンドン、カツセル、一九一四、九五頁)

併し主に外交に關する宣傳が國民愛國團體中央委員會の仕事であつた。英國の領土及植民地の爲に特に英帝國小委員會が作られた。同様の意味に於て、英帝國小委員會と聯合して、帝國議會聯盟、ビクトリヤ聯盟、海外クラブが他の大陸の英國領土の輿論に影響を與へ、そこに宣傳文學を廣め、就中その大學に豊富な資料を供給した。アメリカ合衆國は特別委員會によりその輿論に對して影響を與ふべきであつた。アメリカに於ては所謂獨逸の慘酷行爲が煽動の爲に全く特に有效な資料となつた。雜誌「野原」の一九一五年二月十三日附の誹謗的な特別號が廣く廣められた。「報告に基く獨逸の慘酷行爲」、輸入、ロンドン、一九一五年、三十二頁) 絶えざる反覆といふ宣傳原則はこれらの聯盟の宣傳書に於て特によく守られた。

中立國の輿論に對する宣傳は、包括的に組織された中立國小委員會が掌つた。該委員會は中央委

員會の如く、表面に立たない様に努力した。この委員會の祖國の大學との緊密なる結合は、特にこの委員會に役立つた。優れた學者が宣傳に役立つた。

中立國小委員會の啓蒙文書は間道と隠蔽された廻り道を利用し、出来るだけの方法をつくして、宣傳目的の爲に特に設立された役所が働いてゐることを隠さうとした。選ばれた方法は直接的、個人的接近であつた。たゞ宣傳的接近の試みが爲されただけで其所に於ては、神學者、哲學者、教育者、醫者、法律家、自然科學者、藝術家、商人、工業家、農夫の非常に活潑な協力が見出された。無數の國民的及國際的協會、團體、クラブ等が連絡の爲に利用せられた。大學、圖書館、學者團體は充分に且屢々宣傳文書の供給を受けたが、又その個々の構成員も宣傳文書の供給を受けた。宣傳文書は同様に公立圖書館、會社、團體、勞働組合、將校集會室、海員寄宿舎、旅館、映畫館、英國商業會議所、保險代理店、ロイド取引所支店に供給、分配された。委員會は數千人の外國に居住する英國國民に、宣傳資料を送つた。英國に滞在してゐた中立國の學生は、その歸郷の際は數包の書物、パンフレット、雜誌、ピラを無償で持ち歸つた。

それだけでは満足せずに聯合國及中立國に影響を與へる爲の若干の愛國團體が外國に設立され且支持された。それらは皆ロンドン中央委員會の宣傳戰の計畫に従つて働き、又獨立して宣傳文書を公刊した。

これらの宣傳委員會の中で最も重要なものは、パリの戦時資料調査委員會、マドリッドの佛蘭西協會、ピーターズブルグの一九一四年協會、ローマのイル・プログレツソ・プレ・シエンツエ、イタリヤ協會、ローマの英伊聯盟、ベノスアイレスのプロバガンダ・プロ・アリアドス委員會、リオデヂヤネイロのブラヂル・プロアリアドス聯盟、モンテヴデイオの英佛・ベルギー・ウルガイ委員會であつた。

英國の報告によれば、アメリカ合衆國の外支那、アビシニヤ、イスラント、ベルー、ジャヴァ、マキンゴ、ベルシヤ、ハイチ、ハワイの輿論にも影響を與へたとある。

配布せられた文書は同時に種々の言語で出版された。英語、佛語、獨語、スペイン語、ポルトガル語、伊太利語、和蘭語、スウェーデン語、丁抹語、希臘語、ルーマニヤ語等であつた。

アルベルト王の書（ベルギーの王及人民に對する全世界の代表的男女からの贈物。ロンドン、一九一四、一八八頁）は四つ折版で、光榮ある注目を惹き、全世界から集められたベルギー王アルベルト及其の國民に對する同情が收められてあり、非常に廣く廣められた。同じ表題で佛蘭西版が出た。

中立國小委員會の支那聯盟は「大戦とその起源及それに對する責任」といふパンフレットを出版し、それは英語及支那語で公刊された。この本は特別な配慮を用ひて、支那の國民の氣持と考へ

方に深い印象を與へる様な、理由と觀點を含みこれを強調するやうに作られた。

委員會はリチャード・グレリング博士の「余は非難す」(或る獨逸人による。ローザンヌ、一九一五年)の普及によつて最大の宣傳的成功を成し遂げた。以前ベルリンで辯護士をしてゐたこの男のこの悪評のパンフレット程、かくも飽きずに宣傳組織によつて賣り廣められた本はない。それは始め獨逸語でローザンヌにあるバイヨイ英佛出版所で出版された。グレリング博士は戦争の間スキエに移住し、そこで大部の「余は非難す」「犯罪」を書いて獨逸に對する精神的陣營を張つた。

遂に、國民愛國團體中央委員會は中立國小委員會と共に更に經濟團體たる中央經濟聯盟を組織した。それによつて、内に向つては經濟的困窮の時の節約の奨励と警告が爲され、外に向つては誇張、歪曲、虚言を用ひて、所謂啓蒙文書によつて、英國及聯合國の良好な且希望に満ちた状態と、他面に於ては中歐列強の經濟的崩壊が報告せられた。

中央委員會の宣傳事業の埒内で述べべきものとしてはガブリエル・コスタの「ユダヤ人と戦争」、なるパンフレットの出版である。それは戦争状況をユダヤ人の觀念と原則との關係に於て、宣傳的に利用した。その傾向は次の事を目的とした。即ち獨逸は反セム主義の國である。しかるに英國は徹頭徹尾ユダヤ人に好意を持ち、追放され虐待されたユダヤ人がイギリスに來ることを期待してゐる。明に獨逸の軔の下に奴隸化する、ユダヤ人の解放を意味する聯合國の勝利の爲に協力せよ。と

いふのであつた。(パンフレットの序文はレオポルド・ド・ロツスシールドが書いた。パンフレットはユグヤ語に譯された。)

中央委員會に就ては次の如く概言することが出来る。委員會では多くの會員を有し、各自の寄附によつて多額の宣傳資金が集められた。又巨額の寄附によつて、名譽會員を獲得することが出来た。團體たる會員としては、外交宣傳及印刷事業に従事する多くの團體があつた。英國國內に於ては中央委員會は一種の愛國黨として戦争の意思を呼び醒し、活潑に維持せんとした。中央委員會はこの意味の活動を爲す一切の團體を援助し、國民集會及講演の催しにより、又特に英國新聞に論説を供給し、内國及外國に書物、パンフレット及ピラを普及せしめることによつて熱心な直接的活動を展開した。宣傳は強い財政的基礎により活動し、諸團體は活潑な協力促進の爲に最後のにして最も極端な努力をしたので、委員會は大成功を収めた。外國に於て特別な活動を必要とする所では、至る所最後の適確性を以て遂行された。委員會は奨励を求め、輿論に向つて理由と證據を明かにした。中央委員會の宣傳員は、公の既存の機關に影響を與へ、新聞に資料を供給し編輯者を教へたのみならず、街頭の人にも演説し、群衆の中の個人にも呼び掛けた。中央委員會の宣傳的影響の秘訣はこの各個人との直接的な關係にあつた。宣傳は一人一人を獲得し、學校に於ては教師をして、教會に於ては牧師をして、又實業家及藝術家をして語らしめた。それによつて、各人が宣傳の目的

とし任務とするところを聞き、全然無關心な人の數が減少するに至つた。委員會は内國及外國に在る何百萬の宛名に個人的手紙を送り、演説をせずに檄を飛ばした。宣傳の効果は、慎重と賢明を以てするより以上に強く輿論をして確信せしめた感銘的な標語による活動をした所の協會によつて齎らされたのであつた。

これらの大きな政治的宣傳機關と並んで英國には多數の宣傳的團體が大小となくあつた。それらは多くは地方的のものであつた。外國に於てすら、英國に於ける政治機關によつて設立され、援助された諸團體があつた。これらは就中文化宣傳の爲に活動した。

英國に於て重要な役割を演じたのは民主的統制聯盟であつた。該聯盟は世界大戦勃發後間もなく、名譽書記官兼會計課長イー・デー・モールレル、ノーマン・エンヂェル、ラムゼー・マクドナルド、イー・ボンソンバイ、クリスト・テレヴェレヤン及その他の議員によつて作られたのであつた。『國家政策』といふ民主的統制聯盟のパンフレットは一九一四年九月十七日を高い平和目的を告げる爲に出現したこの聯盟設立の日と呼んだ。その聯盟の中に、政治的、實利主義的、宗教的、平和論者が相結合した。これらの平和愛好者は戦争を妨害することは出来なかつた。彼らは帝國主義者、民族主義者と同様勝利を希望した。一九一七年迄にこの結社は二十三冊のパンフレットを出版した。その著者はノーマン・エンヂェル、ベルトランド・ラッセル、イー・ボンソンバイ、ラムゼー・マクドナルド

ルド、イ・オー・モレル、デー・ビー・グーチ、ブレイルスフォードその他であつた。

民主的統制聯盟設立の本來の動機は、英國内閣が戦前に於て、一見攻撃的な獨逸に對する、共同戦争に關する義務を規定せる佛蘭西との秘密條約を、黙秘した事實に對する憤懣であつた。同一時期に同一目的の爲に獨逸に設立された獨逸の聯盟「新しき祖國」が英國に於ける「民主的統制聯盟」に付て何事も知らなかつたといふ事は重要であり、銘記せらるべきである。(ラヌツェル、前掲、六六頁)

英國に於て、この聯盟の會員が聲明して、秘密外交を清算して外交政策を民主化する爲に、我等は戦争を辨護すると、言つた時に、それは客觀的には外國の爲になつたがそれと同様に英國の爲にもなつた。(ラヌツェル)しかし外見的平和論者の演説の仕方は問もなく、經驗ある宣傳員によつて、獨逸に對する一義的方向に變へられた。理想主義的戦争目的は敵を犠牲として自國の宣傳に利用された。平和論は英國に於ては世界觀の領域に止まらず、政治に於て實際に應用された。英國統治下の平和の意味に於ける理想の實現を一見したゞけでも民主的統制聯盟の理論は利用し得るものである。聯盟は戦争の最後の數年に於ては多くの宣傳パンフレットによつて、より多く外國宣傳に従つた。「募兵反對團體」「平和協會」「友邦聯合平和委員會」「平和及自由聯盟」その他の平和團體によつて唱へられた純粹の平和主義の陣營は淋しかった。

調査することの出來た且つ宣傳に役立つ最も重要な政治的勞働者團體の中に數へられるものとして(戦争から起る公共の問題を扱ふ委員會の表。ロンドン、一九一五年)次の如きものがある。即ち英帝國聯盟。一九一五年四月始め作られ、「反獨聯盟」の同様の仕事を引受けた。ロンドンのフアビアン協會。それは社會主義の團體で、一八八三年創設されたフアビアン黨の結社の意味に於て國家社會主義的觀念をデ・ビー・ショーズの指導下に唱へたのである。この結社から一九一五年に國家組合聯盟が分裂した。熱情的標語によつて綴られた月報を、一九一八年國民平和會議が出版した。

ロシア解放委員會、大英帝國に於けるチエタ國民同盟、ロンドンに於けるシオニスト組織も同様に宣傳パンフレットを出版した。

これらの結社の目的は戦争宣傳及文化宣傳を建設し、絶えずその活動を續け以て、世界に於て聯合國及西洋の民主政の勝利を保證し、たゞ暴力に基礎をおく所謂生存の爲の戦争なる獨逸の見解に、民族及人類間の平和的競争を目的とする正常なる見界を對照せしむるにあつた。この宣傳の重要性は英國側から戦争の問完く正當に認識せられ、諸組織は、この目的の爲の宣傳パンフレットの製作を高め、その事業を擴大する爲に全力を捧げた。

第二節 新聞宣傳と檢閲

新聞は、戦前既に英國政府によつて、巧妙に煽動的影響を與へる道具として利用された。影響の大きい大新聞が、常に有效に、當面の問題について、指導されたばかりでなく、反對黨の新聞すらその性質に相應して代辯者として利用された。故に危急な時に政府によつて要求せられる標語が正確に發せられるといふ事に信頼を置くことが出来た。

英國新聞、英國情報事業、英國検閲は根本的且廣大なる組織によつて活動した。官廳宣傳機關を特徴づけたと同様の計劃性と實行力を以て、新聞及情報事業の宣傳陣營は進められた。

既に一九一一年「海陸軍及新聞委員會」が設立された。設立者サー・レデナルド・ブレイドの努力は、戦時及平時に於て、一方に海軍省及陸軍省、他方に新聞との間の永續的結合を作ることを目的とした。委員會は、海軍省、陸軍省、ロンドンの新聞、英國地方新聞の代表者から成つてゐた。陸軍の秘密情報を公表することは、イギリスの法律では禁じられてゐなかつたので、委員會は戦前既にかゝる情報の秘密維持にあらゆる手段を以て努力した。

新聞と政府との接觸を容易にする爲に、既に始に述べた新聞局が開設された。そこには検閲も持ち來された。新聞局の内部組織は出版部、電信部、陸軍部、海軍部に分たれた。(クック、「戦時に於ける新聞」附新聞局の解説) ロンドン、一九二〇年、四五頁以下) 出版部の重要な課は新聞室であつた。

新聞局は一九一四年八月七日キツチナー卿及チャーチル氏によつて設立された。指導者は、一九一四年九月三十日迄はサー・エフ・イー・スミス及バーケンヘッド卿であつた。次にはサー・スタンレー・バックマスターであつた。スミスをその活動の始めから援助したサー・ブレンク・スウエツテンハムが戦争の數年全部を通じて眞の指導者であつた。彼のもとにサー・エドワード・クックが居た。バックマスターは一九一五年三月二十六日新聞局の指導をやめた。クックとスウエツテンハムは新聞局の共同指導者として、その外の協力者の援助を受けた。フランク・ミチエル氏が副指導者となり、フランシス・ミード氏は書記となつた。両者は新聞局の閉鎖まで働いた。海軍検閲官として、先にエイチ・エフ・コレリツデ大佐、後にデュリアン・リーヴアソン大佐が働いた。電信室の指導者は、デ・リトル、イー・エス・ライト、ビー・ツイ・メルヅイル及ブロッズ大佐であつた。(クック、四六頁) 電信及郵便検閲の責任將校はサー・デヨーデ・マクドノー、コカッル將軍、エー・イー・チャーチル大佐、アーサー・ブラウン卿(電信検閲部長) デー・エス・エイチ・バーソン大佐、エー・エス・レル・ラークハーン大佐(郵便検閲部長)であつた。

検閲の仕事の外に新聞局は就中新聞に情報を供給する任務を持つてゐた。(新聞局に關する覺書及エンサイクロペヂヤ・ブリタニカ、三〇卷、五九一—五九六頁參照、更にブロッツキ「宣傳」、ハムブルグ、一九二四、新聞局の章。サー・チャーレス・オスマン、「私の見た物」ロンドン、一九三三、參

照) 情報は大部分海軍省、陸軍省、外務省に對する問合せに基き發せられた。責任は新聞發行者の側にあつた。新聞社は特別の禁止事項に觸れぬ限り原則として、自ら正しく且適當とする所を發表することが出来た。出版者が誤ると彼を訴追することが出来た。新聞局の許可のない報告を發表した場合、規則を知らないと言へなかつた。新聞との衝突を出来るだけ回避する爲に、新聞局は新聞及雜誌の出版者に或る期間を置いて秘密の指圖を與へた。戦争の終熄せる時には數百の禁止事項があつた。時々指圖が小冊子としてすべての新聞發行者に送られた。(クック、五八頁) それは戦争の間の英國新聞の爲の一種の教科書であつた。而して檢閲を有効に遂行する爲の重要手段であつた。

新聞局が聯合新聞會社に、その委任により戦線で撮られた寫真で繪葉書を作る獨占権を與へたといふ、一九一六年七月の英國新聞の情報は更に廣範圍な任務を指示してゐる。(エルツパツヘル、三六頁)

輿論に影響を與へる爲に、新聞局の情報材料は活潑に利用された。個々の部が獨立に新聞の爲の更に狭い領域の仕事をした。情報の供給は巨大であつた。新聞局は危險に際して、大新聞に政治勢の内幕を洞察せしめ、政府の意図を知らせんと決意した。就中、新聞が政府の政策を有効に支持しうる爲には、新聞に對する教育は決して遅すぎはしなかつた。

新聞局は聯合國の政策の爲に情報を公表する爲の、確固たる原則と統一的計劃とを實行しなければならなかつた。新聞局は、この方向に向つて活動が實行される様に監視し、内閣と絶えず接觸し、状態に応じて或は援助し、或ひは激勵し、或ひは抑制した。就中新聞局にとつては情報の發行に當り、政治的影響が重大であつた。萬事は英國に利益な姿で現れねばならなかつた。かくして、新聞局と新聞との間には絶えざる有效なる交互作用が起つた。而してそれは新聞事業及宣傳事業を統括し、それらの統一的作用を配慮することを可能ならしめた。(佛蘭西のメーゾン・ド・ラ・プレスは範圍と組織に於ては英國の新聞局よりも重要であつた。「佛蘭西ジャーナリズムの内幕」、パリ某編輯長著、ベルリン、一九二五參照、フーバー、三〇—三四頁參照)

新聞局は、外交政策の問題に於て、その政黨政策的及内政的態度から獨立して、出来るだけ全新聞の支援を得んと努力した。情報ピラと竝んで、特別の印刷物が、内國の新聞に送られた。その内容は全國民及全英新聞に政黨の區別なしに政府の政策を知らせた。

かくの如く、新聞には強い官廳側の影響が與へられた。その影響は檢閲の巧妙なる使用によつて、更に著しく擴大することが出来た。正に情報の仕事と檢閲の結合こそは、政治的立場からその優越を拒み得ぬ制度たることが明かにされた。檢閲は、或る範圍に於ては政治的檢閲すら、決して偏狹には行はれなかつた。「そこには如何なる檢閲も勢力を得なかつた」とクックはいつてゐる。(クック

ク、一六四頁、「三ヶ月評論」検閲とその効果、一九一六年一月）イギリス新聞が外交問題で示した統一的な態度は、外部的壓迫の結果ではなく、政治的教育及其の遣り方を知つてゐる政府との繼續的接觸の結果であつた。（エルツバッツヘル四一頁）

新聞局は主として外交政策の觀點から、如何なる問題が常に情報蒐集に於て顧慮さるべきか、如何なる意味に於て政治的影響が與へらるべきかを規定することによつて、新聞と宣傳と外交政策の關聯を維持した。亦新聞局は聯合國の新聞官廳との關係を維持する必要があつた。こゝに於てかバリーのメイゾン・ド・ラ・プレスとの特に緊密な結合が作られ、その外國新聞翻譯編輯課に於て英國の仕事を行つた。

イギリス國內に於ては、新聞局は、更に、外交政策的新聞事業を行ふ協會を監督しなければならなかつた。

新聞局と並んで、それと聯絡して、外務省、陸軍省、海軍省、中軍需品省、戰時食料品省の新聞部、更に例へば政府の任命にかゝる所謂獨逸の暴行に關する委員會の如き官廳側の委員會が活動した。

戰爭勃發の最初の數日に於て、新聞所有者聯盟は政府と新聞との間の仲介者の役目を引受けた。全英の新聞の爲に設立つた「新聞會議」が宣傳的に重要となつた。「新聞會議」の議長及副議長

長はバーンハム子爵及リデル卿であつた。新聞會議は毎週開かれ、政府と新聞との間の一切の關係を規律した。全新聞が一致して協力したのは初めてであつた。而してこの一致協力は、英國新聞所有者が夫々異つた目的と意見を持つていたことを考慮する時注目に値した。（エルツバッツヘル、四一頁）

英國の情報事業は元來英國の世界支配に經濟的、政治的に役立つ見解を普及することを以前からその主要任務と考へてゐた。宣傳事業は練りかへし唱へられる標語に總括せられた、若干の世界觀的目的を、自國及諸外國に呑み込ませることによつて、この任務を果たした。戰爭は情報の仕事に於ても共同體が個人の爲に責任を負ふ、かの共同責任の感情を強めた。

聯合國一般に於て然るが如く、イギリスは戰前既に情報事業を指導した。スキス、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグは聯合國の獨逸に對して働きかけ且互に援助し合ふ情報事業の戰場であつた。スカンデナヴィヤ諸國に於てはイギリスの情報事業は殆んど無制限に支配した。情報事業が政治的に確定した事が宣傳によつて利用された。宣傳の効果を再び情報事業が觀察した。世界戰爭に於ては、敵國は獨逸に對立して密接に相結合する一方、同時に世界に於て又廣い國境の後に防備なしに横たはる獨逸に對して、情報事業は用意せる宣傳を放出した。（ニコライ、「世界大戰に於ける情報事業、新聞及國民感情」、ベルリン、一九二〇、五三頁）

イギリス新聞の最も価値ある補助手段はロイテル通信會社であつた。ロイテル通信は一八五一年半官的電信所として設立せられ、その規模の大きさに於てイギリス世界帝國の多面性を反映し、イギリスの新聞に、全世界から豊富な資料を供給し、世界の大部分から、イギリスの立場に基き蒐集された資料を供給することが出来た。(シモンズ「印刷術」、ロンドン、一九一七、一五七頁以下、一九二三年には世界の電線網の五十四パーセントがイギリスの手に、これに反し纔に二十パーセントがアメリカの手に、八パーセントが佛蘭西、八パーセントが獨逸の手にあつた。(エルバツヘル、四〇頁参照))

ロイテル通信はその支店をケープタウン、カイロ、アレキサンドリヤ、アデン、カルカッタ、ボンベイ、マレイ半島ではシンガポールとベナン、香港、上海、北京、横濱、テヘラン、オーストラリアにはアデレード、シドニー、メルボルン、ブリスベイン、ニュージブランド、ウエリントンに置いた。アパス通信やウオルフ會社その他の電信會社とロイテル通信とはカルテル關係にあつた。ロイテル通信の活躍に付ては既に澤山の文献がある。(シモンズ、一五七一―一六五頁、エイチ・エム・ロリンス「鳩郵便から無線へ」、ロンドン一九二五。フリードリッヒ・フックス「電信情報社」、三五頁以下、ルードウィヒ・フレンケル、「ロイテル通信及その創立者」、アルツール・ユング「戦争に於ける第七強國」、一九頁以下、エルツバツヘル、四〇、四一頁、オットー・グロス、「新聞」、五〇二

頁、デーモン、九七一―一〇二頁、ハンス・イー・モルフ「現代新聞制度に於ける電信情報」ベルリン、一九二二、ルドルフ・ロートハイト「獨逸新聞の平和條件、ロイテル及アパスの運命」、ベルリン、一九二五、ラスツェル、八〇頁、バウル・デヴィッド・フィッシュヤー、「國際情報通信及戦争」、ライプツヒヒ、一九二五、リハルト・ヘニツヒ、「世界戦争中の海外情報通信に於ける無線電信」、ベルリン、一九一六、アルベルト・ハース「外國に於ける宣傳」ワイマール、一九一六、十七頁以下、エルンスト・ヘールデーゲン、「新聞情報事業」、ライプツヒヒ、一九二〇、十二頁以下、八三頁以下、百二十四頁、ゲルマイニカス、「世界大戦に於ける新聞の害毒」、ライプツヒヒ、出版年不詳、十一頁以下、ロレンス、「英國新聞」、ハル、一九〇七、十三頁以下、雑誌「助力」一九二五、三八七頁以下)

情報宣傳と英國戦争宣傳との關係は、就中、宣傳資料を交互に利用した巧妙なる戦闘方法であつた。ロイテル通信は情報宣傳を爲すに當り、二個の重要な宣傳上の原則を適用した。一つは地理的、心理的強調であり、他は通信の賢明な選擇整理である。ロイテル通信は佛露その他の電信所の力を借りて、全世界及び特に海外の新聞により氣懸りなしに廣められ、反對なしに受られた。英國殖民地に於ける英國政府は、至る所に於て、ロイテル通信の利益が常に保存されるやうに配慮した。英國情報宣傳に於ては虚言が最も重要な役割を演じた。その虚言には破壊的な宣傳上の意圖が基礎になつてゐた。そこには自己の國民を欺くか或は敵を迷はす爲に許された熟考された公の虚言が

あつた。(ボンコンビイ著「戦時に於ける虚言」大戦の間行はれた虚言の分類を含む、ロンドン、二九二八、一九頁)そこには、頭腦の低い人々をヒステリックに錯覚せしめるに至らした故意の、創作的精神によつて組立てられた虚言があつた。(ボンコンビイ、二〇一―二四頁)又證據はないが、反對されず、その上繰返され廣げられた虚言もあつた。又多く故意になされた虚言の翻譯もあつた。又故意の捏造もあつた。それは非常な配慮を用ひて取扱はれねばならなかつたが、併し遂にそれが露見した瞬間に於ては、その目的を既に達成しているものであつた。又公文書から或る場所を削除することが行はれた。又故意の誇張、眞實の隠蔽が行はれた。それは一般に對して、敵に關する有利な事が何等耳に入らぬやうに行はねばならなかつた。又偽造寫眞(眞寫機は虚言は言へぬ!!)や、慘酷行爲に關する虚言が行はれた。慘酷行爲に關する虚言を言ふに當つては、敵の誹謗は祖國に對する義務なり考へられた。又純粹の捏造もあつた。又輿論を迷はした公の秘密維持もあつた。又國民の眞の憤激に基く、公の偽の憤激があつた。それは虚偽の一つの形式であつた。(毒瓦斯と潜水艦戦の最初應用はよき例である)又諸國の間の虚言の反對告訴があつた。

意識的にかゝる虚言を働いた英國の情報宣傳は常に眞の虚言の正しい方法を考慮した。電線の獨占と情報報の獨占によつてイギリスは及びがたき優越の地位を占めた。英國の檢閲の許す範圍内で、公の獨逸戦争情報供給に當つて、ロイテル通信は偽造を恐れなかつた。(デーモン、九九、二〇〇頁)

參照)

色彩づけられた戦争情報は自由に捏造し得るが、それに對する責任は負つてはならぬとする明白なる意圖の下に、英國新聞局は新聞に「戦線に於ける證人によりて」といふ表題でしか「非公式」といふ極印を押して通信を供給した。

戦争の間不實の通信はロンドン新聞の一部によつてすら拒絶された。ロンドン新聞は、この方法では宣傳的效果を弱めると正當に看取したのであつた。かくして宣傳が屢々反對の態度を取り英國に於ける戦争熱を刺戟する爲に、敵の成功を特に褒めたといふ事が起つたりした。特に募兵宣傳はこの情報宣傳により強めることを得た。獨逸軍の戦闘用意の出來てゐること、獨逸の最高軍統帥部の力強き組織を稱揚し、これと、自國の戦闘力の全く準備なきことを比較した。それは世界大戰に於ても再び確實なる結局の成功を収めた英國の古來の戰略であつた。

百萬語以上の情報資料がイギリスの意味に編纂されて、ロイテル電信所から毎月外國に送られた。それは略厚い辭書の内容に相當した。(「シルバー」他の武器)「プレスラッ、一九三二、一四〇頁)各國語に譯された約四〇〇の記事が毎週外國新聞に供給された。すべての中立國及聯合國に於て、イギリス事務所によつて計畫的に準備された資料を廣める情報支部が設立された。

イギリスの情報宣傳設備はスパイ事務所といふ更に大きな重要手段を利用した。英國參謀本部の

情報部はその最大のスパイ事務所をブリュッセルに維持した。この事務所はアムステルダムにスパイ支所を建てた。のみならず英國の情報事業は獨逸將校の判断と確實性に最大の信頼を置くことが出来たので、獨逸の將校を外國に於けるスパイ行爲に誘惑する試みをなした程であつた。(ニコライ「世界大戦に於ける情報事業、新聞、國民感情」。ベルリン、一九二〇、二六頁以下)英國の情報事業は獨逸及丁抹海岸に於ける上陸可能手段を調べ、ベルギー及オランダで活動した。情報部の支所はスパにあつた。(ニコライ)

英國にとつてはスキスは差當り英國の軍事的情報事業の影響領域外であつた。それだけ力強く英國は政治的宣傳と經濟の情報事業を建設せんとした。組織的英國軍事情報事業はスキスの領土には敢て向けられなかつた。(ニコライ、六七頁)唯一つのスパイ事務所が極めて巧妙な設備の下に、ベルンに語學校として建てられて、パーゼルとチューリッヒに支部を持つた。何故に英國がスキスに於ける自己の軍事的情報事業を全く拋棄することをしなかつたかといふ理由は、フリードリッヒ港に於けるツェッペリン製造所が、獨逸の空襲の爲に、觀察されねばならぬ、といふ點に求められる様である。(ニコライ)その目的の爲には、オランダはスパイによる英國情報宣傳の中心地と見られた。

ロツテルダムのチンスレー・スパイ事務所はロンドンの陸軍省に屬した。ニコライの述ぶる所に

よると、英國は三〇〇人以上の人をこの事務所で使ひ、それは四部に組織されてゐた。第一部は、海軍スパイ、第二部は獨逸軍に對するスパイ、第三部は戰爭術の仕事をし、スパイに偽造の旅券と身分證明書を與へ、第四部はアムステルダムのオランダ新聞「テレグラフ」と最も緊密な關係にあつた。その新聞は全然英國の手中にあつた。

チンスレーの事務所の外に五つの他の英國スパイ組織が知られてゐた。しかしこれらは、その完備と英國政府及英國新聞との聯合に於て、チンスレー事務所には及ばなかつた。ロイテル通信も、その活動方法が軍事的情報事業のそれと基礎を同じくする自己の機關を維持した。

特にスカンデナヴィヤ諸國に英國の情報事業は展開した。軍事的調査の中心點はコペンハーゲンにあつて、ウエイド大佐の手中にあつた。その派遣者はエスブイエルグ及コールデングに及んだ。(ニコライ、二五頁)

佛蘭西の情報事業は緊密に英國の情報事業に依存した。特にストックホルム及コペンハーゲンに於て然りであつた。ベルギーの住民に聯合國の情報供給し、その精神的抵抗力を強める爲に、秘密の情報事業がベルギーに作られた。(デーン・マサート「ベルギーの秘密新聞」、ロンドン、一九一八年)近くの獨逸住民すら聯合國の宣傳の意味に於て、この秘密のベルギーの情報事業によつて影響された様である。

戦争が永引けば永引くほど、英國の軍事的戦争は、政治的、經濟的、心理的戦争と代つた。

英國の新聞宣傳は組織、技術、心理の點に於て、獨逸及同盟國を破壊せんとする確固たる意思によつて導かれた。ノースクリフ新聞即ち「タイムス」及「デーリー・メール」は宣傳事業の前面に現れた。巧妙に考案された組織體系は宣傳を障害なく發展せしむる可能性を作り出した。その爲に必要な前提條件は英國住民の極めて種々の異つた層の爲の諸新聞を總括して、統一的な政治的意見の指導の下に立つ強力なる新聞コンツェルンとすることであつた。この組織は一九〇八年來ノースクリフ卿によつて作られ、ねばり強い固執を以て反獨的、帝國主義的宣傳に役立たしめられた。世界大戦が勃發するや否や、ノースクリフ卿は彼の巨大な情報及宣傳用の道具を政府に提供した。

保守黨系の「タイムス」はノースクリフ卿自身の多くの新聞の情報源であつた。「タイムス」紙上に纔に微細に暗示乃至忠告された事柄が、「デーリー・メール」紙上で英國の大衆に感銘せしめられた。「タイムス」は特別電線によつて、パリの「マタン」と結び付けられ、「タイムス」の外國情報はずべて、マタン經由の道を通つた。それは既に戦前に於て知らぬ間にサー・エドワード・グレイによつて企てられた反獨的新聞陰謀であつた。

すべてのパリの大新聞の中でひとり「マタン」がロンドンに五人の協力者からなる、支局を維持した。彼等はノースクリフ卿と最も緊密なる關係にあつた。パリはあらゆる歐洲の情報の爲の戦場

となつた。それらの情報はノースクリフ新聞に入つた。「タイムス」は宣傳を週刊附録、週刊、特別版として出版した。それらの附録、教育附録、帝國及外國貿易に關する附録、文學附録に於て或ひは外國の爲の週刊「タイムス・ツーカーリ・エデション・アンド・メール」に於て、或ひは南アメリカに於ける商業宣傳の爲の月刊たる、スペイン附録に於て「タイムス」は巧に政府の意圖を助け又ノースクリフ卿自身の政治的利益を助けた。「コンチネンタル・タイムス」はノースクリフ新聞には屬さなかつた。それは英語で書かれ、世界大戦前獨逸及オーストリーを旅行せるアメリカ人の爲に設立された、戦争の間「コンチネンタル・タイムス」は反英的宣傳雜誌であつた。それは主として獨逸の捕虜收容所にある英國の捕虜の間に廣められた。

ノースクリフ卿の多くの新聞即ち「デーリー・ミラー」「イヴニング・ニュース」「ツイークリー・デスパッチ」「サンデー・ピクトリアル」「オヴザパー」は、戦争の間容易に傷き易い多感性、辛抱強くない決斷性、莊重な感傷主義の混合した一種の調子を帯びていた。この組織にとつて「デーリー・メール」の海外版及パリの「デーリー・メール」の日刊佛蘭西版が重要であつた。

併し特にノースクリフ卿の宣傳事業は外國に及んだ。スウオリンの死後ノースクリフ卿の代表者はノースクリフ新聞とスウオリン新聞との提契を結んだ。ノースクリフ卿の代表者はピータースブルグの「ノウオイエ・ウレムヤ」に對する強い權利を持つてロンドンに歸つた。ノースクリフ卿は

「ノウオイエ・ウレムヤ」の政治的輿論形成の爲の絶對的獨裁者であつた。該新聞は「タイムス」のロシア版であり、世界大戰に於ては英國の戦争に對する考へに前例のない程依存した。「タイムス」の本來のロシア版（「タイムス」は戦前ロシア語とイギリス語のロシア版を持つていた。）はロシア政府の後援をうけた機關であつた。どの部もロシアの官廳印で「K」といふ判を押されてゐた。それはカツヨニー、獨逸語で政府事項といふ意味であつた。版は平均二十五萬部であつた。

ノースクリフ新聞及其の新聞宣傳と最も緊密に連絡した外國の指導的新聞は、マタン。コリエール・デラ・セラ、アムステルダム・ラレグラーフ、ベノスアイレスにある南アメリカ・ナシオン。チリのサンチャゴにあるメルクリオ。オーストラリアのシドニー・サン。イタリヤのセコロであつた。更に有名な北アメリカの新聞例へばニューヨークのサン。ライフ。ニューヨーク・タイムス。トリビュン。ニューヨーク・ヘラルドであつた。これらの英國に備はれた外國新聞は英國の指導的政治家が努力せる如き、統一的宣傳効果を保證する完全なる組織を成した。

同時にノースクリフ卿は多數の英國地方新聞を支配した。それらの中にはリッジ・マキユリー。グラスゴー・ヘラルド。マンチェスター・クーリアー。間接に外國の代表者によつて支配されたものとしては、マンチェスター・ガーヂアン。スコツチマン。バーミンガム・ポストがあつた。既に戦前に於て統一的な宣傳の基礎が廣く建設されたので、「タイムス」及「デーリー・メール」のベルリン

及ウキーンの通信員は實際全英米の新聞に情報を供給した。(一九一五年六月十四日附の月刊評論参照) 戦前宣傳的に準備された事が戦争に於て壓倒的突撃力を以て燃上つた。あらゆる技術を以て建設せられた巨大な全宣傳事業が中歐諸國に對する結合せられた政論的戦線となつた。

ノースクリフ卿は彼に全英國新聞に對する支配と優越を保證せる數百萬の資本の収益に支へられて、或る時は「タイムス」に於て又或る時は「デーリー・メール」に於て宣傳を開始した。

「デーリー・メール」は英國の大衆を支配する爲の新聞であつた。「デーリー・メール」はラブ・ロブの述べる所によれば、ノースクリフの本部の命令を傳へ、英國をあらゆる種類のヒステリックな言論によつて煽動する任務を引受けた。(ラブ・ロブ、戦争中及それ以後のイギリス新聞。新しき水屋。一九二〇—二一 第四年、第十一輯。)「デーリー・メール」の宣傳的音調は屢唯病的なりと言ふの外はなかつたが、「デーリー・メール」は戦争の間それが惹起したセンセイションから最も豊富な果實を取ることが出来た。「デーリー・メール」が自らを呼んで、「物事を作る新聞」と言つた時に、人々はそれを自己曝露なりと解するに傾いてゐる。(ラブ・ロブ)

ノースクリフ卿の新聞宣傳は、宣傳に對する感受性の條件が無い場合、即ちより強い事實と經驗と、根強い觀念と感激的感情が讀者或ひは聽者の攝取力を獨占してゐる場合には、如何に熱心且老獯なる宣傳と雖も無効なることを看取してゐた。この宣傳上の原則を認識するのにイギリスの新聞

宣傳は苦心する必要はなかつた。ノースクリフ卿の血の中にはあらゆる宣傳的な物に對するかくの如き爛眼とかくの如き適確性が潜んでゐた。彼は英國民の精神を知り、これを捕へることを知つてゐた。

併しノースクリフ卿の新聞が、明白に描かれたる戦争の目的及世界政策的目的及びこれらの目的の爲に最も力を注がんとする確固たる意志に徹底してゐたのみでなく、その他の英國新聞もこれらの目的を實現せねばならぬことを確信してゐた。右翼系の大新聞の中では「デーリー・テレグラフ」と「モーニング・ポスト」が最も遠慮せずに帝國主義的要求を唱へた。

英國の外交政策的新聞事業の強さと統一は英國國民の氣持と特質から説明される。英國の世界的使命、英世界帝國の光榮に對する不動の信念と正しく且神の欲する事の爲に戦はんとする岩の如く固き確信とは宣傳する者とされる者とを破壊し難い統一に迄融合した。宣傳が新聞紙上に獨逸兵士が占領した地域で婦人及小供に對して行つたと云はれる、名狀し難い慘酷行爲を、例へば敵が英國の負傷者を輕蔑と喜びの餘り、十字架に釘付けにしたといふ如く、恐るべき個々の事實まで書き立てた時に、この宣傳はその言ひ出した人にとつてはなほ大きな満足をかゝしてゐた。即ちそれは英國及その文明の爲に獨逸人の心の野蠻性に對して闘はんとする意識である。煽動は戦争の間、全英國の新聞に於て、殆ど例外なく行はれた。教養ある穩和な自由黨系の新聞は、やゝ客觀的筆致と客觀

的な宣傳方法を尊重した。ロイド・ジョージが總理大臣となつて以來は、これらの新聞に於ても、獨逸に對する非難の言葉は鋭くなつた。最も有名な左翼過激派の新聞「レイバー・リーダー」及中流及小市民によつて讀まれる「デーリー・ニューズ・アンド・リーダー」は、帝國主義的保守的傾向の新聞及政府が防禦の目的を越えた場合には、批判をなした。

新聞宣傳は英國から聯合國及聯合國に好意を有する國に及んだ。上述せる外國新聞は盲目的に英國の宣傳方法を受取つた。ブルガリヤ、ギリシヤ及ルーマニヤの新聞は、英國から經濟的な援助を受けて、その新聞の一部は全く英國の旗の下にあつた。海外に於ける宣傳は特に英國の大日刊新聞及大雜誌の廣大なパンフレット宣傳によつて行はれた。ロンドンの公報委員會は多數の外國新聞協會と協力した。それらは一部はロンドンに事務所をおいてゐた。又就中ブラジル新聞聯盟と協力した。

聯合的な政治的な美しい精神をもつた宣傳的作用の特別の各能性を世界大戰に於ては亦英國の大雜誌が發揮した。

かくして「タートラー」は、一九一四年以來各號に於て、繪入政論、特にスパイ、スパイの危險、武器工場に於ける獨逸の請負作業、獨逸皇帝に關する漫畫を出した。(細い事は外國新聞教科書(戦争新聞局の外國部出版、ベルリン、一九一八)及外國新聞の特徴、一卷、イギリス、二版、ベルリ

ン、一、九一六参照) 有效な漫画と煽動文は、ウィリアム・スチードによつて設立されたレヴェュー・オブ・レヴェューズが集めた。それはそれに書き加へた論説に於て同様の目的方向を示した。獨逸軍國主義の創立者クラッペウィックに關する多數の論説が公刊された。ブラクウッドの雑誌は、反獨的な野鄙な態度を示し、冒險好きの主戦論のあらゆる特徴を示した。この雑誌は獨逸文士の政論的缺點を抜け目なく利用することが出来た。而して獨逸人を「非戦闘者を殺害し、捕虜を拷問する野蠻人の種族」なりと稱し、獨逸人の「血の附いた手」について語り、獨逸人を特徴づけて「細工と詭計に富み、愚鈍から愚鈍に轉がり歩く外交上の赤兒」と言つた。

デーリー・グラフィックは主として獨逸の慘酷行爲の想像畫を公刊した。この繪入新聞は獨逸皇室を「殺戮者の首領」といひ、バイエルン皇太子をイギリスの捕虜の殺戮者といひ、チルピッツを海の惡漢といひ、フランクを井戸の中への毒の投入者といつた。(一九一五年三月十二日のデーリー・グラフィック)「グラフィック」雑誌は強い反獨的態度を特徴とし、就中内容の無作法な挿繪によつて鋭化された。イ・ウエリホーはワルシャウから反獨的雜記事を書き、畫家のチャーレス・デクソン。ジェレ・ドッドワース。シー・デュー・ペインは煽動的な戰場畫を書いた。「グラフィック」の姉妹紙たるバイスタンダー雑誌は、主として繪入雜誌であるが、憎惡を以て「ベルリンの傍觀者」の見出しで獨逸文明を嘲笑した。イー・デー・リード及エー・ビー・ユフ・リッチターの政治漫畫で、バイ

スタンダー誌は「パンチ」誌類似のユーモアを模さうとした。

これと同じ群に入るのがグロブである。それは既に平時に於て、特に艦隊問題で、鋭い屢々反抗的な批評をした。戦争の間は、この雑誌は遠慮なく、不作法な誹謗をやつた。ホーエンツォレル家の最も野蠻な誹謗に成功したのは、バイスタンダーでも、グラフィックでもなく、ホラチオ・ボットムレイに屬する新聞たるジョン・ブルであつた。それは世界大戰に於ては百五十萬部の出版を以て、全英新聞の中で最も讀まれたものであつた。

これらの繪入雑誌と區別すべき第二群の雑誌は、主として政黨政策的見界を代表するものであつた。これらの雑誌の精神的態度は、世界大戰に於て動搖した。屢これらの雑誌は客觀性と、問題の學問的究明とによつて特徴づけられ、本來の戦争宣傳に餘り譲らなかつた。戦争が永引くにつれて宣傳的目的性はその領域を廣めた。

原則としてこれらの雑誌は英國帝國主義と全獨逸主義者君主政主義者に對する鋭い防禦政策を代表した。エムバイア・レヴェュー。ユナイテッド・エムバイア。スペクテーター。毎週精細な戦争記事を「大戰」の表題で公表したクッタデー・レヴェュー等は、熱狂的宣傳から遠ざかり、のみならず日刊新聞が閉出して居る所の政黨の新しい或ひは異つた目的を掲載した。過激組合主義者、賃率改良主義者の間に廣まつてゐた、上品なナショナル・レヴェューは著るしい例外であつた。ノースクリフ卿の友

人たるエル・デュー・マックスの指導下に、この雑誌は獨逸全體に對する燃ゆる如き、無軌道の憎惡機關に發展した。ツイルヘルム二世は大犯罪者、大偽善者以外の何物でもなかつた。

政黨の束縛のない第三群の雑誌は反獨的であつた。併し言葉の争は盲目的に激怒して行はれたものではなかつた。これに屬するものとしては、保守黨に近い雑誌として、二週間評論、圓卓、十九世紀、三ヶ月評論があり、自由黨に近いものとしては、現代評論、エデンバラ評論があつた。二週間評論は自國民を警醒せんとする副目的があつたといへ、獨逸の業蹟を認めた。しかし二週間評論にも、十九世紀にも反獨的論文が載せられた。兩雑誌は誹謗するに就て尻込みすることはなかつた。カンヂッド三ヶ月評論の論調は明かに帝國主義的であり、非常に獨逸に對して敵意を持つてゐた。ロシアン卿の指導の下に、英帝國の一切の領域からの協力者によつて、すべての政黨の意見に拘束されずに書かれた、重要な帝國主義の三ヶ月発行雑誌たる「圓卓」は、節制ある反獨的態度を採つた。セシル・イー・チェスタートンの出版にかゝる一九一二年創立の雑誌たる新しき證據は戰爭の間外國新聞評論として陸軍省により引受けられ、宣傳目的に利用された。

宣傳は殆ど全く學問的衣服をまとい、獨逸に對する哲學的乃至歴史哲學的攻撃の大部分は匿名でない場合は、大學教授、學者、文士から出てゐた。繰返し述べられる標語と偽の事實の絶え間のない殆ど正統的となつた主張とは、この宣傳に力強い突進力を與へた。

雑誌による宣傳は、就中英國に於て聯合國に好意をもつ外國の會社によつて出版された雑誌に影響を與へることによつて、その勢力範圍を擴大した。此處に於てか、政治的、經濟政策的英國新聞とこれらの表見事實に努力してゐる外國系の英語で出版された雑誌との間に、緊密な關係を生じた。英佛評論。英伊評論。エストニヤ評論。ポーランド評論。新しきポーランド。パレスチナ及外交。それらは全部ロンドンにあるのであるが、それらに於て反獨的宣傳を證明することが出来た。月刊雑誌「赤き三角」はキリスト教青年會が、日報「赤き三角會報」と協力して、公刊したのであるが、それは、理想の旗の下に、聯合國側へのアメリカの世界大戰參加の爲の宣傳を營んだ。

王室聯合奉仕協會雜誌。國際聯盟雜誌。ロンドン月報は國際聯盟の觀念を英國帝國主義の目的に利用することが出来た。

直接的宣傳の影響は、多數の外國で出版さるゝ英國の雑誌に及んだ。就中東京の「新しき東洋」ロツテルダムの「オランダ新聞」、モントリールの「プロペルギカ」、「バルチック・レヴュー」、デューネーブの「民族評論」、「アンタント・クロニク」に及んだ。最後のものは恐らくロツテルダムにあつたと思ふ。

オーストリー・ハンガリー及バルカン諸國に對する宣傳は、ロンドンの出版所コンスタイブルで出版された雑誌たる、新しき歐洲（「完全なる勝利の爲に」）によつて援助された。それは一九一六

年十月十九日、セトン・ワトソン博士。ヘンリー・ウィカム・スチード。マサリツク。サー・エ・エフ・ワイト。ロナルド・バロース博士によつて創刊された。(スチード、二卷、一二四頁) インドの宣傳はアジャ評論に於て熱情的に行はれた。

雑誌による宣傳は英國にとつて典型的なものであつた。それは聯合國の他の如何なる國に於てもかくも大規模に展開しなかつた。而してそれは結局英國が既に戦前から努力し且多くの成功を収めた政策の一分枝であつた。英世界帝國はその帝國主義を援助する一切の精神的力を用ひ、而して週刊、月刊、三ヶ月版の雑誌に強い實際政治的背柱を見出した。

自由貿易主義の週刊雑誌「エコノミスト」と保護關稅論の「スタチスト」は英國の經濟宣傳を世界の大使命の意識を以て、戦前既に營んだ。「エコノミスト」は一九一六年六月の編輯者の交代によつて反獨的戰爭目的に變じた。

新聞及宣傳と極めて緊密な關係にあつたのが検閲であつた。

一六九三年以來、即ち二四〇年以上の間、英國には新聞検閲はなかつた。成程一七七二年迄は議會通信の禁止があり、一八五五年迄は新聞税があつたが、これらの外部的障害は、英國の新聞が既に早くも政治的輿論形成の重要要素に發展する事を妨げることは出来なかつた。外國の新聞法。ロンドン、一九二六。フレイガの誹謗法。ロンドン、一九二五)新聞の自由を保證する憲法の規定

乃至法律の規定のないのは、注目に値する。同様に統一的な新聞法もない。英國新聞は、各市民に效力を有する法律規定たるコモロの下にある。世界大戦前には總に二つの新聞に關する法律があつた。一つは印刷物の發行の報告を要求する一八六九年の法律であり、他は新聞による侮辱を取扱ふ一八八一年の法律である。(第三の一九二六年の新聞法はセンセイショナルな通信を制限した) 世界大戦は検閲に對しても、政治的検閲、軍事的検閲に對して、例外的場合を造つた。検閲の中心は新聞局であつた。それには五〇人の検閲官、官吏、辯護士、新聞記者、多數の陸海軍の將校が屬した。

新聞局は陸海軍の通信の責任はなかつた。(クック、三四頁)これらの通信は多くの場合海軍省或ひは陸軍省によつて編纂された。

検閲を受けたのは、戦争と何等かの關係にある一切の印刷物であつた。即ち書物及寫眞、スケッチを含む全印刷資料であつた(クック、八七頁)新聞局の英國検閲官の爲に精細な検閲規定が作られた。ロンドンの中心部と並んでリバプールに就中郵便検閲の爲の第二の中心部が置かれた。特に必要な場合は、電話による指圖が兩中心部の間に交換された。

一九一四年八月八日に發せられた王國防禦法の検閲規定は、これを拔萃すると次の如き規準を與へた。即ち何人も、法律の命令なくして、聯合國の兵力、船舶或ひは飛行機の運動、數、記述、位

置に關する情報を収集、記載、公表、交付若は誘引せんとするはならぬ。何人も口頭若は文書或ひは新聞、雜誌、書物、廻狀若はその他の印刷された公刊物により、偽造の報告を廣め、若は偽造の通知をなし、或ひは直接若は間接に敵に役立つ情報を發行してはならぬ。(クック、八八頁、三箇月評論、新聞検閲、一九二〇年七月)

戦争の間に更に多くの個々の規定が之に加はつた。即ち戦争資料、外國新聞からの情報の公表。外國旅行者の手紙及書き物。職工組合のストライキ及賃銀要求に關するものであつた。職工組合は鋭く壓迫せられた。検閲は外國新聞が不利な戦争情報を載せているかどうかを特に注意した。唯一定の新聞の編輯にのみ外國新聞の検閲のない引用が許されてゐた。

軍事上の検閲及郵便検閲が最も嚴格に實行された。英國の検閲は細心に、不利な戦争事件、艦隊の事故及損害に關する一切の通信を除いた。検閲の鋭い取扱は英國に於て反對されなかつた譯ではない。新聞局の検閲部長、ブックマスターは、検閲が偏頗なりとする非難に對し、防禦して、次の如く聲明した。即ち「新聞局の情報は皆無條件に正しかつた。唯々陸軍省が沈黙を欲する事を故意に隠してゐた。英國の公の通信に對する不信用を、中立國の新聞に尠かんが爲に、長い間一切を提供してゐた、獨逸人以外は何人も、新聞局に對する攻撃に満足を感じないであらう。新聞局の活動が不信と不満への契機となつたといふことを聲明する提案が下院が採用されたといふ情報ほど、敵

に大なる満足を得るものはあるまい。」と。(デーモンに依る。一〇八頁)

各戦線に於ける英國戦争通信員の報告は特別の検閲に服した。これらの報告は先づ強制的に軍事検閲官によつて検閲を受け次に例外なく新聞局に提出された。該局は時々再検閲を行つた。(エンチクロペヂヤ、三〇卷、五九三頁)一九一七年七月遂に戦争通信の自由が議會を通つた時に(第二編第四章參照)検閲の嚴格性も止んだ。一九一七年十一月迄大本營の軍事情報部はチャータリス將軍指導の下に検閲所の一切の處置を監督した。次に監督は「スタッフ・デュイチイズ」の名の下に有名となつた部に委託された。(エンチクロペヂヤ・ブリタニカ)

郵便検閲は英國宣傳の爲の有效な手段となつた。この泉から英國は絶えず軍事的、政治的情報を汲み取つたばかりでなく、平和締結を越えて重要となつた商業通信の實を汲んだ。ジルベル(一〇五頁)は三千七百人の人員を擁する郵便検閲のロンドン中央部及一九一五年末以來リバプールにある約千五百人の人員を擁する支所からなる官廳組織を報告してゐる。「その外重要な軍略上の地點に例へばデブラルタル、アレキサンドリヤの如き所には、時には又イギリスの南海岸のフォルクストーンには、要求に應じて小さな、言はば飛んでゐる組織が作られた。勿論軍團や捕虜の検閲所は此の外である。」

検閲は陸軍省の情報部の下にあつた。検閲に關し最高の地位を占めるものは検閲長であつた。そ

の下に、補助検閲官代理及補助検閲官がゐた。検閲は封鎖省と相協力した。一九一五年商業通信の検閲が鋭くなり、精しくなつた。それは獨逸に對する經濟的戰爭を秘密に實行し得んが爲であつた。海軍省には自身の検閲部があつた。その部長はサー・ドーラス・ブラウンリッヅであつた。この部は一部は新聞局の助を受け、一部は新聞と直接關係して活動した。一般に云つて、政治的検閲は英國及聯合國海軍の行動に關する一切の情報及特に不利な事件に關する一切の通信を弾壓した。故に獨逸から送られた英國の貿易の噸數に關する通信が發せられたのは全く稀であつた。

新聞通信は大體に於ては寛容に行はれた。新聞宣傳は一部は、新聞局が整理した情報の發行の際追求したと同様の目的を代表した。

英國の検閲及その取扱に關する資料は乏しい。(世界大戰に於ける検閲の發展は、エンチクロペヂヤ・ブリタニカ、三〇卷、五九一頁以下に概觀的に述べられてゐる、更に政府新聞、七、六七九號、七、六八〇號、サー・フイリッヅ・キプス「戰爭の眞實」(一九二〇)ネヅイル・リットン、「新聞及參謀本部」(一九二一)サー・ダグラス・ブラウンリッヅ「海軍検閲の輕卒」(一九一九)參照)英國の検閲に與へられた最大の賞讃は獨逸側から來たものが多かつた。アーチボールド氏宛の手紙でベルンシユトルフ伯は、英國は、その有效且創造的力に於て世界史に於てそれと並ぶ者のない新聞局を持つてゐたと嘆いた。(クック、一六七頁、白書、シーデー、〇一二、ロンドン一九一五參照)

第三章 英國の宣傳の手段と目的

戰爭勃發後間もなく聯合國側には戰爭を神聖化せんとする宣傳が行はれた。道德的戰爭は始つた。それは獨逸を戰爭を起した者であるとするばかりでなく、法の敵であり、戰爭精神と軍國主義の代表者であると聲明した。包括的な英國の宣傳事業を完全に利用し得る者は唯その心理的條件を顧慮する者である。英國の宣傳の第一の大基礎工事は一九一四年の七月から十月迄の數ヶ月の間に完成した。それは精神的戰爭の代へ難き心理的建設を創造した。

戰爭は秩序の廢棄ではなくて、變更である。條件なき生活では無くて、新しい條件の下に於ける生活である。一切の障害の消滅でなくて、他の障害の開始である。(デゾア、戰爭心理學的觀察)ライプツヒ、一九一六、四四頁)宣傳はこの命題を確かにする爲の最も良い例を提供した。世界大戰が以前の時代のあらゆる戰爭的試みと區別されたのは、戦場の巨大な擴大と、戦闘員の巨大な提供とを別論として、就中戰爭が聯合國によつて二重の方法によつて行はれたことに依つてであつた。即ち現代工學が戰爭の目的の爲に提供した一切の物質的手段によつてのみならず、軍事的手段と同様に組織的で激しく、且飽くことなく應用された一切の精神的武器によつても行はれたことであつた。

イギリスに於けるこの精神的戦争に於て使用された武器の中で、暗示が主要な役割を演じた。即ちそれによつて大衆が最も容易に影響され、精神的な大きな効果が何等證明の努力なしに達成せられるかの精神的力である。併し英國の宣傳は更に廣く行はれた。それは證據の引用を暗示を高める手段に利用し、この方法によつて高い効果に到達した。宣傳は決して強制してゐる如き様子を見せなかつたので、宣傳はその目的とする効果に到達し、大衆は彼等自身の思想が述べられ、實現されるかの如き感情を抱いた。

これと關係するのは、英國の宣傳術の研究の際に生ずる、特に注目を惹く觀察である。即ち論理的なもの、説得的なものは益々背後に退いて、感情的なものによつて押しつけられたといふ觀察である。

そのよい例を、論理的なもの、最も重要な条件の一たる眞實が、もはや眞實にふさはしい注意を惹かずして、英國側から益々不常に主張された様に解せられたといふ状態が提供した。「宣傳に關する諸原則の中で最も重要な原則は、唯眞實に忠實な確定が爲されるといふ原則である。」と言ふスチュアート(命題(スチュアート三頁))は獨逸の證明手段と對照して見ると、獨逸が戦争は永引かぬであらうといふ考へで、不眞實と半分の眞理或ひは偽造者は誇張された表現を用ひた爲に、獨逸の宣傳は失敗したのだと云つた命題と同様に不當である。英國の宣傳は一義的な明白な且政治的軍事

的企圖と同一の目的を有し、全力を擧げてこの目的の爲に努力する戦争であるといふ事が獨逸に於て看取せられたのは遺憾ながら餘りに遅すぎた。

併し眞實の問題は更に深みにある。それは最も内部に於て英國の國家形式及政治形式と關係してゐる。その組織はあらゆる重要な政府の行爲を、假令その目的が純粹に物質的なものであり、その動機が道徳的に非難されるべきものであつたにしても、國民に對しては道徳的な要求として差出すことを要求した。倫理は權力の主張の爲の手段として濫用された。國家の道徳と宣傳とは美學的要素に適合せずして、權力政治的現實に適合した。宣傳は自己目的ではなく、目的の爲の手段であり、而して若しも不眞實の手段によつて目的が達せられたならば、手段は良いのであつた。

英國の宣傳の目的は獨逸の力の破壊であつた。「エンチクロペヂヤ・ブリタニカ、一九二二」の二十二巻に精しく英國の戦争宣傳の理論と實際を論じた論説がある。陸軍省と宣傳部の間の連絡將校であつた著者は其處で次の如く告白してゐる。「眞理はそれが有效なる限りに於て價値がある。完全なる眞理は通常過剰であり、殆ど常に人を迷はすであらう。高いパーセンテージからマイナス適用ひる。若しも眞理がその故に宣傳の効果にとつて、絶對的に必要なものではないとするならば、その事から、宣傳を行ふものは意識的に不道徳であるといふ結論にはならない。あらゆる人爲的な氣持作成に關與した人の中、或る者は全く正當なりと爲し得ぬが、或る者はその手段をその結果から正

常化し得ることは疑ひない。併し感情的なものが覺醒さればされる程、それが愛國主義或ひは所有欲、自負或ひは同情であれ、それだけ批評的能力は阻害される。あらゆる公知の宣傳が起す不信用は宣傳の影響力を弱める。その結果は一切の仕事は秘密に爲されねばならぬことになる。」と。大衆心理學の法則の適用の結果は、多くの精神的な個々の反應作用から、精神的な大衆心理が発生するに至つた。宣傳は大衆の判斷を眞理によるよりも容易に暗示によつて把握した。

戰爭宣傳の煽動的効果を充分に説明し得る爲には、これらの一般的認識が前提とならねばならなかつた。蓋しあらゆる敵の宣傳所は、それが技術的關係に於てであれ、又心理的關係に於てであれ、大衆の征服に従事してゐたからである。而してそれらの宣傳所が大衆に激勵と信頼とを齎すに成功したといふ事は、有效なる宣傳の必要條件の鋭い認識に役立つたのである。勝利は戰場に持つてゆかれる感激と信仰の度と正確に比例するといふ事を證明したのは正しく英國の宣傳であつた。

英國の宣傳をして勝利を得しめたのは理想であつた。その宣傳をかくも強力なものにしたのは、巧妙なる設備と技術の効果のみでなく、その基礎となつており、且世界がそれに信頼を置いた思想の方であつた。(チムメ、二〇八頁)

獨逸の友邦の國民が獨逸國民から離れたのは主として理性的考慮によつたもので、感情的な感激によつたのではなかつた。その敵意は政治的、經濟的競争に基き、就中獨逸憲法に基いてゐた。經

濟戰及文明戰は宣傳を支へる力強い支柱となつた。

宣傳は外交政策と提携した場合に於てみ成功することが出来た。イギリスではこの事が行はれた。宣傳の規準は先づ内閣に提出され、内閣によつて承認された。他面に於て政治的指導部は、重要な場合に於て、宣傳事業から決定的且有效なる示唆を受けた。戰前既に數年前に開始された反獨的な新聞による煽動は、宣傳思想の強い反響を保證した。しかも、正に、その教養と文化段階を自ら或る方法例へば情報事業の獨占とか、電線の切斷とかによつて條件づけられる獨逸の精神的切斷の如き方法を無視しても、注意深く作らねばならぬ様な階級に於て保證したのであつた。宣傳は併し標語と表見的理想の他くことなき感銘づけによつて、全國民を聳にすることが出来た。

標語の應用に當つては英國の宣傳は統一的な基線を示した。英國の宣傳は佛蘭西の宣傳と同様に一般的、人間的な觀念に重點をおいた。個人の國家觀念に對する義務的服従といふ、又全く不當にも軍國主義と呼ばれてゐる獨逸の組織こそ、英國の戰爭宣傳の主たる攻撃物であつた。英國の宣傳にとつては、英國の紳士の理想と自由な個人主義と對照して、獨逸人は國家權力のプロシヤ的、軍事的強制の人格化であると思はれた。故にこの意味に於ても亦、英獨間の宣傳戰は二つの内部的にも元來縁の遠い國民の間の文化戰となつた。

英國の宣傳は、世界支配の爲に争ふ、國家的教育原理の對立を適當に利用した。プロシヤ軍國主

義」「プロシヤ專政主義」「全獨逸的帝國主義」「獨逸皇帝主義」「貴族的帝國主義」といつた標語又「個人の壓迫」「權利の專政」「兵士の獨裁」「自治的國家權力」といつた標語は一部は既に世界大戰前英國に行はれたが、決定的となつた。

かくして英國の宣傳は、大部分は、全獨逸主義者、數人の獨逸の歴史家及學者の公表物によつて活動をした。その際これらの著者の著作物の、反獨的影響に最も適當した個所は、選擇せずに、關聯なしに、取り出され、屢非常に歪められて再出版された。英國の歴史哲學は宣傳に作り變へられ、獨逸のそれと對照せしめられた。それは双方の世界觀は結局或る全く新しい世界政治的意味を持つ爲であり、併し宣傳の目的を究極的に明かに知らしめる爲であつた。

民主的世界觀と貴族主義的世界觀、自由主義的世界觀と獨裁的世界觀、個人主義的世界觀と國民主義的世界觀との對立を宣傳は熱情的に描いた。又宣傳は熱情的に、これらの破壊すべき獨逸世界觀の代表者の中にあるあらゆる害惡の理由を個人と個々の制度の中に求めんとした。ウィルヘルム二世世、貴族、汎獨逸主義的運動、獨逸皇帝の「宮廷黨」は就中憎惡と誹謗の中心點であつた。今日我々が回顧すれば宣傳によつて呪咀された者の、政治的人間的行爲は缺點があり、誤つており、或ひは決定的瞬間に於て無思慮であつたと確に思はれ、又若干の言葉や演説は獨逸國民の死活に關する戰爭の當時とは今日に於ては全く異つて感ぜられるが、英國の戰爭宣傳は、疑ひもなく善が支

配し、或ひは人間的なもののみが決定に影響した場合に於ても、之を惡なりと認めたとはいふ事實は動し難い。宣傳の目的のみが決定的であつた。敵の宣傳は常に新しい標語を用ひた。それは對獨戰場に持つて行かれた。而して戰況と戰爭氣分に應じて利用した。

獨逸の國家形式、ホーヘンツォレルン家の支配、獨逸の強い軍事的力に對する宣傳的攻撃はその最も根本に於ては、英國は神によつて海の支配、それと共に世界の支配の任務を與へられてゐるといふアングロ・サクソン人の觀念に基いてゐた。イギリスに於て數世紀以來宗教的生活態度と商業政策的利益とが一般に混和されたので、政治的指導者は代々この觀念を國民の中に深く植付けんと努力した。世界大戰はこの神の恩寵を勿論決して論理的に基礎づけることは出来なかつたが、物質的進歩と道德的進歩とを混同せんとする試みは容易であつた。

ナムメ(二一五頁以下)はあらゆる形而上學の原則上の敵である宣傳にとつて有效な實證主義を、就中その宗教的熱情に於て認識した。その熱情は實證主義を驅つて勝利ある戰爭を爲さしむる能力を與へた。啓蒙的觀念は實證主義に於ては宗教的理念と始めから解きがたい統一の中に結合してゐた。獨裁者の意志としての神の概念から出發するカルビンの教理は、世界を神の意志に依つて形作らんとする要求の頂上であつた。實利主義的考へ方が侵入し、ルーテル教と鋭い對立をしながら勞働、道德、成功の特別の強調を生じた。

この認識は英國の戦争宣傳の理解にとつて不可缺である。理性的な英國の社會的、政治的發展から生ずる宣傳の根本的態度は常に倫理的であり、實利的であつた。獨逸の國家形式に對する戦はこの國民的、民族的對立を最も強く表した。ストランスキー(ストランスキー、獨逸人に對する憎惡。ウキーン、一九一九、九二頁)は嘗て之を次の如く表した。「獨逸人に於ける國家は、アングロ・サクソン人に於ける道徳とクラブである。道徳とクラブの壓迫は如何に亂暴であらうとも自明のものであり、英國人にとつては自己の反映であるから、精神的奴隸制度とは決して感ぜられないのであるが、英國人の歴史的な自由の要求にとつては、すべての國家的強制は一つの慘酷行爲である。」と。宣傳はその見解を説明する爲に、獨逸の哲學と歴史學を引用した。英國の宣傳に於て比較にならぬ程廣い範圍を占めたのは、トライチユケ、ニーチエ、ベルンハルデー、クラウゼウッツ、フイヒテ、ヘーゲル、モムゼン、ラッソ、オストワルド及「汎獨逸主義者」に關する議論であつた。その際理論的獨逸帝國主義及軍國主義の出發點は主としてマキャベリー及道徳は國家にとつては手段にすぎぬとするその學說であるとされた。

獨逸國に對する宣傳戦と結びついたのは、獨逸文明に對する、獨逸民族に對する、獨逸の教育に對する、他國民に對する獨逸人の「貴族性」に對する、獨逸の神に對する、獨逸の學問に對する、獨逸の法律に對する戦ひであつた。宗教的寛容と實際的自由といふ英國の理想はルーテル教の理想

と争つた。民族の平和といふ理想は、戦争惹起者、平和攪亂者、法律侵害者としての獨逸に對する戦に變つた。全體の組織に於て個人の優越の代りに、チムメの言へる如く、英國の宣傳は、獨逸はあらゆる公の領域に於て超人間的なものを要求してゐるといふ非難をなした。世界支配の爲の經濟的努力が、最も高い組織的、學問的、技術的優越に對する獨逸の内心の努力と如何に解き難く結合していたか、この關係に於て説明されるのである。

英國の攻撃的宣傳のこの特質は決して陰蔽されやうともせず、或ひは誤魔化されやうともしなかつた。宣傳は獨逸帝國主義の描寫に力めた。多くの宣傳組織はその計畫の所々に於て、獨逸帝國主義の破壊が自己の目的である旨を特に強調した。就中英國の雜誌はこの宣傳の精神を遵奉した。この題目を論じた聯合國の文献の批評は大きな領域を占めた。宣傳の方向が明かになつた時に、宣傳は専ら眞理を確定し、眞理を固持する意圖を有する旨が附け加へられた。

戦争が永引くにつれて、英國の帝國主義を道徳的に正當づける爲に、獨逸帝國主義が激しく攻撃された。英國の大學教授や哲學者は戦争に参加し、宣傳に學問的基礎を與へた。書物やパンフレットが出版され、それらはホイエンツォレル家の除去とプロシヤ主義の破壊による實際的世界改善の爲の思想と改革案とを述べた。戦争が永引くにつれて、平和主義的逆流も益々抵抗し難くなつた。平和主義に於て宣傳は遂に救ひ主たる盟友を見出した。

英國に於ては一九一八年ウィルソンの發した世界を祝福する平和主義の標語があらゆる手段を以て宣傳的に利用された。無數の組織、國際的クラブ、平和協會がこの標語の爲に設立された。就中ロイド・デューヂとノースクリフは、獨逸兵士の精神と道徳とを破壊せんが爲に、それらの標語を用ひた。獨逸に於ては國民的觀念は益々死滅し、社會主義的、過激主義的な祖國宣傳は、平和主義的な英國の戦線宣傳の考へ方と結びつき、獨逸帝國を内部から倒した。英國に於ては宣傳は民主的社會主義の強化を最も温情を以て迎へた。全宣傳文獻は新しい目的と新しい精神に向けられた。ノースクリフ卿は戦争宣傳から平和宣傳に移つた。而して獨逸の抵抗の崩壊が明かになつた時には、「平和條件の宣傳」への英國政策の進展を生じた。

「英國戦争傳道政治委員會」が指導した、獨逸民主化の爲の緊密且統一的な宣傳行爲は待望の成功を齎した。スミス及オランダから活潑な支持を得た民主主義的宣傳は勝利を得た。專制政治及貴族的恐怖政治に對する自由及市民的民主主義の決戦はアングロ・サクソン人の觀念の一見完全に見える勝利を以て終熄した。

英國の宣傳術は、その宣傳を殆ど境を接する中立國に擴大しなかつた獨逸に比べて、常に聯合國との協力を目標とした。同時に英國はあらゆる用ひ得べき宣傳手段を利用し、あらゆる組織の宣傳の合理化を顧慮した。

英國の宣傳事業は純粹に市民的であつた。これに反し獨逸の宣傳は軍事的であつた。心理學の有意義なる役目の認識では獨逸は劣つた。英國の宣傳の基礎は全世界を包む組織であつた。それらの組織は戦争開始と共に直にその活動を開始した。而してそれによつて代へ難い時間的、空間的優越を獲得した。全宣傳事業の力は始めから、戦場に於ける軍事的決定とは獨立に、輿論の繼續を保證した。それは宣傳事業の基礎として不可欠であつた。

表象を廣く用ひたことは英國宣傳の暗示戰術であつた。エヂス・キャベル事件、フライアット艦長事件、ルンタニヤ事件は文化宣傳にとつて強く前面に押出された。組織の活動は偶然の決定に依存せず、それらの組織は或る政治的氣持の變化特に一定の宣傳手段の効果を全く明瞭に追求する可能性を持つてゐた。

獨逸に於ては戦争の始め外務省に設けられた「對外中央部」が敵の新聞の觀察とパンフレット及繪の敵國に於ける分配を任務としたが、他方英國の宣傳は戦争勃發後益々その範圍を廣め、益々諸國民及諸民族を共同の考へと行爲とに獲得し、彼等を、その他の對立を顧慮せずに、獨逸に對する密集方陣に結合せんとした宣傳的炯眼と資本主義的協力とは相互に作用し、宣傳の世界組織を作つた。而してそれは人類的目的を以て獨逸に對する世界聯合を維持した。

世界大戰に於ける英國の宣傳と獨逸の宣傳の差異が明白である如く、主として佛蘭西の宣傳との

間の區別も明白に示すことが出来る。

フーバーの考へる如く(フーバー、八〇頁)、英國は外國の同情を目的とする冷静沈著にして冷かに打算した宣傳を有し、その宣傳は感激的な激しい論調を帯びず、その効果は主として描かれた事件が自ら既に同情を惹き起すことによつて到達したのに反し、佛蘭西人は同情から感動に至る感情の一切の段階を包括する、極めて活潑な表現を用ひたのであつたが、それによつて英國の宣傳は或程度確に輪廓づけられ、ラテン人種とアングロ・サクソン人種の本質的差異として表現されてゐる。この英佛戦争宣傳の差異は内部的、外部的差異である。熱情と猛烈さは兩者とも缺かなかつたが。

英國の宣傳は益々倫理的、宗教的な裝飾をつけ、島國の状態から、ある攻撃し難い教理を引き出した。英國の宣傳の中には強さと優越の感情が、大部分慘行宣傳と獨逸制度の破壊の宣傳に止つた佛蘭西の宣傳よりも自然に表れてゐた。英國の宣傳は更に佛蘭西の宣傳に比してより強い物質主義的、利己主義的、資本主義的利益に基き、經濟的契機は佛蘭西に於けるよりも重要であつた。英國の制度の諸性質から有機的に發展した英國議會政治の自己創造は、佛蘭西の民主政よりも、獨逸國の君主政とより鋭く對立した。英國の宣傳は國家哲學的目的により大なる活動領域を與へた。佛蘭西に於ては人類の平等、同權の叫びが高まつたが、英國に於ては戦争氣分は英國人のみが唯選ばれた國民であるとする意識を高めた。併し宣傳計畫の原則的な諸點に於ては、完全なる一致と同一の

意思の流れが支配した。英國宣傳の重要性と世界觀的強みは決定的に佛蘭西宣傳よりも大であつた。一般的人類理想の主張といふ點で、英國の宣傳は佛蘭西の宣傳よりも遙に高い程度にある事が證明された。

英佛宣傳の外面的差異は組織の問題におつた。佛蘭西に於ては宣傳は戦争の始めから中央集權的に行はれたが、英國に於ては、宣傳的諸力のより大なる結合が次第に發生し、遂には最後の戦争の年に於ては佛蘭西の宣傳が英國の原則と規準に適應し、一部は之に隸屬した程優越的となつた。若しも英國内閣總理大臣がノースクリフ卿を宣傳部長に任命せず、一九一八年二月迄活動せる宣傳所が改造を経験しなかつたならば、世界大戦は如何なる方向に向つたであらうかを研究することは無用である。ノースクリフ卿の存在が全聯合宣傳にとつて決定的となつたこと及彼が宣傳事業の隠蔽と彼の方策の不動の目的意識によつて獨逸に對する破壊的打撃を導いたことは確かである。ノースクリフ卿の技能は英國の宣傳にも佛蘭西の宣傳にも役立つた。

個々の宣傳活動も英國の側に於ても佛蘭西の側に於ても夫々特色を持つてゐた。英國に於ては權力宣傳、經濟宣傳、文明宣傳の外に、同一の力を以て、直接個人を目標とする團體宣傳及クラブ宣傳が有效に行はれた。戦争宣傳が例へば公立及私立の圖書館を自分の據り所として勢力下に置き、外部的には、多く堂々たる高い價値を有する適當な本を圖書館に寄附するやうに欺くことによつて、

書物を手段として英國の爲に働いたことは微妙なる戦術であつた。英國の宣傳がイタリーに於て上流の一萬人に制限して、その中の各種の社會の助けを借りて、まだ動搖してゐる政府及國民に壓力を加へんとしたことは老獪な戦術であつた。(エズエリット「大戦中の英國の機密」。ノースクリフ卿の序文あり。三版、ロンドン、一九二〇、二五三頁)英國政府がフランスの戦線の後に三つの大きな家を外國の客を收容する爲に建て、一つはアメリカ人の爲め、第二は他の國の國民の爲め、第三は新聞記者の爲めに充て、すべての三つの群を各々慎重に分けて、それぞれ異つた方法で影響を與へ且取扱ひ得たことは、巧妙なる宣傳の遣り方であつた。

如何なる手段を以て英國の宣傳組織がその資料の分配と擴張に努めたかは既に述べた。こゝに於ては佛蘭西の宣傳は一切の比較に耐へるのである。英國人はやがて、メージン・ド・ラ・プレスが内國及外國に影響を與へんとした方法を知つた。而して、メージン・ド・ラ・プレスは後に亦共同事業に應用された。

英國の陸軍省に於ける情報事業の強力なる組織の中にあつて、檢閲は、月々に改良され、鋭くなつた武器であつた。英國に一般に行はれたスパイ熱は檢閲に於ても廣がつた。英國が用心深く取扱はねばならなかつた唯一の國はアメリカであつた。アメリカ政府はアメリカが戦争に参加する迄外に向つて中立を維持することに重きを置いた。巧妙なる宣傳術は歐洲及その他の大陸とアメリカの

間の全郵便がイギリスの監督の下に置かれ、封鎖の非常なる尖鋭化を生ずるに至らしめた。内心に於ては英國とアメリカとは諒解してゐた。

英國の行つた外國宣傳の中、積極的な方は實行的宣傳であり、消極的な方は煽動宣傳を越えた破壊の宣傳であつた。戦争の間ロンドンに於て政府を代表した中立國の外交官が英國に味方する氣持を有つてゐたことは前提とされた。彼等が宣傳に與へた助力は決して客觀的な名譽ある中立の原則には適應しなかつた。英國の宣傳は、主として道德的行爲を権力政治的にも利用せんとする英國の政治の例に倣つた。宣傳は十八世紀に英國に再び生じたエビクソスの哲學の古い原則を採つた。デ・エレミイ・ベンサム及ジョン・スチュアート・ミルによつて、宣傳は效用を個人の爲の效用としてでなく、明かに最大多數の爲の最大の效用として主張するところの、一種の學問的國民福音書となつた。(デベリウス、I、一六六頁)世界大戦に於ける宣傳、就中パンフレット宣傳はこの效用の哲學を表現した。こゝでは唯々エス・アール・ウイルソンの「戦争の倫理」及ギルバート・マレイの「戦争の倫理的問題」を指摘して置かう。

英國宣傳の宣傳的特徴を正當づける爲に、聯合宣傳の必要を證明する爲に、獨逸宣傳の擴大が特に最初の戦争の二年の間に於て強調された。英國に於ては、獨逸の宣傳は危険なりとは見られなかつた。従つて、例へば佛蘭西に於て「敵國宣傳に對する聯合協會」が作られた如く、防禦組織を作

るには至らなかつた。(フリーバー、七七頁)

やがて間もなく英國に於ては獨逸宣傳の隙だらけなこと、即ち獨逸とオーストリア・ハンガリーとの間に宣傳事業の統一のないこと、政府と新聞の情報局の組織の不完全なこと、特に研究さるべき群衆心理に對する誤れる輕視が看取された。獨逸の宣傳事業は一九一七年春主として外務省の情報部に移され、敵國民の道徳に對する戰に於て效き目がなくなつた。

英國宣傳の特徴は人間の食料品の需要から来る自己保存の本能の作用の利用であり、更に増加本能特に我々が母性愛と呼び、同情、心配、怒、激昂の作用と同類に入れるその性質の利用であつた。社會的宣傳を遂行した組織は、大なる心理的感情移入の能力を示した。「激勵問答」及屢厭ふべき繪の叢書の形で、經濟戰爭の仕事を表し、英國婦女子の犠牲心に訴へるパンフレットが出版された。繪の利用、特に慘行宣傳の爲の漫畫の利用はこゝに於ては價值ある宣傳的仕事を爲し遂げた。此處に於ては、相互同體たる感情を強めることによつて、國民の内部に、戰爭及困窮の場合に於て、あらゆる思想及感情の堅持の爲の確固たる基礎を作る心理的補助手段の利用が重要であつた。

第一節 傳道 宣傳

英國はその宣傳の價値を、すべての戰爭國の中で最も高く評價した。英國はその新聞と宣傳とに、その軍隊、その艦隊、その農業、その工業、その交通制度、その財政に於けると同一の重要性を置

いた。英國はその宣傳の効果を正常に評價し、有利な作用が不利な副作用によつて害されるかどうかを判断することが出来た。宣傳内容の明瞭なる建設は宣傳作用の法則の明瞭なる知識と相應じた。宣傳と有利なる世界情勢とは互に補ひ合つた。戰爭気分と戰爭状態の變化は戰略的に把握された。宣傳は強い瞬間作用と、大衆作用と、續続的作用とを極めて色々な方法を用ひて追及した。宣傳の色々な内容は英國にとつて特徴的な傳道宣傳によつて綴り合された。

選ばれた國民であるといふ確信、英國の世界的使命の確信を、世界大戰に於て表した、英國宣傳の努力は傳道宣傳として理解さるべきである。(W、ベネット、英國の使命。オックスフォード・パンフレット、二五號、オックスフォード、一九一四—一五)この目的はあらゆる種類の宣傳を支配し、宣傳に信仰と不動の常に若やく力を與へた。

傳道的なアングロ・サクソン人の觀念の起源はミルトン及その清教徒にある。デイベリウスの言へる如く帝國主義的清教徒たるカーライルは、再びそれを新にし、而して、シーリー、セシル・ローツ、チェムバーレンの名によつて特徴づけられ、世界大戰に注がれた全現代帝國主義的運動の爲にこれらの思想は理想主義的根據を與へた。

この感情は、就中、英國は一世紀の間政治的自由、經濟的進歩、世界市場の支配に關して全民族の先頭に立ち且極めて永い間世界中で最も富める國であつたといふ事實によつて強められた。成功

は道徳的、信仰的有能の得た資金であるとするカルビン清教徒の見解は英國世界政策及世界使命の
辨明書となつた。清教徒は「英國國民の使命」の非常な過當評價に寄與した。彼等は選ばれた國民
及神の國といふ觀念はたゞ英國國民に與へられたのだと云ふに至つた。「英國の生活理想はそれはその
最も内部に於て、一度は地球を所有せよといふ選ばれた國民に對するかの古い遺言狀による約束に
基くので、極めて強烈である。この投光の下に於てのみ、國民感情の特質と深みが明かに見られる
のである」。(クヂェレン、「現代の大國」ライプツヒ、一九一六、九六頁、ブライ、「英國文學に於け
る帝國主義的潮流」、二版。ハル、一九二八、四四頁)

シュルツェ・ゲツェルニッツはその著「英國帝國主義及英國自由貿易」(ミュンヘン、一九一五)に
於て傳道の觀念を、日常生活に於ける靜かな自明の潜在感情なりと特徴づけた。それは宗教的中心
に近きものであり、「正義か悪か。我が國」にまで高まり得るのである。その言葉は始めて一八一六年
の乾盃の辭に表れた。その形式は「我が國よ、その外國國民との交際に於ては常に正しいであらう
が、我が國よ、正しいのか、悪いのか」といふのであつた。(J、バートレット「親しき引用文」九
版ロンドン一九〇六、六七五頁。アーノルド・オスカー・マイエル「英國帝國主義の道徳的促進力」。
英國文明教育。フリツ・レーデル出版。二版、ライプツヒ、一九二五、二七頁)英國は正しくあ
りたいといふ願ひは、多くの英國人にとつて、容易に英國は亦實際正しいのだといふ確信になる。

蓋し意識的或ひは無意識的に彼等の中には、世界を支配する英國のみ、その高い使命を奉じ、以て
人類に役立つといふ觀念が在るからである。(マイヤー)併しこの潜在感情は常に、「英國は善の爲
の、世界の嘗て見た中で最大の道具の準備によつて規定されてゐる」といふ確固たる觀念に基いて
ゐる。(クルツオン、一八九四)かのアメリカ人がキングスレーの小説に於て冗談を言へる如く、
神自身が何らかの秘密な方法で英國及クリスト教の生きた王であると信じてゐたのではないだら
うか。(キングスレー、「二年前」序文より。ブライ、八九頁、A・D・マイヤー、二八頁参照)

資本主義的精神と宗教的見解との關聯は清教徒の世界觀に基づくのである。それは英國帝國主義
に宗教的信仰の全き深みと廣さを、より高い程度に於て道徳的意義を與へた。(ステフェン、「世界大
戰及帝國主義」、イエナ、一九一五、三〇頁)「英國の國民感情は同時に世界主義である。英國國民
に於ける仕事は人道に對する仕事と思はれる。蓋し自國國民は、他國民が驚嘆して模倣して眺める
最高の文化財の支配者であるからである。故に諸國民の英國化は人類文化の促進を意味する。國民
の力に對するかくの如き信頼は第一級の手段であることは指摘する迄もない。」(シュルツェ・ゲツ
ェルニッツ、五〇頁)嘗て英國の清教徒は、英帝國をその暴君から解放したので、英國は英國人の見解
では一般に眞の自由の國となつた。而して英國は、同様の自由を享受せぬ諸民族を同情或ひは輕蔑
を以て眺めるのである。(ブライ、四一、四二頁)「かくの如き國民主義は純粹な世界主義的特徴を

帯びるのである。英國の支配の達成は文明自身、直接にいへば神の國の達成と同一である。國民自身及その高い使命に對する國民の絶對的信仰に横はる量り難い力は故に英國の自然的な補助手段の中に算へらるべきである。」(クヂェレン) 傳道宣傳が單獨に現れるのは稀であつた。それは主として、獨逸帝國主義に對する攻撃と結合した。而して世界を平和にする爲に、獨逸帝國主義と英國帝國主義との間に如何なる根本的差異があるかを證明せんと努めた。英國の戦争目的は傳道宣傳の中に入れられた。(チック、何故英國は戦争をするか。ロンドン、一九一五、二二—二二頁) この問題に關するバンフレット及書物の文獻は可成廣大であつた。

宣傳は、先づ神によつて選ばれた英國世界帝國の中にあつては、各國民は、帝國の権力下にある限り自由な人であるといふ學說を代表した。國民の自由は原則として無制限である。國民は獨逸國民と反對に、兵役義務を果す必要がない。あらゆる自由不拘世界帝國は破滅することはない。それは英國國家は最もよい倫理的基礎の上にあることを證明してゐる。故に出来るだけしつかり英國に結びつき、その國家觀念の傳道力を發展せしめる以外に、他の國民にとつて、より良い政治的手段はない。

獨逸の國家理論は道德的虚飾を蔽ふた異教であり野蠻であるとしてこれと對照される。この理論は野蠻な單純性をもつてゐる。それに對する感激は道德的虚飾である。即ちベルギーの中立の如き

權利を無効とする歴史的發展の饒舌であり、然し就中最高の文明の保持者であるべき權力の饒舌である。」(何故我々は戦争するか、大英國の場合。クレアドン・プレス・オクスフォード、一九一四、一一三頁—一四頁)

宣傳は英國人の戦争に對する精神的反抗を極めて高く評價したので、英國の行ふすべての戦争は急迫せる、殺戮的な敵に對する自衛の戦争と思はれざるを得なかつた。かくして戦争宣傳は選ばれたる國民が世界大戰に参加した理由に關し五つの最も重要な主張に到達した。それは軍國主義を根絶する爲に、弱小民族を防護する爲に、戦争を終絶せしむる爲に、領土的征服の爲に、世界に民主政を保證する爲にである。

戦争は國際事件處理の世界組織の結果としてではなく、あらゆる支配階級の愚鈍と悪意の結果として表れたのではない。獨逸の所有欲がその責任を負はねばならなかつた。責任と無責任とが地理的に分たれねばならなかつた。しかしして一切の責任は獨逸側になければならなかつた。全體が唯々異教徒の教理であり、英雄主義の着物を纏つた動物的力と、政治的道德の蔽被を着た陰險なる狡猾の崇拜である。英國の高い任務は、この野蠻な異教的な國家理論を血の出るまで攻撃することである。獨逸は條約の神聖を守ることを知らねばならぬ。」(何故に我々は戦ふか、大英國の場合。世界大戰は英國の立場からみるときは、英國帝國主義が獨逸によつて危険に曝された事に對する恐怖の

結果であつた。宣傳の精神的態度の中に帝國主義の物質的な契機と理想的な契機を分離することは不可能である。

英國の宣傳は屢々獨逸帝國主義の誇張に役立つ獨逸の著作物を攻撃し、適當な箇所を引用した。宣傳書の中では就中、ツエルネル・ヅムバルトの商人と英雄。カール・ラムブレヒトの戦争と文明。オット・フォン・ギールケの戦争と文明。オイゲン・キューネマンの獨逸精神の世界帝國に就て。オスカー・フライシャーの獨逸文明に對する戦争に就て。及びエルンスト・トレールチエの文明戦争が利用されることが出来た。

英國の宣傳によつて、ヅンバルトの「商人と英雄」が屢々英國の世界支配とその經濟的世界を縮小せんとする獨逸の企ての例として引用された。獨逸の見解によれば英國人の外部的優越は、英國人の清教徒的な見解に基づくのである。清教徒的な世界觀は英國がその世界に於ける權力政治的な地位を強める戰鬥手段の非良心的な選擇を正當づけるのである。英國人は商人であり、獨逸人は英雄である。すべての戦は信仰の戦である。世界大戦は利己的な平凡な英國人と、自己を犠牲とする、勇氣ある、従順な、王室に忠誠な獨逸人との戦である。英國人は信ぜられない程饒舌であり、ペーコンからスペンサーに至る哲學を見れば解る様に、目先の「現實」以上に出る事は全く出来ない。その商人の生活は利益ある商賣の連続であり、而してそれのみならず學問は商業精神に基いてゐる。

全英世界帝國は大きな商業的企畫であり、世界帝國の行ふ戦争は財政的打算の戦争である。獨逸人は經濟的思考のこの呪ふべき精神に捕へられることは無いであらう。而して獨逸人の精神はこの精神を世界から除くであらう。戦争は、獨逸文明の戦であり、それは商人によつて否定されず亦否定されることを得ぬ。

英國の宣傳は英國民の自己の文明のより高い價値に對する信仰を支持せんとした。英國の宣傳は、英國の世界支配の、豫め規定された使命に固執する爲に、あらゆる政治状態を巧みに利用した。英國宣傳は英國の清教徒の考へ方の特徴づけて、神は常に英國國民をその勝戦さによつて選ばれた國民としてのその使命を證明せられたと、した。オックスフォード・パンフレットの著者は、プロシヤ君主政は「權力は正義に勝つ」といふ原則の上に建てられたが、英帝國はしかしさうでないといふ主張を確く守つた。

傳道宣傳は國家の權利と、個人の權利の限界附けに於ける、英國世界觀と獨逸世界觀との對照といふ同一の戰鬥方法を用ひた。宣傳理想の國家創造的な内容がその中に現れた、この文明戦争の基礎工事は論理的、哲學的觀點に於て遙に廣かつた。

ポケット手帳として出版された、廣く行れた宣傳パンフレットの中には獨逸の理論と英國の見界とが明瞭に限界づけられた。

「権利の爲の闘ひのポケット手帳」は次の如き相互に相敵對する世界觀の群を集めた。(一九一八、一二、二三頁、その箇所は英文の原文から翻譯した)(一)國家の權利。獨逸の理論、(一)小國は國家の最も重要な要素たる力を缺いてゐるから生存權がない。故に小國は一般に權利を有しない。(トライチユケ)(二)國家は唯一の裁判官である。何等か他の裁判所の下に立つことはその性質に反する。(トライチユケ)(三)世界秩序は國民の強力なる國家に對する服従によつて維持される。(フオン・ストレンゲル)(四)條約を守るべき、法律的義務は國家にはない。國家は犯罪を犯し得ない。條約上の權利は専ら利益の考量によつて判斷される。(ラッソン)(五)結合なき國家は自から互に戰爭状態にある。争は國家の關係の本質と見られねばならぬ。親善は偶然であり、原則の例外なりと見らるべきである。(ラッソン)英國の理論は、(一)大小に不拘すべての國家は同一の生存權を有する。(二)經驗は國際的法律問題の決定手段としての仲裁判決を繰返し正當づけた。(三)將來の世界秩序は唯々國際聯盟によつてのみ維持され得る。(四)國民間の條約の尊重は一切の國際關係の基礎である。(五)平和は一切の英國の努力の最大の目的である。

(二)、個人の權利。獨逸の理論(一)權力が權利を作る。(ビスマルク)(二)國家は最も強きものなるが故に、國家のみが權利を有する。(ヘーゲル)(三)國家は其の利益の爲に個人の權利を保證するが、併し必要な場合はそれらの權利を奪ひ得る。(四)個人の權利は權利ではない。(ラバ

ント)(五)個人は國家の車輪聯動機の微細な一部でしかない。(六)法律は一部は兵士の爲に他は市民の爲にある。英國の理論は(一)權利は權力を監視する。(二)個人は國家の權利と衝突する可能性のある權利を有する。(三)個人は國家からでなく、自己の存在から導き出す自然權を有する。(四)個人の權利は「優越權」である。(五)個人はその國家に對する關係に於て、個人的自由と獨立の領域を有する。(六)同一の法律が兵士と市民に效力を有する。

傳道宣傳のこの宣傳的觀念の群は、あらゆる内部的外部效果に對して非常な影響を與へた。それは大衆の精神の把握に役立つた。英國は自己自身及他人の面前に自己を無くして立つ、人類の救濟者として立つ、而して獨逸帝國主義及軍國主義を破壊することに依つて、世界の混亂を人類から遠ざけるといつた思想が絶えず大衆の精神に感銘づけられた。英國人種は神によつて高い使命の爲に選ばれてゐる。英國民の人生觀はキリストの承認の印が押されてゐる。如何なる國民もより高度にキリスト教の道德的價值を意識してはゐない。(ブライ、二七八頁、A・O・マイヤーの論文英國帝國主義の道德的促進力。「英國文明教育」F・レーデル出版一九二四)フェリックス・サロモン、英國帝國主義、ライプツヒ、ベルリン、一九一六參照)

傳道宣傳の重要構成部分はイギリスの大臣の演説であつた。それは挑戦された英國の義侠を讃へ、壓制された不幸な獨逸國民をあはれみ、その專制政府を非難した。ドーン(ウイリアム・ハート

ット・ドーン、獨逸に關して何が不正か。ロンドン、一九一五、一一頁）ポートルクスその他の人に現れた英國人の見解によれば、戦争は正に英國民の道徳的價値によつて正當とされた。

英國の見解は此處に於てか、神の豫見により意欲されたる規定として戦争を必要とする獨逸の見解に接近するのである。その獨逸の見解は英國宣傳によつて激しく攻撃されたが、戦争に對する自己の關係にとつても、神の使命の國民權力政治の見解にとつても、根本的な意義があつた。宣傳は強制された戦といふことを第一の標語に用ひたが、英國は他而自然法則及神の法則に従つた。それは英國をして、地上の選ばれた國民を破滅せしめんとするに適する外國民族に對して、戦争に呼び出したのであつた。傳道宣傳はこの誤を除き、世界をして獨逸はその世界支配の要求を道徳的に許さざる政治的手段を以て實行した、亦將來に於ても絶えず實行するであらうといふ確信を抱かざる任務を有した。（大戰の書、ロンドン、一九一四（デーリー・クロニクル、戦争叢書）一九頁）

傳道宣傳と雖もエドモンド・ブルケが佛蘭西革命に對する戦争の時に「便宜主義」といふ古典的な用語で呼んだ法則から生れた。それは絶對的合目的主義の理論である。宣傳書は英國世界帝國の内外政治的緊密を告げることで満足しなかつた。宣傳書はこの緊密が他の民族、就中小民族にとつても生活上重要な利益であることを示さんとした。

而して宣傳は戦争の終頃、世界組織、世界聯合國、自由なる民族の世界聯合、世界結成、國際

聯盟の如き標語を反獨的影響の主なる保持者となしたが、それは唯々一見道徳的で非利己的な大英國の理想主義をより良く理解させる爲であり、自己の征服欲を「聯合目的」の實行といふより高い目的の下に置かんとする爲である。

第二節 獨逸文明に對する宣傳

獨逸帝國主義及獨逸文明に對してなされた英國の宣傳はアングロ・サクソン人の傳道觀念の自然の産物であつた。宣傳は獨逸國の精神的基礎が戦争及革命の原因に責任ありと爲さんとした。五つの政撃點が宣傳的叙述の中に絶えず繰返された。それらは標語として、既に戦争の最初の數ヶ月間に現れた。即ち獨逸理想主義の責任、權力信仰の保持者としての獨逸國家主義、權力信仰の培養地としてのプロシヤ國、歐洲の崩壞の前徴としてのニーチエ、時代精神の代表者としてのウイマルヘルム二世の如きである。

主として書物、パンフレット、月刊雑誌が反獨宣傳の擔當者であつた。新聞は背後に退いた。諸著作物の著者は文明政治家、政治記者、大學教授その他の學問關係者であつた。屢これらの書物からの抜萃がビラに印刷された。英國宣傳の全文献の中には獨逸文明に對するこの煽動が非常に廣まつた。

これらの宣傳書の一群は憎惡的、ヒステリックな性質によつて特徴づけられる。自讃及いかなる

自己批判によつても束縛されない國民的自負心は、著者を導いて、病的と思はれる程の世界觀的無軌道に至らしめた。英國に於ては多數の學問的論文は、これらの群の後に退いた。これらの論文は獨逸帝國主義の精神的基礎、獨逸哲學及獨逸歴史學、獨逸教育制度、國際法と帝國主義との關係を論じた。多くの著作物は、獨逸國家理論の原則に對する英國理論の鋭い反對に限られた。獨逸原則の攻撃を著者は任務とした。

この宣傳の國家哲學的、法律哲學的基礎は民主的、議會政治的國家觀に由來した。民主的原理が國民的觀念に奉仕することによつて、民主的原理は同時に國民的利己主義的目的の精神に屈服した。かくして、英國平和主義者が最も熱心なる戰爭煽動者となつたといふ結果を生じた。英國に於ても佛蘭西に於ても、民主主義は戰爭に對して不明瞭な態度を取つたといふ事實を看過してはならぬ。平和主義と戰爭欲とはデヤコビン黨員に取つてすら、互に相排斥する方向ではなかつた。英國に於ては、この矛盾は殆んどすべての宣傳事業に現れた。英國の宣傳は戰爭欲を傳道觀念によつて正當づけたので、英國の宣傳は、君主政的、戰爭的、反議會政治的國家觀に對する今や始まりつゝある戰に對して一見正當なりと思れた。

大體に於て宣傳の「學問的」戰術も餘り行はれぬ手段を用ひた。獨逸哲學者、獨逸歴史家の著作からひいた命題が、關聯なく列べられ、かくして「街頭の人」に一見客觀的であるが、實際は誤れ

る判断を教へた。この歴史的、哲學的觀念群の素朴な絶對化は宣傳の典型の特徴であつた。

獨逸帝國主義及獨逸文明に對する批評は宣傳書にほゞ次の様に現はれた。J・W・アレン(アレン、獨逸及歐洲、ロンドン、一九一四、二一頁以下)によれば、獨逸國民及獨逸政府は特別の國家理論を唱へた。而してこの理論は何故に獨逸がかくも多數の外國との戰爭に陥らねばならなかつたかといふ理由であつた。即ち獨逸人は國家は有機體であるといふ古い見解を固持した。しかるに英國の宣傳は、實際は、近代國家は、他の社會的結合物と同一の社會的結合物以外の何物でもないといふ立場を代表した。近代國家はたゞ個人の爲に存在し、個人は近代國家の中に一定の目的を達成する爲に、集つたのである。國家自身は生き物ではなく、單に死せる法律形式である。生きてゐるのは唯政治的社會を作ること好む人間である。

更に宣傳は、國家は不滅であると爲す獨逸の見界は詭辯的譬喩であると主張した。成程我々の子孫は尙國家的團體を作るであらうといふ蓋然性はあるが、併し最近百年間に於て歐洲の諸民族は經濟的、財政的、精神的にかく互に融合した。而してこの發展の過程は極めて迅速にその結末に近づくので、近き將來はその人爲的及び先天的性質を更に完全に把握し、而して我々の子孫の中には、或る實際的需要を満足せしむるに必要な施設以外に殆ど何物も見なくなるであらう。(アレン)と。

英國の宣傳は、一八七〇年來の新獨逸の國家觀の中に、フレデリック王及びロマンチック・キリスト教的特色を有する君主的觀念と根本的に異なる新しい君主政觀を看取した。(J・J・チャブマン、あらゆる物に優るドイツ、ロンドン、一九一四) 指導階級及貴族階級の間は一八六六年及一八七一年の勝利以後支配的となつた思想群には絶對的背景が、又合理的なものであれ、宗教的なものであれ、あらゆる基礎が缺けてゐる。要するにあらゆる理想が缺けてゐる。君主的の原則は成程計畫的に依然として無條件に維持されてはゐるが、それは併し、倫理的理性によつても、神の法によつても正當づけられずして、歴史的、相對主義的に、政治的技術によつて、通常個々の乃至國民的目的に對するその有用性によつて、基礎づけられてゐる。唯一と認められた形而上的偉大物は國家であり、而して君主政的觀念は唯國家の最も合目的な秩序形式である。と。

英國の見解は、理想主義者シルレルを自然兒ニイチエの先驅者と見、フイヒテ、シエリング、ヘーゲル等の高踏的學說を、唯物史觀の早生の果實なりとし、理想の無い権力政治を、人類の幸福と民族の自由の爲の實行を伴はぬ熱狂の裏面なりとした。

獨立戰爭の勝利による終結の後にはプロシヤの國家崇拜は「ヘーゲルの王國的プロシヤ國家哲學」に凝結した。(ドーン、二二頁以下、ジョン・カウパー・ボイス、獨逸文明の脅威、ロンドン、一九一五。クロマー伯、ゲルマニカ・コントラ・マンダム。ロンドン、一九一五。バート・ケネディ、獨逸の危

機、ロンドン)ヘーゲルの哲學は公益的専制政治の體系であつた。而して、この形式物がプロシヤに發生せざるを得なかつたのは、プロシヤがその選帝侯及王の公益的、啓蒙的権力支配によつて興隆したからであつた。プロシヤ精神は、かくして、獨逸の義務感と、アジャ平原から生じた力の全能に對する信仰との、融合なることが證明された。而してこの維持し難き混合は遂にプロシヤ國を崩壞に至らしめた。

國民の性質が弱ければ弱い程その権力に對する恐怖は強いのである。この命題は屢々獨逸國民はホーエンツォレルン家、就中大選帝侯及フリードリッヒ二世によるプロシヤの發展と共にプロシヤ帝國主義を越えて、全獨逸帝國主義に追ひ込まれたのであるといふ事の證明に引用される。ピスマルクは失敗こそしたが、獨逸の政治をその最悪の缺點から守つた。即ち遂には全世界の嫌惡を惹起したといはれる、かの不遜と越權から守つた。

眼立たず且故意にでなしに、獨逸工業と獨逸文明の成長は、新しい攻撃的愛國心を創造する爲に協力した。その愛國心の中には、犠牲心と自負心、無私と獲得欲、自國民に對する奉任と敵國民に對する憎惡が解き難く混合してゐた。トライチユケの「政治」の二巻の書物には、平和といふ言葉は、唯、英國及西洋諸國に、永遠の平和は弱い無神経な時代の幻影であると云はんが爲にのみ、述べられてゐる。トライチユケの「政治」からは戰爭に驅り立てる低い情熱が語つてゐる。ナルビツ

ツ、ビュロー、ベルンハーディ、ルーゼンドルフの國家學は、通常トライチユケの思想の反響な
ることが曝露されてゐる。而して教師の誤りは生徒に傳へられた。論理に非ずして情熱がトライチ
ユケの思想構造の導きの糸であつた。洞察に非ずして、憎悪と不遜が、就中英國に對する憎悪と不
遜が、獨逸の戦争行為の促進力であつた。英國の宣傳文書は、トライチユケの思想に依存すること
を證明する爲にビュロー、チルビッツ、ベルンハーディその他の人の言を好んで引用した。トラ
イチユケは英國の宣傳によつて、所謂権力政治的征服慾への獨逸國民の教育の主たる責任者として
訴へられた。

トライチユケ及英國の説明によれば、國家は國際法の上にある。國際條約は國家を束縛しない。
その主權は無制限であり、國家はギリシャ哲學の意味に於て「自足的」なものであり、即ち國家は
自己満足をするものであり、「道徳的法則」そのものであり、神の豫見の意思には責任を負ふが、決
して國民には責任を負はぬ權力である。國家は最大の敏感性を以てその名譽を保持せねばならぬ。
國家が侮辱を受けるならば、國家は賠償を要求せねばならぬ。しかして賠償を得ねば、たとへ動機
は極めて微小であつても、戦争を宣言せねばならぬ。

戦争は不可避なものであるばかりでなく、道徳的なものであり、神聖なものである。蓋し戦争は
人間を最も神聖な犠牲に供し、自己の利益に打勝たしめるからである。「國家は力である」。軍隊に

よつて國家はその本質を實現する。かくしてアテネはスパルタに、ギリシャはローマに、フロレン
スはベネチヤに屈服せねばならなかつた。蓋し國家は美術大學ではないからである。歴史の眞の英
雄は深い思想家でなくて、實行の人である。小國はその力なくして登言するから滑稽である。たゞ
大國のみが正常なる國民的自尊心を展開せしめ得る。(カピツシユ、ローズの指示、戦争の起源、ケ
ムブリツデ、一九一五年)

トライチユケは、國家は何物にも拘束されず道徳の上にあると主張せる如く、説明せんとされた。
マキャベリーはトライチユケの教師と呼ばれた。個人的道徳と國家の道徳との間には共通の尺度は
ない。個人は自己を犠牲に供さねばならぬ。國家は決して自己を犠牲に供してはならぬ。併しその
最も有害なる行動方法は弱いことである。トライチユケの國家は人道を承認しない。トライチユケ
は國家の爲に「目的は手段を神聖にする」といふ命題の妥當性を主張した。かくして戦は結局二つ
の異つた原理即ち國家の原理と法の絶對權の原理との間の戦である。(何故我々は戦争に直面する
か、英國の場合、一一八頁)如何なる超越的なロマンチックな装ひをもまとはずに、トライチユケの
君主政はあらゆる國家權力の世界的本質を告白してゐる。

トライチユケは國家は力であり、その最高の義務は自己保存であり、併し自己保存は力を意味す
ることを教へた。「生命は最高の法なり」。この最高の法則には、國際法と雖も屈服しなければなら

ぬ。國家の結ぶ、あらゆる條約は唯事情が同一である限りに於て、國家を拘束する。事情が變更するならば、條約は自ら效力を失ふ。蓋し如何なる國家と雖も、自己の將來に對する意思を、他國に對して確定し得ぬからである。獨逸人は力と能力を有する國民である。獨逸人は故に世界を支配するに最も適した力と能力を備へた國民である。獨逸人は力と共に權利を有する。と。

この理由から、君主の權力を「繼承せざる固有の法」に基づき理解することは、イギリスの宣傳員に若干の當惑を與へねばならなかつた。しかし宣傳は躊躇せず、まさにこの國家觀が選ばれ、自己の法による統治の任務を與へられたことは、一方歴史的成果のあつまりであり、他方不可思議な神の攝理でありとして満足した。國家の權力が高價であり、確定的であるのは、正しく、國家が文明の保持者であるからである。獨逸國の手中にある劍が、高價であるのは、國家が獨逸文明の擴大者であるからである。(何故我々は戦争に直面するか、英國の場合、一一九頁以下)この理由から、トライチケは、力の大使徒たるマキャベリーは彼が力は力を正當づける究極目的を持たねばならぬといふ洞見を有したが故に、正當であると考へてゐる。力の目的は、最高の道徳的文明を廣げるにあらねばならぬ。而して、獨逸國家主義者の見解によれば、獨逸文明はその任務を有する。「生命は最高の法なり。」その下に所謂國際法の總ては屈服せねばならぬ。國家の無制限の支配はその無制限の力の爲に必要である。——而してこの力は如何なる義務によつても、自分で作つた義務によ

つても束縛されることを得ない。

更に、トライチケは世界國を非認するが、世界國は同時に國家の極限價值であるといふ非難がトライチケに向けられた。こゝに英國の宣傳は、汎ゲルマン主義の根源を發見した。同主義はその自己崇拜に於て、原因といはんよりも、むしろ結果であると思はれた。ローズ(ローズ、世界の起源、ケムブリッジ、一九一五、カピツシュ引用)は曰く「トライチケがプロシヤを崇拜するのは、プロシヤが權力理想を體現するからである。國家はその不屈の自然法則に従つて、發展せねばならぬ。この發展過程が何時か停止することがあり得ると信ずる者は馬鹿者である。彼は獨逸人をして政治的強みを發展せしめ、以て獨逸國を英國の廢墟の上に建てるやうに促したのである。彼の精神は數年の間獨逸の大學を支配し又大學によつて獨逸の學校を支配した。故に獨逸青年は何時かは大英國と戦はねばならぬといふ信仰の中に育つた。大學教授の謬論が汎ゲルマン主義的觀念によつて強められた時に、エルザスに關する條約への一切の希望は消え去つた。」と。

トライチケの全哲學は異教的であり、むしろ野蠻であると思はれた。道徳的漆を塗られた、野蠻な單純性の教理と思はれた。

それは粗野な力の崇拜である。英雄的な着衣をつけ、徹底的狡猾によつて政治道徳の假面を冠つてゐる。それはニーチエとマキャベリーの混合である。その際ニーチエは、その晩年プロシヤ軍事

組織に反抗したことを告げることによつて、公平に取扱はれてゐる。

それは超國民の全能の理論である。而してプロシヤ政府の哲學となつた。英國の宣傳はトライチユクの理論を論證してそれを攻撃した。

「併し我々は如何にプロシヤの爲に辯明しようと思つても、我々はプロシヤを攻撃せねばならぬ。人間の闘ひ得る中で一番尊い事の爲に我々は戦ふのである。それは大小のあらゆる民族、特に小民族の楯及屏風としての歐洲の公の權利である。國家の全能の理論即ち國家の自己保存の爲に必要であるか、必要であると思はれる一切の手段は神聖なりとする理論、この理論に我々はかの歐洲團體の理論或ひは少くとも一切の國家の關與する諸民族の歐洲的結合の理論を對立させるのである。我々は諸國家が「劍士の立場及態度」で對立するといふ見解を忍び得ず且忍ぶことを欲しない。我々は法の支配に同意する。公法による我々の保護は獨逸人にとつては、彼等の見解によれば我々がそれによつて満されてゐる偽善の現れと思はれるかも知れぬ。我々が我々自身の目的の爲に戦ふことは全く眞理である。しかし我々の目的は何か。我々は法の爲に戦ふ、國際法は我々の主たる目的である。政治に關する新しい獨逸の理論は「我々の幸福は我々の權利である」と説明する、政治に關する古い、極めて古い理論は「法は我々の目的である」と説明する。(何故に我々は戦争に直面するか、大英國の場合、一二六頁以下)

トライチユクは、彼は最上の國家を求めんとは欲しないと言つてゐるが、最上の國家は君主政にあることを認めてゐる。即ち國家は「差し當つて力」であるから、國家權力を手中に包括し、獨立に立てる國家形式が、この理想に最も適する。國民の政治的力と統一を具體的に表現するその比較しがい能力の中に、君主政の驚くべき程一般に解りよい、且自然な點があるのである。このことから宣傳は、歴史は獨逸に於ては征服者の立場から書かれ、國際法は侵され汚されると、推論した。獨逸の全政治は強者の權利の上に、力の上に、強者による力の正當附けの上に建てられてゐる。(十九世紀一九一七年四月、五五二、エミール・キャメルツ、如何にして教育は獨逸の性格を墮落させたか)、獨逸帝國主義の最後の目的は、事實、英國の權力の破壊、英國の屈服、英國世界帝國の分割以外の何物でもない。トライチユク以來この優勢と獨裁の觀念は獨逸歴史家に充ち、而して彼等をして獨逸の運命を決定的とした。(圓卓、一九一四年九月、六一六頁、獨逸及プロシヤ精神) ケープの主張によれば、トライチユクは制限なき君主政の歸依者として、實際の文明を尊重しなかつた。(ジョセフ・マツク・ケープ、トライチユクと大戰、ロンドン、一九一四年) ロンドンのクイーン大學の近世史の教授クラムはトライチユク、ニーチエ、及ベルンハーデリーの三人を獨逸の世界支配の努力の主要代表者として證明せんと努力した。(クラム、獨逸と英國、ロンドン、一九一四年、六七頁以下)

英國の宣傳はその世界帝國政策を征服政策と説明することを欲せず、獨逸の國民的必然性を征服欲と世界支配の意思なりと説明した。この偽善的な精神的態度から、獨逸帝國主義と英國帝國主義の原則的差異を信せしめよう努力した。

H・G・ツェルヌスは英國帝國主義を獨逸帝國主義の如き「膨脹的國家主義」から全然區別した。(一九一六年九月二五日のデーリー・クロニクル)英國の帝國主義は一樣化し、英國化せんことを目的としてゐるのではなく、その重要思想は種々の民族及國家の英國統治下の平和の下に於ける結合であり、従つて世界主義的特徴を有する。「タイムス」はすべての獨逸帝國主義者をマキャベリ主義者なりと宣言した。(タイムス、一九一六年三月二十四日の帝國日刊)蓋し彼等は成功に富む、強力な、幸福な國家を得んと努力したからである。獨逸帝國主義は、プロシヤ領ポーランドに於ける如く、唯ボーゼンを收益あらしめん爲に取扱の改善を欲する。獨逸帝國主義は獨裁の上に建設されて居り、權力的支配者の原則を有する。しかるに英國帝國主義は市民を價值ある資本、人群と見ずして、自己の精神を持つ男女と見てゐる。獨逸の傳統は市民的自由、社會的志操高尚を知らず、すべての物は振出がられて秩序づけられてゐる。唯英國のみが政治生活、社會生活に於て協同を知り、個人主義を知つてゐる。英國は自己の目的、共同的自衛の爲に戦はずして、各市民に自由なより良い生活を保證する爲に、獨裁的手段を以てせずして、自己支配と自由な結合を以て戦ふのである。英國の將

來は國民の内にある。」

主たる責任者、トライチユケは「國家の本質は、國家は自己の上にある如何なる力をも忍び得ぬといふ事にある」といふ命題によつて、歐洲に於ける均衡といふ英國の政策を幻影とした。而して獨逸の實際的優勢を正當づけた。若しも或る強國或ひは強國群が歐洲に於ける最も強い塊となつたならば、我々の政策は他の強國の聯合に努力し、或ひは弱國の側に向くべきであらう。かくして最も強い群に對抗し、かくして歐洲に於ける均衡を保持すべきである。」(グレイ、二十五年。一八九二年—一九一六年。二卷。ロンドン、一九二五年、一卷五頁)グレイのこの見解は宣傳によつて取上げられ、トライチユケに對して、彼の最高の原則は世界社會の上の獨逸の専制政治であるといふ非難をした。(クラム、一一一—一二二頁)

確にトライチユケは英國の友ではなかつた。それはマツコーレーが獨逸の友ではなかつたと同様である。かくしてトライチユケから探し出し、彼の著書の一部を關聯から引離し、意味を變へ様とした。彼の死後講義帳から出版された政治學に關する講義に就て特にそうされた。併しその講義の形式に對してはトライチユケには責任はない。

英國の帝國主義者は英國國民の使命に對する信仰から、その信仰の道德性に對する最高の要求を立てた。而して英國帝國主義者はその國民の一切の物質的傾向及效用獲得の努力の最も恐しい敵であ

つた。併し英國帝國主義のこの宗教的、道德的基礎は商人的顧慮の混合によつて常に危険に曝された。英國の觀察からトライチユケは、商人的政策は最も不道德なものであるといふ見解を得た。(ブライ、英國帝國主義「海洋學」の論文、二卷、七冊、ベルリン、一九一七年一四頁、フェリクス・ツロモン、英國帝國主義、ライプツヒ、一九一六参照)

政治生活の一切の分野に於て、トライチユケの見解の結果として、獨逸をして英國宣傳の意味に於て、「逃れ難い深淵」に導いたといはれる無数の現象を示すことは、この著述の任務ではありえない。若干の例示的指示は、同様の意味を他の言葉で表す英國の引用文の單純な羅列以上に明瞭に對獨逸宣傳の眞の精神の證據となるのである。宣傳は、プロシヤの國家に對する態度に民主的インターナショナルのイデオロギー、帝國主義的文明の現實、自由に個人主義的に進歩せる現代社會を對照せしむることによつて、プロシヤの國家に對する態度を攻撃した。反トライチユケ宣傳は獨逸を軍事的巨像と見、獨逸を権力と権利の理想の爲に不屈と不動の偉大な理想によつて戦ふとみた。「それは巨像である。それは文明ではない。」(バーカー、ニーチエとトライチユケ、オックスフォード・パンフレット、二〇號、二八頁)

宣傳は獨逸がニーチエの権力意志から、ルーテルの信仰の正當付けに、トライチユケの戦争の賞讃から、カントの永遠の平和の幻影に還ることを望んだ。(バーカー上掲、C.R.L. フレッチャラー、獨

逸人及其の帝國。而して獨逸人は如何にして帝國を作つたか。オックスフォード・パンフレット七號)「我々は一八七〇年が獨逸の考へ方に與へた道德的影響、即ち獨逸精神に及した影響を如何に強調するも強調し過ぎたり、或ひは充分高く評價することは出来ない。プロシヤはその正服を獨逸人の身體のみならず精神にも着せ様とした。四十年の間獨逸の學生及大學生は次第に濃く成りつゝある霧の中にあつた。その霧はベルリシから立ち登り、最高の地位に選ばれた教授によつてあらゆる方向に廣められた。プロシヤによつて輕信的な獨逸人に教へられた以外の何事かを敢て言はんとした教授或ひは文士は異端者として扱はれた。この霧から遂には三つの巨像が浮び上つた。即ち超人、超人種、超國家の獨逸宗教の新三位一體であつた。」(オーエン・ツイスター、不幸の聖靈降臨祭、ロンドン、一九一六、七四頁)

獨逸は他國民に對して自己を優越なものと見、その獨裁的國家組織が戦争を神聖なものとし、自由な西洋諸國の民主的自由を滑稽化するといふ「證明」をした宣傳文書は無数にある。物質主義的な恐ろしい文明が攻撃された。それは一度び世界を支配するや、自由と民主主義を消滅せしめ、支配的脅迫的專制政治の中に、英國の直接門前に住み、英國大臣による戦争演説。ロンドン、一九一七、一一四頁)戦争を唯政治の手段と見、政治の效果なき時の最後の補助手段と見ないのである。その際ロシア帝國が民主的自由の爲の戦争に参加したといふ事實は外交的動機によつて辯解され

る。更に宣傳は、この戦争はロシアの國家組織の自由主義化を惹起するであらうといふ確信に立つてゐた。蓋し獨逸に於ける專制政治の破壊は獨逸國民を解放すべきだが、他方專制的ロシアの勝利はロシア國民を解放すべきである。即ちこの考へはH・G・ウェルズ氏及H・ライト氏によつて取られた見解である。兩氏ともこの戦争はロシアが自由主義の西洋諸國と殆んど分離しがたく結合することによつて、ロシアを徹底的に自由にしたといふ風に表現した。(ノルマン・エンヂェル。この戦争は獨逸軍國主義を終熄せしむるや。ロンドン、一九一四。民主的統制聯合、二號)

或る考へ方が就中英國の宣傳を支配した。獨逸といふ「巨像」が勝利を得たら歐洲は如何なるか。最高の價値ある西洋諸國の自由制度は破壊されぬであらうか。獨逸の軍力は全世界に廣がらぬであらうか。勝利の有頂天に眩惑して、獨逸皇帝は獨逸世界國を建てぬであらうか。全世界は獨逸の權力支配下に陥らぬであらうか。

「獨逸の手中にある世界は國家間の專制を意味し、これに反し英國の世界支配は自由な制度の發展を意味する。それは英國領土に於ける憲法的自由が証明する如く、帝國の名譽と偉大を爲すものである」。(戦争演説、二八五頁)

この考へ方に英國の宣傳は「汎獨逸主義の哲學」を挿入した。この哲學は佛蘭西の宣傳に於ても主としてチャールズ・アンドラの著作「汎獨逸主義」(パリ、一九一五、三卷)によつて支持され

て、非常に廣がつた。「獨逸の頭腦は、マキャベリー、ニーチエ、トライチユケに由來する外交的、哲學的原理を自分の物とした。然り既に一八〇七—一八〇八の冬に於てフイヒテはベルリン大學に於て『獨逸國民に告ぐ』といふ演説をしたが、その中には現在の獨逸精神状態の最初の有名な學者の叫びと泉とが見られるのである」。(ツイスター、五四頁)

英國の宣傳は、獨逸人の形而上學的前提をフイヒテ、ヘーゲル、ゲレス、フリードリッヒ・シュレーゲルに看取した。而してラツツェル、デックス、ラムブレヒト、ウイリスの學問的意思必至論を獨逸民族の支配意識と優越の理論の証明に引用し、ラングベーン、ヤルトマン、ハウストン・ステワート・チャムバーレンの文明的、人種的宿命論を、徹底的且深く資料の研究をせずに利用した。戦争の汎獨逸主義的哲學は特に、メルンハーデー、クラウゼヴィツ、クラウス・ワグナーによつて證明される。

アメリカに於ても汎獨逸主義は反獨逸宣傳の對象であつた。(アンドレー・シエラダム、假面をとつた汎獨逸主義の陰謀。ニューヨーク、一九一六。ミルドレッド・エス・ヴェルトハイマーは「汎獨逸聯盟」を始めた。ローランド・G・アツシャーは一九一三年「汎獨逸主義」の本を書いた。それは戦争勃發後英國宣傳によつて利用された)

英國宣傳の見解によれば、汎獨逸主義の中心には獨逸の海上支配、世界支配、世界政策の努力が

現れてゐる。「全獨同盟」「獨逸學者及藝術家聯盟」「獨逸艦隊協會」(一九五〇年頃の大獨逸同盟及中部歐洲)といふその汎獨逸主義的地圖書)は既に戦前に於て激しい攻撃目標であつた。世界市場の爲でなく世界帝國の爲に戦争は行はれる」といふランゲルの言葉は汎獨逸主義的見解の特徴と名付けられた。「獨裁」といふ標語は政治的一元論として、「國民的誇大狂」として特徴づけられた。(マック・ラーレン。内部からの獨逸主義。ロンドン、一九二六。九九—一〇一頁)(マック・ラーレン、二六一頁)

英國宣傳の見解によれば、獨逸は國家全能の確信を代表してゐた。國家が君主國である場合は、國家は道德の一切の法則に拘束されない。而して獨逸國はそれである。即ち獨逸國を呑んで、歐洲を席卷せんとするプロシヤ國がそれである。世界大戦は基督教的自衛の戦争である。ヤゴは一九一四年三月末ベルギーに關して「小國は滅亡の判決を下された」と聲明した。汎獨逸主義を奉ずる獨逸は世界支配を追求する戦争黨にとつて憧れである。「世界支配!! それはバビロン、ベルシヤ、ギリシヤ、ローマ、スペイン、フランス、ロシアの夢であつた。今日に於てはドイツの夢である!!」(パンフレット「ロバート・ブラットフォード」)。「獨逸と英國」、ロンドン。デーリー・メールの再版、三頁)ムンロー・スミスはその著「獨逸の土地の飢餓」(エルンスト・カピツシュによる引用。世界大戦の間の敵の戦争責任宣傳。ベルリン、國際啓蒙月刊、六卷、一〇—一二號。一九二八年一一七六

頁以下)に於て次の如く言つた。「獨逸人が『眞の獨逸』の文明を發展せしめ、實現せんと夢み試みたのは、恐らく現代獨逸の誇大狂の最も不幸なる徵候である。この試みは野蠻への復歸である。」と。力の崇拜は軍國主義に至らざるを得なかつた。「我々が問題とせねばならぬのは、政治に關して子供の理性しかもたぬ、政治的文盲者の議席たるプロシヤ軍國黨ではなくして、全國民の戦争の本能である。國民の傳統的弱點は、眩惑せる心なき獨裁者に促進力を與へた。」(二週間評論、一九一四年十一月、五七六號、九一四號頁。シドネイ・ウイトマン、プロシヤ專制政治の障礙)

軍國主義は精神状態であつて、軍隊の所有ではない。武器と軍備の巨大な材料ではなくて、國家に於ける軍隊の最高地位への高揚であり、文官官廳の軍隊の下への從屬であり、しかしてそれと正不正に對する態度が一般に結合して居り、又如何なる争に於ても軍事的強力への歸着が結合してゐる。この見解を二週間評論は次の如く現した。「マキャベリーの書は獨逸支配者、政治家によつて多く讀まれ、獨逸國民によつても讀まれる。その書はホルマン・ブーレ、エーベリング、エリンガー、フェー、ル、フェスタハ、フォイエルライン、ファイヒテ、フリードリッヒ大帝、ガスバリ、ゲルピタス、ヒンリッヒ、ケメリツヒ、クニース、レオ・マカン、フォン・モール、ムント、ランケ、ラス・マン、トライチユケ、トゥーデツカム、トウエストン、フォルレンデル、ウアイツェル、ウオルフ、チムネルマン及その他の多くの人によつて註釋された。」と。(二週間評論、一九一七年、一月、六〇六號、九

八二頁以下)

獨逸人も亦、その軍國主義、その深い國家論、その他の精神的優越によつて神によつて選ばれたる國民であり、その精神的優越は世界を變種と野蠻から救ふ任務ありと感ずるといふ斷定から、英國の宣傳は次の如く推論した。即ち、獨逸はその隣邦に對する憎惡と惡意の状態に入つた。而して隣邦が獨逸の利益の下への任意の屈服を望まぬ場合は如何なる平和的要求に於ても深く設備された陰謀ありと認めた。と。(フレデリック・ポロツク、戦争に關する獨逸の眞實と歐洲の事實、獨逸に對する眞實への答、中央委員會、ロンドン、出版年不詳、我等の眞中に於けるブロンヤ。民主的統制聯合のパンフレット十三。ロンドン、一九一四)

英國の宣傳はこの精神状態の培養に對し主として獨逸歴史家に責を負はした。ドローゼン、グリーゼブレヒト、ホイゼル、シベルをT. W. アレンはトライイチエケの承繼者と呼んだ。(アレン、獨逸と歐洲。ロンドン、一九一四、四三頁)アレンは獨逸自身は遲鈍な創造力のない野蠻人であつて、ローマ及南方の影響は緩漫に且不完全に獨逸人を文明化したにすぎぬといふ見解に「或る眞理」を見した。英國人は決してゲルマン人ではない故に英國人は獨逸精神の欠點を全然持つてゐない。その精神的欠點は極めて大きいので、包括的知識の素質を殆んど無價値としてゐる。アレンによれば獨逸精神は強力であるが、同時に愚鈍である。我々の中世の寺院はアレンには單に魂なき模倣に

(134)

すぎぬと思はれない。

國家、精神、教育、戦争、文明等の概念の誇張を證明する獨逸の文書からとつた證據をジョン・クーパー・ボイスは「獨逸文明の脅威」(ロンドン、一九一五)といふ題目でミユステルベルグ教授に對する答の中に集めた。(ラスウエル、九二頁)彼は獨逸の精神的態度から出た文學的結果として就中次の書物を擧げてゐる。即ちヘルマン・コーエンの獨逸精神の特質、E. ベルグマンの獨逸文明の世界史的使命、ルドルフ・オイケンンの獨逸精神の世界史的意義、R. V. デリウスの獨逸の精神的世界帝國的立場、J. A. ルツクスの世界教育者としての獨逸及カール・ヘン出版の「世界大戦に於ける獨逸精神の戦」である。ラスウエルは更に獨逸の世界支配に對する努力に特徴的とされる文書を集めた。即ち、ホーントン・ステワート・チャムパリンの獨逸の本質、ウイヘルム・グントの民族及其の哲學、ルドルフ・オイケンンの戦争の道德的力、アーノルド・オスカー・マイヤーの獨逸の自由及英國議會政治、テオドール・エルゼンハウスの教育者としての戦争、テオドール・キツプの法の力に於て、エルンスト・リサウエルの憎惡の歌である。

戦争を促進する人として、フレデリック・W. ソイルは特にハマ博士、シエモラー、ラッソ、アドルフワグナー、リスト、エドワード、クノーマイヤー、オイケン、ヘツケル、ハルナツク、更に戦争後馮に喘ぎ蠢動せる軍隊を擧げた。獨逸戦争黨の大王として彼は皇太子ウイヘルムの名を擧げ

(135)

た。(ツイル、攻撃戦争勃発前の獨逸、戦時に於ける英國。ロンドン、一九一六年)

歐洲を荒廢せしむる火の如き熱情の文學的創造者としてのトライチエ、ニーチエ、ベルンハーデイに關する議論は就中英國歴史家J・A・クラムに遡る。クラムの一九一四年六月に於ける演説は不完全ではあるが「獨逸及英國」といふ題目の本として出版された。(クラム、十一頁、世界大戦前に出版されたクラムの獨逸攻撃の本は宣傳書ではなかつた。戦争が勃發せる際その本は大衆版として書肆の手に入つた。而して宣傳書と呼ばねばならぬ)この本は三ヶ月の間に十一版を重ねた。英國の政論はデルブリック教授にかの責任を負はしたのであるが、それは同様にクラムに遡る。クラムによれば全獨逸人を感激せしめたものは、プロシヤの偉大さであり、而して神聖なるホーエンツォルン王朝の下に於ける獨逸の天命による世界政策的使命であつた。

トライチエ及歴史家に對する攻撃の外英國の戦争宣傳に於ては、ニーチエに對する攻撃が非常に廣い領域を占めた。宣傳が繰返し引用した所によれば、ニーチエの演説には幸福に所有する者の成功に醉へる利己主義が現れてゐた。

英國の宣傳の述ぶる所によれば、ニーチエは露骨な利己心を神を否定する道德の基礎として説いた。彼は適確なる唯物論者として最も熱心なる力の信仰の説教者であつた。階級精神と文化的暗黒とが、君主道德を説くニーチエの理論に於ては、分ち難い混合物の中に流れ込んだ。ニーチエは極

端なる資本蓄積論の豫見者とならざるを得なかつた。ニーチエのキリスト教徒に對する憎惡は變人の偶然的な思ひ付きではなくして、奢侈品工業の生活感情の反響であつた。奢侈品工業は當時比類なき飛躍を経験し、その生産物の賣行をよくする爲に、絶えずあらゆる廣告術を用ひて、快樂欲と虚榮を刺戟せねばならなかつた。

ニーチエは所謂方に對する意志の發見を彼の學說の中核及理想とした。ニーチエの權力學說から當時の唯物論的な浮薄性が生じた。當時理念の貧困の爲シヨーペンハウエルの生活意思の理論を借りて、これを唯物論的なものに分解し、從來よりも一層曖昧なものにした。その浮薄性は、世界大戦に進んだ本能に最も歓迎される衣服を與へた。權力意思を生活目的として告げる者は戦争を政治的目的と見ねばならなかつた。蓋し戦争は權力の最後の展開であるからである。(パーカー、ニーチエとトライチエ。オックスフォード・パンフレット二〇號)

英國の宣傳は戦争の原因たる歐洲を支配せんとする、或ひは世界を支配せんとする獨逸の意思を、或ひは創始者としての、或ひは證人としての、併し常に獨逸國民の精神的態度の責任者としての、ニーチエに看取した。ニーチエは熱血的哲學であり、力の崇拜であつた。彼は最高の善の理論と最大數とを間違へた。彼は正義に關するキリスト教の觀念を「奴隸の道德」とし、誹謗した。彼は、搾取は生物の性質であり、不正、征服、破壊は超人の勝利に必要であり、超人は「人間が美しき野

獸となり、活潑に、有能に、人間的」になる日に於て支配者とならねばならぬといふ見解を信仰告白に迄高めた。ニーチエのツアラッストラは、ファウスト及聖書と共に各々の獨逸兵士の背囊の中にあると言はれた。ニーチエは戦争は必要であるばかりでなく、慈善であり、生物的必要物であると信じた。強き者は弱き者を滅さねばならぬ。ニーチエがこの墮落的な學說を擁護した唯一の者であるとするれば、それは遺憾であるが、併し彼の影響が獨逸の生活の他の一切の部分に於て感ぜられるのは唯餘りに明かである。ゾーデルマン、フルダ、ハルベ、ハウプトマン及その他多くの人が速かに彼の哲學を小説や戯曲によつて廣めた。(ギルベルト・パーカー、塙塙の世界。ロンドン、一九一五年)

宣傳はニーチエの強き物、戦争的な物の祝福及超人間の倫理學を想起せしめた。かくして帝國主義的獨逸は義務の無上命令のカント哲學から離れた。而して獨逸學者や藝術家の鼓舞の中に生き且作用したニーチエの哲學に據つた。

超民族はニーチエから、獨逸は一切の權利を有するも、如何なる義務をも有せずとする原則を導いた。(現代評論一九一四、十一月六七四頁、ニーチエと文明。T・M・ホーン)「余が或る物を欲すれば則ち余はそれを取る」これはベルリンによつて實行に移されるニーチエの獨逸哲學の基礎である。獨逸はその他くことなき野蠻なる利己主義的哲學的承認を、ニーチエの學說から引き出した。

實際の危険は遂に氣付かれ制限せねばならなかつたが、それは獨逸國民の持つてゐる高慢、名譽心及無法に満ちた精神に在つた。(アレン、五及七頁)ニーチエは哲學的に國家の神聖視及帝國主義を是認した。(アレン、二四―二五頁)彼は其の戦争的言葉を或る時は人種學或る時は言語學で色づけた。獨逸は自らニーチエと共に人種的に一切の他の民族に優ると信じた。(ウイリアム・アーチャー、戦争と哲學。(ニーチエの意見及氣質)オックスフォード・パンフレット六五號)

英國世界帝國を先頭にしてその他の基督教徒は一般的統一の平和と法律状態の爲に戦つたが、獨逸に於ては軍事的力は活動的且計劃的な神聖化に依つた。この神聖化は次第に國民的、宗教的狂信の形式を採つた。獨逸人は生活の中に祖國の目的を持つてゐた。即ちその「哲學者及理論家」によつて確定され、獨逸に於て、歐洲の他の部分に強制する爲に熱狂的に歓迎された文明である。「汝は國家及官吏を法王と牧師に高めた。汝は種々の信仰の告白の代りに、トライチユケ、ニーチエ、ベルンハーダイ、クラウゼツイツの政治論を崇拜した。今日の獨逸の哲學者は過去の世事に疎い思索家から遠ざかつた。我々は哲學者を國家の政治的代理人とみる。それら哲學者の國及時代に對する謬見の生きた例として、彼等は正、不正をその絶對的、一般的適用に於て試さんと努力せず寧ろ各問題を獨逸との關係に於て考量し、獨逸を正當とする爲には喜んでその魂を捧げるであらう。」(獨逸文明と英國文明。獨逸に關する英國人の空想。ベルリン、一九一七。コンチネント出版)

獨逸國の政治的代理人としてのニーチエは屢々繰返される宣傳の型であつた。(J・M・ケネディ、ニーチエ、大戦を惹起せる心。ロンドン)私欲の満足は神の計畫にあり、私欲は豫見として社會秩序を作る「見えぬ手」である、といふ結局カルビンに歸着する觀念は、ニーチエ及トライチユケが國家哲學的基礎を與へた獨逸權方國家に對する戰に於ける宣傳の武器でもあつた。權力計畫と文化團體との混同を英國の宣傳はトライチユケとニーチエの攻撃に於て明かにした。トライチユケとニーチエは英國の宣傳によつて繰返して所謂獨逸國の神の權利に付て辯明を求められる。T・H・ムーアヘッドの宣傳書「獨逸哲學と戰爭」はニーチエ及トライチユケを征服理論と掠奪戰の理論の創始者として論じた。(C・E・マック・クルー、獨逸の戰爭鼓吹者、ニーチエとトライチユケ、ロンドン、出版年不詳、J・M・ケネー、ニーチエの真髓、ロンドン)雜誌「圓卓」に於て或るロンドンの書肆が「歐洲對ニーチエ戰爭」に關する書物及パンフレットの表を編輯した。(圓卓、一九一四、二月一八號、四一頁)

英國の宣傳は更にその他の共犯證人を提供することが出來た。それは獨逸の眞の政治的意思を最も強い戰爭的形式に總括し、かくして意思に反して全世界の前に露出せしめたベルンハーディ將軍であつた。ベルンハーディの著書たる「獨逸及次の戰爭」及「我々の未來」は獨逸に於ては纔かに小範圍に於て注目されたにすぎぬ。之に反し英國に於ては、あだかも著者は政治的、文明政治的

に大勢力のある公人であつたかの如くに、活潑にその書物によつて獨逸を遣り込めた。戰爭勃發後英國の輿論の工場がベルンハーディの「獨逸と次の戰爭」程好んで輸出せんとしたものはない。英國に於ては二十五セントの安い値でこの本を廣めることが出來たのであるが、それは、配布の背後に在る者が批評力を持たぬ人々に對し此の有効な宣傳書から極めて多くを期待したことを證明した。

ベルンハーディは英國宣傳にとつてはトライチユケ及ニーチエ以上の最後の共犯證人以外の何物をも意味しなかつた。英國は、就中アメリカ人の眼前に於て獨逸の軍國主義を訴へる爲にベルンハーディを必要とした。ベルンハーディの書物の所々は繪入宣傳の有効な材料であつた。「レメーカールの漫畫」の中には、「ブロンヤ及文明」といふ表題でベルンハーディの言葉の二つの繪入の説明がある。巨大な大砲の車に一人の婦人が結へ附けられてゐる。彼女の一つの腕は明るく炎々と燃上る焔に焼かれてゐる。彼女の着物は裂かれ、暴行を暗示してゐる。説明としてベルンハーディはこれに附言してゐる。「力は最上の法である。而して何が法であるかといふ争は戰爭といふ仲裁裁判所によつて決定される。」と。又或ひは大な岩の上に惡魔が坐つてゐて、惡魔の足の所では蟻の群のやうに小さな民族が争つてゐる。繪の上にベルンハーディの命題がある。「戰爭は民族の生活に於ける必要要素であるばかりでなく、缺くことを得ぬ文明の要素でもある。」と。それに對して惡魔は微笑して曰く「衷心より贊成する。」と。(レメーカールの漫畫、ホッダー及ストリートン出版所。ロンドン、挿

繪参照)

戦争の間出版された「獨逸の臣としての英國」といふ本の中で、ベルンハーデイは次の如き言葉の責任を負はされた。(ワイル、フンの國に於ける誰の誰。ロンドン、一九一六、一五頁、行文は英語から譯した)獨逸は蒙を啓かれねばならぬ。獨逸人は人類文明の保持者である。獨逸人は世界壓迫の統制を欲する。獨逸は歐洲を支配せねばならぬ。條約は破られる爲に結ばれる。戦争は道徳的の必要である。戦争は仲裁判決よりも良い。英國は獨逸を恐れる。英國は獨逸に挑戦した。英國人は僞善者である、陰謀家である。英國との戦争は必至である。英國との戦争は不可避である。獨逸は戦争を始めねばならぬ。獨逸は速かに戦端を開かねばならぬ。アメリカは英國を攻撃すべきであつた。トルコはエヂプトに於て戦端を開くべきであつた。國民は戦争を叫ばねばならぬ。七年戦争が見える。等。

ベルンハーデイに對する英國宣傳書は、アメリカ及中立國に廣く擴げられた。「ベルンハーデイ主義」は英國宣傳の度々用ひられた標語となつた。それは獨逸のトライチユケ、ニーチエをこえて發展せる政治的誇大狂を特徴づけた。(ドーン、一四五頁)

戦争前及戦争初期に於て、獨逸外務省の指導者であつたヤゴ次官が、ベルンハーデイの文書は敵の攻撃によつて始めて知つたと聲明した事實は事態の真相を物語るものである。所謂全獨逸主義

は戦前に於ては恐く往々不都合な政治を害する力として感せられたのであらうが、政府の決定には影響せず標準とはならなかつた。

更に英國の宣傳によつて、カール・フォン・クラウゼヴィッツ將軍がその著「戦争論」と共に、多くベルンハーデイ及びランと關聯して獨逸の戦争意思の證明の爲に利用された。クラウゼヴィッツの著書はイギリス語の翻譯で出版された。その抜萃はビラで廣められた。

英國の宣傳の見解によればクラウゼヴィッツの特徴は次の如くである。彼は人類の歴史を唯競争する民族の間の生存の戦ひの結果とみる。それらの民族の中で唯最も強い、よく軍備を具へたものだけが永く残る。良い民族は強い民族に征服される。蓋し力のみが強い民族が承認する唯一の法律であるからである。平和の時代は來るべき戦争の爲の準備的休止以外の何物でもないからである。

「國家の間には唯或る法の形式がある。即ち強者の法の形式である」といふランの言葉を宣傳はクラウゼヴィッツの學說に譲つた。(現代評論、一九一四、十一月、五八二頁。ジョン・マクドネル、カール・フォン・クラウゼヴィッツ)クラウゼヴィッツの學說は「確定せる決心からの鐵の如く冷き結論」の見解であるのが特徴である。クラウゼヴィッツに對するヘーゲルの影響は力強く確言される。

クラウゼヴィッツに對する外英國の宣傳はその精神的戦を就中、全獨逸主義者、ナルビッツの「思ひ出」ビュローの「獨逸政治」マツクシミイリヤン・ハーデン。レヴェントロー伯。ホーストン。

ステアート・チャムバーレン。(彼は英國人からヒステリックな超獨逸人に發展した)フリードリッヒ・ノーマンの「民主主義と皇帝主義」バウル・ロールバッハの「世界に於ける獨逸思想」マック・ス・ウエーバー・ランソンの「文明理想と戦争」に對して行つた。ランソンの「文明理想と戦争」から特に次の命題が引用された。「所謂小國は國家では決して無く、忍容された團體である。それは唯滑稽にも國家であるが如く裝つてゐるが、國家の最も本質的な機能は行ふことなく、あらゆる壓迫を力をも以て防ぐこともないのである」と。(現代評論一九一四、十一月、五七九頁)更にチエーンス。フロベニユース。カント。(ジョン・デューエー、獨逸哲學と獨逸政治學、獨逸道德觀念の基礎としてのカント、ロンドン)フォン・デル・ゴルプ。デルブリュック。ハルトマン。モムゼン。オストワルトが屢々擧げられ、ランケは纔に稀に擧げられた。英國の宣傳は好んでビスマルクが獨逸帝國議會及プロシヤ國會で爲した演説を引用した。特に英國の大雜誌が文明宣傳に於て主たる働きをした。

英國の著者は大多數、經濟的壓迫と地理的擴張の要求が獨逸の「戦争意思」に決定的に影響したことに對して一致してゐた。ローゼの著書には次の如く書いてある。即ち「人口問題は獨逸を前に押し進める。多くの場合内國の國民は人口の増加の緊張を最も苦しく感じたのである。島國及海岸國の住民は海を越えて擴がる事が出来る。併し内國民がその境界を越えて發展するには、國境を

突破しなければならぬ。世界政策は主として昔のチュートン人の本能の近代的表現である。」と。危険なる獨逸世界政策でふ標語は殆んど常にウイールヘルム二世の「擴張政策」と關聯せしめられた。(ドーン、一三一頁以下、皇帝及世界政策)嘗て或る時代の政治と哲學とが完全に一致したとすれば、それはウイールヘルム二世の時代に於てであつた。現實の政治目的は完全に超人哲學の眞の目的と同一種であつた。獨逸の世界政策と軍事的支配とは英國の宣傳員にとつては同一の意味の概念であつた。

獨逸の大學及學校は英國の宣傳によつて戦争の發生地と特徴づけられた。(大學教授によつて起された戦争、一九一五年一月四日附「タイムズ」)獨逸の官廳は永い間教師階級に影響を與へることに重點をおいた。トライチュック、ニーチエ、デルブリュックの如き大學教授は、獨逸就中プロシヤの精神をおよそ住みうる地球の遠い涯までも及ぶ征服を行ふといふ名譽心的夢で完全に充滿させた。彼等は獨逸皇帝をも味方としてしまつた。故に戦争は誤れる墮落的なる教育の危険を明かに示してゐる。「學校を政治的、軍事的道具として利用せんとする意圖は獨逸皇帝ウイールヘルム二世が王位に就いた一八八八年から生じてゐる。この時から學校の政治目的の爲にする濫用は顯著になつた。」(十九世紀、一九一七年九月、四八七號、五五二頁)獨逸の學校の精神は充分には自由ではない。従つて教師と生徒とが友達となることは亦不可能である。獨逸の學校の嚴格さは同時にその弱點である。」(マ

一九一四年十二月の末及一九一五年一月の始「タイムス」はその讀者會からの澤山の手紙を公表した。それは獨逸文明の價值及藝術と學問に於ける獨逸人の業績について意見を發表したものであつた。(一九一四年十二月、二十二、二十三、二十六、二十八、二十九、三十日及一九一五年一月四日の「タイムス」参照)それは大衆に對する宣傳の効果を明かに反映した。

概念の著しい歪曲によつて「獨逸文明」は今や唯半未開の獨逸人の廣い範圍の爲の資料をしか意味しなかつた。獨逸人にとつては、この言葉は他の歐洲民族が理解する如き「文明」の概念を抱括せずして、むしろ純粹に有益な進歩の概念を指してゐた。その概念は、社會生活一般のすべての領域には「訓練特務曹長」が支配し、個人の自由は破滅されるといふ事を意味する。獨逸の理想は前述の、規則的な誰彼の區別なしに誰にとつても裕な楽しい生活にある。而してその生活は計畫的な制度によつて保證さるべきである。人類は法律、秩序、正確なる監督によつて幸福にさるべきである。それは人類が欲すると否とに拘はらないのである。「教授達」(英國の言葉に於ても)及「境界界」とつては「文明」なる言葉は更に廣い意味を有する。その精神に於てはこの言葉は「世界觀」を抱括する。即ち感覺的世界のみならず、宇宙に關する完全なる學說である。この世界觀は絶對者の概念から、日常生活の最も微少なる事實に及ぶのである。それは思考及思考によつて規制せられる限度に

於ける行爲の全領域を含む。それは形而上學、神學、倫理學、政治學、美學を包含するのみならず自然科学の全領域を包含する。それは中世のスコラ哲學者の體系の如く一切を抱括し、而して、個の點まで研究し盡されて居り、信條的確信を以て述べられるのである。

獨逸文明に對する宣傳文書は「クルツール」と「カルチュア」の區別を明かにせんと試みた。「タイムス」(参照)獨逸「文明」は最も、廣大なる秩序的技術である。直接の結果は國家崇拜である。蓋國家のみが祖國的技術の道具であるからである。個人は結局その所有し又は在る所の物のすべてを國家に負ふのである。個人の最高の義務は故に國家の爲に自己を犠牲に供することである。蓋トライチケとデルブリュックの主張せる如く、國家が何等かの負担を個々の國民に課する場合國家は全く不正を爲し得ぬばかりでなく、同様に國家が自己の安全乃至名譽の爲に行ふのが正しいと考へる方策を以てしても不正を行ふことはできない。國家の安泰は「クルツール」によつて實際本質であると考へられる。國家の要求が何時かイエス・キリストの命令と矛盾するに至るとすれば、譲らねばならぬのはイエス・キリストであつて、國家ではないのである。國民は國家に任へることによつて不正を爲し得ない。國家は自己自身の利益を要求する時は全く不正を行ふことは出來ぬ。教育自身或ひは文明は獨逸に於ては珍しくもその道德的側面から見られずして、その感覺的乃至は純肉體的側面から見られた。又文明開化、同情の喚起の手段として、なく征服の手段としてみられた。

「クルツール」といふ獨逸語は、通常用ひられる狹義の且多くの場合學問的な意味に於ける「カルチユア」を意味しない。それは獨逸の思考組織が極めて麗く作つた曖昧朦朧たる言葉の一つである。それは新しい宗教、「勇氣」の宗教、マタン、ナボレオン、ツアラツストラの宗教を意味する。(アレン、五〇―五二頁)「クルツール」は大きな文明的力を有するが、文明そのものではない。戦争前にあつては、獨逸の軍部は適當なクルツールを持つてゐたが、何等文明は持つてゐなかつた。併し文明なきクルツールはあまり價値はない。クルツールは文明なくしては永續することをえぬ。

英國の宣傳が、獨逸は意圖的且故意に戦争を招致し、有利な瞬間に惹起せしめたといふ事を證明せんとしたあらゆる理由は、「プロシヤの」といふ籠な言葉の中にあつた。英國はプロシヤの軍事的支配が全然且徹底的に破壊される迄戦はんことを欲した。プロシヤ軍國主義に對する戦は獨逸國家觀及獨逸戦争哲學に對する自明なる戦争遂行であつた。神は英國をして人類の指導を引受け、自由なる歐洲の爲に戦ふ様に規定した。自由なる歐洲は、或る國民の他の國民に對する優勢から自由であるばかりでなく、不遜な外交から自由であり、戦争の危険から自由であり、絶えざる劍の音から自由であり、古くなつて敵の生えた國防と將軍に關する繼續的演説から自由であるべきである。(戦争演説、一九一頁)

英國宣傳にとつて決定的となつたのは、亦戦争問題に於ける獨逸の宗教的態度であつた。プロシ

ヤ王國なる絶對的國家の爲に出現せる「建設的破壊的」な賢明な人々の中では、ヘーゲルは宣傳文學に對して最も大きな影響を與へた人であつた。(舊教月刊通信、第三輯、ロンドン)「組織的理性」が唯一の生きた神であつた。一八七〇年以後は理想主義の最後の生残者はヘッケルの如き教師の勝利的影響の中に滅亡した。「ニーチエは、法王に反對しキリスト教に反對した獨逸主義の發達が四百年の間に到達した最後の目的であつた。マキャベリーは政治的豫言者として現れた。ツエザー・ホルギヤはニーチエの文明の英雄として忠誠の誓を受け、ナボレオンは彼の力の神であり、フリードリッヒ大帝は戰場と外交に於ける彼の指導者であり、ダーウインの「生存競争」はそれをあらゆる道徳的義務から解放し、クラッゼウィッツは彼の參謀本部に、平和は戦争の準備にすぎず而して戦争には勝利の法則以外に效力を有する法律はないのであるから、國家はその爲しうるすべてを疑惑を抱かずに爲してよいといふ理論を與へる。」

舊教的宣傳書の他の出版(舊教月刊通信IV)に於ては獨逸帝國主義の惡意的描寫が更に明瞭に表れてゐる。而して今や余をして問はしめよ。諸君、中立國及聯合國の舊教徒諸君は、全ローマ・キリスト教徒がプロシヤの現状に置かるゝことを欲するか。文明戦争の五月法が神聖全教會に及ぶことは諸君の希望であるか。聖父はウィルヘルム二世の宮中説教師となるべきか。諸君よ、我が友よ、何れを選ぶべきか。諸君の側で問ふてみよ。余は二つの言葉を以て答へよう。英國の自由!!我

我は、自由と機會均等の、英國の原則が萬人の爲に、絶對國、政教合一主義、乘馬用長靴の絶えざる振動、教會に於ける騎兵隊の劔の音に打ち勝つことを望む」と。英國の叙述によれば、プロシヤ人は古いキリスト教の神を免職し、「力」或ひは「権力」と呼ぶ異教的神の尊敬を輸入した（アルベルト王の書に於けるローズベリー伯、J. M. ホールドウィン、超國家及永遠の價値、汎獨逸主義の研究、オックスフォード、一九一六）かゝる獨逸の反宗教的態度に關する文献は非常に多かつた。獨逸が無宗教的な考へ方をしたといふ證據に、獨逸の哲學者、詩人、歴史家が引用され、それらの引用からその想像的無神論が導き出された。就中ベルンハーデイの理論は英國の宣傳によつて採り上げられ力を法の上におく彼の戦争に關する見解に斷案を下した。更に、獨逸は英國に對する「巨大なジェスイット教の陰謀」を企て、獨逸文明の野鄙な標語を用ひて、英國を野蠻な手段により野蠻に突き落さんとしたといふ事が聲明された。（「番人。」ローマと獨逸、英國の滅亡の陰謀、ロンドン、一九一四）

英國の宣傳は、英國民は選ばれた國民であるとするアングロサクソン人の使命及ヘブライ人の考へを確信して、獨逸國家學、獨逸哲學、獨逸の學問、獨逸の教育、獨逸の宗教を破門し、以てホーエンツォレルン王朝、獨逸皇帝、プロシヤ軍國主義に對する宣傳を最高度に前進せしむることによつて、世界大戰勃發の責任を獨逸の精神的態度に負はせんとした。

第三節 ホーエンツォレルン王朝に對する宣傳

英國の戦争宣傳は、その中に或る程度獨逸に向けられたあらゆる非難が包含されてゐる「プロシヤ軍國主義」といふ言葉を第一級の標語とすることに成功した。獨逸皇帝は西洋の民主主義者には獨裁君主の典型なりと思はれた。これらの民主主義者の頭の中には一般的精神的奴隸、反動といふ觀念が不明瞭にこれと融合してゐた。これらの觀念は彼等にとつては特にプロシヤの土の上でよく繁茂すると思はれた。西歐洲の文明は、プロシヤ軍國主義、ポツダム精神を攻撃した。この精神は、獨逸國民の精神を、その非軍事的分野に於ても支配し、その上に軍隊が立てられた原則を、一般獨逸國民生活、獨逸精神獨逸文明の指導原則として建てたのである。プロシヤ軍國主義と共に滅びよ」といふ標語は英國から生じた。

これに少なからず寄與したのは、一八〇六年迄の以前の獨逸帝國は南の舊教の國であり、新しい一八七一年に出來た國は、之に反し、プロシヤ新教國であつて、ハプスブルグの以前の國に比して、舊教的南國には始めから明かにあまり信用されない帝國であつたといふ事實であつた。故にこの側面からしても絶對的プロシヤの権力支配に對する信仰は或る養分をもらつてゐた。

併し就中英國の宣傳は「國家は總てであり、個人は無である」とするプロシヤの國家觀から豊富な結論を引き出した。宣傳は獨逸に於て代表された「國家の神權」に絶えず遡ることによつて、こ

こに宣傳が始まつた。宣傳は新聞及雜誌に於て、破壊に價する獨逸の國家神聖化を説明した。國家は神の設備であり、故に國家は誤つたことは全く爲し得ない。國家の利益になることは良いことである。國家の幸福と較べると個人の生活と所有權、人類の憐れみと他國に與へられる苦みは何物でもない。國家の發展は好戰的軍國主義の政策を要求する。従つて戰爭は道徳的であり、結局に於て平和よりも望ましいのである。(D・W・ジョンソン、プロシヤ主義の危機。ロンドン、發行年不詳、四三頁以下)

屢々宣傳は軍國主義の本質を軍隊、一般兵役義務、國家に於ける軍隊の地位の過重に在りとせずして、軍國的君主政に在りとした。そこに於ては政治に對する廣汎なる影響が軍隊に承認せられ、皇帝は眞の主權者の如く振舞ふのである。極めて巧妙に宣傳は國民と政府を分けた。責任の無い苦められた獨逸國民を、不自由な意思の無い者と見た。而して獨逸國民に軍事的支配の破壊によつて政治的救済を與へんと主張した。

ロイド・ジョージは一九一四年九月十九日クイーンズ・ホールに於てこの考へを述べた。「我々は獨逸國民を攻撃するのではない。獨逸國民はこの軍部の地獄の下に住んでゐる。而してこの軍部が破壊されるならば、獨逸農民手工業者商人にとつて喜びの日であらう。」と。(戰爭演說二二三頁)近代國家は多數の英國宣傳書にとつては自由な個人はその考へによつて歸化權も國籍離脱權をも行

使し得る團體に過ぎない。従つて獨逸の國家思想及國民と國家秩序への關係には宣傳書は決して相應しえないのである。

プロシヤの軍國的、權力國家に英國の共同的、正義の國家が對照された。佛蘭西の宣傳に於ては自由の愛好が典型的にラテン的な要素として讚美された如く、英國の宣傳に於ては典型的にアングロ・サクソンの要素として讚美された。獨逸國は自由の愛の發展を除外した。宣傳は、獨逸人に若い頃から注ぎ込まれてゐるプロシヤ軍國主義に、個人主義及その自然の自由權の破壊の根源を見た。獨逸軍國君主政は個人主義からあらゆる生長の可能性を奪ひ、個人主義を、愛國主義、從屬服從に代へた。宣傳はトライチュクを引用した。屢々ビスマルクの主張が指示された。ビスマルクは「獨逸愛國主義が活潑且有效ならんが爲には、原則として王朝的從屬の媒介を必要とする」といふ見解を代表した。嘗て歴史家ペローの言葉が引用された。「擴張的國家の進行は、恐らく強い君主政の基礎において自己を維持し得るが、民主的共和制に於ては之を爲し得ぬ。」と。獨逸政治家及歴史家を引用した多くの宣傳書の中には、プロシヤ軍國主義に對する憎惡が王朝の排除或ひは憲法の改正に對する同時的要求と共に現れた。「平和は軍國主義の死體を乗り越えてのみ到達せられ得る」。(正義の爲の戦ポケットブック、一九一八、三三頁、尙戰爭演說、一〇五頁參照)

宣傳はビスマルクの登場以來のプロシヤ軍國主義の描寫を以て満足せず、獨逸の過去に於ける軍

國精神の泉を探した。大抵の宣傳書はフリードリッヒ大王に遡つた。「人間の把握力を越える宇宙の力は、この北の國に於て洪水を作つた。我々はこの發展をナポレオンを越えて（彼は時々この發展を止めた！）次に述べる如き時代にまで遡ることが出来る。即ち宗教改革の獨逸を見、詩と音樂の輝く獨逸國を見る。プロシヤの毒樹が芽生えた時代は獨逸はまだ全盛時代であつた。フリードリッヒ大王はこのプロシヤの精神状態とその國際的倫理に最初の表現を與へた。権力と陰謀によつて彼は弱い民族の領土を占領した。彼はロシヤとオーストリーを恥すべき方法によつて、彼の晩年に招待することによつて、ポーランドの身體を三つの部分に分つた。フリードリッヒ大王の野鄙な力強い精神は、ワルテルローの戦へのプロシヤの導きの星であつた。」（キスター、六七頁）

英國宣傳員が、フリードリッヒ大王はプロシヤを強化する爲の敵に對する手段の選擇に於て、無制限の權利を行つたと聲明したと同様に、歴史家も次の如き聲明をした。「アメリカの發見を遡ること纔かに、世界の舞臺には小さな王朝、即ち、ホーエンツォレルン王朝が現れた。それはベルリン市を廻る獨逸國の小部分を支配してゐた。この王朝の後期の支配者は王朝の權力を隣國の征服によつて廣め、ばら／＼の領地がプロシヤの統治の下に、ラインの海岸から東はザイクセル迄及んだ。一七四〇年プロシヤ政府の理想の前期代表者の中で最も有名な人の一人たる、フリードリッヒ大王が王位に就いた。彼は「生來粗野で、彼の敵を滅す遣り方に於て無慈悲であり、外交上の取極に於

て裏切り者であり、全く教養の無い人である」と書かれてゐる。プロシヤの國家理論は唯だ、ホーエンツォレルン王朝が追求した永遠の發展政策によつて、生きてゐるのだといふ事に徹底して、彼は彼の臣下の意思に反して、大軍を組織した。即ちこれが現代プロシヤ軍國組織の始りである。

シレシヤは野蠻にも若い、援助する者としてないオーストリー女王から陳謝もなしに引き裂かれた。ポーランドの恥知らずの分割が始められ成功した。軍國主義はこの一人の男の生存中プロシヤの領土を殆んど二倍にした。

間もなく、プロシヤ國家理想の自然の生長が、プロシヤの影響の巨大な基礎の上の擴大を要求した時代が來つた。現在に至る迄にホーエンツォレルン家の支配は侵略の成功によつて小さな地方から歐洲的勢力に向上した。ホーエンツォレルン家の支配は世界帝國の地位を獲得せねばならなかつた。それに到達する爲には、二つの事が必要であつた。オーストリーは、長い間、小獨逸諸國に於ける優勢的影響の爲の戦ひに於ける、プロシヤの力強い敵であつた。オーストリーの吸收は未だ不可能であつたので、その影響は軍事的敗北によつて消滅させねばならなかつた。オーストリーの分離によつて、他の獨逸國に對するプロシヤの支配は確保されねばならなかつた。それは大きな獨逸の勢力が、ホーエンツォレルン家及プロシヤの國家目的の支持によつて、世界に於て向上する爲であつた。

二人の有名な人がこの大きな任務を引受けた。ウイヘルム二世の祖父たるプロシヤ皇帝ウイヘルム一世は帝國の軍事的力の發展に全力を注いだ。他方ビスマルクは更に一步を進め、「血と鐵」の政治を遂行した。ウイヘルム一世とかの孤獨の宰相は、若しも征服の戦が勝利を以て遂行さるゝならば、國民の自由に對するあらゆる犯罪は忘却せらるゝであらうといふ事を知つてゐた。數ヶ月の間にデンマークの領土たるシュレスヴィツヒ・ホルシュタインは征服され、プロシヤに合體され、オーストリーは敗北し、その優勢な地位は破滅され、オーストリーを援助してゐた若干の獨立北獨逸諸國はプロシヤの支配下に置かれた。その後幾許もなくして、南獨逸諸國は、新しい征服戦争の爲にプロシヤ聯盟に加入した。エルサス・ロートリンゲンと巨額の賠償が敗亡せるフランスから奪はれた。プロシヤのホーエンツォレルン家の王は大世界帝國即ち新興獨逸世界帝國の貴族主義的支配者となつた。(ジョンソン二頁以下)

英國歴史家ジョンソンの客觀的論調のこの宣傳はフリードリッヒ大王の時代のプロシヤ軍國主義の發展を示さんとした多數の宣傳文書の一例である。ジョンソンの考へ方は、純粹の宣傳文に於て、より鋭く且無遠慮に繰返された「フリードリッヒ大王」の恐るべき目的は權力即ち權力の爲の權力であつた。大王の死後君主國の政治は一決された方向に直進した。ビスマルクは戦争を行つたばかりでなく、獨逸の知識階級を嘲らして、プロシヤの凱旋車の車輪に結へつけた。(ムーア、獨逸に對

する英國の場合、マンチエスター、一九一四)ビスマルクは獨逸の統一を唯それがプロシヤに獨逸の支配を與へるが故に望んだ。彼は決して議會政治的組織に信頼をおかなかつた。ケーニツヒ・グレッツの戦に於けるが如き軍事的成功は、輿論を魅し、かくしてビスマルクはプロシヤ憲法の民主的要素を削除することが出来た。

ビスマルク及フリードリッヒ大王の政治はその後健全なよく秩序立つた各國家の自明な政治として通用した。或る特殊の國の二百年の歴史的發展の結果たる權力學説は、カント及ゲーテのあらゆる子孫の心神を捕へた。即ちそれはプロシヤ化であり、鋼鐵宰相の最大の併し又最も恐るべき行爲であつた。(二週間評論一九一七年六月、九八二頁以下參照、ドーン、一一五頁參照)

獨逸の病氣はプロシヤ化であつた。不幸は再びドイツからその隣國に押し寄せた。(ウイスター、五四頁)議會政治的君主政は一八四八年には武器の力により、一八七一年にはビスマルクの外交政策的成功によつて妨げられた。帝國政府を國會によつて議會的政治的に監督せんとするあらゆる試みは、阻害され、プロシヤ地方議會の反對に作用する優勢的地位は議會による政府の監督を不可能とした。ゲーテ、シュタイン、ダールマンの獨逸は道德的毒殺過程の犠牲となつたばかりでなく、プロシヤの毒殺過程の犠牲となつた。(ムーア參照)

宣傳はこの關係に於て就中プロシヤの三階級制の議會を攻撃した。この全く非民主的議會の存續

の爲に支配的階級が現れた。蓋民主的プロシヤ議會は獨逸中小諸國に既に行はれた如く、官吏任免權を制限したであらうが、併し、三階級制の議會に於てはかかる統制を常に憤激して將校及文官任命の「大權」の侵害として拒絶することが出来たからである。我々が皆居なくなつた後餘程程ではこの戦争が研究されるであらう。戦争の責任を個々の國民に分たんとしても、責任の大部分はプロシヤ及ホーエンツォレルン王朝の肩上に置かれるであらう。」(ウイスター、六七頁)

發明と學問的發見と結合しそれと共に獨逸をして帝國主義的國家に發展せしめた所の、一八七一年から始まつた獨逸の非常な一般的工業的飛躍を英國の宣傳は平和を害ひ危険なりと看取した。驚くべき工業的、經濟的變革が生じた。即ち纖維工業、鐵工業、鋼鐵工業、化學工業に於てであつた。獨逸は歐洲に於ける工業的優勢の爲の戰に於て英國の競争者となつた。同時に獨逸は急速に大貿易海軍國に發展し、生産品の賣捌きと、その資本の投下の爲の、植民國の設立の爲に、海外領土を獲得した。獨逸の艦隊計畫は一般的時代精神と一八九〇年以來の獨逸發展の特殊狀態の自然的發展として生じたのであつた。

獨逸に對する英國のあらゆる憎惡の原因となり培養地となつた英國の内心は、即ち陸に海に強い獨逸はそれを獨逸の商業、獨逸の經濟的世界的地位、獨逸の世界に於ける名聲の擴張と保護の爲の基礎とし據り所とするといふ懸念であつた。かくの如きことが歐洲大陸國によつて近世に於て行は

れることは全く英國の意外とする所であつた。

英國の宣傳の敘述によれば、今や帝國主義とプロシヤ軍國主義は一體に合流した。プロシヤ軍國主義に對する信仰は、巧に前に押し出された側面背景の如く、眞理の瞥見を妨げた。これらの動機から英國は「光榮ある孤立」から出た。たゞこれらの理由から、大陸に權力を得んとする英國の非常な努力は正當づけられた。獨逸軍國主義に對する英國の宣傳は、それと共に、或る強い國民的精神的物質的勢力に對する意思、即ち世界支配の意志を被らんとする明白なる物質的色彩を帯びた。

(獨逸の戦争熱。公に指導者によつて聲明されたチュートン人的觀點、ロンドン、參照) 宣傳は主として精神的軍國主義の攻撃を開始したが、併し特に戦争目的の宣傳に於て獨逸に對する具體的困難は軍國主義の説明に譲つた。

英國の宣傳はこの宣傳遂行の爲に重要視することを得た一切の階級を味方にすることが出来た。即ち新聞記者、經濟理論家、政治家であつた。彼等は皆獨逸の企畫心、軍國主義、獨逸の軍事的、世界政策的、精神的、經濟的要求に對する宣傳に關與した。

英國の宣傳の敘述によれば、プロシヤの歴史は既にフアーベリンの戰以來陰謀の特徴を有してゐた。而してこの特徴を根絶し難く保存した。(クラム、十九頁)

ホーエンツォレルン王朝は英國の植民地を征服せんと欲したばかりでなく、その名譽心は大歐洲

中央國の建設に向つてゐた。その力によつて統一される地方乃至勢力區域は、英國群島、オランダ、ベルギーであるべきであつた。(クラム、十九頁以下) 獨逸皇帝は英國と戦はねばならなかつた。さもなくば、恐らく彼は常に至上権なき主権者に止つたであらう。英國は平和を願つたが、北海の彼方には鐵の如く堅き待伏者が、英國のあらゆる行爲を正確に考量しつゝ、イギリスの弱點の兆しを伺ひつゝ待伏せてゐた。權力を欲する獨逸の意志は英國の平和の意思と悲劇的争ひを爲すに至つた。これが争鬭の要因であつた。(クラム) 宣傳は征服意思を獨逸國民の墮落的性質一般として指示した。獨逸人の軍事的精神への傾き、その力強い軍隊との結合、國と軍隊の内の統一は全國民の軍事的氣持を證明した。宣傳は大抵獨逸は戦争を世界支配の樹立の爲の手段として行つたといふ非難をした。

ブランデンブルグ・プロシヤ・ドイツとイギリスとフランスとの戦争をした年數を比較すれば、直ちに、英國の宣傳が大膽にも無視した歴史上の事實が明かになる。グロツクマイヤーによれば四二五年(十六世紀乃至二十世紀)の中百九九年はブランデンブルグ・プロシヤ・ドイツに歸し、百七十九年は英國に、二百四十四年はフランスに歸する。それにも不拘英國の宣傳はプロシヤ軍國主義といふ妖怪を平和と人類進歩にとつての繼續的危險の體現なりと特徴づけた。故に軍國主義を破壊せんと希望するならば、プロシヤ軍國主義的目的の實際的有效性に對する獨逸の信頼を破壊せねばなら

なかつた。それはあらゆる獨逸側の擴張と外國征服の努力を終絶せしむるものであつた。軍國主義に對する英國の宣傳文書は非常に豊富であつた。而して特に戦線宣傳に於て、有効に利用された。こゝに於てか責任は絶えず個人に轉嫁せられた。即ちフリードリッヒ大王、トライチュク、ベルンハーデイ、ウイヘルム第二世、皇太子、及共同責任者たるフランツ・ヨーゼフ皇帝に對してであつた。英國政治家の演説にはホーエンツォレルン王朝の君主政に對する憎惡が火と燃えた。演説は何百萬枚に印刷されて廣められた。

ホーエンツォレルン王朝に對する獨特のパンフレットは「ホーエンツォレルン王朝の黎明、世界の悲劇」(ホーエンツォレルン王朝の黎明、世界の悲劇、グライン・フィルボットの十二枚の挿入入り、ロンドン、一九一七)であつた。それは世界支配に向ふ獨逸の努力をリチャード・ワグナーとの冒瀆的關係に置かんとする宣傳書であつた。ワグナーの不滅の北歐神話の侏儒類の戯曲の中に獨逸國の精神的墮落の無意識的豫言を看取せんが爲には、大想像力も亦十九世紀の後半の獨逸の歴史の纒かな認識も必要ではない。「ホーエンツォレルン王朝の黎明」はこの信念の宣傳的説明であつた。「侏儒の指輪を表面的に知つてゐるだけの者でも、リチャード・ワグナーの著書を貫く哲學を誤解することとはあり得ない。實際、巨人、侏儒、神々のグロテスクな集りの根底を爲す諷諭の明瞭なる觀察のみが指輪の戯曲的動機を明かにするのである。」

宣傳書は「ライン河の金」の第一場を見せる。地上の権力の表象たる金は、光り輝く水底にしつかりと横はつてゐる。その番人は金の徳を歌つてゐる。その言葉は詩人の意圖を説明してゐる。ウエルグンデ「世界の嗣子よ之を取れ、ライン河の金から指輪を作る者が、お前に無制限な力を與ふるぞ。」かくの如く、世界の支配はその守護する根源の力より生じた。又獲得された生成より生じた、生成の権力に對する欲望は、金を手に入れんが爲に、支配をして人間の慈悲を誓絶せしめた。アルベリッヒは惡に對する意思を表象し、ゾオタンは善に對する意思を表象する。序詩の終で、善に對する意思が世界支配によつて迷はされる。かくして、あらゆる慈悲の否定を伴ふ呪咀が、無慈悲な經過を辿つて、遂に望みの救済が解放者ジークフリードによつて生ずる。

あらゆる「戲曲的」繪は象徴によつて明にされる。「世界の悲劇」の筋は、要するに次の如くである。ビスマルクの精神は獨逸文明に世界支配の高揚を願ふ。獨逸文明は獨逸を藝術學問、商業と共に、高慢な平和の裡に建てられた城に導く。獨逸文明は汎獨逸主義を非難する。(獨白)プロシヤ軍國主義は、軍備の劔を試さんと欲する。プロシヤ軍國主義は、軍備の劔が聯合軍の鐵砦の上で粉々に破壊された時に、仰天する。汎獨逸主義は歡呼を上げて、プロシヤ軍國主義の腕に飛込む。三人の運命の女神は、獨逸國の綱を運命の鋸の様に切り立つた岩の上で引き裂く。プロシヤ軍國主義は汎獨逸主義に世界支配を希ふ。獨逸の良心は汎獨逸主義に向つて、世界支配の指輪を警告し、それを捨

てよと願ふ。獨逸の名譽心は、世界支配が如何にして到達せらるべきかを、獨逸の所有欲と協議する。復讐の明い焰は、舌で嘗る様にプロシヤ軍國主義及汎獨逸主義を焼き盡してしまつた。

「獨逸の名譽心が世界支配を掴まんと欲する」繪の中で、獨逸の名譽心が世界支配に向つて手を差し伸べてゐる。「私はお前等の光を消す。私は確から金をとる。そして復讐の指輪を作る。潮の音を聞け。だから私は愛を呪ふ。」(彼は恐るべき力を以て金を確から裂き取る。甲走つた嘲笑を殘して、消えて行く。)世界精神の姉妹は「眞理、自由、正義」を叫ぶ。盜賊を捕へよ。金を救へ。助けよ。助けよ。あゝ。あゝ。(世界は暗くなる)。

英國の宣傳のこの例に、最も明瞭にホーエンツォレルン王朝に對する戰の精神が看取せらるゝのである。宣傳書の數は戰爭の終るまでに絶えず増大した。戰爭目的の宣傳は、その際慎重に避けられた。獨逸を分割せんと欲してはならぬ。唯プロシヤの妖怪を追ひ出し、戰爭をせんと考へてゐる軍部を永遠に無害とせよ。英國の新聞に於ては特にノースクリフ卿の新聞がホーエンツォレルン王朝に對する宣傳を極端にまで實行した。

英國の宣傳は獨逸皇帝、ベルリンの宮廷黨及政府を獨逸軍國君主政に對する戰の中心とした。ウィルヘルム第二世に關する宣傳文學は非常に多い。(主たる著書。プロテロ、二七七一—二七九、ラング・ベリー、I・四、II・四、III・三、IV・九、參照)宣傳の論調は徹頭徹尾憎惡に滿ち、病的であつた。

宣傳は獨逸皇帝を世界大戰勃發の責任者としたばかりでなく、戰爭の暴虐行爲の個人的な創始者であるとした。

英國宣傳の叙述によれば、彼の性格は弱く、彼の悟性は信用し難く、彼は成上り者の典型であつた。彼の時代は最盛の時代であつた。彼は獨逸の表見的理想主義の樹の最も熟した實であつた。彼は常軌を逸せる哲學と熱狂的な詩を以て始まつた發展を完成した。彼は成り上り者の一族を支配し、打算的な服従をし、彼の近視的自愛に追従した成り上り者の中にあつて、幸福感に浸つてゐた。(ドーンズ、八九頁以下) 彼には精神の最高の能力が缺けてゐる。即ち自己自身に買収し難い裁判官として對する能力である。即ち人が見る如くに、自分を視る能力である。彼は獨逸に於ける政治的自負と誇大狂の果實であつた。

英國の歴史家にとつては(アレン、四九頁及ムーア) ウィルヘルム二世は獨逸の國家觀念の權化であり、同時に歴史家の歸謬法であつた。彼は彼の一家の古い排斥すべき考へ方たる、政治必要手段としての力及詐欺と、ローマ人に倣つて世界支配に努力した若い獨逸の無軌道な要求を併せ持つていた。彼は絶えざる海陸の軍備によつて、歐洲を軍隊の陣營と變じた。ベルギーに對する攻撃、それはあだかも大きな力の強い男が罪のない子供を血の出る程撃つやうな惨行であるが、それは獨逸とその皇帝から全世界のあらゆる名譽ある人を離反せしめ、獨逸政府といふ言葉はもはや再び信

頼し得ぬことを明かにした。ウィルヘルム二世は自ら最も明瞭に汎獨逸主義を代表した。即ち世界に於ける獨逸の使命の觀念であり、世界支配及世界的名譽に對する獨逸の要望である。獨逸人種及獨逸文明の他のすべての人種に對する優越の熱き信仰は、彼を、獨逸化を世界に廣め、他面他の人種及民族による獨逸人の吸收を阻害すべく義務づけた。獨逸皇帝は、獨逸が、何時か昔のローマの如く、強く、緊密に、尊敬され、世界を開化し、人類の進歩の任務を獨逸から告げる様になることを望んだ。

宣傳は好んで獨逸皇帝の性格的缺點に固着した。彼の自負、彼の藝術家的天分に對する自信、彼の不遜、彼の無制限な名譽心、彼の虚榮、神によつて望まれた彼の帝國に對する自信、お世辭に對する彼の喜は多くの素描や漫畫に惡魔的に滑稽に描かれた。

ナポレオンの金言は「己の分を知れ」であつた。而してゲーテの主張は、支配者の理性的任務は支配することであり、その他の事は他の人にまかせることによつて善を爲すといふにあつた。併し政治、政治的民法的支配、軍隊、艦隊、商業、造船に付て何事も理解のない獨逸皇帝は、同様に勝手に、繪畫、彫刻、文學、神學、建築學、考古學、音樂、戯曲に就て語ることを敢て爲した。彼は同時に、宰相、外相、將軍、艦隊司令官、新教々會の憲法的首領、ローマ舊教々會の世界的守護者であつた。彼は藝術、音樂、文學、道德批評家であつた。彼は商業、工業、農業を同一の慎重さで監督し

た。彼は船の進水式教會の開館式に出席した。兵營の改築、君主政の記念物の除幕式、ポートルレー
ス、競馬に出席した。(ドーン、九四、九五頁)

他の文書に於ては獨逸皇帝は飽くことなき資本主義の表象とされた。無制限の資本主義と彼の権
力意識とは緊密に關係してゐた。ザムエル・デヨーデの廣く配布されたパンフレットの中で、ウイ
ヘルム二世は反キリスト教者として弾劾された。(ザムエル・デヨーデ、獨逸皇帝が反キリスト教
者なる証據、七頁、ロンドン) それには次の如くある。「(一)キリストは、彼の使命は、聖父の意思
を實現するにある。而してすべての人間は兄弟であると聲明した。獨逸皇帝は、彼の意思は彼の兵士
が唯一つの意思即ち彼の意思に従はねばならぬやうにせねばならぬと聲明した。獨逸皇帝は人間を
兄弟と見ずして、大砲の餉料とみた。(二)キリストは人間に幸福な満足な生活を與へる爲に來つた
と聲明した。獨逸皇帝の軍隊に對する命令は捕虜を作るな、傷兵を作るな。皆射ち殺せ!!(三)キリ
ストは我が王國はこの世界ではない。と聲明した。皇帝は曰く、我が王國は全世界であり、全世界
を征服する爲に、我が全國民を強くせんことを欲する。而してそれが最後の一人の生命に値しやう
とも。」

宣傳は獨逸皇帝の權力的自負に付て、最も道ならぬ比較をした。一般に彼は犯罪者として特徴づ
けられた。ありとあらゆる犯罪は彼の責任とされ、彼の全生涯が検討された。彼は、アツチラ、カ

リグラ、ヘロデス、人狼、狂人、衰弱した麻患者、ルードヴィッヒ十四世、ナポレオン、ユダス
と比較された。(ラスツェル、九〇頁、モドワード・ハットン、アツチラとフン(ロンドン、一九一五)
イグノツス、虐殺、現代シーザーの悲劇(ロンドン、一九一四)デヨーデ・ゾーングラス、フン人の責
任(ロンドン、一九一四)ポール・ルイズ・ハーヴィヤー、優れたフン人(ロンドン、一九一六)同、
二人のウイリアム(ロンドン、一九一五)アノルド・ホワイト、獨逸皇帝は狂人か。(ロンドン、一九
一五)アーネスト・ルガロ、皇帝の狂氣か國民の迷行か(ロンドン、一九一六)J・O・ワツソン、野
獸(ロンドン、一九一五)W・ウイリス、獨逸皇帝と彼の野蠻人(ロンドン)オースチン・ハリソ
ン、獨逸皇帝の戦争(ロンドン、一九一四)アーサー・N・デーヴィス、余の知る獨逸皇帝(ロンド
ン、ニューヨーク、一九一八)デメトリウス・O・ブルガー、英國の大敵(ロンドン、一九一四)ク
レア・デエロルド、獨逸皇帝及其の祖先の物語(ロンドン、一九一五)此等の文書の一部はそれに
關係する英國の書籍解題には擧げられてない。内容的に云つてすべての著作はウイヘルム二世
に對する唯一の大きな訴へをなしてゐる。「ウイヘルム二世は彼の眞の教師たるツェザール・
ボルギヤに比較さるべきだ」(二週間評論、一九一七年六月、九八頁)「探照燈下の獨逸皇帝」と
いふ書物に於て「ロイド・ニュース」の出版者の妹アダ・H・カトリングは獨逸皇帝をリチャード第三
世に比較した。(アダ・H・カトリング、探照燈下の獨逸皇帝(ロンドン、一九一四)「英國と新聞」

に於けるデーンの著者は英國の教授なりとする報告、一四五頁、誤り、「外交政策の手段としての新聞」(二五一頁)に於けるエルツバツヘルのデーンは注意深く利用さるべきだとする指示を、著者は大體是認し得る。個所はデーンによつて大抵洞察なくしてイギリスの文献に入れられてゐる。ロンドンの「イヴニング・ニュース」は一九一五年八月六日「歐洲の狂犬」と特徴づけた。(フレデリック・ノートン、ボツダムの狂犬、ロンドン、一九一四參照)更に「イヴニング・ニュース」は獨逸皇帝は常に他の諸國民を戦争に巻き込まんと努力し、濁水に漁獵せんとしたと主張した。(ローレンツ、英國新聞、ハル、一九〇七、一一三頁)「氣狂ひの王」として、ウイヘルム二世は世界大戦のお伽話に現れた。(悪王、世界大戦のお伽話、D・M・デルアル。ベルト・ロツクの挿繪、ロンドン)テオドレー・アンドレア・クツクの「獨逸皇帝、クルツプ及文明」といふ宣傳書に於ては獨逸皇帝はプロシヤの「國民的工業」の權化として、軍備の巨人として現れた。彼はクルツプに於て巨大な大砲を作らしめ、圖書館、會堂、博物館、病院を灰燼に歸せしめることによつて、獨逸文明を擁護せんとした。ヘンリー・W・フィッシャーはベルタ・クルツプの「秘密回想録」を出版した。ウイリアム・バリーは英國舊教情報聯盟のバンフレットに次の如く書いた。「ウイリアム二世はヴァチカン宮殿と彼の舊教徒たる臣下の前で近世のコンスタンチンの態度をとつた。それは早かれ遅かれカール大帝の劔を握り、ヒモント王朝を永遠の都市から追ひ出すであらう。と云つたことは公

私の報告から推論できた。我々はホーエンツォレルン王家が獨逸の騎士團の騎士の品位と所有地を奪ふことによつて大を爲したことを忘れ得なかつた。それは教會冒瀆の力強い一章であつた。又この王朝が心髓迄ルーテル派で、従つて反法王的であつたことを忘れ得なかつた。フランクフルトの平和條約の締結に於けるチュートン人の理想とローマ人の教理との解決し難き對立は、明かに文明戦争の開始として現れた。その破壊熱との現在の戦は歐洲的標準に於ける「文明戦争」以外の何物でもなからず。(舊教月刊通信IVに引用さる)

獨逸皇帝に對する英國宣傳の極めて單純な形式は英國國民の感情に大影響を及した。軍隊に入つた何千といふ人はこの怪物の逮捕が戦争の主要目的であるかの如き印象の下に行動したことは疑なかつた。(ボンンバイ七六頁)

戦争が永引くにつれて「ウイヘルム専制政治」に對する宣傳の態度は益々激烈を極めた。獨逸皇帝及其の軍事組織に對する宣傳は革命宣傳に變つた。革命宣傳は皇帝を廢し、立憲的君主或は共和制の上に立つべきことを叫んだ。獨逸人自身の利益の爲に、獨逸人の國民的名譽心は追ひ出さるべきである。獨逸及其の軍國主義的國家精神は、歐洲の聯合國を作り、義務的仲裁裁判所を設け、判決の尊重を強制する爲の國際軍を作るのに唯一人の阻害となつてゐる。何百萬人の獨逸人は、最早や獨逸は戦争を強制されたといふことを信じないといふ事は、疑ひの餘地はない。又何百萬人の獨

逸人は皇帝及其の政府を心では呪つてゐるが、それを言ふのを恐れてゐることも疑はありえない。自分から發起して、皇帝が國民に課した苦みに抗議することを敢てする者は誰もない。獨逸は巨大の鎧の如くである。内心の壓迫は日に日に増大する。(二週間評論、一九一六、十一月、六〇〇號九三六頁、ポリチカス、獨逸人は反亂を欲するか)

宣傳はホーエンツォレルン王朝の追放、皇帝の退位、皇帝及皇子の追放、皇帝の引渡を要望し、而して平和條件を皇帝の廢位と皇嗣子孫の皇位承繼の斷念に依存せしめた。(二週間評論、一九一六、十月、五九八號、六二二頁、ウイリアム皇帝。二、三の適切な證據をフレデリック・レクテンワルトは「一九一四—一六年戦争の目的及英國輿論」にかいてゐる。ストットガルト、一九二九、二〇頁、二二頁) 宣傳は「ノック、アウト政策」といふロイド・デョーデの有名な標語をプロシヤ軍國主義の徹底的破壊の爲に取り上げた。而して、血の滴るホーエンツォレルン王朝主義から獨逸が精神的に復活することを説いた。

「世界は民主政に安全な様に作らるべきである」とする英國の要望に、優れた信頼性と有効性を與へることは特にノースクリフ卿の宣傳の任務であつた。併し既に一九一七年に於て「方に満ちた」獨逸國及君主政の專制的原理に對する英國の宣傳的戦ひは異常な形式を採つた。その形式は戦線宣傳に於て最も明瞭に現れた。壓迫者及被壓迫者に對する戦は極めて巧妙に行はれた。獨逸が率直に

民主的自由、民族の提携の理想、ホーエンツォレルン王朝の滅亡を告白するに非ざれば、平和に對する一切の希望は見込がなくなり、戦争の終熄は見通しがつかなくなるといふことが絶えず示された。その際宣傳は獨逸人の氣持と感情をよく捕へることが出来たので、これらの目的に壯重なる定型を與へることによつて、英國人の人生觀、世界觀の人類、キリスト教的信仰原則に高い感激を喚起することが出来た。

「衷心からの平和愛好」の目的の告知に於て、英國の政治的意思のカント的合目的性が正に表れてゐる。それは宣傳に戦争の終り頃極めて峻厳なる突撃力を與へた。平和とホーエンツォレルン王朝の廢位は二ツの分ち難い概念であつた。ウイルソンの十四の點は、「民族自決権」「小民族の權利」「權利、自由、平和の爲の戦」といつた標語と共に強調された。ホーエンツォレルン王朝に對する戦は、同時に自由諸民族の間に於ける自由なる獨逸國民の戦であつた。プロシヤ軍事組織が破壊された時には、獨逸人と雖もその自由と自決、その獨立とその權利を取戻すべきであつた。

第四節 慘行 宣傳

慘行宣傳の重要性は最初佛蘭西の宣傳によつて看取された。佛蘭西の宣傳の最も重要な對象の一つを成したのが、獨逸兵士の侮辱誹謗であつた。獨逸の戦闘方法、占領地域、特にベルギー及北フランスに於ける獨逸人の處置、非戦闘員に對する彼等の態度、彼等の捕虜の取扱方、其他國際法

及人道一切の侵害の描寫の遣り方に於て、佛蘭西の宣傳はその最上にして、又その最も恐るべきことを爲した。(フリーバー、一六八頁)

英國の宣傳は同様に、佛蘭西の慘行宣傳の成功が現はれ始めて後、未だ戦争に引き込まれてない國民の氣持を計畫的に獨逸に對して煽動する爲に、努力と出費を惜まなかつた。英國は其の慘行宣傳の最も効果的な發端を、過去數十年の英國政治の態度には適はしくない、障害のないベルギー問題の取扱によつて、始から確保した。中部歐洲の最も困難なる軍略的窮狀にあつて、滅亡に瀕した獨逸は、世界大戦を攻撃的に開始せねばならなかつた。獨逸はその許すべからざる攻撃戦をベルギーの征服を以て始めねばならなかつた。「獨逸の慘行」は、やがて全世界の非難の的となつた。

主として敵の精神力に向けられたのは、英國の宣傳戦であつた。敵の精神力を破壊し覆し、動搖せしむることは、慘行を獨逸の戦の計畫的要素として描寫せんとした文書の目的であつた。獨逸人の慘行を、注目を惹く場所に、規則的に公表した英國新聞の援助により、獨逸人の戦は野蠻の烙印を捺されねばならなかつた。

英國の慘行宣傳に取つては、英國政國の承認を得たブライスの報告が決定的となつた。ブライスの報告は中立國、就中アメリカに於て、獨逸の慘行を強く信せしめた。該報告は輿論に對する影響

の爲め最も有効な武器であつた。公の報告として該報告は宣傳力を失はなかつた。

一九一四年九月既にロンドンに於てはベルギーに於ける慘行委員會の小委員會が作られた。該委員會には英國調査官吏も協力した。ベルギーの委員會は既に一九一四年八月その最初の報告を發表しフランス委員會の報告は一九一五年一月八日に出版されたのに、英國の調査委員會は遙に永い期間を必要とした。該報告は一九一五年三月漸く出來上り、英國に於ける一般的兵役義務の施行に際しては、英國公私の立腹の「麻痺手段」として優れた役目を果すことが出來た。

英國の委員會はベルギー、フランスのそれよりも更に巧妙に組織された。該委員會には一般に政府の構成員は加入しなかつた。蓋先入感を蔭口される虞があつたからである。該委員會は徹頭徹尾獨立の新聞記者或ひは法律家からなつてゐた。

アスキース英國内閣によつて任命された該委員會の議長は、前ワシントン駐在英國大使ブライ息子爵であつた。委員會の構成員は、ブライ息子爵、サー・フレデリック・ボロック、サー・エドワード・クラーク、サー・アルフレッド・ホブキンソン、H. A. L. フイツシャー氏、ハロルド・コックス氏、ケネレム・E. デグバイ氏であつた。

報告書は所謂獨逸慘行に關する委員會の「大英帝國、所謂獨逸慘行に關する報告」といふ名前前で出版された。「所謂獨逸慘行に關する委員會に提出された證據及文書」といふ標題の廣汎な附録に

は、その證據資料が報告された。(H・M・出版所一九一五、六十一頁、第一部、ベルギーに於ける獨逸軍の行爲、第二部戦争に關する法律及慣習の破壊及被侵略領土に於ける非人道的行爲。所謂獨逸慘行に關する委員會の報告の附録、一九一五、内容は證言、日記、宣言、陸戦に關する法律的慣習)。二八八頁を下らざる密着して印刷された頁がベルギーに於ける獨逸兵士の慘行の證據を示してゐる。それに加へて第二回ヘーグ會議の規定の拔萃及所謂獨逸兵士の日記帳の十一の複寫がある。報告書及附録書は一九一六年獨逸語でもロンドンのハリソン・ランド・サンズ書肆で出版された。

ブライスの報告書はベルギー及フランスの委員會の報告書よりも獨逸の戦争行爲を更に悪い事の様に見える。英國宣傳の叙述によればプロシヤの將校の頭にある戦争といふものは、一種の神聖な使命であり、國家であると共に軍隊である全能の國家の最高任務の一なりと考へられた。戦時に於ては道徳とあらゆる同情心は消えてゐた。その代りに、新しい規程が生じた。それによれば兵士は勝利に導きうる一切の手段と方法を應用する権利がある。たとへその手段が正義と人道の自然な感情や自己自身の感情を動搖せしめてもである。戦争精神はこの規程にとつては神であつた。國家及その神に對する従順は他の義務及至感情に一切譲らなかつた。あらゆる慘酷は勝利を約束する限り許された。軍隊指導者の言によれば、この理論は將校には徹底し、非職業的兵士にすら感

染したと思はれた。而して遂には、非戦闘員の殺戮を戦争慣習として正當づけ虐殺に慣れ、婦女子すら自明の犠牲となるに至つた。これが國民的理論であるとは承認し難い。むしろそれは明かに軍國主義的理論であつた。即ち永い間戦争を企み、考へ、書き、演説し、夢み遂には催眠術に罹つて戦争精神の犠牲となつた支配階級の理論の結論である。獨逸參謀本部出版の陸上戦争に關する獨逸公法(陸上戦争の慣習に關する獨逸公記録)の中には、この理論が明かに現はれてゐる。この書によつて、軍國主義的要求に適當なりと思はれる一切の物が、法律的となるといふ見解が廣められた。これによつて獨逸兵士及將校は行動したのであつた。

ブライスの報告書は二部に分れた。第一部にはベルギーに於て獨逸軍隊によつて行はれた常規を逸脱せる行爲及慘行が書かれた。第二部には國際法違反が書かれた。第二部は次の如き觀點から觀察された。(1)ベルギー及フランスに於ける非戦闘員の取扱。それはフランスに於ける非戦闘員の殺戮、婦女子の取扱、軍事的企畫、掠奪、燒却の際の防禦物としての無責任なる非戦闘員の使用、所有物の勝手な破壊を包括する。(2)通常の軍事的企畫の過程に於ける戦争慣習及ヘーグ會議の取極めに違反する行爲の中には負傷者或ひは捕虜の殺戮、病院、赤十字運送、赤十字擔架、の射撃。赤十字旗或ひは白旗の濫用がある。

上述の一切の犯行は報告によれば證據によつて證明されてゐる。證明されてゐるとされてゐるの

は次の如くである。ベルギーの多数の地方で、熟考された計画的な虐殺が市民に對して行はれた。又個々の殺戮其他の暴行もあつた。一般に戦争に於て罪もない市民が多数男女となく殺戮され、婦女は虐待され、子供は殺戮された。掠奪、放火、恣意的破壊が、獨逸軍の將校によつて命せられ、獎勵された。戦争勃發の爲の故意の放火の周到な準備が爲された。焼却破壊が軍事的必要なくとも屢々行はれ、かくして實際一般的恐怖政治の組織の一部を現出した。戦争の法律、慣習は屢破られた。特に市民の利用を行ひ、その中には婦女子も居た。彼等は戦闘力の防禦物として火の中に入つた。法律違反の程度はこれより低い、負傷者、捕虜を惨殺し屢々赤十字及白旗を濫用した。殺人、強姦、掠奪はベルギーの多くの部分を支配し、その有様は最近三世紀の間に文明國民の間に行はれた戦争に於ては類の無い程であつた。(所謂獨逸惨行に關する委員會報告書の三十八章參照)

ブライスの報告書の資料及獨逸兵士の日記及手紙の抜萃に關しては、クレメンの推定によれば(クレメン、ベルギー及北アメリカに於ける獨逸の惨行、ビレフェルト、一九一六、四頁。尙十九世紀一九一七、十月、四八八號、六七七頁以下參照)省略が企てられた。蓋當該の箇所には委員會がその報告書の讀者に沈黙を欲した事柄があつたからである。少くとも次の様に説明し得る。印ち印刷された本文よりも複寫が多くを提供してゐる箇所に於ては、報告書はかかる種類の事柄を除去したと。

若しもベルギーの報告書とブライスの報告書が、惨行に就て同一箇所を言つてゐる事を比較するならば、この區別は一層明かになる、個々の點でも委員會によつて再出版された證據物は屢矛盾し、従つて、證據物の蓋然性は嚴密に取扱はれたのではないといふことを證明してゐる。(例はクレメンが示す十三頁以下)

獨逸人の日記には、英佛の報告書に始めて表れた事柄に付ては一言も語られてはゐない。それらの中から全報告中纔に九つが引用された。残りの二十七は明かに何うし様もなかつた。

ブライス報告書の主要證據はベルギー人及英國人の證言である。それは大部分英國に於て爲され、フランスに於て爲されたのは纔に少數である。これらの證據の大きな缺點として、宣傳目的の大きな支柱ではあつたが、如何なる證人も宣誓せしめられなかつたといふ事實を示し得る。(一九一五年七月二十五日附北獨逸一般新聞參照、尙ベツクの獨逸戦争年代記五卷一七四頁以下、(ミュンヘン、一九一五)(五卷一九一五、三月始より六月中旬參照))

ブライス報告書に對しては獨逸政府側からは如何なる防禦手段も採られなかつたが、獨逸の私人側からは種々の反對パンフレットが出版され、ブライス子爵の「委員會の諸勞作」の不正確と誹謗を指摘し、誤謬偽造、惨行の意識的空想を正した。最も有名な反對文書は、カール・クレメンのベルギー及北フランスに於ける獨逸の惨行、マリート・ルイズ・ベツカ!の敵の惨行報告の啓蒙への寄

與。(ベルリン、コンコルヂヤ出版所一九一五、英語、慘行の虚構、慘行に關する敵意ある虚言の源、ベルリン、一九一五)「真理の友の世界聯盟」によつてベルリンで出版されたウイム・マルテンの書、英國に雇はれた虚言、ブライズ委員會報告書論であつた。(特別版、二、同三、ベルギーの血の責任。同四。英國債權簿からの數頁、真理の友世界聯盟)は有名な獨逸系アメリカ人の設立にかゝる。彼等はアメリカに於ける英國の宣傳に反對せんとした。英國の宣傳は獨逸政府によつては公の態度が採られなかつたので、これらの反對パンフレットに、獨逸軍のベルギーに於ける慘行に關する新パンフレットを以て答へた。此處に於てか、この英國の宣傳書は、その起源を戦争精神病に有せずしてセンセイションと慘行の虚言の手段によつて宣傳を強化せんとする故意的考慮に有してゐたといふ事實が明かになる。

先づ第一にブライズ報告書はT・H・モルガンの宣傳パンフレット「不名譽なる獨逸軍隊」(公の調査)によつて支持された。このパンフレットの序文はブライズ卿が書いた。英國の出版はロンドンに於て一九一五年に行はれた。一九一六年には獨逸語譯「佛蘭西に於ける獨逸の慘行」がローザンヌのペイヨットで出た。(獨逸の本には原本と一致しない言葉がある)モルガンは衛戍病院と陣地で二千乃至三千人の將校及兵士を訊問した、それは殆んど英國軍の聯隊に相當した。しかしモルガンは佛蘭西の資料から、英國の言分の確認を得る機會を、かゝる資料が充分なりと證明される限りは、

逃さなかつた。モルガンは、兵士或ひは將校に、始めから、公の調査に關係してゐること、彼の欲する證言はすべて證人の名前を書く用意のあることを明にする事を、調査手段の原則とした。(モルガン、不名譽なる獨逸軍隊一七頁)獨逸人は戰場に於ては名譽心を持たないとする英國將兵の殆んど異口同音の證言は、彼にこれは唯餘りに眞實でなければならぬといふ信頼を注入した。(モルガン、二十五頁)モルガンは獨逸の戦争をパンフレットに於て描寫し、悠然たる慘酷を強調し、それは「大なる熟慮を證明」するが故に、獨逸人の特徴であるとした。かくして石油で焼かれたり或ひは槍で突かれたりした電報配達人の死體、長靴の踵で眼玉を飛び出させられた兵士の死體、彈丸の傷を纏帶してゐる顔に無数の銃劔の突傷がある近衛兵の死體が発見された。(モルガン、二八頁)モルガンに最も重要に思はれた問題は、これらの暴行が如何なる範圍に於て上官の事前的熟慮と命令に歸せらるべきかであつた。この調査は多くの時間を要したが、モルガンは遂に結論に到達した。「我が軍兵士の多數は、負傷者が一般に刺殺されたのを自身の眼で見たと主張した。従つて、既に引用せる文書により彼等の報告を總括すれば、これらの暴行は上官の命令により始められたと推定されるのである。」と。

ブライズの報告書と同様にモルガン報告書は獨逸軍に對する世界觀的訴を提起した。「生命をあまり尊重せぬ所では名譽と所有が高く尊重されないといふことは不思議でない。個人所有權に關す

る限り、所有権の尊重は獨逸軍には絶対に存在しないのである。(モルガン、四八頁)。而して「獨逸人は全法律、人間の法律、神の法律を侵した。しかも古代の武器秘密共済組合の傳統的名譽感に殆んど戦争そのものと同様に存続してゐるがこれも、恐ろしい無軌道な熱狂を停止しなかつた。國民とその支配者を區別せんと欲することは無益である。過剰な程多數の一般兵士の日記帳は、全兵士が同じ精神に感染されてゐたことを證明する。戦争は正規の文明状態であり、勝利欲、人種的自負は一切の徳の中で最も高價なものであるといふことを全國民に教へられた。この死の海の恐怖によつて、獨逸國民は生れるとすぐから養はれ、遂に心髓まで腐敗してしまつた」。(モルガン、六三頁)英國新聞は數欄に亘るモルガン・バンフレットに關する報告を爲し、それによつて中立國の輿論を喚起した。遺憾ながら獨逸政府はモルガン報告書をも、直ちに個々の點を指摘して突ばねることをしなかつた。又ブライス報告書及モルガン報告書の獨立調査を企てんと欲したアメリカ新聞記者をも拒絶した。(クツチユケ、戦争と新聞、ブロンヤ年鑑、一九一六、二四三頁以下)

英國の慘行報告書の公の「學問的」叙述は、公の佛蘭西宣傳としての特徴を有するヨゼフ・ベディエの著作「獨逸人の證言による獨逸の犯罪」(パリ、一九一五)によつて有效なる完成を経験した。ベディエ教授のバンフレットは、獨逸に於ては反對されなかつた譯ではなかつた。「如何にして獨逸人はその犯罪を辨解せんとするか」(パリ一九一五)といふバンフレットでベディエはこれらの非難

に對して辨明せんとした。(フリーバー一七三頁一八〇頁)この反對バンフレットは英語譯にされて「如何にして獨逸はその慘行を辨明せんとするか。戦争の研究及文書。J、S、譯」といふ標題の下に英國に於て廣く廣められ、英國新聞によつて、詳細なる宣傳欄の對象に利用された。

「新兵募集委員會」によつて出版されたバンフレット「獨逸慘行委員會の報告に基く、獨逸慘行の真相」は新兵募集にとつて大なる意義を獲得した。英國新聞「デーリー・クロニクル」は、一九一五年「獨軍の通過せし所」といふ標題で、五十八枚の特別寫真と、ベルギー、フランス、イギリスの獨逸慘行に關する報告の完全なる内容の集收を一卷にして、一シリングといふ廉價で出版した。この著書の佛語譯スペイン語譯イタリア語譯も同一の値段で出版された。新兵募集委員會は更に第二のバンフレットを出した。それはJ・H・モルガンの不名譽なる獨逸軍隊。佛蘭西に於ける獨逸慘行の附録的記錄。(無料、ロンドン、一九一五)であつた。

一九一五年英國政府の勵めによつて、獨逸の慘行の報告及その宣傳的利用の爲にする第二の公の調査が行はれた。一九一五年佛蘭西外務省から出た獨逸慘行に關する報告「佛蘭西外務省援助編纂、獨逸の戦時法規違反」がJ・O・P・ブランドの英譯によつて公刊された。(一九一四—一五年の獨逸の戦時法規違反、佛蘭西外務省援助編纂、ロンドン、一九一五)

ブライスはアルメニアの慘行に關する報告の創始者でもあつた。A・J・フィンビーは宣傳バ

ンフレットを書いたが、數版を重ねることが出来た。即ちアルメニヤの惨行、民族の殺戮、附録、貴族院に於けるブライス卿の演説、がそれである。ロシア兵士に對する獨逸の惨行は繪本として廣められた。ロシアに對して獨逸人の行つた恐るべき惨行の寫眞的再生の叢書、ロシア皇帝任命のアレクシス・クリツツォフ主宰の特別調査委員會出版。ロンドン、一九一五。次の公の英國報告書はセルビヤに於ける最初の攻撃の間のオーストリー・ハンガリー軍の惨行を扱つた。(セルビヤ王國、セルビヤの最初の攻撃中のオーストリー・ハンガリー軍によつて行はれた惨行に關する報告、R. A. ライス、ロンドン、一九一六) 獨逸の惨行は英國舊教徒に影響を與へる爲に、六十二頁の繪本にして廣められた。アーノルド・J・トインビーの宣傳書、「佛蘭西に於ける獨逸の恐怖」(二二二頁)「ベルギーに於ける獨逸の恐怖」(共にロンドン一九一七)はブライス報告書の影響の下にあつた。而して非常に版を重ね、その著書を獨逸惨行問題に關する主たる事情通にしてしまつた。新聞雜誌の多くの宣傳欄はトインビーを引用した。サー・ローチャール・ケーズメントによつて曝露されたコンゴ河畔の惨行の描寫に重大なる役割を演じた、刻まれた子供の手は、トインビーによつても獨逸の惨行の描寫の爲に再び採用された。

非常に非道德的な感銘を與へる惨行畫が多數の英國新聞雜誌に採用された。空想が恣にされた。檢閲は最も恐ろしい繪も躊躇せずに通した。それらの中で最も刺戟的であつたのは、オランダ

の畫家ルイ・レメーカーの描いた色情殺人畫であつた。その繪は多數英國人捕虜の手中に發見された。

フリーバー(フリーバー、一七四頁)が佛蘭西の惨行宣傳に付て調査した所によれば、佛蘭西の惨行宣傳は戦争開始と共に始められ、戦争の最初の數ヶ月に於てはその分野を絶えず増加し、一九一五年の終には少くなり、一九一六年には殆んど全く畫面から消え、一九一七—一八年の間に再び強烈に現れ、英の惨行宣傳にも役立つたと。ノースクリフ卿は一九一八年夏惨行宣傳に新しい榮養と、刺戟と、殆んど物凄しい信頼性を與へた。彼は大抵の場合は獨逸惨行の單純な事實的描寫を以て満足し、恐ろしい無形の繪によつてそれを支持した。レメーカーの模範はやがて戦争畫家の全技術を變へた。惨行畫家は、驚愕煽動、疑惑煽動のみならず世界滅亡の氣持をさへ使つて活動した。彼等の仕事の宣傳的效果は獨逸惨行に關する英國の委員會報告書の效果と同様に高く評價し得る。英國の惨行宣傳の兩方法は、文明化せる世界を獨逸に對して結合せんとするその努力に於て非常に成功を収めた。

國民保護聯盟發行の「戦争の事實及平和問題」(アーサー・L・フロシンガム、戦争の事實及平和の問題、ロンドン、一九一九)には、獨逸の戦争に非難を與へた惨行が總括された。即ち(一)市民の虐殺(二)人質の殺害(三)市民の拷問(四)非戦闘員の餓死(五)強奪(六)強姦の爲にする

娘及婦女の誘拐(7) 市民の追放(8) 暴虐な條件の下に於ける非戦闘員の拘禁(9) 敵の軍事的活動との關聯に於ける市民の強制労働(10) 軍事的壓迫の下の違法な横領(11) 占領地域に於ける住民の強制的募集(12) 掠奪(13) 所有物の押収(14) 違法或ひは高率の税及徴發の取立(15) 銀行券の偽造及偽造銀行券の發行(16) 集團罰の賦課(17) 所在物の恣意的荒廢及破壊(18) 無防備の場所の射撃(19) 宗教的歴史の建物、記念物、學校、慈惠院の恣意的破壊(20) 商船、旅客船の検査、警告なき破壊(21) 漁船、援助船の沈没(22) 病院の射撃(23) 衛戍病院の攻撃及破壊(24) 赤十字に對する法律違反(25) 有毒、窒息的瓦斯の利用(26) 爆發性彈丸の利用(27) 寛大を與ふべからずとする命令(28) 捕虜の虐待(29) 休戦旗の濫用(30) 井戸毒物投入(31) 無防備地方の射撃(32) 兵士及婦女子負傷者を含む非戦闘員の不具化(33) 婦女の組織的一般強姦(34) 組織的放火(35) 担架手の射撃、である。

これらの非難は英國慘行宣傳によつて絶えず繰返された。若い婦女に對する強姦及色欲殺人は百倍に變化して述べられた。しかし又若い婦人の昔責拷問、不具化、も述べられた。これは恰も歐洲と言ふ觀念を表象するものであつた。ここに屬すべきものとしては子供殺しの精しい繪がある。それには殺されることを知らぬ犠牲の殺害の前の緊張が描かれてゐる。又目撃者であり間もなく殺害される小さな犠牲の驚きと絶望せる母が描かれてゐる。「タイムス」(ポオンソンプバイ一二九頁)は進

軍の歌を載せた。その歌詞は次の如くであつた。

汝は母や子等を射殺するか

母よ小さき子供等よ

汝は母や子等を射殺せり

而して笑へり彼等死せし時に。

ボンソンプバイの物語「慘行物語」によれば、三十三人乃至三十五人の獨逸兵士が、ゼムプストのフルマン・グヰイド・トードンの家に侵入し、彼を縛り、彼等の中五人乃至六人の者が彼の十三才の娘を彼の眼前で襲ひ、暴行を加へ、その上銃劔で突刺した。彼はベルギーの兵士が折よく到着したのでやつと助かつた。と。

多數の慘行報告書は、獨逸軍隊が北フランス及ベルギーで始めたといはれる犯罪と虐待の新しい事實を益々發見することで満足し得なかつた。かくして、獨逸將校は婦女子を軍隊の前に押し出して、敵の射撃を妨げるとか、獨逸兵士が負傷せる敵を生きながら焼き若い婦女に暴行し不具にし、これを焼殺するとか、獨逸の醫者が捕虜の腿を切斷するとか、獨逸兵士が捕虜を裸體にして引き出し前進する大砲の車に結へるとか、小さな小供が銃劔で穴を明けられるとか言はれた。一九一四年十月一日の「タイムス」の見解によれば、ベルギーの各獨逸聯隊は、建物に石油を注ぐ特別の機械を

持ち組織的殺人爐部を包含してゐた。該部はベルリン大學で學ばれた高い文明の特別技術を以て作られた。と。(一九一四年九月二十九日財政ニュース参照) 各獨逸縱隊は、適當な機會に兵士に襲ひかかる市民を演ずる一群の映畫俳優を自己の側に持つ如く思はれた。

飢餓戦争の効果は慘行宣傳に採用され、獨逸の後裔の悲惨な衰弱と飢餓の凱歌的繪畫に描かれた。子供達は小さな仇敵として描かれてはゐるが、やはり小さな援助なき子供等ではある。彼等は飢の爲に塵芥を掻き廻し、彼等はすた／＼の衣服を纏ひ瘦せて骨を現し群を爲して、荒地を追はれて行く。これらの繪は戦後に來るべき状態を明かに告げてゐる。(バシユビッツ、大衆の精神錯亂、三版、ミュンヘン、一九三二、七〇頁、バシユビッツは「バイスタンダー」の慘行畫を恐らく想像してゐるのであらう。) 英國の宣傳は言葉に繪に國際法違反の飢餓戦争の効果を出來るだけ悲惨に描いた。英國の宣傳は飢餓といふ武器の恐ろしさを表象する爲に、多數の獨逸の子供の死といふ觀念を廣めた。英國の新聞就中「デーリー・メール」は既に戦争開始前獨逸の亡び行く子供達に付て報告したのであつた。多くの繪畫的描寫には、飢餓戦を行はれた大人の姿よりも多數に、子供等の瘦せた姿や死體が、乳呑兒から小學兒童に至る迄描かれた。

飢餓戦の動機(モチベーション)を利用せる慘行宣傳は最も強烈に同情心に訴へた。偽造寫眞は、一般にその偽造であることがすつと後に發見せられたのであるが、重要な役割を演じた。英國の宣傳が偽造寫眞に特別の

價值を認めて利用したのは、批評したり反駁したりすることを得る單なる報告よりも始めから信用せられ易かつたからであつた。(ボンソンバイ一三五—一三九頁はその適例を掲げる) この優れた價値は多數の宣傳パンフレットに於ても證明することが出來た。又英國の慘行映畫にも明瞭に現れた。

英國慘行報告の中で最も有名な例は死體工場の場合である。屍體の虚言は、戦争の間獨逸人に對する憎惡を沸騰點に迄激化し就中アメリカ及支那に於ては非常なセンセーションを惹起したのであるが、それは英國人の捏造であつた。この報告は保守黨議員チャーテリス將軍によつて爲された。彼は一九一六年及一九一七年に亘つて英國本營の軍事情報事業の指導者であつた。獨逸人が脂肪を作る爲に兵士の屍體を煮たといふ報告は、チャーテリスによつて先づ支那に於て反獨的氣持を惹起する爲に利用された。彼は情報制度の優越によつて、この偽造は慥にその効果を現すであらうといふ事を正確に知つてゐた。(アストニ、秘密の仕事、ロンドン、一九三〇、二八二頁、バートランド・ラッセル、事件多き數年、三八一頁以下)

チャーテリスは英國軍事情報事業部長としての彼の地位によつて、獨逸捕虜、獨逸戦死者から取つた多くの文書を手に入れた。その中には二枚の寫眞もあつた。一枚の寫眞は戦線の後方で肥料にされる死馬が戦線の後に運ばれる列車の寫眞であり、他の一枚は戦線の後で葬らるべき戦死兵士の列車の寫眞であつた。死馬の寫眞の上には「屍體」といふ言葉が書かれてあつた。支那人の祖先及死

者崇拜を知つてゐたチャーテリスは「屍體」といふ上書を獨逸人の死體の積まれた列車の上に貼附せしめその寫眞を上海の支那新聞に發送させた。六週間の後英國の雜誌に或る支那人の手紙が掲載された。それには支那で出版された「獨逸兵士の死體の恐ろしい煮出」の物語が書かれてあつた。この手紙を讀んだ或る英國人は憤激して「タイムズ」に宛てて手紙を書き、書中に於て彼は「屍體」といふ言葉は獨逸語ではたゞ動物の屍體に用ひられるから、その寫眞は偽造でなければならぬといふ見解を主張した。(この噂は聯合國々民の語學の缺乏と獨逸人の外國語の偏重によつて容易に起つたのである。事實屍體の利用はあつたが、その際屍體は動物の屍體を意味する。佛蘭西人は人間及動物の屍體にたゞ「ル・カダヴル」といふ語しか持たない。)或る英國の醫者はその讀者に反對して、彼は彼のオーストリーに於ける研究時代の問オーストリーの解剖室では屍體といふ言葉が行はれてゐることを經驗したから、その物語を眞實と思ふと主張した。

全英國新聞は慘行報告を受取り、中立國及東洋に於ける宣傳の爲に利用した。東洋では佛教徒、印度人、回教徒には該報告は特に適當してゐる様に思はれた。英國雜誌「ボンチ」は、死體工場の繪を描いた。屍體虛言が下院で論ぜられた時にチャーテリスは獨逸人は何事をも爲しうる能力があると聲明した。慘行虛言を一層強める爲に、英國情報事業官廳に於て、或る獨逸兵士の偽造の日記帳が作られた。偽造の日記帳は一人の獨逸戦死兵士の懐中に入れ、そこで戦争通信員によつて發

見される手筈となつてゐた。併し計畫は實行されなかつた。(「日記帳」は現在ロンドンの戦争博物館に在る)。

慘行虛言は、一九二五年に始めてチャーテリス自身によつて、ニューヨークの國立美術倶楽部の晩餐の席上及世界大戰の宣傳に關する講演の際曝露された。その上サー・オースチン・チャムパーレンは、英國下院に於て、獨逸宰相はこの物語の眞實を否認し、英國政府はこの確言に信頼する旨を告げた。(ボンソンバイ、一一二頁、一九二五年十一月四日の「タイムズ」、一九二五年十一月五日のケルン新聞、マグデブルグ新聞、新チューリッヒ新聞、ラスツェル二〇七頁參照)

英國宣傳の一層廣い分野を占めたのは潜水艦戦争、ツェペリン飛行船の襲來及毒瓦斯戦争であつた。海賊の國際法に對する挑戦と名付けられた獨逸の潜水艦戦争は、始めから戦争の間英國の封鎖の益々悪化する襲撃に對する防禦の爲であつた。獨逸潜水艦に對する慘行宣傳は、甚しく狂愚な漫畫に利用された。多數の新聞雜誌には、その中には眞面目なものもあつたが、獨逸潜水艦に關する報告が絶えず繰返へし「狂へる海豹」といふ總合的表題で掲載された。或は隠した大砲で浮上つた潜水艦を突然撃沈し、或ひは巧妙なる練習によつて衝角で撞いて、無害の商船に偽裝した敵の船舶が命令によつて浮んでくる潜水艦に加へた謀略を宣傳は特に詳細に描寫した。英國水兵及海軍將校の剛勇、忍耐、犠牲心は事細かに描かれた。特に有效であつたのは、中立國に穀物を運送せんとし

た商船撃沈の様を報じた描寫であつた。輿論の毒殺に大なる役割を演じたのは所謂獨逸潜水艦の司令官及乗組員によつて行はれた犯罪であつた。多數の宣傳文書は潜水艦に對する英國人の正義の戦を述べ、獨逸に於ける一切の食料の騰貴と窮乏が海戦との最も妥當なる對照をなすことを指摘した。(ウィリアム・アーチャー、海賊行爲、ロンドン、一九一八)

英國に於て勝利の希望が衰へた時に、ロイド・ジョーデは潜水艦戦争の危機は克服されたといふ意識的虚言を言はんと決心した。この虚言を宣傳は日に日に隠蔽、捏造特に、船舶撃沈、新造、獨逸潜水艦の損失に關する偽造の統計によつて支持せんとした。撃ちのめされた英國軍の沈滞した勇氣を宣傳はドゥアイ及オストエンデは占領されたといふ主張によつて振ひ立てた。(ヘルマン・デイーツ、敵の新聞と電報、獨逸評論、一九一七、一四三頁)

一九一六年夏ツェペリン飛行船襲來の時に、英國の檢閲によつて爆彈投下、その效果及損害に關する一切の報知は彈壓された。ツェツペリン飛行船襲來は、成功したか否かについて、聞く爲の一切の手段を外國に與へてはならなかつた。宣傳は獨逸飛行船の野蠻と獨逸空中戦の非道徳を強調し、英國々民の氣持を世界に向つて隠した。併しその後好んで空襲によつて破壊された建物及美術品の無數の寫眞を廣めたのは、單なる破壊欲からする獨逸の恐怖行爲の實行を明かにする爲であつた。獨逸の國際法違反行爲は、獨逸人は毒瓦斯を用ひた最初の人であるとする英國宣傳の主張によつ

て特徴づけられた。我々は獨逸人から彼等が化學の知識を持つ野蠻人の如く戦ふことを期待せねばならぬ。(一九一五年四月二十七日デリー・イクスプレス)「タイムス」一九一五年四月二十九日タイムスは英國兵士を窒息せしめ、毒殺せしむる獨逸の故意的計畫的企てを、この戦争が一切の英國國民及地上の一切の非獨逸國民に與へた憤激によつて明かにした。「それは我々の憤激と決斷を強め、あらゆる人種に獨逸の名前を嫌惡せしむるであらう。」ボンソンバイ(一四六頁)は、モード大佐は一九一五年三月の「陸と海」といふ雜誌で佛蘭西人は西部戦線で殺人瓦斯を用ひて成功を収めた事を既に述べている事を證明した。(フーバーは佛蘭西公報第四卷を引用してゐる。それによれば獨逸人は一九一五年四月二十二日始めて黄色の煙を出す殺人瓦斯を用ひたとある。これに關する公の英國聲明書は、著者は確め得なかつた)

英國のクロラセトフェノール及デヒロルヂヤシル・サルフィドの製出に成功後英國は毒瓦斯を戦争手段として廣く利用した。陸軍大臣キツチナーが軍備の缺乏から英國の破壊意思に充分に従はなかつた事は、英國内閣及輿論によつて非常に非難された。フレンチ將軍はタイムス戦争通信員レビングトン大佐に、非常に爆發性を帯びた彈丸を製出する意味に於て、英國輿論に影響を與ふべしとする指圖を與へた。ノースクリフ卿は有名なるキツチナーの失態によつて、軍需品供給の原則的改革を斷行することに成功した。英國軍による殺人瓦斯の利用もノースクリフ卿のこの宣傳陣營に

歸せらるべきである。既に一九一五年英國に於ては武器としての殺人瓦斯の製出に關する學問的著作が現れた。佛蘭西は既に一九一二年パリ警視廳食料品検査所の提案に基き一切の國際協定に反して戦争瓦斯を製出した。戦争勃發當時佛蘭西主腦部は三萬個のプロメシツヒ・エステルを充満した手榴弾があつた。それはアルゴネルヴァルトの戦でも用ひられた。(國民觀察者附録「國防政策」十二號、一九三四、三月)

ベルギー及北フランスに於ける獨逸人による荒廢及破壊の宣傳は、佛蘭西の叙述に於ては英國のそれに於けるよりも遙に大なる領域を占めた。英國の慘行宣傳はこゝに於ては主として佛蘭西の宣傳パンフレットの翻譯の出版に限られた。英國の人員的損失、特にそれが所謂獨逸人の許すべからざる武器によつて惹起された場合には、黙つていどころか、寧ろ反對に壁面揭示によつて廣められ、復讐心の刺戟に利用された。その他の獨逸の慘行としては「デーリー・メール」(一九一五年十一月一日の「デーリー・メール」スタリングス三二頁参照)はヴランイエの市民の虐殺、アルメニヤ人の殺害、ロツツのマリヤ像の強盜、ビーターズブルグの慘行博物館の開場を擧げた。獨逸に於ける捕虜の忍び難い取扱は、英國の捕虜の天國と對照された。獨逸法律新聞の論説、特にシヨルツ及フオン・カムへの論説は、國家間の條約には拘束力なしとする獨逸の學說に特徴的なものとして引用された。更に「デーリー・メール」は、獨逸に在る外國通信員は獨逸軍事實態に對して、品行方正、

書類の提出及戦争期間獨逸に滞在することを約束せる証書に署名しなければならなかつた事實をも獨逸の慘行として説明した。

慘行宣傳は更に獨逸皇帝及皇太子に向けられた。獨逸人を野蠻人なりと侮辱した英國の漫畫は、皇太子をフン王エツツェルと一緒にした。皇太子は多くの場合佛蘭西の城の中の掠奪者、盗人として述べられた。英國新聞「デーリー・イクスプレス」(ボンソンプイ、二五六頁)の見解によれば「プロシヤ皇太子は盗人の中の皇子、皇子の中の盗人として尙不滅の名聲を得ることが出来る。この現代の獨逸の精神は皇太子に現れてゐる。現代獨逸はあだかも勇敢なる無賴漢の如くに戦ふ。獨逸は英雄の如く死ぬであらう。併し獨逸は惡漢の如く人を殺し、普通の拘摸の様に盗むであらう」と。獨逸皇帝を諷した慘行畫は主として「バンチ」「バイスタンダー」「ブラックウツツ・マガジン」といつた雑誌が公表した。屢々獨逸皇帝は「獨逸、すべてに優る獨逸」を唱へるカナーン人の牛身の神の警司長として描かれた。又自分の死刑の辦積に薪を積む狂人として、王冠を戴く犯罪人として、野蠻人の首領として描かれた。

慘行畫は戦場に送られるすべての煙草の包装に添へられた。宣傳架、折り込み繪には慘行寫真やルイズ・レメーカースの慘行畫が描かれた。而してそれにはロイド・デヨーデ、ジョフル元帥、エデス・キャベル、その他の英國の殉教者の姿が描かれ、英國の戦争目的の標語「回復、充分なる賠償、

有效なる保證」が書かれてあつた。

宗教宣傳も慘行宣傳に役立たしめられた。英國僧侶は、キリスト教は當然戦争熱及敵に對する憎惡に反對するといふ障害を、「人道の宗教」に「人種の宗教」を置換へることによつて、大部分除いた。(ブライ、二七七頁) 教會は倫理の爲めの社會に非ずして、神自身が力を行ふといふことが確定された。キリストすら「消極的反抗者」及「祇度派信者」に非ずして、その敵に抵抗し、イエルサレムの破壊によつて磔刑に復讐したのである。(ブライの報告、獨立教派の僧P・F・フォーシットの書「戦争のキリスト教的倫理」に於ける彼の意見に付て。(一九一六))

英國の慘行宣傳としてはエデス・キャベル、ルシタニヤ及フライアット艦長事件の宣傳的説明も指摘されねばならぬ。この宣傳が慘行描寫及センセイショナルな通信の強力手段によつて活動したことは、既にすべての聯合國の個々の場合に於ける一般的關與に基いた。殉教者らしきものは慘行宣傳全部に強く現れたが、エデス・キャベル、ルシタニヤ及フライアット艦長の場合は著しく英雄的に寓話的に賞揚された。(エデス・キャベル、ルシタニヤ、フライアット艦長に關する書籍解題は著者の「世界大戰に於ける英國宣傳の書籍解題」にある。(世界大戰叢書、書籍解題的三ヶ月版、七卷、スツットガルト、一九三五年))

英國の慘行宣傳は佛蘭西のそれと提携した。慘行パンフレットは何十萬となくあらゆる國語で編

纂され中立國に送られ隣國を経て、我々の國境線を越えて密輸入され分配された。アメリカ合衆國に於ける輿論の影響は全く重要であつた。

獨逸の反對宣傳は多く不充分であつた。しかも防禦組織の範圍に關するばかりではなかつた。かくして英國の慘行宣傳は確定をせず事件を是認し、目撃的報告を廣め、更に偽造の基礎に立つて根據のない誹謗を公の支持によつて表明することが出来た。熟慮的宣傳の爲にこれらの事實は適當なる限度を越えてその効果を及ぼさねばならなかつた。

第五節 戦線 宣傳

政治状態及戦争目的の單純性を英國は戦争開始以來明瞭ならしめた。勝利を得んとする意思は獨逸に於ては軍部首腦者が代表せねばならなかつたが、英國に於ては國民に普及してゐた。英國に於ては政治指導部は戦争を敵を殲滅せしむる迄遂行せんと決意した。従つて戦争は自から政治的手段と成つた。英國の宣傳は祖國的一致によつて政治的圓熟を示した。英國の宣傳は獨逸新聞に現れた不統一の弱點を巧みに利用した。宣傳は人類の目的、人道的戦争目的の樹立に於て極めて好運であつた。英國宣傳の叙述する所によれば、英國人は、國際法を守り條約の神聖を擁護する爲に出征し、或る怪物即ち自主獨立の軍國主義に向つて、民主政治の名に於て戦つたのである。

敵に對する憎惡を喚起し、聯合國の友情と結合を守り、中立國の結合あはよくば協力を確保し、

而して敵を墮落せしめんとする、英國人の宣傳原則は戦線宣傳に最も露骨に現れた。

一九一八年春ノースクリフ卿の關與する前の戦線宣傳は、これらの原則を既に有效なる形式に於て發展せしめた。英國人は彼等の宣傳の目的を公然と議論することを憚らなかつた。獨逸の戦争に對する責任、ベルギーに於ける惨行、捕虜の虐待、獨逸の政治的無定見及陰險、獨逸の虚偽と粗野、プロシヤ獨逸國に於ける恣意的統治、獨逸國民の奴隸化は戦線宣傳擴大の爲に適當に發明された宣傳的非難であつた。獨逸の戦闘力を弱めるべき新しい標語がこれに加はつた。

廣い基礎の上に反君主政的宣傳が始められ、革命と大衆的ストライキの叫びがビラに印刷された。一九一七年三月のロシヤ革命、一九一七年四月のアメリカ合衆國の参戦は非常に重大な宣傳的武器であつた。獨逸の西部戦線の攻撃が弱まつた後、獨逸の退却の間、殲滅後の平和の宣傳の基礎を準備し、獨逸を覆滅する爲に宣傳によつて獨逸軍の精神力を破壊せんとすることは、一九一八年の夏ノースクリフ卿の任務であつた。獨逸戦闘力を完全に不具にすることは全戦線宣傳の究極目的であつた。宣傳は獨逸に於ける反國家的力のすべてによる促進と、反戦論者と國際社會主義者に期待した。宣傳は又獨逸逃亡兵及政治的亡命者として外國に滞在してゐた獨逸民主々義者等の非國民による直接的支持を得た。

ノースクリフ卿の参加前の英國戦線宣傳は計畫的には遂行されなかつたが、宣傳遂行の段階は知

ることが出来る。

一九一四年十月スイントン中佐が宣傳ビラを用意した。彼は當時「戦争通信員」(目撃者)として英國軍にあつた。彼のビラは多數印刷され飛行機から獨逸兵士の間にも廣められた。當時既にノースクリフ卿はスイントン中佐を彼のバリの事務所によつて援助した。(スチュアート、五一頁)英國軍隊指導者は併しスイントンの宣傳事業に理解を示さず、スイントンは事業を止めざるをえなかつた。スイントンの最初のビラは飛行機から撒かれ、その内容は獨逸兵士啓蒙の爲の報知であつた。

「宮廳の宣傳」の章で既にウェリントン・ハウスの宣傳部の活動は指摘しておいた。S・A・デモストは差當り單獨で戦線宣傳を指導し、宣傳文書を作らしめた。該文書は獨逸及オーストリー・ハンガリーに密輸入された。デモストは英國陸軍省の援助を受けなかつた。

一九一六年始佛蘭西から歸つた陸軍中將サー・デヨーデ・マクドノーは軍事情報部長となつた。彼及旅團長G・K・コカリルの努力によつて陸軍省軍事情報部宣傳班が作られた。(スチュアート、五二頁)スチュアート(クリュー・ハウスの秘密)の獨逸譯は個々の點が不正確で餘り信用をおけない)の教へる所によれば、この宣傳班の一つの課が、敵軍の間に分配する爲に獨逸語のビラを製作し始めた。このビラの目的は、獨逸兵士の間にも廣められた、英佛軍はその捕虜を非常に慘酷に取扱ふといふ誤つた觀念を反駁するにあつた。その爲に、事實獨逸の捕虜によつて書かれた手紙の複寫、捕

虜とその收容所の寫眞及記述及それに類似した論據が用意され分配された。獨逸に於ける政治的經濟的不満が増大した時獨逸兵士をして彼等の祖國の内部情勢を彼等の將校が爲す以上に説明する必要があると思はれた。かくして獨逸の資料から出たビラ、例へば發禁された獨逸の新聞雜誌から出たビラが、戦線や宿舎に撒布された。

「軍事情報部」(M. J. 7. 7. として知らる)は「空の使者」といふ表題の情報週刊紙の發行を企てた。それは占領地域のベルギー及フランスの住民の間に廣める爲に佛蘭西語の通信を掲載した。これらのパンフレットは一九一七年四月六日から一九一八年一月二十五日迄發行された。次に發行を中止し、一九一八年三月七日再び開始された。(O. J. C. ストリート、戦線の後の宣傳、マインヒル雜誌、四七、一九一九、四八八頁以下)パンフレットは規則的に一九一八年十一月迄飛行機で配布された。英國の綴合せは、獨逸語で編輯されて「航空郵便」といふ表題を持つてゐた。

一九一七年の間宣傳ビラの撒布はよき結果を齎した。軍事情報部は佛蘭西大本營と協力し、一九一八年春には毎月約百萬枚のビラを配ることが出来た。(スチュアート、五四頁)

英國飛行家は敵の塹壕及その背後にビラを「ちらし宣傳」として撒布した。これに對抗する爲の手段として、獨逸政府は敵の飛行家が宣傳文書を撒く時に捕へられると、重い刑罰を科して脅かした。獨逸政府がそれを爲し得たのはこの文書の撒布は事實ヘーグ條約に違反したからであつた。し

かしの状態は英國軍部は問題にしてゐなかつた。

西部戦線に煽動ビラを撒いた二人の英國飛行將校ショルツ及ウィーキーが一九一八年一月獨逸軍に捕へられ、彼等の行爲は戦時法規に違反するものとして重い刑罰(飛行家は十年の懲役を判決された)を科せられた時に、英國政府は先づ英國政府の手にある獨逸飛行家に對する報復手段を以て脅かした。併し同時に英國政府はかゝる目的の爲にする飛行機の利用を先づ廢止する法令を發布した。英國のビラはそれ以後「氣球による」とされた。英國政府は宣傳の價値は人間の生活を賄ふことを是認しないことを知つた。獨逸の飛行家は敵軍にビラを撒布することを禁せられた。

その代りとして英國の工業は若干の新しい技術的發明を提供した。手榴彈や擲彈筒が作られ、それは敵陣に爆裂する時に勿論制限された敵の塹壕の上にビラの雨を注いだ。その後同一目的に役立つ迫撃砲が活躍した。(飛行家及氣球による宣傳、ストリート、四八八―四九九、スチュアート、五四―六〇、フェルガー、五〇〇頁、ナムメ、四一頁、アンシ及トンヌラー、敵の戦線を突破して) (パリ、一九二二)一三、一〇九、一五六頁、更にベルリン陸軍省の行動、國際法違反の中心地)英國航空發明委員會、軍需品發明部、ウールウィッチ王立保管所の檢閲、軍事情報部の將校はビラの撒布に驚くべき利用性を生じた絹製氣球を試みた。この試みに特に重要なものは、氣象學の進歩であつた。氣象學は風力の計算をいかなる高度に於ても可能とした。(ラスウェル、一八一頁)

毎週殆んど二千個のこの種の氣球が製作された。それは三十六時間空中にあり、約四ポンド（四ポンド數オンス）（スチユアート、五六頁）即ち五百乃至千枚のピラを運び得た。現在の浮揚力は氣球を五、六百米の高さに飛ばすのに充分であつた。この運送方法は併し風向きが良い事を前提としたので、飛行機ほどは成功しなかつた。

遂に導火索に火を附けてピラを下す方法が最も信頼が置けることが解つた。適度の長さの綿の心が燃焼時間を正確に計算して針金に固く結へられ、針金は氣球の頸に固着せしめられた。宣傳文書は小さな包装にして、既に導火索に結へられてゐた。氣球に瓦斯を満し、載せられた撒布物が結へられるや、導火索の自由になつてゐる端は任意の長さに、最初の包装に至る迄に、導火索が計算された時間だけ燃える様に、切斷された。包装が落ちる度にその落下は底荷の投下と同じ作用をし、氣球はかくしてその航空の終迄氣球が絶えず瓦斯を失つても、空中に停つた。各氣球は二百キロメートルの距離を飛べたので、ピラはこの方法によつて風向きが良ければ獨逸軍の背後にまで達した。

氣球の底荷は優勢な風向に應じて選擇された。風がベルギーに向つて吹けば、「空の使者」の文書が結へられ、獨逸に向つて吹けば、獨逸語で書かれた獨逸軍の爲の「航空郵便」ピラをとつた。

一九一八年の晩夏及秋には風は殆ど常に獨逸に向ふ方向に吹いたので、何百萬枚のピラは都合よく獨逸戦線及奥地に届くことが出来た。宣傳ピラの印刷から撒布の完了迄の時間は纔に四十八時間

であつた。

この技術的成功は、ノースクリフ卿が一九一八年二月敵國に於ける宣傳の指導を引受けた時に到達された。彼は更に飛行機を宣傳撒布事業に復活せしむることに成功した。獨逸はヘーグ條約を用したが効果がなかつた。飛行機による撒布方法の停止に双方を義務づけることも成功しなかつた。（ニコライ、世界大戦に於ける情報事業、新聞、國民感情、ベルリン、一九二〇、一六二頁）

英國の宣傳は、獨逸は上述の理由から、英國宣傳の技術的發明を模倣し得ずと看破し、獨逸がそれを試みた所では獨逸人はこの宣傳を理解せざることを知つた。故に英國の宣傳はその長所を非常な力を以て戦争の終迄利用した。獨逸は遅く、極めて遅く、始められた反對宣傳の企ての際纔に熱氣氣球を用ひた。これは乗組員は乗らず。敵軍の上に落ちた。英國戦線宣傳の成功は結局ピラ配布の技術的優越に基いた。

一九一四年から一九一六年に至る間は、先づ大抵ピラ、漫畫、小さなピラが撒かれ、その中で投降を促し、戦争の喜びと勝利の信頼に反對する氣持が書かれてあつたが、一九一七年に入ると共に撒布された文書は政治的書物及パンフレットに擴張し、それらは獨逸の戦争に對する責任を證明し、不満を煽動するやうになつてきた。

英國のピラ宣傳の始めは殆んど援助がなく不手際であつた。一部は貧弱な表装であり、一部は拙

劣な内容で、多数の印刷上の誤りだらけであるこれらのビラの起源や由来は直に解つた。これらのビラは多かれ少かれ意識的に獨逸兵士を投降する様に動かさうとした。

英國陸軍省の戦争事務所對敵宣傳部及ウェリントン・ハウスの製作物の中には、この宣傳に使はれた多数のまだ極めて原始的表装をした飛行機によるビラ及墮壕ビラがあつた。

漸くにして始めてビラの印刷術による製作が完成した。文書の内容は大きな見出しによつて強く目を引いた。獨逸人は最早や祖國の爲に戦ふに非ず、祖國を裏切る支配者の爲に戦ふといふことを獨逸人に明かにせねばならぬと絶えず主張された。その外墮壕ビラが複寫され、撒布によつて廣められた。その中に於ても宣傳は英國人の捕虜に對する態度は人道的で、偏見なく、捕虜收容所の生活は瞑想的であることを示さんとした。

ビラの中には好んで英國の勝利の公の報告が發表された。捕虜となつた獨逸兵士、捕獲せる大砲、機關銃の正確なる數及戦死傷者の數が告げられてゐる。英國軍の軍事技術的、道德的優越が強調せられ聯合國の數的優越が中歐諸國の力の關係と比較されてゐる。

英國陸軍省のその他の宣傳手段は「軍隊情報新聞」といふ名前のビラ叢書であつた。始めはビラ叢書は數字を變へて色々の大ききで現れた。

かくして數字は書いてあるが、表題もなかつた。表紙があるだけの一群と、號數があり表題もある

一群とあつた。軍隊情報新聞は氣球で撒かれねばならなかつた。それは角や縁に氣球ビラである特徴がある。即ち宣傳ビラを入れた包装が氣球から離れる時に生じた穴である。表題のない軍隊情報新聞は千號乃至千十二號に及んだ。表題のあるものは千十三號から始つた。これらのパンフレットの中では徹頭徹尾獨逸皇帝、プロシヤ貴族達、軍國黨、官僚、戦争奸商が戦争及その永續の責任者なりとされた。

漫畫を用ひて攻撃が極めて種々に行はれた。特に獨逸の権力政治の結果たるアメリカの參戰は繪に描かれた。軍隊情報新聞千七號は、「何故潜水艦は勝たなかつたか」といふ表題で、獨逸潜水艦乗組將校で、死亡或ひは捕虜となつた者の氏名の長い表を公表した。他のビラ「英國勞働者と戦争」は、將來の世界平和の最も安全な保證をなす、社會主義インタナショナルに對する信頼を明かにした。

軍隊情報新聞千十四號には獨逸軍國主義反對の宣傳目的が最も明瞭に現れた。それには「我々の眞の敵は誰か」といふ見出しで次の如く書いてあつた。「諸君。我々の大多数は戦争を欲しなかつたといふことを我々は知つてゐる。然るに獨逸の或る階級が戦争を欲した。而してそれは支配階級たる將校及大地主特にプロシヤに於ける將校、大地主の階級であつた。而して何故に彼等は戦争を欲したか。それは戦争が彼等に地位と利益と彼等の享受する特權とを與へたからであり、又彼等が戦争

をせずしてはこれらを維持し得ざることを知つたからである。諸君は心の底に於てそうだとはいふことを知つてゐる。戦は諸君の支配者に向けられ、英、佛、米人に向けられてゐるのではない。我々は、併し、諸君が彼等の道具と成つてゐる限りは戦ひを続けねばならぬ。我々の欲することは、戦争を不可能にする事であり。このことが起り得る前に、戦争から利益をうるが故に戦争を信する者達から政治的権力を奪はねばならぬ。我々の敵の國には、唯個人として、我が國に於ける組織的階級の如くにでなく、政治的権力も持たぬ様な人がゐる。獨逸に於ては諸君の知る如く、貴族と將校の出る階級が殆んど全政治権力を握り、彼等が纔に國民の小數であることに拘はらぬのである。勿論彼等は最後迄戦ひ続けるであらう。蓋彼等全體に關することだから。しかし我々の利益はそれと一致するであらうか。彼等の損失は我々の利益であるといふことが寧ろ正しくないか。諸君自らよく考へてみよ。」と。

軍隊情報新聞は多くの場合戦線カードとして利用された。カードは英國人が防禦線の重要部分を突破したことを示した。ぎざ／＼の横木が防禦線で黒い横木が英國軍の到達した場所を示した。

戦線カード新聞は統計的宣傳印刷を載せて、ばら／＼にしてピラとして撒かれた。獨逸兵士の爲の獨逸文の内容のカードと、ベルギー及フランス領土の住民の爲の佛蘭西語の内容のカードとあつた。通常戦線カードは「聯合國の勝利」と印刷されてゐた。英國軍の捕虜及捕獲せる大砲は、正確

に報知された。その際英國に於ける戦争技術的活動及獨逸に對する優越を現された。

英國のピラは色々の大きさにして撒かれた。戦勝を知らせる細長い紙、納入のピラは無數であり、一部は「氣球による」と書いてあつた。形と表装は變化した。ピラは内容的にいつて屢興趣に富んだ描寫をなし、戦線兵士の精神的態度が書かれてあつた。

獨逸軍部の不遜なる支配欲の犠牲となつて、戦場の露と消えた獨逸兵士の日記帳の内容が、屢公表された。嘗て「墓の中からの聲」といふ標語の下に墓の中からの死者の宣傳的效果に富んだ訴への言葉が複寫された。

西部戦線に撒かれた英國のピラは、ブルガリヤ軍に影響を與へる爲にサロニキ戦線にも利用された。飛行機によつて撒布せられた啓蒙文書は占領地域に於ける持久宣傳の爲の重要手段であつた。

「空の使者」の宣傳ピラは、英國で印刷された時は、「真相を傳へる空の週報」といふ第二標題を附けられた。戦線報告、惨行報告、諷刺的註釋、偽造寫真によつて佛蘭西語で書かれた持久宣傳ピラは内容的には活潑となつた。英國飛行家はそのピラを、占領せられた北部フランス及ベルギーの住民の啓蒙の爲に撒布した。このピラはその後氣球によつて廣められた。ピラは英國陸軍省により一九一七年四月中旬から一九一八年七月迄出版されたものであつた。

英國の大衆宣傳の特徴的なものとして、煽動雜誌「眞實、獨逸に向けられた世界の探照燈」が週

刊として出版された。この雑誌は飛行機による撒布により西部に廣められ、英國及中立國に於ては大衆を啓蒙する爲に廣められた。二つの群を確定することを得た。八十一號乃至百四十八號に至る第一群と總に四號を數へた第二群とである。

雑誌「眞實」は繪と文を用ひて獨逸制度の計畫的誹謗を得意とした。主として人道的な英國の海戰と野蠻な獨逸の海戰の對照が爲された。獨逸皇帝は狂愚なる漫畫にかゝれた。多くの繪はミス・キャツェルの最後の瞬間を表した。英國の戰勝報知が英國の戰爭目的の將來の實現の蓋然性を確めることによつて、英國の戰爭目的は有効に強調された。アメリカに於ける獨逸スパイは輕蔑された。

「眞實」の百四十二號は獨逸皇帝を植民者として示した。即ち二人の住民が獨逸人によつて木に吊されてゐる。「眞實」百十三號は「獨逸文明の凱歌」の表題で獨逸の戰爭犯罪を列擧した。一九一七年三月出版「眞實」八十四號は二つの大きな繪を對照した。即ち紀元四百三十七年、掠奪的フン人の行列。紀元千九百十七年、釘附けでない限り、一切の物をさらつて行つた、掠奪的フン人の行列である。「フン人」なる言葉は主として英國人によつて獨逸人誹謗の爲に使はれた。他の「眞實」の繪（眞實百十二號）には獵服を着た腹の大きな一人の獨逸兵士が、微笑しながら右腕に三匹の死んだ兎（ベルギー、セルビア、ルーマニヤ）の血の附いた耳を持ち、左手には太い棍棒を持つてゐる。その下には「我は自衛の爲に行動せり」と書いてある。

「眞實」のピラは更に戰爭國の經濟狀態を論じた。而して英國の經濟及工業の事業能力を過度に賞揚した。英國の軍需品の用意は如何に無盡藏であるかを示す比較表が附録となつてゐた。ロイド・デヨーデは國民的大英雄として賞揚され、他方獨逸皇帝及ルーデンドルフ將軍は世界大戰の惹起者として非常に輕蔑された。「眞實」及その他の戰線宣傳書は英國國民の間に非常に人氣のあつたヒンデンブルグ元帥を繪にも文書にも決して書かなかつた。

その他の重要な宣傳手段は複寫した捕虜の手紙及複寫した捕虜の葉書であつた。捕虜となつた獨逸兵士の手紙の複寫も同様に叢書の形式で廣められた。

捕虜の手紙の描寫は本物の様であつた。にも不拘英國活字と英國インクから出所が解つた。蓋に多くの場合は、英國の捕虜を宣傳する偽造の捕虜の手紙であつた。フーパーの述ぶる所によれば（フーパー、二二四頁）英國人が宣傳手段を必要とする時は、彼等は獨逸人を捕虜にするとすゞ、質素な食事を與へた。次に彼等は捕虜に向つて彼等が捕虜になつてゐるが、待遇がよいといふことを郷里に手紙で通信することを強要した。かうやつて得た手紙は、次に正確に複寫され（正確さは擦り汚した鉛筆書でも複寫された程正確に）獨逸の戰線に撒布された。

複寫された捕虜の手紙は、著者も閱覽することが出来たが、それが偽造であるといふ疑問を起さ

しめなかつた。チムメの研究の結果は(チムメ、百四十五頁)これらの捕虜の手紙は真正なりとしてゐるが、一般に然りと言ふことは決して出来ないものである。遙に多くの場合は偽造であることは、内容の明白なる宣傳的意圖が明瞭に證明してゐる。又それが偽造であるとする獨逸文献の見解は、英國側からは從來反對されなかつた。獨逸人の手紙による捕虜宣傳は内容的に、獨逸兵士は英國に住むこと天國に住むごとく、彼等は良き食物と援助を得、毎日を主としてスポーツ、遊戯、觀劇に過してゐることを示さんとした。

ドンニグトン・ホール。アレクサンドラ・パレス。ドーチェスター。ハンドフォース。ロフトハウス・パーク。イーストコートに在る六つの英國の大捕虜收容所の寫眞は、明白に、如何に待遇が「よき」か、又各の戰爭國に捕虜の好待遇を嚴格に義務づける國際法上の協定及人道的感情が如何に尊重されてゐるかを示さんが爲であつた。(獨逸戰爭博物館聯盟通信の「英國捕虜收容所新聞」の寫し、一號、一九二一年、十二頁、第一表參照)

郵便葉書には「我々は唯美しい世界に居る」といふ上書が書かれた。(本當らしい偽造)豊富に挿繪を入れたパンフレット「大英帝國に於ける獨逸捕虜」は何百といふ寫眞で本當の捕虜の天國を描いた。印刷技術の上では英國人は、この領域では著しい業蹟を爲したが、併し内容的には、整頓に關する限り、恐らく佛蘭西人が最上のことを成し遂げた。(フリーバー、二三四頁)多數の英國複寫印

刷物は捕虜の手紙のあたかも原物の様に青いインキで書かれて、製出された。

英國人が「氣球で」撤いた遙に有效であつた宣傳ビラは「航空郵便」叢書であつた。チムメ(チムメ、一四四頁)によれば、これらのビラは英國陸軍省で編輯され、纔に最後の三、四種のビラがロンドンの帝國戰爭博物館の教示によつて、クリュー・ハウスのノースクリフ卿の宣傳中央部に於て作られた、とある。

航空郵便ビラは叢書にして發行された。表紙と表題は變化した。表装の種類も同様であつた。最も影響に富む叢書の檄にはA・P(航空郵便)にいふ文字或ひは「氣球による」といふ文字が印刷されてあつた。

宣傳は獨逸皇帝、獨逸皇太子、ルーゼンドルフ及び全獨逸主義者を攻撃した。多數のパンフレットが出版されその中にはあらゆる獨逸文の引用を利用して、戰爭が獨逸政府及獨逸國民の世界征服計畫の實行として指摘された。方言を用ひたビラはバイエルン人をプロシヤ人に敵對せしめんとして煽動せんとした。革命思想は獨逸軍の精神状態を準備成れりと見た。階級的憎惡、特に都市と農村との間の敵意は、獨逸國の統一を動搖せしめ獨逸を支配者の一家から、支配者の家族を國民から引き離すに適當であつた。

かくして航空郵便紙第二號は一九一七年十二月十六日の「前進」の論文を掲げた。該論文は戰爭奸

商、密輸入又一般に食料政策に對する戰に於ける獨逸の完全なる敗北を報じた。航空郵便紙第三號は聯合國の戰爭目的を公表した。即ちベルギーの獨立の完全なる回復。セルビヤ、モンテネグロ及びフランス、イタリー、ルーマニヤの占領部分の復活。獨立國ポーランド。眞の民主主義の原則に基くオーストリー・ハンガリーの實際的自治。イタリーの自然的要求の満足である。アラビヤ、アルメニヤ、メソポタミヤ、シリヤ、パレスチナはその特殊の國民的要求の承認をうべきであつた。「國際法の蹂躪に對する賠償が考へられねばならぬ。平和保證の爲の國際組織が作られねばならぬ」。

航空郵便紙第四號及第五號はライブチツヒ國民新聞の通信を印刷した。獨逸政府の合併計畫に關する一九一七年十一月二十九日のフーゴー・ハーゼの演説及社會主義者カール・カッツキの「帝國議會に於けるハーゼ氏」及「平和談判」といふ二論文がそれである。

航空郵便第六號は「たゞ冗談に」といふ題目で皇太子を彈劾した。諸君は獨逸には、この戰爭を冗談だと思つてゐる或る男のゐる事を知つて居られるか。この男こそ諸君の皇太子だ。彼は戰爭を悲まぬ。彼は砲彈下の塹壕には居ずして、極めて安樂に、佛蘭西の或る城で暮してゐる。食物は満ち溢れシャムペンを飲み、しかも世界は彼を大將軍と思つてゐるといふ信仰を抱いてゐる。」と。

所有階級に對する獨逸から起つた忿怒の聲は皆慎重に集められビラに書いて廣められた。全體で

十四部になり、一部は二頁、一部は四頁に亘り印刷されたビラの航空郵便叢書は、一切の獨逸階級即ち識者にも勞働者にも社會主義者にも向けられた。

航空郵便紙第二六號は既に全くノースクリフ郷によつて唱へられた標語を忠實に守つた。その中には就中次の如く書かれてあつた。「一切の文明及人道の最高の裁判官たる諸君自身の心は、諸君よ、諸君が銃の抛棄を命ずる正義の指圖に従ふならば、諸君に感謝するであらう。聯盟、現實的世界國家聯盟が作られねばならぬ。そこには如何なる革命も見られぬばかりでなく、權利義務の道の上にはあらゆる武器は消え失せ、市民には平和の故郷に彼の將來を保證する機會が考へられる。」と。

航空郵便紙第六〇號は獨逸新聞の切抜きを轉載し、フリードリッヒ大王の言葉を引用した。「余の兵士が考へ始めたなら、軍隊には一人も残らぬ!!」と。航空郵便紙第七十三號は革命的、社會主義的態度を示した。その中にはハムブルグの戰爭の言葉が公表された。「我々は祖國の爲に戦ふにあらず、又我々の名譽の爲ならず、我々は唯無智から、大百萬長者の爲に戦ふのである。」と。

言葉よりも一層有效であつたのは航空郵便叢書の英國宣傳に於ける繪と漫畫であつた。通常全頁を滿した繪と漫畫は、恐らく最も強く獨逸軍に作用した。一九一八年夏に於ける獨逸軍の氣持はあらゆる將來の事柄に對する失望と無關心として描かれた。

屢々氣球によつて唯漫畫だけが撒布された。それは、英國人が正にこの宣傳の效用を正確に評價

した證據である。獨逸皇帝、獨逸將軍、その他の獨逸軍事關係者の恐ろしく歪曲された繪の外に、四年の間戦つて來た獨逸兵士の精神的態度が彼等自身の状態と未來を考へて軟化しなければならなかつた様な慘行畫が撒布された。航空郵便畫は全英宣傳の中で最も効果ある影響手段に屬した。

次に最も痛烈な繪を指摘してみやう。(航空郵便畫の引用はストットガルトの世界大戰叢書の中にある。ナムメも戦争新聞事務所の書類によつて(ピラ叢書)航空郵便報告をなしてゐる。ナムメの引用する航空郵便は、一八、四七、四八、(一三五頁)四九、(一三七頁)一九、二九(一三九頁)四(一四二頁)一三(一四三頁)、九(一四六頁)二九(一五二頁)各號である。著者は從來知られてゐない航空郵便ピラ及畫を選んだ。)

航空郵便畫第二十五號では、「將軍」が單純な兵士を、「獨逸兵士、勝利の報酬」と書かれた、身の丈より高い「鐵十字勳章」に釘附けにしてゐる。軍國主義は罪の無い兵士を死に追ひやる。兵士は唯「鐵の墓標」を獲得しうるのみである。航空郵便畫第三十一號には巨大な頭蓋骨の開いた咽喉の中に、「貴族」と獨逸軍事工業家によつて哀はれな兵士からなる全軍隊が追ひ込まれる。「今日は君達(我々の仲間)が行く—明日は自分が—」といふことが兵士達に告げられてゐる。航空郵便畫第三十號では、「ミヘル」に體現してゐる「獨逸國民」が盲目的に「勝利の鬼火」の誘惑的女の姿を追つてゐる。ミヘルは谷底に落ち、その中に勝利の鬼女は空間に消える。(アストンは「秘密の仕事」二

八六頁で、航空郵便畫第三十號とは同一ではないが「獨逸のミヘル」のピラの著者であると告白してゐる)航空郵便畫第三十五號では何千といふ墓標のある大衆墓地が、まぶしく輝く太陽と對照されてゐる。「諸君の支配者は太陽に場所を要求するが、併し諸君は諸君の場所を何處に見出すであらうか」は單純な兵士を感銘せしめた。航空郵便畫第六十四號は英國にある或る獨逸人捕虜に宛てて、ベルリンから一九一八年二月に書かれた手紙の内容を明かにしてゐる。「六週間の間私はぶらぶらしてゐる。至る所で私は負傷の爲に斷られ、何處にも雇はれない。これが祖國の爲の奉仕の酬いだ。若しこの山師的計畫が我々戦争で損害を受けた者にとつて悪い結果に終つたら、その後は如何になるべきだらうか。」との繪は拗ねた顔をした腕のないプロレタリアが、職を求めてゐるのを示してゐる、戦争で儲けた者は彼を嘲笑してゐる。

航空郵便畫第三十一號には「獨逸民衆よ。諸君は戦争の盃を諸君の戦友の死骸の最後の一つ迄飲まねばならぬのだ!」とある。恐ろしい頭蓋骨が「獨逸」といふ戦争の酒杯から最後の獨逸の戦線兵士を飲んでゐる。航空郵便畫第五十九號では兄弟殺のカインに描かれた「獨逸多數黨社會主義者」が「ロシアの自由(アーベル)を撃殺してゐる。背景には「インターナショナル」の祭壇が煙を出してゐる。何故お前はブレスト・リトフスク條約に抵抗しないのかと、獨逸労働者に説かれてゐる。それは神聖なるロシア革命に對する裏切である!!(この繪は指示なしに、ドラーン・レオンハ

ルド、世界大戦中の革命獨逸の地下文學、ベルリン、一九二〇、一二九頁に印刷されてゐる。更に、雜誌「國民と時」「前進」繪、一卷、十六號、亦獨逸戦争博物館聯盟の通信、二號、一九二〇、四〇頁、二及四表参照）航空郵便畫第三十六號には、よく肥えた獨逸國民といふ驢馬が一九一四年の影の下に、光り輝く獨逸の車を問もなく來るべき勝利といふ誘惑的餌を前につけて引いてゐる。太つた陸海軍の將軍に體現してゐる軍國主義の荷物は、國家の車の呑氣な運行を妨げてはゐない。紀元一九一八年獨逸の驢馬は、肥えた戦争利得者の重みで壊れさうになつてゐる、獨逸の綴ぎだらけの車をやつと努力して前に進めてゐる。希望の勝利は、驢馬の「報酬の餌料」が暗示する如く、負けた國民の「損害賠償の勝利」となる。（指示なしに、ドラインに發表さる。一二八頁、このビラは一九一八年七月七日發見された）これらの航空郵便畫及漫畫は獨逸戦線に於て不安、心配、不満、主として一九一八年には革命的氣持を作ることを目的とした。それらは共に世界大戦に於ける英國宣傳の心理學の最も意義ある貢獻である。

多種多様の詩と散文の出版の外、就中繪畫が宣傳に役立つた。氣球や飛行家によつて撒かれた繪入雜誌の澤山の漫畫や慘行畫は、獨逸兵士に封鎖の結果としての祖國の困窮と貧困を指摘する任務に役立つた。この貧困畫は英國捕虜收容所、塹壕、英國都市の食料販賣所の状況の繪や寫真と對照された。「最後の戦争の爲に立つ」といふ繪は宣傳ビラに集中する頭を描いた。それは獨逸公債の爲に

畫かれたのを、戦争新聞局が出版したのであつた。（「國民と時」「前進」の爲の繪十六號参照）偽造だと言はれない様に、その繪は巧に變へられた。左下のジョン・ブルの典型的姿の代りに、獨逸皇帝が描かれた。同様の方法で二頁の四つ折版の内容が變へられ、他の繪の偽造が導かれた。

繪の美術的な性質に付ては意見の對立は殆どなかつた。それは一見して考へれば多かれ少かれ巧妙なる宣傳的産物である。佛蘭西の繪は感傷的であるが、それを英國で複製する時は一層粗野な英國の型は見逃せない。勿論個々の紙に一部引用された藝術家の名前は偽造であつた。英、佛ビラの中で何れが危険で効果があつたかの問題は容易に答へられない。英國人はその宣傳を自ら最も高く評價した。

一九一六年九月以來英國の宣傳氣球によつて偽造の新聞、パンフレット、ビラ、雜誌の外に佛蘭西の宣傳文書が撒かれた。それは最初「戰場郵便」といふ表題で出版され、十三號から「獨逸國民の爲の戦時新聞」といふ表題を得、遂に三十號以後一九一七年一月一日の新しい號を「自由な獨逸語」といふ表題で始め、それは停戦迄續いた。（ラスウェルは一九一五年十月以來の佛蘭西宣傳ビラの出版を報告してゐる、一七八頁）

これらの雜誌は始めて一九一七年に本來の革命的論文を掲載し始めた。該論文は屢々チューリッヒの「國民の權利」、「ベルンの自由新聞」等のスキスの新聞及オランダの雜誌から轉載された。（航

空郵便紙第四十二、更にドラーン・レオン・ハルド一七八頁以下参照)

二十五以上の種々の題目が英・佛・米の資料から見出された。これらの資料は殆んどすべて、一九一八年のもので、明かに十萬冊づゝ屢々繰返して出版された。これらのパンフレットの表装は決定的に獨自のものであつた。蓋個々の場合に於ける如く中立的表題や黒、白、赤の色彩のものばかりでなく、黒、赤、金色の表紙も選ばれたからである。最後のものはしかし殆んどすべての場合フランスから出ていた。

一つ折版の書「陽氣な未亡人」はエリヒの詩と共に苦勞性のミヘルを「ムツシユード・パリ」として示した。それは佛蘭西から出たもので、一九一七年の末に出た。(ドラーン・レオン・ハルド)表紙は既に一九一五年四つ折版として飛行家によつて撒かれた。英國飛行家は、佛蘭西のピラ、時にはフランデルン語のピラも、ベルギー及北フランスの占領地域に撒いた。それは典型的にベルギー的印象を與へたが、ロンドンで印刷されたのである。徹頭徹尾持久宣傳文書が問題となる。

英國の宣傳は一九一七年の後半に於て革命的となつた。色々の原文をのせた三十枚以上のピラは例へば「獨逸の社會主義的プロレタリアートに告ぐ」或ひは「獨逸兵士よ、諸君は新たに屠殺臺に引かれ行く」といつた表題を附けた。英國宣傳は、獨逸に於ける一切の價値の崩壊を誘致せんとした。一九一七年春ロイド・デューデは、既に「獨逸人は唯獨逸人によつて征服される。ことが出来る」

といふ唯一の理由から、五億の秘密宣傳出版を要求した。

過度の緊張の負擔の下に内外から準備された國家が出現することが出来る瞬間が到来せる如く思はれた。(アストン、二八六頁、ナムメ、一六八頁)革命的宣傳は獨逸に於ける革命運動の爲の積極的理想を樹立せんと努力した。その努力に當つては、「諸民族の自由」「戦争に對する戦争」といふ標語が、最大の領域を占めた。破壊運動の外に、全歐洲に及ぶ國際的社會主義の宣傳及専ら中歐諸國に向けられた革命を目的とする煽動を區別することが出来た。(大戦一九一四—一八。十卷。Mシユヅアルテ出版ライプツヒ一九一三。十卷、戦争組織三部五二七頁以下)數千のピラ、パンフレットはスペインから獨逸に向けられた。攻撃目標は獨逸皇帝、諸侯、彼等の收入、賠償と征服なき平和の誘致であつた。無賠償無併合の平和、民主化、議會政治化、大衆ストライキの宣傳はあらゆる力を以て始められた。

一九一八年の始から宣傳は特に軍部首脳部就中ルーデンドルフ、參謀本部員及將校に向けられた。この爲に全獨逸主義者及愛國黨の、目的を越えた報告が巧妙に利用された。(大戦)宣傳ピラは明白に獨逸將校に對する反抗を要求した。一九一八年一月ロイド・デューデは獨逸に於ける革命は眼前にある、英國は征服による平和を強要するであらうと聲明した。英國の宣傳が如何に正確に獨逸に於ける革命運動を教へたかは、就中一九一八年一月二十六日附「タイムス」の彈丸製造工場職工

の大ストライキの勃發に關する報知が證明してゐた。(バウル・レーマン、世界大戰の舞臺裏。ライプツヒ、發行年不詳、ハムマー紙三十二、七頁) 該ストライキは事實は一月二十八日に始めて起つたのであつた。

非常に熱心に自ら同様の訴へを爲した獨逸國民の一切の文書が廣められ、利用し盡された。戦争の責任の問題は、パンフレット宣傳の燃焼點に達した。これらの「獨逸人」の書いた本及論文は多數廣められ、多數の言語に翻譯されて出版された。その中には、特に、リヒノウスキー侯、ミュロン、グレルング、グルムバッハ、レーゼマイエル、バルデル、フェルナウ、スチルグバウエルの書があつた。(ラヌッセル、一七八頁) 獨逸人が敵の宣傳事業に活躍し、或ひは少くともその道具を提供したことは、世界大戰の最も悲しい側面の一である。宣傳の効果は、宣傳が獨逸の資料或ひは獨逸の代表者を支柱となしえたことによつて、非常に高められた。英國宣傳の中心を爲したのは、リヒノウスキー侯の覺書、余のロンドンに於ける一九二一—四年の使命「獨逸語、四版、ベルン、一九一八、英語版、ギルバート・コレイ教授の序言。ロンドン、一九一八) であつた。この獨逸政府に對する彈劾文は、著者が戦前のロンドン駐在ドイツ大使であつた事によつて、宣傳的に重要となつた。正に彼が英國政治の平和の意思の證人として登場したことは全世界に最大のセンセーションを惹起せねばならなかつた。

一九一八年三月スウェーデンの新聞「政治」は、連續物にして前獨逸大使リヒノウスキー侯の覺書を公表した。この公表は到る處に最大の激昂を惹起した。この公表は獨逸政府に對し、即座に態度を表明することを強要した。獨逸帝國議會、主要委員會に於て、(英國宣傳の叙述によれば) 指導者達は獨逸國民に向つてこの覺書の恐ろしい效果に抵抗するに適當なりと思はれた一切の「啓蒙」を與へる事に努力した。聯合國の通信員は覺書の最も重要な章を「政治」の原文に依つて中立國に廣め、又原文は秘密に獨逸で印刷されたので、豫期されうる印象を弱める爲にあらゆる努力を拂ふことが、ベルリンに於ては益々必要に思はれた。

この文書著述の動機はリヒノウスキー侯がロンドンから歸國せる後彼に與へられた激しい攻撃であつた。全獨逸主義新聞は彼を非難して、彼の外交的無能は英國の獨逸の敵國への加擔に責任があり、彼は全く英國有力者によつて囁着されたのであるとした。英國の宣傳パンフレットには次の如くあつた。「たゞ單に宣傳に従事してゐるのでない獨逸の證人が聲をあげる場合、即ち或る識者が彼の政府の希望に反對する意思なしに、戦争勃發前の事件を判断する場合、或ひは或る證人がかゝる公表程政府にとつて手痛く感ずる物のない様な政府の未發表の文書の形で出現する場合は、常に我々は熱心に傾聴するのである。リヒノウスキーが彼の政府の委任により、語り或ひは書いたとすれば、戦争國の外交官、政治家の多數の他の發言と同様に、彼の報知も等閑に附せられるであらう。」

と。(リヒノウスキー、余の使命、四―五頁) リヒノウスキーの覺書は「獨逸に於ては生ける者が今尙死せる者によつて支配されてゐる。最も優れた敵の戦争目的たる獨逸の民主化は事實となるであらう」といふ文章に於てその絶頂に達した。

多くの方向からリヒノウスキー侯に對する刑法的手續が激勵された。獨逸皇帝ウイヘルムも同一の「見解」を代表した。ルーデンドルフ將軍は屢々それに努力した。彼の書によれば次の如くある。(ルーデン・ドルフ、余の一九一四―一八戦争の思ひ出、ベルリン、一九一九、五一―一七頁)「獨逸皇帝の言葉はバンフレッツの適當の個所に置かれ虚言は罰せられた。印象を保證する爲に、リヒノウスキー侯と同様の考へ方は、國民を害するものであると公然と發表した、獨逸獨立社會民主黨の新聞の見解が添へられた。軍部方面ではベールフェルデ大尉が文書普及の責任者とされた。併し著者が罰せられなかつたので、ベールフェルデ大尉も罰することは出来なかつた。こゝに於てか余は更に宰相に向ひ、彼に、リヒノウスキー侯に對する處罰手續は我々の爲に戦ひ續け死を覺悟してゐねばならぬ軍隊を思ふとき、軍事的必要であると聲明した。皇帝にも同一の事を述べた。しかし何事も起らなかつた。」と。

かくして獨逸の側からは公式には覺書の公表は争はれなかつた。(停戦前の公の文書、一九一八、二版、ベルリン、一九二四、四頁、外務省内務省出版参照、ナムメ、一二三頁参照) この發表は、英

國宣傳によつて、英國國民の精神的抵抗力を強め、西部戦線の獨逸軍を動搖せしむる爲に多數の出版によつて廣められた。一九一八年三月九日ビーバーブルック卿は下院で、覺書は既に四百萬部以上廣められ、就中ノルデングラントの工業關係の住民に廣められたと報告した。(一九一八年三月九日の「タイムズ」) スチュアート(一〇四頁)によれば、リヒノウスキー侯の文書程の重要な宣傳資料が秘密に獨逸及オーストリーにかくも容易に普及したことは、英國宣傳員自身が誰よりも先づ驚嘆した。と。三月上旬參謀本部の報告によれば、既に一萬冊が英國から輸入された。(ナムメ、一二五頁) ピラとして利用された覺書の出版は、軍隊司令部の文書によれば、四十萬部に達した。と。(ナムメ、一二六頁) 航空郵便證書第三十三、第三十三a、第三十四は覺書の拔萃を載せた。覺書の出版は袖珍型で行はれた。

リヒノウスキー侯の覺書の外、英國の宣傳によつて、ウイヘルム・ミューロン博士の日記が特色ある煽動書として公刊された。(ミューロン博士の日記、ロンドン、一九一八、クルップ工場長による洩言、ロンドン、一九一八) 彼は一九一五年迄エッセンのクルップ工場長であつた。次にスキスに行き反君主政的書物を出版した。その内容は第一部で主として戦争の責任及戦争の開始を扱つた。八月六日の日記の終りに次の如くあつた。「あゝ。あゝ。有能な人によつて代表される歐洲諸民族が自らその運命を握り、彼等が互に諒解し、彼等がそれに従つて生活せんと欲する原則を立てるなら

ば、彼等は突然に、總ての者が同じ事を考へ望み而して全大陸が唯一の國民となり、關稅障壁は下り、各人がその母國語を語り得、如何なる國民も他の國民を壓迫せず、破壊或ひは輕蔑せぬであらうといふ事を知るであらう。」と。一九一七年八月五日西部戰線には、ミューロンの本の拔萃を含む英國のビラ「クルップ工場長の戦争日記より」が廣められた。(新しき歐洲、一九一八年六月、八九號)

獨逸民主主義者のバンフレットは屢々英語に譯され、拔萃されて宣傳ビラとして廣められた。かくして一九一八年ヘルマン・ヘルナツの「來るべき民主政治」ヘルナツの「余は獨逸人なるが故に」及H・レーゼマイヤーの「全獨逸人に對する一獨逸人の抗議的公開狀」(H・レーゼマイヤー博士は世界大戰前ベルリンのモルガン・ポストの編輯者であつた、彼は一九一四年九月獨逸を去り、スイスに赴いた)がバンフレットとして配布された。最大の宣傳的攻撃はリハルト・グレルング博士の「余は非難す」によつて遂行された。グレルングは獨逸語で、戦争を獨逸の帝國主義的目的より生じ、帝國主義的目的に役立つ征服戦争なりと聲明した。その際オーストリーは道具として使はれ、自らはバルカンの優勢に努力した。と。彼は最も鋭くこれらの努力のよつて來つた階級を彈劾した。即ち彼等を高い地位に置いた保護者、貴族と軍部の支配、プロシヤの「反動的」聯隊を彈劾した。最も鋭くグレルングは「解放の戰」の主張に反對した。

一九一八年九月及十月には、ノースクリフ卿によつて「秋期新聞」が廣められた。該新聞は革命の準備に努力した。櫛の葉で縁をとつた皇帝の寫眞の裝飾をつけたこの新聞は、意識的に好意的な親密さを盛つた文章で書かれたのみならず十ブヘンニツヒといふ買ひ値は、獨逸兵士によつて發見されたこの新聞が獨逸側によつて驅逐されないやうにする爲に、忘れられなかつたのである。(スツツテルハイム、英國新聞、ベルリン、一九三三、六十六頁)同様に唯それをそへて、アメリカは一秒に六人、一時間に四百二十人、一日に一萬八千人、一月に三十萬人歐洲に上陸したことが述べられた。

英國の戰線宣傳は、益々増加する獨逸に於ける革命的宣傳によつて、最も有效に助けられた。ユダヤ民主主義的新聞は、亦内政的に英國宣傳事業の努力を歓迎した。該新聞は、その曖昧な世界市民的考へ方を以て、獨逸國民の國民的統一を軟化せしめた。社會民主主義の新聞と同様に、該新聞は祖國の窮狀を、利己的、政黨政策的目的の促進に利用した。この新聞の特徴は、獨逸社會民主主義新聞會議により既に一九一四年に定められ、一九一八年始めて實際追求された規準であつた。それによれば社會主義政黨新聞は、熱狂的愛國主義及あらゆる極端なる愛國主義の遂行に反對し、獨逸政府の征服欲を攻撃し、戦争惨行、捕虜及負傷者の待遇の報知を最大の客觀性を以て取扱ふべきであつた。(ブライト・ハット、一九一四—一八年の國民の毒殺、ベルリン、一九二五、七頁)

・祖國の軟化と軍隊の毀滅を實行せる政治的意見は、やがて精細に且歴史的に確信を以てその活動を報告した。エミール・パースは、かれの著書「獨逸革命の仕事場から」に於て、正確なる基礎を與へた。(ベルリン) 第三インターナショナルの二人の加盟者エルンスト・ドラーン及スザンネ・レオンハルトは、彼等の書「世界大戦中に於ける革命獨逸の地下文書」に於て獨逸に於ける敵の宣傳と社會主義者の宣傳との間の協力を關する理由を説明した。その本は、一九一四年八月四日即ち「第二インターナショナルの命日」以來の革命運動の發展と共にかの「秘密」の珍稀な多數の例を掲げてゐる。それは戦争の間工場の中で手から手に渡されビラとして戦線に送られ注意深く扉の隙間から獨逸労働者の住居の中に投げ込まれ空中から撒かれ、最も良い所に風で吹かれて行つた。これらの文書の文句は、大衆の精神を把握しうる能力と外國の活動と獨逸に於ける革命運動との關係を示してゐる。(大戦、十卷、五三二頁參照)

歸休兵の革命的影響と過激社會主義的影響とが同時に始つた。鐵道列車の中では、活潑な宣傳が營まれた。左翼的であれ社會主義的であれ過激社會主義であれ、いづれにしても權力を覆さんとする努力は共通してゐた。(ルーゼンドルフ、五二〇頁) 英國宣傳によつて、就中航空郵便叢書及眞實叢書のビラに印刷された、「將校は兵士の金で生活してゐる」といふ標語は、有效なる標語となつた。而して再び戦線に歸る歸休兵が仲介した。かくして英國の紙製彈丸は打撃力と撒布力を得、獨逸兵

士をして、獨逸の見込のないことを確信せしめた。

獨逸軍の命令は將校及兵士に宣傳資料を直ちに届出る様に嚴罰を以て命じた。他面に於て、まだ知られてゐないパンフレット、書物、ビラ、繪を届出た場合は、報酬及著しい額の拾得料を次の如くに約束した。(スチュアート、一一八頁) 最初に現れた物は三マーク(約三シリング)、その他の物は三十プ(ヘンニツヒ)(約四ペンス)一冊の本は五マーク(約五シリング)であつた。獨逸兵士の届出たものは、一九一八年五月にビラが一億九千八百八十八萬四千枚、一九一八年六月にビラが十九億千八百十二萬枚、一九一八年七月にビラが九十億一千八百三十萬枚であつた。(フェルゲル、四五〇頁以下) 報酬は正確に拂はれた。情報將校が數へた額に關する統計は軍部最高首腦部の文書に書いてある。それによると、西部戦線に於ける十個の軍隊に一九一八年九月に於て届出られたパンフレット八十萬三千七百六十枚に對して、報酬として二十七萬七千三百五十六マークが支拂はれた。(チムメ、一八八頁)

獨逸兵士の考へを最も直接に證明するものは、勿論戰場からの手紙である。歴史的資料としては、併し漸く第二位に重きをなすのである。郵便檢閱所が戰場郵便を檢閲して、危険な手紙は押収したので、恐らく最も重要なものは沒收されたであらう。

英國宣傳文書の全體的活動は、容易に計算しえない。一九一八年三月迄に戦線宣傳に用ひられた

宣傳ビラの数は確定困難である。公の報告は全く無く、或ひは未だに秘せられてゐる。

これに反し、スチュアート(九三頁)は、クリュー・ハウスに於けるノースクリフ卿の活動に由来する、獨逸戦線の上及背後に撒かれた文書の数を擧げてゐる。それによると一九一八年四月には約百萬枚、一九一八年六月には百六十八萬九千四百五十七枚、七月には二百七十七萬二千七百九十四枚、八月には三百九十五萬八千六百六十六枚、九月には三百七十一萬五千枚、十月には五百三十六萬枚、一九一八年十月一日から十日迄の間に百四十萬枚の宣傳文書が撒布された。戦争の最後の週のビラの一週間の英國に於ける製造は全體で三百萬枚に登る。若し戦争が繼續したならば獨逸内部の軟化を目的とする印刷物のこの一ヶ月の供給は、千二百萬枚に登つたであらうと推定される。(フェルゲル) 聯合國の事業を總計すれば、各敵國の宣傳中央部により出版され、確に又大部分撒布されたパンフレットの總額は、六百五十五億九千五百萬に登つた。この努力が先づ向けられた、西部の獨逸軍はその最も多い時に三百萬乃至七百萬人であつたことを考へれば、これは莫大な數である。(エリツヒ・オット・フォルクマン、一九一四—一八の大戦、五版、ベルリン、一九二四、三百頁。チムメ、四十九頁) 戦線に影響を及す爲に更にその他の宣傳手段が提供された。特に重要なのは繪入戦争年代記であつた。ロンドンの出版所、ハリソン・アンド・サンズは、一九一六年より一九一八年七月迄の間「戦争」といふ表題で戦争記録を出版した。その編纂者H.C.O. ナイルの名が、一九一六年及一九

一七年には表紙に書かれた。その後は匿名で出版された。最も影響に富み、最も反獨的であつたのは月刊繪入アルバム「戦争畫報」であつた。そのアルバムは、八版就中佛、獨、瑞典、和、伊、葡の諸語で廣められ、佛蘭西の戦争記録「戦争、軍實眞班發行」に對抗した。「戦争畫報、ロンドン、ホッダー・アンド・ストットン、一九一六、ミルフオード・レーン。一九一六—一八)

繪入戦争記録の一種の特別版が「海の番兵」「沼や森を抜けて」といふ表題で英語で出版された。佛蘭西語の標題でも出版された。「工場より戦線へ」「ランブラカント」「戦線の後方へ」である。「戦争畫報」及「戦争」の出版物は英國の宣傳機關によつて外國に廣められた。「戦争畫報」は、註釋をつけて、一九一六年七月から一九一八年十一月迄西部戦線に廣められ、郵便の道を通つて中立國の新聞の間に密輸入された。戦争記録「戦線の後」(出版所、出版年無)は英國兵站の巧妙を描いた。「戦争畫報」は月刊で七十萬部出版された。

これに關聯して、文書及事實の偽造により眞面目な歴史的著作物たる價值を奪はれた、多くの英國戦争史を指摘しておく。

「タイムス戦争史」及H.W. ユイルソンの「大戦」は非常に版を重ねたが、これらの戦争史は、日刊新聞によつて報道された獨逸及その同盟國の粗野な觀察を内容とする煽動的宣傳書である。この兩「戦争史」は盲目的憎悪とあらゆる獨逸的なもの、野蠻な誹謗を事とした。

英國宣傳文書の分配と散布によつて作られた氣持は、同時にスパイの最上の培養地であつた。最も老獪に隠蔽された多数の秘密出版所は、ピラの印刷及スパイに役立つた。その外この出版所は獨逸兵士の爲の偽造の身分證明書及歸休證明書の製作に従事した。その助けを借りて、彼等に脱走を奨め、或ひは少くとも容易にせんと試みられたのである。(ニコライ、秘密の力、ライプツヒ、一九二三、一一四頁) 戦場にはフランスから航空路によつてスパイが入り、宣傳は自國の住民及獨逸軍に運ばれたが、又同様の事がオランダからベルギーへの航空路によつて行はれた。フオルクストーンの英國宣傳所は地下の活動の全般を監督した。その他の主たる團體はチンスレーの既述のもの、レスダンの伯の團體、ロツテルダムのロイテル通信、フアシ・チヘレン兄弟の團體、ヴリツシンゲンのカーボイン團、マーストリヒトのバゼイン團、ハーグのオツベンハイム少佐の團體等であつた。僱侶も直接スパイに關與した事實は、ベルギーに於ける大スパイ組織の發見の際、多くの場合に於て確認された。(ニコライ、一一二頁、こゝで簡単にベルギーの宣傳新聞の公刊を指摘しておく。一九一五年二月二日ラ・リブル・ベルデックが出た。レツエンで出版されたレツユー・ド・ラ・プレスは主として聯合國新聞の反獨的論文を掲げた。ブラツセルではラム・ベルグが政治的宣傳を試みた。一九一八年ル・フラムボーが出た。グントでローター・クロージュ。アントワープでド・ヴリイ・スタンが出た。兩新聞はスパイによつて反獨的宣傳資料をえた。秘密委員會によつて出版され、説教師、法

律家、大學教授、新聞記者によつて指導された、これらの新聞の外に、あまり規則的ではないが、多数の小新聞が出た。それは英國宣傳の指導原理を受け容れた。これらはラ・スロップ。ル・ベルグ。カ・エ・ラ。パトリ。ド・ヴレミツシエ、リユーであつた。戦争通信員レオンハルド、クローイバーは、英國宣傳の爲に、中立新聞「ニュー・ロツテルダムシエ・クラント」にベルギー及北佛蘭西の戦場への入つた旅と獨逸への四つの旅を報告した。

英國宣傳の爲のスパイは、ピラの作製の爲に、著しい役割を演じた。英國の宣傳が屢獨逸及獨逸軍の状態に關する驚くべき知識を得たのは、スキスにある所謂政治的逃亡者の援助による外スパイによる情報通信によつたのである。スパイの指導が益々中立國に移り、スパイは主としてこれらの國々の住民の間で得られたので、宣傳所は安心して根本的に働くことが出来た。英國のスパイ事業及秘密事業は既に一九一〇年に設立されたといふエツエリットの斷定は重要である。(エツエリット四四頁、細い點は「軍事情報」といふ論文にある。それはレヂナルド・ジョン・ドレークのもので、エンタクロペヂヤ・ブリタニカ、三十一卷、五〇四—五一二頁にある)

英國人があらゆる戦線で利用した宣傳手段の中では、あらゆる國語に翻譯されたロイド・デョーデ。バルフォア。アスキイス。グレイ。チャーチル。キツチナーの演説が大きな役割を演じた。「頭韻法」といふ獨創的宣傳手段をロワン・ロビンソンが報告してゐる。(H・ロワン・ロビンソン。

としての骸骨、宣傳的漫畫の爲のこのモチーフの利用はレメーカーに於ては大なる役割を演じた。死としての獨逸皇帝、骸骨としての獨逸は屢繰返されたモチーフであつた。その際「生命」として表徴的に描かれた聯合國は死に打勝つた。

レメーカー程英國宣傳の爲に價値に富む仕事をなした戰爭畫家はなかつた。彼の天分は多面的であつた。彼の繪はその憎惡に於て壓例的に作用し、彼の創造力は無盡藏であり、彼の發明的才能は無限であつた。彼に較べるとその他の繪による宣傳及漫畫による宣傳は殆んど全部第二流に過ぎなかつた。

英國の戰線宣傳の努力を概観し、ノースクリフ卿の參加迄のその效果の評價をなすならば、最負目でなければ英國の宣傳の精神的、技術的優越を承認することは出来ないであらう。併し獨逸の宣傳は非常に努力したに拘らず任務の大ききから考へると、實蹟は不充分であつたといふことをやつと主張し得るに過ぎなかつた。獨逸の宣傳は我々の嘗ての敵には有効性に於て及ばなかつた。ノースクリフ卿は獨逸の精神的破壊、革命の準備及これを基礎とする恥辱的平和といふ彼の宣傳政策を最の迅速性と確實なる打撃力を以て實行することが出来た。

第二部

第二編 ノースクリフ卿の戰爭宣傳

第一章 原則、力及組織

ノースクリフ卿がイギリスの宣傳運動に加はると共に、あらゆる宣傳事業に根本的の變革が起つた。一九一八年の二月迄のイギリスの宣傳は、明白に目的を意識して行はれてはゐたが、不秩序で屢自分勝手に組織形態を作り出して行く風があり、如何なる結果が生じても構はなかつた。然るに今度は、全然新しい、國內に行はれてゐる道德概念を問題にしない原則が出現して來たのであつた。イギリスの宣傳が勝利を得た事を認識するには、ドイツの國民的統一や纏りは一九一八年の三月には最早存在しなかつたといふ事を確認する事が大事である。煽動が同盟國側に對して行はれ始めた。宣傳によつてドイツ軍の國民的義務感を動搖せしむる爲に、あらゆる精神的方法が使ひ盡された。この戰闘精神の計畫的攪亂策に對して、ドイツ側の西部戦線に於ては充分な防禦策が施されず、之に對する宣傳も政治的考慮も餘り爲されなかつた。イギリス側の宣傳陣が、ドイツの國民的統一は次第々々に破壊され、ドイツの宣傳陣は全然不十分な組織を以て活動してゐるに過ぎぬと

知つた時、宣傳陣は協力一致して、十分に廣範圍且つ包括的な基礎の上に、中歐諸國に對する戰場に出動すべき時が到來したと思つたのであつた。今や宣傳は聯合國の確固たる戰爭目的と協力して政策の積極的の形態として活動しなければならなかつた。政策は政府から宣傳運動の基礎たる事を是認せられねばならなかつた。

ドイツでは、ルーゼンドルフ將軍は、ノースクリフ卿の破壞的の宣傳が、戰爭に決定的影響を與へる效力ある事を最もよく知つてゐた。「殺戮と飢餓封鎖と敵の宣傳は、ドイツ民族及びドイツ精神に對する戰爭に於ける效果に於ては、緊密な關係にあつた。その中で宣傳が最も重大であり、戰爭が長く續けば續く程、そして宣傳が永續すればする程、それだけ壓迫的に我々の上に加つて來た。封鎖も効果があつた。宣傳は兵士の故郷に於て有利な地盤を獲得した。しかし今や直接戰場の兵士に働き掛け始めた。その兵士も亦やがて、その宣傳を受け容れる様になつてしまつた。封鎖と宣傳は、次第々に我々の精神的の戰鬥力を動搖させ始め、最後の勝利への信念を揺り動かし始めた。この様にして興つた平和への憧憬は、軟弱と餘り遠くない様な形で現れ、我が國民を分裂せしめ、軍隊の志氣を沮喪せしめてしまつた。」(ルーゼンドルフ「一九一四年より一九一八年に至る戰爭に関する思ひ出」ベルリン、一九一九年。)

ルーゼンドルフはノースクリフ卿が影響を與へたドイツの精神的の方面の状態を簡単に説明してゐ

る。「この土地の上に毒草が芽を出したのだ。祖國に對するドイツの感情や、思想と云ふものはやがて消えてしまつた。各人の「自己」が表面に現れて來た。國家の危難や政府の弱點を個人的な政治的利益の爲に利用し盡くして戰爭に當つて自己の利益を計らんとする連中が——それは結局政治的の方面に關係ある者とは限らないが——次第々に廣くのさばる様になつた。我々の精神的戰鬥能力は計り知れない様な損害を蒙つた。我々は我々自身に對する自信を失つてしまつた。ドイツ人の精神状態は敵方の宣傳陣やボルシェヴィズムが説く革命思想が來るのを待つてゐる様な状態にあつた。革命思想はU.S.P.D.によつて陸軍軍人や海軍軍人の間に地盤を獲得して行つた。宣傳陣は「無賠償無併合の講和」、「戦後の軍備縮小」、「國際聯盟」と云ふ様な言葉や、或は同様な言葉が、非常に困窮した状態にあつて政治的・軍事的な考慮を廻らし得ないドイツ國民に、どんな大きな影響を與へるかと思ふ事をよく知つてゐた。遂に民族自決權なるスローガンが現れた。戰爭に對する責任、ベルギーに於ける殘虐な行爲、捕虜虐待、我々の政治上の不道德や陰險性、我々が嘔吐きな事や殘忍な事、プロシヤに於ける專制政治、ドイツ國民の壓制されてゐる事、と云ふ様なものが我々に對する嘔吐き戰爭で、敵が巧妙にも發明した世界一強い宣傳の題目であつた。」(ルーゼンドルフ、二八六)

組織的な能力を持つたノースクリフ卿はドイツの戰鬥能力に影響あるドイツの内部の一致を案す

事が、如何にせば達成せらるべきかを正確に知つてゐた。決定的な軍事上の成功を諦めてしまつてからは、軍事上の戦争と同時に爲される軍人の故郷や軍人の精神に對する戦争が、聯合國がドイツを克服し得る唯一の手段であつた。この事實はノースクリフにとつては、この上もなく決定的な事と思はれた。彼は群衆心理を利用する事にかけては達人であつた。彼は戦争に於ける多數と云ふものは争ふべからざる價値を有する事を知つてゐた。——兵士なしには全く如何なる戦争も出来はしない——。しかし多數のみが決定的のではなくて多數を鼓舞する精神が決定的なのである。すべての宣傳運動が効果ありや否やは、疲れた方のないドイツ軍隊の精神を破壊する事が出来るや否やによつて決せられるのであつた。ノースクリフ卿の主な努力は、ドイツ軍隊の氣分を倦怠と絶望とあらゆる出来事に對し無關心ならしめる事に注がれた。一九一八年の夏に至つて、餘りに緊張し過ぎた苦痛の下で、内部や外部から準備されてゐた宣傳の種子が芽を出す事の出来る時が正に到来したのであつた。

ノースクリフ卿は純粹のドイツ人の性質を知つてゐた。そしてその性質をあらゆる手段を以て宣傳の爲に利用し盡くす事を知つてゐた。ドイツ人は事柄に注目し、その事柄の爲に仕事をするといふ強い傾向を有するので、積極的に宣傳をするのに適してはゐないが、反對に非常に、宣傳を受け容れ易いのである。(パンゼ、八九頁)ドイツ人は自分の事柄、即正常な事柄は如何なる事情があつ

ても自ら貫徹せねばならぬと信じてゐる。そして宣傳によつてそれを強くする様な事は輕蔑してゐる。他面ドイツ人は容易に外からの宣傳の影響を受けてしまふ。何故なら相手の陥穽を洞察出来ないのである。事實はありはしないのに相手の宣傳の背後にも事實があると思ふのである。(パンゼ、八九頁)ドイツ人のこの弱點はノースクリフに前から知られてゐた。彼は宣傳運動の重要部分をその方面に向けてゐた。この様な事がドイツ人にも臆氣乍ら分つて來た時は、ドイツの地位は既に非常に危険になつてゐたので、國民や政府の精神的の持続力は數週を出でずして崩壊し去つた。軍隊も同様に最早や持ちこたへる事は出来なかつた。精神的の戦闘能力は根底から揺り動かされ、水泡の様に消えてしまつた。

一九一七年十一月にノースクリフ卿は戦争に熱中し開戦準備に狂奔して興奮し切つてゐるアメリカを去つた。彼は食糧品や彈藥の積出しを監督し、アメリカの救援行爲を強化する事が出来た。一九一七年の十月以來ノースクリフ卿はイギリス政府に對して「效果的宣傳」の必要を強調する事を止めなかつた。イギリスに歸る途上、彼はアメリカ合衆國に對するイギリスの戦時宣傳のロンドンの本部の部長になつた。彼はアメリカに對するイギリスの戦時宣傳についての從來の關係を持続する事に賛成したのであつた。(一九一七年五月三十一日アメリカ合衆國に對するイギリス戦時使節はロイド・デョードに呼返へされた。イギリス戦時使節の主席は一九一七年の最初から一九一七年

の六月迄はバルフォア卿であつた。ノースクリフ卿が一九一七年の十一月十二日にイギリスに歸ると、新聞は彼は一億五千萬ドルの金と一萬人の訓練された通信員を持つてゐると報じた。カンリツフ・オウエンはニューヨークに於けるイギリス戦時使節の住所たるボルトン・ブリオリに於けるノースクリフの貴重な代表者であつた。彼は秘密通信員を通じて政治的方面とも緊密な關係を維持してゐた。

イギリスに到着して間もなく、ノースクリフ卿はロイド・デョーデに招待され、航空相の地位を引き受ける事をすゝめられた。一九一七年の十一月十五日にノースクリフ卿はロイド・デョーデに手紙を送つて、聯合國側の宣傳運動の事情が許さないと云ふ理由で、その地位を拒絶した。その例としてはロシアの悲劇（共産主義の革命）、イタリアの悲劇（カールフライトに於けるイタリア軍隊の敗北）セルビア、ルーマニア、モンテネグロの悲劇がある。こゝに於ては獨逸の宣傳は明白なる成功を収めたのだといふにあつた。（ウイルソン、ノースクリフ卿、ロンドン、一九二七、二六四頁）一九一七年十一月十五日「デリー・ミラー」紙に發表された公開状の中で、ノースクリフ卿は、何故に彼が英國航空大臣の職を引受くべしとする要求を拒絶しなければならぬと信じたかを明かにした。（シュルト・ハイス、歐洲歴史年鑑、三三卷、ミュンヘン、一九二〇、三五七頁）彼は英國戦時使節としてアメリカで得た印象を指摘し、英國に於ける状態と對照した。英國に於ては公務は確實にも

徹底的にも把握規制されてゐない。アメリカに於ては兵役義務を施行したばかりでなく、不安を起す者は手取り早く片附ける道を講じてゐる。所謂良心的疑惑をもつ人々は、アメリカに於ては、英國の様に兵役から解放することをしない。彼の考へによれば、英國にあつては、怠惰、躊躇、檢閲の不信用、獨逸人に對する目的に適はぬ取扱がある。確に英國男女の精神は昔の如く善良である。併し戦争遂行力に欠くるのみならず、アメリカ合衆國及カナダに於ける激昂とは著しい差異のある弛緩現象を克服する爲の手段の一切に於て欠くる所がある。かゝる情勢に於ては、ノースクリフは、彼は獨立の地位に止つてゐる彼の口が現在の英國を統治して行くに不適當と信する一種の忠誠によつて束縛されないことが、より有益に働き得る途だと考へた。

ノースクリフ卿とロイド・デョーデとの談判はやがて決定的結論に到達した。ノースクリフ卿が彼の新聞紙上に於ても爲した、宣傳の緊密なる組織を今尚ほ避けてゐる英國政府に對する非難は、ロイド・デョーデによつて終熄せしめられた。一九一八年二月ノースクリフ卿は首相の希望に基き、對敵宣傳部」の指導を引受けた。彼が英國事業に参加した瞬間から、獨逸新聞は彼を痛烈に攻撃することを止めなかつた。彼等は何處に敵が在るかを知つてゐたのである。（ベルツゲン、ノースクリフの宣傳戦、横断面、一九三四年一月、六六一頁）

一九一八年二月迄は、戦線宣傳はビーバーブルック卿の指導の下に陸軍省及情報省の手中にあつ

た。ノースクリフ卿の宣傳機關は情報省から分離し、獨立の官廳として活動した。「英國戰爭傳道部」なる事務所が作られた。該事務所は首相の直接の監督下にあり、情報省から財政上の援助を受けた。(タイムス、戰爭史、二卷、ロンドン、一九一九、三五〇頁以下)

ノースクリフ卿によつて遠大な見通しの下に作られた宣傳機關の指導及組織は、外交政策に精通した人々を必要とした。又その人々は敵國人の心理に精通し、事實を明瞭に且確信せしむる様に表現する技術に關する専門的知識を持たねばならなかつた。(スチュアート、九頁)ノースクリフ卿の最高の精神的指導下にある宣傳委員會は將校、政治家、學者、文士、新聞記者によつて組織された。外國及その國民に關する特別の知識を持つた人々が正當な地位に就き、自由に活動し得るやうに慎重に顧慮された。(以下の敘述に參照すべきものはスチュアート、一〇―一九頁。タイムス、歴史、三五〇頁以下。アンシ、一六〇頁以下。ステルン・ルーパーズ、五七頁以下。ファイフ、ノースクリフ、親しき友人の傳記、ロンドン、一九三〇、二二六頁以下。スチード、一八五頁以下)宣傳部長代理兼委員會副議長にノースクリフ卿はサー・キャムベル・スチュアートを任じた。(キャムベル・スチュアートはその後彼の宣傳による功績により貴族となり、デリー・メイル及「タイムス」の指導的地位を占めた。クラーク、我がノースクリフ日記、ロンドン、一九三一、二二頁參照)委員はデンビー伯、ロバート・ドナルド、「デリー・クロニクル」紙主筆)サー・ロドリック・ジョーンズ、(ロイテル通信社長)

サー・シドニー・ロー、サー・チャールズ・ニコルソン、ジェームス・オグラデイ、その他「タイムス」のヘンリー・ウイカム・スチード及び小説家にして社會評論家たるH.G.ウェルズであつた。委員會はクリュー侯の邸宅たるロンドンのメイフェアに在るクリュー・ハウスに置かれた。會議は規則的に二週間毎に開かれ、その際各部が夫々の發展を報告し、將來の宣傳計畫を提案した。

最初から二つの部門に分けられ、一は宣傳資料の製作に、他は宣傳資料の分配に當つた。ジェスト及陸軍省でピラ製作を指導してゐたスコットランド人チャルマース・ミッチェルはクルー・ハウスに移つた。ミッチェルは引續き陸軍省及航空省の聯絡將校であつた。更にサー・デヨー・アストンは陸軍省との聯絡を維持する爲にノースクリフの「宣傳政治委員會」の委員となつた。(アストン、二八四頁)

宣傳資料製作部はオーストリー・ハンガリー、獨逸及ブルガリヤに對する三つの宣傳的攻撃計畫を持つてノースクリフ卿が開いたのである。オーストリー・ハンガリー宣傳局共同指導者にH.W.スチード及セトン・ワトソンがあつた。この仕事の爲にスチードは廣汎なる知識を提供した。一九〇二年乃至一九一三年の間のツェーレン、ローマ、ベルリンの「タイムス」特派員として又「ハブスブルグ王國」の著者として、彼は物的同君聯合國の諸問題及情勢に對する徹底的洞見を持つてゐた。セトン・ワトソン博士は同様にオーストリー・ハンガリー及バルカンの歴史と政治に關しては學問的勞作

によつて著名であつた。彼は屢々スコタス・ヴァイエターの匿名で文章を書いた。

ノースクリフ卿は獨逸に對する宣傳の觀察を一九一八年四月H. G. ウェルズに託した。ウェルズは歴史學教授J. W. ヘドラム・モレー博士の援助を受けた。彼は獨逸で研究し、外務省の宣傳文書に於て既に經驗を積んでゐた。ウェルズには彼の活動の間常に平和論的見界の眞摯なる實現が問題であつた。ノースクリフ卿の新聞は熱情を煽り獨逸の崩壊を促進することを決して止めなかつた。主として國際聯盟に關する宣傳を指導したウェルズは、其の二枚舌に反對した。その結果は兩者の間に激しい争論となり、遂にウェルズは獨逸部を更に指導し続けることは不可能と考へた。彼は一九一八年七月二十三日彼の職を辭し、一層障害の少ない協力者と代つた。それは戦争通信員にして新聞記者たるハミルトン・ファーフであり、獨逸に對する「激烈」なる宣傳事業を組織した。(ハミルトン・ファーフは今日「デーリー・ヘラルド」の編輯長である。スチード(二卷二二四頁)によればウェルズの辭職は政府の政策に對する反抗と認むべきである。即政府の政策が彼から協力者たる地位を奪つたのである。)ファーフは嘗て見られなかつた程の範圍と無遠慮を以て戦争の最後の三ヶ月の間宣傳の武器を驅使した。

ブルガリヤに對する宣傳局長にはS. A. チェストが任せられた。ブルガリヤ宣傳文書の製作及配布は該局の二つの課によつて實行された。トルコに對する宣傳はノースクリフ卿とビーバーブルツ

ク卿との協定によつてサー・ヒューゴー・カンリフ・オーエンの指導下に情報省の近東部によつて行はれた。

ノースクリフ卿は更にその外の協力者を得た。すべての宣傳組織は固く結合さるべきであつた。(タイムス、歴史、三五九頁)かくして、特別の任務に當るために文部省から外務省に移された文官O. J. フイリツプスは外務省とクルー・ハウスの聯絡員になつた。彼の任務はクリュー・ハウスの對して敵國宣傳事業に關係ある外交事情の發展に就て絶えず報告し、又外務省にはクリュー・ハウスの統一的活動原理を知らせるにあつた。ケリー少佐は陸軍省軍事情報部とクリュー・ハウスの聯絡將校であつた。海軍省との緊密なる關係は海軍省情報部長サー・レナルド・ホールによつて維持された。ノースクリフ卿は海軍省情報部の通信を利用することによつて、宣傳文書に對する價值多き補充を爲すことが出来た。

新聞局との協力は無線電信の利用に於てクリュー・ハウスには缺き得なかつた。大藏省とはクリュー・ハウスの管理及事務擔當を委託されてゐるG. S. ケントにより緊密に關係した。帝國印刷局はあらゆる重要な國語による何百萬といふビラの製作に對して大なる援助を爲した。

宣傳會議は大抵キャムベル・スチュアート司會の下に開かれた。その後聯合會議が之に加はつた。該會議には佛蘭西代表上院議員フランクリン・ブイヨン、イタリー代表ガレンガ・スチュアート及ア

メリカ代表數人が參加した。八月十四日より十六日迄開かれた會議で、ノースクリフ卿の提案に基き繼續的聯合宣傳委員會の設立が決議された。クリュー・ハウスの最後の組織的事業は平和條件のプログラムの作成であつた。(スチード、二卷、二四二頁)

ノースクリフ卿の三つの宣傳部たるクリュー・ハウス、「デーリー・メール」の事務所たるカーメライト・ハウス及「タイムズ」の事務所たるプリンチング・ハウス・スクエアは政府と緊密に結合して活動した。ノースクリフ卿は規則的に彼の各宣傳部の活動及成果に就てロイド・デョーデに報告した。

ノースクリフ卿の宣傳政策の前提條件は、一切の事實の總括的知識のみならず、政治的、軍事的、經濟的發展及敵の心理の正確なる知識に基礎をおく不動の政策を豫め確定することであつた。宣傳は先づ政策的規準が確定されて後始めて開始さるべきであつた。従つてノースクリフ卿の第一の方策の一は、獨逸國民精神の如何なる特性が最も影響を受け易いかを發見する爲に、クリュー・ハウスで働いてゐる宣傳員は先づ以て絶えず根本的に獨逸の情勢の研究に没頭することであつた。クリュー・ハウスの三つの精神的主力の協力即ちスチードの政治的知識、スチュアートの組織的天分、ノースクリフ卿の前進的熱意及廣汎な影響は英國の政治的宣傳の不動性を保證した。

スチュアート(「クリュー・ハウスの秘密」五頁の報告は妥當でない。ルーデンドルフの引用は彼の「思ひ出」三〇二頁以下及アメリカ版「ルーデンドルフ自身の物語」ニュー・ヨーク、一九一九、四

五三頁にある。)は、ルーデンドルフが彼の「思ひ出」の中でノースクリフ卿の成功を認めてゐることを指摘してゐる。彼は、宣傳は政治の先導者でなければならず、輿論はそれに對する影響を全然意識しない様な方法で影響されねばならぬといふことを認めてゐる。敵に對して「不正な方法や作爲した説明を用ひずして事の真相そのものを知らしめる」ことはスチュアートによればノースクリフ卿の宣傳事業の第一にして且唯一の原則であつた。

ノースクリフ卿は獨逸の見解を知つてゐた。即ち宣傳は否定し難い事實を流布するにある。敵の名譽と名譽を攻撃することは公明正大とはいはず、且紳士らしくない。戦時及平時に於ける國際交通は道德的基礎に基かねばならぬ。といふのが獨逸の見解である。然るにノースクリフ卿に取つては、この國際交通は、主として戦時にあつては、道德とは何等の掛はりも無いといふことは争ひ難い事實であつた。自國の國民の利益となることは正しかつた。他の一切の道德的考慮は除かれねばならなかつた。これこそノースクリフ卿の立場であり、この立場によつて彼は戦争に勝つたのである。

常に眞理を以て宣傳したとするスチュアートの斷定は我々が我々に對して用ひられた主張の虚偽を検討しうるにつれて、益々怪しくなる。その上ハミルトン・ファイフは、宣傳部は「他の部が軍需品を製造すると同様に大いに慎重に虚言を製造」したことを承認した。しかも極めて大なる、否、決定的な正當さがあらゆる宣傳が眞實らしさを追求するといふことの中にあるのである。或る人又は

或る國民が反對の事實を目撃した場合には、如何なる觀點からも此の人又は國民を説きつける見込は全くないのである。「眞實」とは些かも關係しないが、しかも眞實らしさと全然矛盾しない技術をノースクリフ卿は巧みに使つたのである。

クリュー・ハUSSに於ける英國の宣傳費用は僅かであつた。フチール將軍その他の獨逸軍事關係者の語つたノースクリフ宣傳の爲の何十億といふ出費は正確ではなかつた。事實は宣傳に要した出費は検査官及英國大藏大臣の報告によれば、一九一八年九月一日から十二月三十一日迄即ち「最も激烈」且最も貴重な宣傳の行はれた期間の數ヶ月に就いて纔に約三萬二千磅であつた。その中七千九百四十六磅はクリュー・ハUSS自身の爲に費された。クリュー・ハUSSの協力者は大部分名譽職として働いたのであつた。一九一八年春から停戦迄の期間の宣傳費は纔に約七萬磅であつた。故にノースクリフ卿が勝利を博した戦は百五十萬マーカの費用すらかゝらなかつた。(ペルツゲン、六六六頁)

ノースクリフ卿の中歐諸國に對する宣傳指導者としての就任は、宣傳の成功は秘密嚴守の程度如何に依存するとする立場を代表せる二、三の英國新聞(就中一九一八年三月十二日のモーニング・ポスト參照)に不満を惹起した。如何なる場合にも秘密にさるべきものは宣傳である。蓋し獨逸國民は豫め警告されたならば、豫めそれに對して武装するからである、と。しかるにノースクリフ卿は宣傳事業を最も廣い領域に互つて公然と營み、一般に秘密を回避した。彼の活動は同時に君主政的

中歐諸國に對する國際的秘共濟組合制度の效力の歴史の重要な一部である。多くの事柄が英國宣傳員の叙述には黙秘されてゐることは勿論明かである。

今日現存する資料は尙、ノースクリフ卿の宣傳事業に關與せる人々の中生存してゐる者の筆に成る告白によつて補はれ得ることは勿論である。これらの叙述が原則として既存のものより多く解明を與へることは殆んど期待し得ないと思はれる。クリュー・ハUSSに於ける英國の宣傳事業は主としてステュアート、フアーフ、スチード及ウイ爾ソンの記述によつて明にされるのである。「ノースクリフ卿の宣傳を指摘するものとして参照すべき著書下の如し。エンサイクロペヂヤ・ブリタニカ。三十二卷、一七六一―一八五頁。ツイリアム・B・ケインソン「ノースクリフ、英國の勢力家」(ニューヨーク、一九一八)。附録文書、一九二〇、九、二、のタイムズ、五五八頁。アメリカ歴史評論、一九二〇、四月。週刊評論、ニューヨーク、一九二〇、二、二九。(H.W.パンの論文)。若きアイルランド、ダブリン、一九二〇、二、二七。「國民」(ニューヨーク、一九二〇、二、二四。一九二〇、一三、一〇のコレスボンデント(フランソア・ルシャネル、中歐に於けるノースクリフ卿の宣傳)更に参照すべきもの次の如し。一九一四―一八の大戦、一部、一九二二、八卷、四八六―四九六頁。國民社會主義獨逸労働黨の書。ツアルテル・M・エスベ、ベルリン、一九三三、二二二頁。國民社會主義月刊、一九三三、八月、四十一號。クラーク、二二二頁。モーゼル、七三頁以下。ペムバートン、一四八頁。マケイ、國民指導者、誘惑者、

フランクフルト・アム・マイン、一九一七、八五頁以下。ライヒスツァルト、十號、十一號。一九二〇、十二月四日及十一日。リデル卿の一九一四—一八年戦争日記、ロンドン、一九三三、一〇二頁以下、一五三頁、二一六頁以下。スツツテルハイム、六五—六七頁。アドルフ・ヒットラー、余の戦。二五版、ミュンヘン、一九三三、一九三頁以下。(スチュアートの「クリュー・ハウスの秘密」の序文には注目すべき言葉がある。即ち「興味あり、然り正に劇的であつた多くの事は決して曝露することは出来ない。蓋しそうしなければ價值ある危険な使命を果した多くの人々は、斯の如き背信によつて恐らく返報を受ける危険に曝されるであらうから。」此の暗示はノースクリフ卿に備はれてゐた獨逸人の密偵に關するものと想像される。英官憲の行つた宣傳に關して知られてゐることが非常に尾緒をつけて説明されたといふことは確實である。

第二章 構成及方策

第一節 オーストリー・ハンガリーに對する宣傳

一九一八年二月中旬ノースクリフ卿は英國政治記者ヘンリー・ウイカム・スチードに彼が敵國に宣傳を爲さんとする任務を告げ、スチードの意見を求めた。ウイカム・スチードの忠告は彼がその任務を次の條件の下に引受くべしといふのであつた。即ち彼の組織計畫は彼の自由に任せ、宣傳の方向

は政府がこれを規定すべしといふのであつた。スチードは如何にしてこの任務を果すべきかといふノースクリフの間に對しては次の如く答へた。「唯一の慎重なる出發點あるのみである。獨逸は今尙意氣旺盛である。或は少くとも我等を打ち得ると信じてゐる。獨逸に對して宣傳が効果を現はすのは即ち獨逸が戦争に勝ち得ざることを悟る瞬間である。亦ブルガリヤ及トルコも獨逸の勝利を信じてゐる間は、我等の宣傳に耳を貸さないであらう。彼等及ドイツをこの觀念から救ひ出す唯一の方策はオーストリー・ハンガリーを破壊するにある。正確なる道を歩むならばこの目的は短い期間の中に達成せらるゝであらう。」(スチード、二卷、一八六頁)

ノースクリフはウイカム・スチードが永年オーストリーに任み事情に精通してゐることを知つてゐた。そこで彼はオーストリーに於ける宣傳の方策を問ふた。スチードはノースクリフ卿に覺書(スチード、二卷、一八七頁)を與へその中で二つの道を擧げた。

第一の道は君主政の内部に深入りせず且領土を分裂せしめず、オーストリーと單獨の講和條約を締結するにある。第二の道は獨逸を好まず聯合國側に好意を持つ民族を支持し煽動して最弱の敵オーストリー・ハンガリーの力を破り、その目的を破壊する方向に在るといふのであつた。

ノースクリフ卿は敵國の中ではオーストリー・ハンガリーに對する宣傳が一番成功することを看取し、物的同君聯合國たるオーストリー・ハンガリーの民族はかゝる宣傳に最も近付き易きことを

信じた。勿論一九一八年春頃のイタリアの攻撃を恐れた。ノースクリフは物的同君聯合國の五千二百萬人の中三千百萬人は獨逸に反感を有すると見た。彼は宣傳を始める決意を爲した。しかも建設的と破壊的の(スチュアート、二二頁)兩目標を立てた。即ち第一これらの民族の獨立に對する國民的希望を精神的、事實的に支持して、究極の目的たる中部歐洲及ドナツ諸國の非獨逸的連鎖を作る事。第二、中央權力の爲に戦ふ事を好まざる氣持を煽動して、それによりオーストリー・ハンガリーの軍隊の戰鬥力を破壊し、かくして獨逸の軍事的指導者をして大なる困惑に陥らしめる事であつた。このプログラムの第一部で先づイタリアと悶着が起きた。ローマでは南スラブ人に多くを約束する事を好まなかつた。困難はイタリアに南スラブ人の住む國々を約束した一九一五年四月のロンドン條約にあつた。一九一七年六月二十日コルフで南スラブ委員會議長トルムビツチ及セルビア内閣總理大臣バシツチにより南スラブの統一宣言が爲された。それによつてクロアチヤ、スロヴェーン及セルビアのオーストリーによる支配の前壊を準備し、イタリアに對して壊滅的打撃を向けることになつた。

スチード及セトン・フトソン博士の企てに關しては指導的イタリア人と南スラブ人との間にロンドンで議論が起つた。宣傳の重大なる行動はスチード及セトン・フトソンのローマ派遣であつた。彼等はローマ滞在の間にイタリア政府の同意を得て一九一八年四月七、八、九の三日間に互りローマ

で開かれた、ハプスブルク家により壓迫された民族の會合にクリュー・ハッスを代表して出席した。(スチュアート、二五頁)その結果、オランダ及後のユーゴスラビアの大匠たるトルムビツチの間に協定が締結された。それは共同してハプスブルク家の支配を倒し、未來の民族的國家の國境を現在に於て劃さんとするにあつた。協定の内容は次の如くである。(スチュアート、二六頁)

第一、これらの各民族は夫々民族的及國家的統一を確保し、若くは完成し及完全なる政治的、經濟的獨立を得る權利を要求する。

第二、これらの各民族はオーストリー・ハンガリー獨裁政を獨逸の支配の機構であつて、且、我等の希望及權利の達成に對する根本的なる障害なりと認める。

第三、本會合は各民族が一の自主的國家に統一され、完全なる自由と民族的統一を得る爲には共同の壓迫者に對して共同して戦ふの必要を認める。

一九一八年二月二十四日ノースクリフ卿は英國外務大臣バルフォアに詳細なる覺書を送り、何故に先づオーストリー・ハンガリーに向けて宣傳を集中しなければならぬかを明かにした。物的同君聯合國は半分の心を以て大戰に参加し、戦争に飽きて居り、飢餓に近づき、そして戦争は全く利益を齎し得ぬことを知つてゐる。アメリカ合衆國が戦争に参加せる意味を感銘深く叙述することはオーストリー・ハンガリーに於ては更に有効に作用するであらう。併しノースクリフ卿の説明に依れば

宣傳を始めるには先づ聯合國側のオーストリー・ハンガリーに關する政策を正確に知らねばならぬ。二つの政策が可能である。

第一、ハプスブルグ家の内事に深入りせず、又その領土を全然傷けずとする基礎の上に、皇帝、皇室及貴族との單獨講和條約を圖ること。或ひは第二、反獨逸的で聯合國側に好意を持つ全民族及其の努力を支持し煽動することに依り、敵國の連鎖の中で最も弱い一環たるオーストリー・ハンガリーの勢力の破壊を試みることである。

第一の方法は既に試みられたが不成功であつた。従つて残るは第二の政策を試みる事である。この政策は獨創でもなく、危急存亡の時に必ず反ハプスブルグ的であるのでもなく、亦舊教の目的に反對するものでもなく、且既に説明した聯合國側の意圖にも一致するのである。オーストリー國は約三千百萬人の住民を擁し、内三分の一以下即ち九百萬人乃至千萬人が獨逸系オーストリー人で、即ち獨逸に好意を持つてゐる。残りの三分の二(ポーランド人、チエッコ・スロバキヤ人、ルーマニヤ人、イタリヤ人、南スラブ人を含む)が積極的或は消極的に反獨逸的である。ハンガリー王國はクロアチヤ・スラボニヤ「自治」王國を含めて約二千百萬人の人口を有する。その中半分即ちマヂャール人、ユダヤ人、ザクセン人、シュヴァーベン人が獨逸に好意的なりと見られ、残りのスロバキヤ人、ルーマニヤ人、南スラブ人はこれに反し積極的或は消極的に反獨逸的である。故にオーストリー・ハ

ンガリーに於ては約三千百萬人が反獨的で二千百萬人が親獨的住民である。親獨的少數者が反獨的多數者を支配してゐる。民主主義の原則を全然度外視しても、聯合國側の政策が反獨逸的諸群を助ける事に向かねばならぬことは言を俟たない。(スチュアート、三十頁、三十一頁)

ノースクリフ卿が覺書に於て提出した所のドナウ王國に於て反獨的運動を支持する主要手段をウイカム・スチードはノースクリフ卿宛の書翰に於て詳しく示してゐる。(スチュアートはスチードの手紙を擧げて居ない。此の手紙はスチード、二卷、一八八頁、一八九頁にある。)聯合國は聯合國がオーストリー・ハンガリーの諸民族に、「被統治者の同意に依る統治」の原理に従ひ民主的自由を確保することを欲するといふ聲明に固執しなければならぬ。「自治」とか「自治的發展」とかいふ言葉は避けるべきである。蓋かゝる言葉はオーストリー・ハンガリーでは誤解され易く、聯合國側に好意を持つ者をして落膽させる傾を生じ易いからである。同様の理由から聯合國はオーストリー國を分裂させんと欲しては居らぬ確證を示さねばならぬ。宣傳の爲には既存の代辯者就中ボヘミヤ民族委員會、南スラブ委員會及各種のポーランド人の地位を利用すべきである。オーストリー・ハンガリーの反獨的民族との協調を計つて居るイタリヤ政府の現在の努力は激勵され、促進されねばならぬ。聯合國側の究局の目的は一群の小獨立國の形成に非ずして、中部歐洲諸國及ドナウ國の反獨的同盟の形成にあるべきだ。オーストリー内のドイツ人が獨逸國に参加するのは自由だ。結局彼等

はもはや支配し得ぬ非獨逸的民族からは離れるやうにならう。終に、正に亡命者の委員会によつて如何に價値ある宣傳手段が政府に提供されたかを看過してはならぬ。(グライゼ・ホルステナツ、一九八頁)

外務大臣バルフォアは覺書に賛成したがノースクリフ卿により述べられた政治的戰鬥方法の兩者の結合を可能なりと考へた。彼はオーストリー・ハンガリーの諸民族間に争を促進する宣傳を最も目的に到達しやすいといふ見解を支持した。バルフォアは反獨逸的氣持を活潑にし、それによりカール皇帝をして單獨講和に傾かしめ、同時にオーストリー・ハンガリーの抵抗力を弱める各方針に賛成した。故に民族解放の戦を支持する各宣傳は彼にとつては何れも正しい。遂に物的同君聯合國の壊滅を結果するものであると、單にハプスブルグ家の支配の下に非獨逸化するに過ぎぬものであるとを問はぬ。ロンドン滞在のイタリア人は中歐諸國の攻撃を恐れて皇帝及王の軍隊の組織を脅す宣傳をヴェネチヤで早速開始した。

ノースクリフ卿は獨逸オーストリーの攻撃を防ぐか、乃至はこれを敗北させ得る様に、宣傳行動を速かに開始することを迫つた。彼は尙宣傳を活潑に押し進める爲にロンドン内閣が一度政策を完全に明白にし、確實にすることを要望した。

ノースクリフ卿はヘンリー・ウイカム・スチードにバルフォアの手紙を與へ、自分はオーストリー・

ハンガリーを知らないからスチードに宣傳の全責任を負つてもらはねばならぬと述べた。ウイカム・スチードはその用意あることを言明した。その結果陸軍省はその提案を審議し、ノースクリフ卿とウイカム・スチードは第二の計畫、即ちドナウ王國內の反獨逸分子を煽動する試みをなすべき指示を受けた。しかし、オーストリー・ハンガリーの諸民族の一にでも獨立を約束することは禁せられた。ウイカム・スチードはかかる制限に全く同意した譯ではない。彼は陸軍省がオーストリーに好意を持つ考へ方の影響を受けてゐるものと信じた。それにも不拘、彼はノースクリフ卿にかゝる制限があつても尙任務を引受け、出来る限りこれを實行すべきことを勧めた。

ノースクリフ卿は聯合宣傳會議をロンドンに招集する事に同意を與へた。代表者はフランクリン・ブイヨン(フランス)、イタリヤ宣傳大臣ガレニア・スチュアート(イタリア)であつた。北米合衆國は北歐洲に對する宣傳全權委員ロビネットを派遣した。會議を出来るだけ緊密にする爲にスチードは佛國海軍大臣ジョルジュ・レイヂュの秘書アンリー・モアセーを協議に引入れることを要求した。モアセーは一九一一年獨逸に關する著書「獨逸に於ける公共心」がある。彼は獨逸で哲學を學んだので獨逸語に通曉し、個人的に獨逸の高級將校や政治家に知己があつた。モアセーと共に、佛國陸軍宣傳部のアンシの協力者たるトヌラー中尉もロンドン會議に派遣せられた。(スチード、二卷、一九二、ラスウェル、二五頁)

ノースクリフ卿はオーストリー・ハンガリー軍に對するイタリアの前線に共同的企畫の爲のフランス及イタリアの委員會を作る決意をした。各委員はイタリアで對埃宣傳を實現するといふ特別任務を帯びてウイカム・スチードがイタリアに赴くべしといふイタリア側委員の提案に同意した。尙此の會議が到達した中で最も重大な事はアンリー・モアセーによる宣傳の定義であつた。モアセーの説く所によれば、聯合國は獨逸に向つて思想戦を始めねばならぬ。獨逸政府は戦争の觀念をその國民に對して活潑なる宣傳によつて明かにした。獨逸に取つては思想の領域に於ても敗北するの無ければ、軍事的敗北は直に政治的敗北を結果しないといふのである。(スチード、二卷一九二)

更に論じてモアセーは獨逸に對する演説講演による煽動といふ從來の聯合國側の宣傳方法を否定した。むしろ彼は敵國は戦争勃發に對して徹頭徹尾責任があるといふ主張に重點を置くべき事を警告した。更にモアセーは獨逸文明を諸民族の眼前に於て低く評價し、その代り聯合國の努力する歐洲の政治的、社會的新秩序を宣傳することを警告した。(スチード、二卷一九三以下)

會議はモアセー、ボルジエズ教授及ウイカム・スチードに思想參謀本部の形成を委託するに一致した。(スチード、二卷、一九六)ロンドンで作られた宣傳計畫をパリ政府は審議して後多少の變更を加へた。ウイカム・スチードによるとそれは主としてオーストリー・ハンガリーに關する點であつた。ドイツに關して定められた大綱は維持された。それはその後の或る會議で徹底的に解消せしめられた。

れた。

ノースクリフ卿がイタリアに派遣した特別委員會にはウイカム・スチード及セトン・ワトソン博士も參加してゐた。バツグに於けるイタリア本營では絶えず宣傳委員會が開かれた。その委員にはシリアニ大佐、オエチイ大尉、B・グランピル・バーカー中佐、グルス少佐が出席した。尙委員會には各被壓迫民族の代表者も參加した。ウイカム・スチードはローマに於てロンドン宣傳會議のプログラムを遂行し、彼に附けられた部下の力を借りてこれを實行に移した。スチードは「思ひ出」に於て大成功を喜んでゐるが、尙彼は、講和條約締結の時には宣傳に掲げられた政治的原則はわづかに一部顧みられ得たにすぎぬことを告白してゐる。(スチード、二卷、二五〇)

ハブスブルグ家支配下のスラブ民族及ローマ民族の完全なる獨立を宣傳の目標とすることを欲したイタリア軍主腦部の希望は、宣傳に對して決定的であつた。スチードはノースクリフに宛て、バルフォアは彼の希望に不拘イタリア軍首腦部の希望を顧慮すべきであるといふ電報を打つた。アミヤンの前方に在る英國軍は數日中に地球上より拭き去られた。英國遠征軍が海に追拂はれるかも知れぬといふ危険は窒息的な緊張に達した。(グレース・ホーステノー、二〇〇頁)、バルフォアはクレマンソーに勵まされてノースクリフの反埃的政策に對する懸念を一擲した。ハブスブルグ家支配下の諸民族の獨立がイタリアの軍事的援助になるならば聯合國側はそれを戦争の目標とすること

を欲したので。

宣傳委員會は宣傳文をチェッコ語、ポーランド語、南スラブ語、ルーマニア語に翻譯し始めた。これらの民族の代表者は新聞、パンフレット、繪本の形式内容を作る上に於て有力なる助言者であつた。繪本には「愛國的乃至は宗教的」な事を書いた。レヂオ・エミラにある數箇國語の印刷が出来た。印刷所は、ボルジェズ教授によつてベルンに設けられたイタリアの特別機關からの報告を得てチェッコ語、ルーマニア語、ポーランド語、南スラブ語で出版される週刊を出した。(ハミルトン・フアイフ、ノースクリン卿二三九頁) それらは前線に運ばれ、そこから飛行機、ロケット(約三〇枚のパンフレットを運ぶ)、榴弾或ひは宣傳斥候により敵の戦線に撒布された。宣傳斥候は敵と「連結」させる爲に前線に送られたスラブ民族の脱營兵から成つた。分配乃至撒布された宣傳文の總數は數百萬部に達した。

極めて効果のある宣傳手段は蓄音機であつた。夜間前線の中間に置き、オートリイ・ハンガリー軍の非獨逸的部分の故郷の歌や國民歌を鳴らし、チェッコ人、スロバキヤ人、南スラブ人、ダルマチヤ人をして聯合國側は彼等の友であることを信せしめた。(フアイフ)

その外オートリイ・ハンガリーの非戦闘員に宣傳文を送る爲に中立國にあるイギリスの機關を利用して最も効果をあげた。S・A・デエストの指揮する部局はチェッコスロバキヤ、南スラビヤ、ポ

ーランド、ルーマニアの諸機關と密接な連絡を保つた。(スチュアート、三九、四〇頁)

イタリア前線に於けるオートリイ・ハンガリー軍の脱走、攻撃計畫及配置の密告は間もなく増大し、遂に必要に迫られて出した獨逸の最高命令も効果なく、この前線の維持が困難となつた。オートリイの軍隊の内部的崩壊が生じ、その結果ピアーヴェの壊滅を起したのはパンフレットの力に依つたのである。南スラブの師團は分割せられ、全部が崩壊せぬ様に他の軍隊が混入された。(ステルン・ルーバス、六〇頁) オートリイ人は攻撃を延期した。攻撃が四月から六月に延期されたのはノースクリン卿の宣傳によつたのだといふ事實は(スチュアート、四〇頁)後に攻撃はその前に計畫されては居なかつたと報告された。(知識と國防、六號、ベルリン、一九二〇年九頁参照) これも同様に宣傳の結果であるが、イタリアの指導者は攻撃設備のあらゆる細い點まで完全に知ることが出来た。ノースクリン卿は更に、モンテロで尙頑強に戦ふハンガリー軍に努力を向けた。この國民を「解放」する爲に農業問題を提出した。

イタリア前線に於けると同様の方法で、バルカン前線及トルコに於ても成功を収めたが、ブルガリヤの崩壊に於ても亦可能であつた。グランビル・ベイカーの統率の下に宣傳委員はサロニキに派遣された。聯合國軍がイタリアの戦場に進んだ時には、オートリイの戦線には絶えず聯合國軍の進軍とブルガリヤの敗北が報告された。(スチュアート、四八頁)、宣傳が降服者の數の増加及オートリイ

軍の混亂に貢獻したことは疑ひない。この混亂は遂にはその崩壊に於て絶頂に達し、崩壊の結果は十月の總攻撃となつたのである。今や物的同君聯合國の軍事的、政治的組織は崩壊した。宣傳がトルコに於てはかくの如く士氣沮喪せしむる影響を與へ得なかつたのは、一部分は多數の回々教徒が文字を讀めなかつた事に基く。(ステルン・ルーパーズ、六〇頁)ノースクリフ卿の粉砕的宣傳行動は戰爭終結迄全力を以て繼續せられた。一九一八年三月ロイド・ジョージは卿のオーストリーに對する宣傳を讀へ、ノースクリフ卿が今や對獨宣傳に向ふことを希望する旨の書面を送つた。(ファイフ、二四一頁)「明かに大成功を收めてオーストリー軍に對して爲されたと同方向に於て、獨逸軍の精神を動搖せしむる爲に、多くの事が爲さるゝことを余は確信する。」と。

第二節 獨逸に對する宣傳

ノースクリフ卿のオーストリー・ハンガリーに對する宣傳の有効であつたのは、その計畫性に基いた。併し獨逸に對する宣傳はその究極の成功に對する意義から更に高く評價された。ノースクリフ卿がそれに着手した時には既に英國の前線に於ける宣傳は著しく成功してゐた。一九一六年春以來多數のパンフレットがドイツ戦線に散布された。それは英國人及佛蘭人は捕虜を非常に虐待するといふ兵士の間に廣がつてゐる誤つた考へを反駁する爲であつた。既述の如く、この方法は極めて有効であつた。その爲進んで敵に降つた兵士が、良い待遇に對する保證は大旨虚言であつた事を知つ

た時は、既に遅かつた。併しかゝる脱走が一般に良き待遇を求めてのみ行はれたといふことは、一九一六年に於て既に如何に獨逸の戦線が故郷の方から崩壊して來たかを物語つてゐる。

スチュアート(スチュアート、五三頁)の報告によれば、同年獨逸兵士に彼等が上官より教へられてゐるより以上に社會情勢をよく知らせるのが有利であると考へられ、獨逸で禁せられてゐる雜誌、新聞が獨逸戦線に散布された。英國の宣傳員が常に直に彼等の目的に役立つ材料を手に入れることが出來たのは、獨逸革命家が故國に居ながら英國と絶えず接觸してゐた確實なる事實からして明かである。かゝる宣傳は一九一八年春迄續き、大成功を收めたが、イギリス宣傳員の見解によれば満足な程度に實行されなかつたといはれる。ノースクリフ卿は英國政府に對して、獨逸の輿論に戰爭の目的を明白に知らしむるに努力することが必要なる旨を説明した。

就中既に種々の機關によつて主張せられた國際聯盟の觀念が取上げられた。宣傳は未來の聯盟を描寫せねばならぬ。それに加盟することは獨逸にとつて望ましく思はれねばならず、且或る條件(ホーエンツォレル王室の除去、武装解除、合併の拋棄)の下に於ては約束され得たのであつた。

一九一八年三月初日・G・ツェルズはノースクリフ卿の懇請を容れ獨逸に對する宣傳文の作成を指導することになり、J・W・ヘッドラム・モーレーを重要な協力者とした。ツェルズは「國際聯盟協會」の印象的な會則を作るに當り助力した。その他國際聯盟問題研究機關が設立された。獨逸に

於ける宣傳は特にこの機關に論及せねばならなかつた。宣傳は獨逸平和論者及革命家を煽動し、同時に頑強に譲歩せぬ場合の危険即ちよつて生ずる經濟的不利及不安を伴ふ恐らく永久の遮斷の危険を説いた。ウェルズはノースクリフ卿に覺書を送つた。それは民族心理の研究として最も注目し得るものであつた。覺書は聯合國が有效な宣傳の意味に於て何を戰爭の目標として立てるべきかについて詳細に論じてゐる。この對獨逸宣傳に關する心理學の覺書はキヤムベル・スチュアートによつて正確な原文で出版された。(スチュアート、六一頁)

ウェルズは所謂貴族の野蠻な軍國主義を聯合國の世界平和への非利己的意思と對比した。このやり方は「獨逸の精神は變へねばならぬ」、革命に關して公然しやべるべきではない、貴族國獨逸と戦ひこれに勝ち、獨逸人に宣傳と活潑な空中戦で理性を齎さねばならぬとする宣傳上の要求に對しても適切であつた。

ノースクリフ卿はH.G.ウェルズの覺書をバルフォアに對する手紙の基礎とした。手紙の内容は次の如くである。一方獨逸人の恐怖に眼を向ける共に他方希望にも眼を向け、而して獨逸人に對し、聯合國は獨逸の勝利によつて決して迷はされることなく、願ふ平和の來るまでは戰爭を續ける、特に經濟封鎖政策は用捨なく繼續すると言ふべきだ。亦獨逸人に對して、彼等が自由なる民族の壓迫を斷念し、聯合國の新世界秩序の計畫を受諾する場合に於て、彼等は將來の悲惨と滅亡とから救は

れるであらう言ふべきだといふのである。

ノースクリフ卿は、聯合國は何等利己的意圖は無く、獨逸をして自由なる民族の聯合の中に入らしめるのは時間的に云つて獨逸國民が戰爭を何時迄繼續せしむるかに掛つてゐることを徹底的に獨逸人に確信せしむるの必要ありと考へた。彼の手紙に附け加へてノースクリフ卿は次の如く書いてゐる。獨逸との關係に於ける聯合國の狀態は、獨逸は戰爭に對し責任があるといふ事實によつて支配されてゐる。故に聯合國は如何なる媾和に當つても當面の條件として獨逸から回復と賠償と保證を要求する権利がある。聯合國がその正當なる自衛の爲に獨逸から取らんとする領土は獨逸が略奪した領土とは比較し得ない。と。

政府はノースクリフ卿により示された政策をその宣傳の基礎及準則として同意した。この二重の宣傳は亦聯合國の新聞紙上に於て公にされ、又聯合國大臣の演説の中に力強く述べられた。ウィルソンの演説ですらノースクリフ卿のこの宣傳の範圍内に屬するのである。

同様にウェルズによりイギリス労働團體の戰爭目的を簡單に要約したものが作られた。それは中部歐洲の一切の労働者に對する呼び掛けに利用された。ウェルズとウィカム・スチードは獨逸人の眼前に戰爭の間は經濟的悲惨事のあることを示す計畫的にして「學問的」な叙述に意を用ひ、戰爭を繼續する時は戰爭後は如何に恐るべきであるかを描寫した。こゝに戰爭の繼續に伴ひ損失と苦惱の

益々大なることを獨逸人をして知らしめる機会があつた。(スチュアート、九〇頁)ウエルズの退いた後はハミルトン・ファイフが宣傳を既に定められた方向に進めた。

獨逸戦線に於ける宣傳は一九一八年の夏の間恐しく廣がつた。クリュー・ハッスと軍事情報部の宣傳班とは緊密に協力した。ノースクリフ卿の希望により全宣傳機構はクリュー・ハッスに統括された。にも不拘「優先」パンフレットを除いては宣傳文書の大部分はノースクリフ卿の希望によつて陸軍省に於て作られた。(スチュアート、九一頁)材料の作製及分配はファイフ及チャルマース・ミツチエルが掌つた。

新しき指導者が看取した第一の點は若干のパンフレットの内容は作製と分配の時間的間隔により忽ち古くなる事であつた。それでは報道の價値はない。獨逸軍に持續的印象を呼び起すにはパンフレットは出来るだけ現在の事件を取扱はねばならぬ。そこで宣傳部はパンフレットを二種に分つた。即ちニュースを盛つた「優先」パンフレット及やゝ重要性の少ない内容をもつた「ストック」パンフレットとである。「優先」パンフレットの取扱に就て正確に時間を整理した結果、これらを印刷後四十八時間で獨逸側の手に渡す事が出来た。「優先」パンフレットは一週三回印刷せられ拾萬枚が、宣傳用氣球を作つた佛蘭西の製造業者ガマーチュに送られた。(エンチクロペヂャ・ブリタニカ、二卷、一八一頁)宣傳文は適當に包装せられて、軍事輸送部に渡され、ブローニユを越えて分配所に届けられた。六月、七月の中に約四百萬枚が撒かれた。士氣の沮喪はますます顯著となつた。秋には同様多數のパンフレットがドイツ内部に撒布する爲に用意された。獨逸の一九一八年春の攻撃は挫折したのはノースクリフ卿の精神的反撃による。(ベルッゲン、横斷、六六四頁)ノースクリフ卿の言に曰く「ロイド・デョーデが獨逸に對してもオーストリーに對すると同様にその結末に楔を打つことが出来ると思ふなら、彼は實情を知らないものと言はねばならぬ。我等は全然新しい煽動方法を創造せねばならぬ。我等の最も大きな活動の機會はアメリカ軍の到着といふ事實である。この事により我等も最も偉大な結果を得ねばならぬ。我々は常に次の事を強調せねばならぬ。『諸君は殆んど最後の豫備軍だ。聯合國は今やつと汲み得ぬ程大きな新しい貯水池から軍隊を送り始めたばかりだ』これこそ我等が獨逸兵士に云はねばならぬ言葉である。併し我等は急ぐ必要はない。希望と勇氣に満ちてゐる人に危険を警告するのは適當ではない。彼等が夏(一九一八年)の攻撃で如何程の成功を収めるかを知るまで待たう。かくして彼等の戦況が如何に絶望的なるかを彼等に示すことによつて彼らの心に疑惑を注ぐべき時がくる」と。

クルー・ハッスは「ロンドン通信」をドイツ、スイス、スカンヂナヴィヤ各新聞に送つた。通信は反獨的筆致で書かれ、勝利の確信を以て聯合國側の輝しい經濟事情を強調してゐた。かかる通信が敵國に於て!!複製されたといふ事は喜ぶべき事であつた。蓋し獨逸の讀者はかくして獨逸内の經濟

上の悪い状態と比較するに至つたからである。その外獨逸軍港内で潜水艦の乗員を威嚇する爲に英國に捕はれた潜水艦長の名を、その階級と艦名と共に連ねた長い表を廣めるといふ秘密手段が発見された。かく詳細な名前はイギリス艦隊による潜水艦の制壓を證據立てたので、獨逸諸港に於ける潜水艦は意氣消沈するに至つた。(「スチュアート、一〇〇頁、ハート、戦争に於ける英國の道、ロンドン一九三二年、二二五——二二六頁、リデル・ハートは英國に於ける一流の戦争記者である。彼の主張によれば、彼は戦争思想に關しては一九世紀に於けるクラウゼヴィッツの如く革命的であつたと。)特殊な宣傳方法は「塹壕新聞」であつた。それは様式、裝飾共に獨逸の出版の如く作られ、ドイツ皇帝の寫眞及祖國の時事問題を印刷し、兵士が疑を抱かずに讀み得る様にした。毎週五十萬部が配達された。これらの新聞紙は獨逸の軍事的失敗は正しく彼等の政府の非行に對する罰である事を證明せんとした。

五月にはノースクリフ卿は英國の宣傳を百萬枚のビラに高めた。(戦線宣傳の章參照)アメリカ軍の増加を指示する巨大な威嚇宣傳が始つた。アメリカから毎日到着する輸送船の数は増加した。アメリカ軍の増加は圖に依つて明かにされた。「今迄に西部戦線に百七十五萬人のアメリカ人がゐる。來年は五百萬人にならう。」一九一八年八月一日皇太子ルプレヒト・フォン・バイエルンが皇子マックス・フォン・バーデンに書いた手紙の内容は次の如くであつた。澤山の宣傳ビラが敵によつて味

方の戦線に撒かれた。疲れ切つた軍隊の精神に破壊的效果を與へた。」と。(ファイフ、二四八頁。皇太子ルプレヒト・フォン・バイエルン「余の戦争日記」ミュンヘン、一九二九年、第二卷、四一九、四三〇、四三二頁參照)

オーストリーの單獨媾和の希望及トルコ及ブルガリヤに於ける絶望的戦況は獨逸軍隊にはかゝるビラによつて始めて解つた。大砲及飛行機によつてクリュー・ハUSSにより編纂されたビラが撒布された。それは獨逸に於ける絶望的食料状態を描き、兵士をして祝福されたる敵國に逃れしめ、戦争とあらゆる祖國の困窮を終らせる様に勸誘した。同時に獨逸に向けて秘密の滯によつて宣傳文書の流れが注がれた。三百萬枚以上のビラが港市に撒布された。

軍首脳部はかゝる宣傳を防がんとしたが失敗に終つた。祖國に於ける社會民主的運動は益々増加する力を以て獨逸國民の抵抗心を益々破壊したので、敵の宣傳は益々大成功を収めた。澤山の脱走兵は軍の力を片輪にした。

第六軍團長フチャール將軍はノースクリフ卿を指して「ドイツの確信を破壊する大臣」といひ、又「聯合國の中で最も實行力のある悪漢」といつた。(「スチード、二二七頁、ファイフ、二三七頁」)

しかしノースクリフ卿は再び努力を繰返した。一九一八年十月五百三十六萬枚を下らざるビラが獨逸軍に撒布されたが、その中には獨逸の損失の重大なることが書いてあつた。如何なる抵抗も全

く役立たぬことが強調された。帝國主義、軍國主義、國際聯盟、軍備縮少、永遠の平和の如き有名な標語を用ひて、獨逸國民を、破壊、壓迫が目的に非ずして、平和に反對する支配者たる軍部から國民を解放する事が問題なのだ云つて、眩惑した。國民と政府の間に人為的に對立が作られた。ドイツ國民が内政的革命に成功すればドイツ國民は自由なる國の國際聯盟に加入し、經濟的に復興し得る。一般的軍備縮少と軍國主義の壊滅の後に世界平和の時代がある。そこにはもはや侵略的戦争はない。ノースクリフ卿の宣傳は益々獨逸の政治的變化に注意を向けた。多數の密偵がドイツに入つた。中立國の新聞、書籍、映畫ありとあらゆる方法が利用された。十一月初旬だけで、つまり停戦迄に百四十萬枚のビラが配布された。印刷した紙の集中攻撃は止まなかつたのだ。

第三節 聯合宣傳

ノースクリフ卿の宣傳政策は常に外務省、陸軍省及海軍省の政策と歩調を合せて實行された。併しそれ以上にノースクリフ卿は全宣傳機關を聯合して確固たる、而して一層目的達成の確實な協力に努力した。前述の如くクリュー・ハUSSに於ける聯合會議は、巨大なる組織を完全に統一して一個所から働かせる最初の試みであつた。この會議にはビーバーブルック卿、フランクリン・ブイヨン、ガレンガ・スチユアート、ロビネット、ウイカム・スチード、トンスラー、アンリー・モアセーが出席した。宣傳會議はイタリアに於ける緊密に聯合せる協力を目的とした。敵國に對して聯合して協力

せんとする問題は事態の経過に伴れて益々重要視されて來た。ノースクリフ卿の努力の結果、英國戰時内閣により佛蘭西、イタリア、アメリカ各政府に對し、ロンドンに於ける聯合宣傳會議に全權委員を派遣する様にといふ招請狀が發せられた。(以下の叙述に關し参照すべき書物左の如し。スチユアート、一四九頁以下。スチード、二卷、一八三頁以下。ウキルソン、二七七頁以下。ファイフ、二二六頁以下。フーバー、六二、六三頁。ペムバートン、一五七頁。ハリマン・ブオン・シール、世界大戰、ベルリン、一九二九年、五〇一頁及五六〇頁。G. P. グーチ、近世歐洲史、一八七八—一九一九、ロンドン、一九二三年、六四七頁)

會議は一九一八年四月十四日に開かれた。如何に廣範圍に宣傳の仕事が爲されたかを示す爲に、會議參列者の名を擧げよう。議長ノースクリフ卿、クルー・ハUSSにある英國宣傳部からはサー・キヤムベル・スチユアート、サー・チャイレス・ニコルソン、ウイカム・スチード、海軍省からは海軍情報部長サー・リデナルド・ホル少將、ゲイ・ゴイント大佐、G. スタシデン中佐、陸軍省からは陸軍情報部長代理G. K. コツカリル、ブオン・ケリー少佐、P. チャルマース・ミツチエル大尉、航空省からはE. H. ダビドソン大佐、外務省からはO. J. フィリップス、情報省からはビーバーブルック卿の代理サー・ロドリック・ジョンズ、對トルコ宣傳指導者カンリフ・オーエン、佛蘭西代表としては、クロブコウスキー、ハグナン、サバチエ・デスベイラン、子爵バヌーズ少將、公爵ビール・ダラ

ンベルグ大尉、伯爵スタニスラ・ド・モンテペロー中尉、コマ、P・マントト中尉。イタリア代表としてはホルヂェズ教授、G・エマヌエル卿、伯爵ゾイチノ・バラビチノ大佐及R・キヤチユラチイ・クリペロ中尉、アメリカ代表としてはジェイムス・ケーラー、ウォルター・リブマン大尉、ヒート・ブランケンホーン大尉、チャールズ・メルツ中尉及ラドロー・グリスカム中尉。

ノースクリフ卿は會議を開き、聯合國側の戦争目的をもつと確實に總括するの要ある旨を詳述した。敵國に於ける宣傳は次の三つの事を前提とする。即ち(1)少くとも宣傳の爲だけにでも、敵に對する聯合國の政策を確定すること、(2)この政策の公示、(3)政策の要領を敵に知らせる技術的方法の研究である。ノースクリフ卿は委員會の構成を提案した。その委員會の仕事は(1)宣傳政策といふ大題目、(2)非戦闘員及戦闘員に對する分配方法といふ困難なる問題、(3)宣傳材料、(4)獨逸に歸り祖國の人に眞實を物語り得る様な捕虜の教育機關である。

ノースクリフ卿の更に詳論する所に依れば、各聯合國が他國の試みを顧みずに各自の宣傳を敵國で行ふならば、力の大きな分裂を來し喰ひ違ひを生じ、恐らく矛盾せる決定のみならず、矛盾せる目標に達することにならう。従來唯一の聯合宣傳設備はパウダに於ける宣傳委員會のみであつた。故にノースクリフ卿は敵國に於ける宣傳の爲に中心團體を作ること提案した。

佛蘭西代表クロブコウスキーは戦争の責任の問題を明かにせる佛蘭西宣傳の立場を説明した。戦

争は獨逸側からの攻撃的戦争であり、侵略政策に役立つ、他國民を奴隷化せんとするに役立つ。聯合國側に取つては戦争は自分の國を護る爲のみならず、ベルギー、エルザス・ローレン、ポーランド、ウクレーン、セルビア、ルーマニア、その他あらゆるバルカン諸國に於て侵害された大きな權益を護る爲の純粹に自衛の戦争である。クロブコウスキーは、戦争に對する責任の完全な表が載つて居り、又ドイツが戦争を準備し且惹起せることを示して居る、一九一四年十二月附の第一佛蘭西黃書(佛國外交文書彙報)を指摘した。獨逸國民の精神状態を混亂させた歴史的事實の原理に少からず責任があるとした。聯合國の統一を破らんとする敵の努力が如何に効果なきかを明白に示すことも重要である。就中聯合國は勝たねばならず、亦勝つてあらうといふ事も述べねばならぬ。甚だ複雑で頑迷な獨逸精神は他の不動の原則を自己に有利に利用する最大の巧妙さをもつてゐる。民族解放、聯合國の正義の保證、敵國による權益侵害の叙述、これらが聯合國の宣傳の基礎でなければならぬ。

ホルヂェズ教授は聯合對敵宣傳の最初の突撃たる一九一八年四月のローマに於ける會議を稱讚した。英國及伊太利は對境宣傳で決定的成功に到達することが出来た。假令獨逸軍國主義は完全には粉碎し得ぬにしても、或ひは獨逸はオーストリー程には粉碎し得ぬにしても、オーストリーは獨逸のアキレス腱である。ホルヂェズは戦争勃發の責任を廣く知らしめるならば、獨逸及オーストリーに

於ける精神的變動の促進は可能なりと信じた。リチノウスキー及ミューロンのパンフレットはこの意味に於て獨逸革命の先驅者であつた。聯合國の宣傳は眞理の宣傳でなければならぬ。聯合國は正しいと確信してゐるのであるから眞實を言ふことが出来る。聯合國にとつては觀念の體系をもつことは、それを信ずること宗教の如くであるから容易である。

此の演説後ノースクリフ卿の提案による四つの委員會が任命された。オーストリー・ハンガリーに對する宣傳に關しては委員會は次の提案を可決した。「オーストリー・ハンガリーに在る諸民族の自由の爲の聯合國の宣傳を支持する方法に關しては、委員會は確固たる希望を有する。即ちイタリアと將來のユーゴ・スラビヤの境界に關する争に言及することは南スラブの新聞及指導者は外部に對して及び外部に影響を及ぼす限りはオーストリー・ハンガリー王國の内部に於ても避けられねばならぬ。あたかも從來イタリア新聞の重要機關及イタリアの勢力ある指導者により言及を避けられた如くに。」と。

聯合宣傳會議の政治委員會は更にイタリア政府は次の如き聲明を宣傳すべきであると提案した。「全聯合國はセルビヤ人、クロアチヤ人及スロエーン人を包含する自由且統一のユーゴスラビヤ國の建設を正常にして且永續的平和及歐洲に於ける正義の爲の根本條件なりと考へる。」と。委員會は尚ポーランドの諸部分の統一は歴史的不正の回復を意味するばかりでなく、プロシヤ組

織の復活を防止する保障となることを指摘した。ポーランド民族委員會になされた提案に曰く「會議は統一し且獨立的な海に自由に出来るポーランド國を作ることは歐洲に永續的平和を齎す重要條件であると確信し、而して亦未來のポーランド國の國境が人類學的國境に適應すればする程平和保證に於ける其の役割は重く、ポーランドと同様に獨立に努力する隣邦諸民族との關係も調和がとれてくるといふ見解を表明する。」と。エルサス・ローレン問題に於てはノースクリフ卿の宣傳の要求は一致して採用された。即ち此等兩地方の佛蘭西復歸は國際正義の領土的要求であり、聯合國の佛蘭西の國民感情に對する讓歩ではないといふのである。

宣傳會議の討議は宣傳の全活動分野に及んだ。宣傳に於ける軍事機關の利用に關しては、イタリア人及フランス人は飛行機・大砲・氣球を、イギリス人は西部戦線で氣球ばかりを用ひ、東部戦線では飛行機を用ひた。又地中海の一定の目標に到着するには海軍飛行機を用ひねばならぬといふことが明かにされた。

委員會は聯合國が利用した方法及事實到達した結果に關する情報を定期的に交換することは、重要であるとする點に於て一致した。かゝる報告及情報を集めて交換する永久的機關を作ることを勸告した。

革命宣傳の問題は活潑に論ぜられた。戦争の責任を全獨逸人に歸せしめ、皇帝には歸せしめぬが

よいといふ意見をのべる者があつた。ホーエンツォレルン家に對する一切の攻撃は事實上或は表面上ドイツで起らねばならぬ。獨逸の反君主政派には豊富な材料がある。例へば社會主義者の演説を廣める事によつて齎される利益は、これらの演説者はこれによつて引續ぎ發表してゆくことを好まぬといふ不利益によつて失はれて行くであらうといふことが指摘された。事實二、三の獨逸社會主義者は既に佛蘭西政府に對して、彼等の演説を宣傳の爲に用ひることは、彼らの努力を弱めるから、宣傳に用ひない様に懇願してゐた。

映畫の上映は既にスミスに於ては國際委員會によつて行はれてゐるが、更にフィルムの指導及分配によつて之を他の中立國、例へばスウェーデンに廣げることが全會一致で決定した。獨逸の手にあるスミス及スカンチナビヤの映畫上映館で上映される獨逸の宣傳映畫に對して、聯合國側からのフィルム供給は有効に對抗しなければならぬ。

最後に中立國の新聞記者をアメリカに送りアメリカの軍備及生活條件を知らせる機會を與へることが唱へられた。彼らの報告は獨逸新聞通信にもたらさるべきだ。

亦聯合國の新聞を中立國に持込むことはもつとうまく行はれ、且擴張せられるべきだ。その結果獨逸に持込まれる見通しも大となつた。

ロンドンに於ける聯合會議の最終日は一九一八年八月一七日であつた。會議は對敵宣傳に關し採

用された原則を遂行する爲に永續的な聯合團體をつくることを決議した。ノースクリフ卿は大佐オンスロー卿をバリに於けるクリュー・ハッスの全權委員に任命した。ノースクリフ卿が會議の閉會の辭で述べた通り、聯合宣傳機關を作ることには聯合目的及組織の一般的總括への一歩前進であつた。會議の成果は諸提案が直ちに實行に移された事であつた。宣傳材料の箱と表紙に有名な獨逸の文士の名を書いた本が障害なしに獨逸に着いた。戰爭の間獨逸の爲に働く爲に毎日ドイツ國境を越えた外國労働者の中には宣傳の仕事を拒まぬ者も少くなかつた。蓋し密偵は必ず聯合國側乃至中立側に屬するとは勿論限らぬからである。

澤山の宣傳文が獨逸に向ひ、選ばれた宛名に送られた。それと共に前線に於ける宣傳事業は強化された。統一のとれたことは、ドイツ東部戦線に對する宣傳にイギリス及フランス將校が參與した程であつた。聯合された宣傳協力は戰爭の最終數ヶ月に於ては、パンフレットがイギリスのものかフランスのものか區別し得ぬ位になつた。

第三章 影響及結果

第一節 革命の準備

ノースクリフ卿は聯合宣傳機關を作ることをして彼の仕事を終つたものとは考へなかつた。ノースクリフ卿は聯合宣傳機關を作ることをして彼の仕事を終つたものとは考へなかつた。ノースクリフ卿は聯合宣傳機關を作ることをして彼の仕事を終つたものとは考へなかつた。

スクリフ卿が既にロンドンの宣傳會議に於て暗示せる如く、聯合國にとつては戦争に勝つ事ではなく平和を獲得するのが問題であるから、彼はこの考へを實行する爲に、今や直接革命の宣傳の道をも開いた。

獨逸に於ける革命家がノースクリフ卿の宣傳と緊密に協力せる證據は次の如き宣傳標語の使用の増加以外にはない。戦争の責任者たる獨逸。戦争は獨逸の自衛戦に非ずして侵略と帝國主義の戦争である。戦勝の不能。皇帝と軍國主義者と貴族の熱病的意欲による數百萬人の獨逸人の無駄な犠牲。聯合國の赦免を得る爲の民主化の必要及支配者たる王室追放の必要。國際聯盟及之と關連して獨逸國民がその権力者から解放されるなら誰も獨逸國民を害せんと欲するに非ずといふ虚言。獨逸國粹派はこれらの標語に反對した。蓋しこれらによつて彼等は嘲笑されなかつたし、亦聯合國の宣傳理論を政黨政策に用ひもしなかつたからである。

速かなる戦争終結を目的とする軍隊の精神的攪亂はノースクリフ卿の目的であつたと、同様の程度に於て獨逸の内部的崩壊の爲に革命的宣傳が必要であつた。始めは純粹に反獨的な宣傳が行はれた。それは有效な手段を以て全獨逸人を嘲笑し、獨逸の軍事的成功を輕視することを主たる目標としたが、潜水艦に對する反撃とアメリカの援助が期待の如き徹底的成功を齎さなかつた後は、獨逸の内部的破壊と麻痺とを目的とする主として政治的な宣傳が行はれるに至つた。

聯合國に對する好意の養成と維持を目的とする獨逸に對する計畫的宣傳から、前述の獨逸に於て崩壊を招來せんとする目的を有する一般的政治的宣傳が徐々に生じ來つた。獨逸の攻撃の「失敗表」餓死、獨逸の來るべき敗亡、「潜水艦戦に於ける商船の破損」に關するパンフレットは宣傳の將來の道を暗示した。ノースクリフ卿の宣傳の始まる以前から、併し特にノースクリフ卿の宣傳参加と同時にイギリスの宣傳文書は益々政治的な色彩の濃いものになつた。

ノースクリフ卿の指揮下にイギリスの宣傳は色々な點で革命の準備に従事した。一般的宣傳も獨逸捕虜に對する宣傳も、獨逸脱走兵に對する宣傳も、又パンフレット密輸入に就ても、又獨逸に於ける左翼過激派との直接的結合に就ても、本著作の若干の場所に於て就中イギリスの戦線宣傳の章に於て既に此の目的を意識した宣傳の例を擧げた。

獨逸帝國は革命的宣傳文書の記す所によれば反動と獨裁と帝國主義と資本主義の本來の據り所である。獨逸外交すら完全に腐朽し、唾棄すべき方法で働いてゐる。故に世界のプロレタリアートをブルジョアによる壓迫と屈服から解放しなければならぬとすれば、それはドイツに於ける權利を奪はれたプロレタリアートに自由を與へて始めて達成せられる。パンフレットによつてドイツの若き勞働者に對して次の事が要求された。街頭示威をせよ、仕事をすてよ、軍務を拒絶せよ、塹壕から歸れ、プロレタリアの革命を解放せよ。と。「クリュー・ハウスの秘密」によれば、イギリスの新聞宣

傳は大部分其の武器を獨逸革命家の武器庫から持つて來た。發禁の獨逸戰爭讀物、社會主義的無政府主義的文献、新聞、パンフレットは獨逸に於ける反政府黨のあらゆる抵抗力を強める爲に撒布された。革命的情報の材料提供に就ては獨逸革命家と聯合宣傳との間に緊密な關係があつた。獨逸革命家と敵の聯合との間のブライトハット(國民自由黨の前書記官長の息子、戰爭で脱走し、一時社會主義者であつた)により確立せられた計畫的聯絡は疑ひの餘地はない。(調査委員會議事録、二部、四卷、一二頁)

公には獨逸社會主義の指導者は外部から影響されることを拒んだが、獨逸國民及戦線の軍隊にノースクリフ卿の宣傳文書が氾濫した事は左翼の意味の作用を起した。獨逸の諜報機關が外國に於て其の國の政府に對して反感を起す様に働きかけることは、ノースクリフ卿の適切な設備に對比して無意味であつた。戰爭の責任に關するこの暗黒な章の最も悲しむべき點は一定の獨逸の人々の協力なくしては我等の敵を倒すことは徒勞であつたらうといふ、ますます新しい事實的資料によつて確められた主張である。(調査委員會、二部、五卷、一六五頁以下)

故國に於ける革命家がノースクリフ卿の宣傳と協力せる證據は「匕首の突傷」といはれた専門家フオン・クルル歩兵大將の鑑定により益々明かである。(調査委員會、二部、六卷、八頁)

「勝たんとする意思の減退は平和論者、反軍國主義者等の煽動家に歸すべきは疑ない。確に一九一

八年夏、戰爭状態に於て起つた變革及び一九一八年十月の突發的な停戰要求は國民をして動搖せしめた。しかし我々の攻撃が挫折し、戰爭が見込めないことを知つて始めて反軍的氣持が起つたと主張することはできない。革命は崩壊の結果のみではない。クルル將軍はその鑑定に於て就中ノースクリフの宣傳の危険な影響が革命を準備したのだといふ見解を述べてゐる。

イギリスの宣傳の目的は明かにドイツの内部的革命であつた。永い間イギリスにより指導されてゐた秘密共濟組合會館も、あらゆる秘密結社の中で最も有力なこの秘密結社の全く破壊的な力を以てイギリスの政策宣傳及國際的政策宣傳に奉任したのである。

一般的且國際的な結社のヴェールの下に爲された宣傳に依つて、獨逸に於ては革命と連かなる平和到來を求むる聲が益々高く且勇敢に叫ばれるに至つた。ノースクリフの宣傳部によつて、一九一八年夏の攻撃の際の有名な獨逸の大損害を師團、聯隊及その他の軍事的單位により説明せんとする表が印刷された。この署名の無い表がオランダから獨逸に持込まれた。それは獨逸國民及軍隊に行き互り、附録の緑色の小さな紙によつて敵の宣傳ではなく、獨逸の獨立社會民主黨の左翼から出たかの如く装つた。

獨逸の官廳、宣傳部、就中祖國の教育機關はイギリスの宣傳を明白に反駁せんと力めた。獨逸軍隊の中の啓蒙運動に對する命令に付け加へられた一九一七年七月二十五日の監督總監の訓示に次の如

く言つてゐる。「祖國の教育」といふ雑誌が一九一七年九月十五日始めて發行された。「出征軍の間に政治的宣傳を爲さんとする試みは色々の方面から行はれた。平和の目的に付いて投票させる爲に兵士に直接新聞が配布せられた。更に獨立民主主義が軍律を最もひどく害する働きを爲すことは確かである。あらゆるかゝる試みには最も力強く反對せねばならぬ。特に無條件的戰勝の確信を弱め指導者に對する信頼を覆へし、軍隊の戰爭準備に有害になり得る報告やビラが軍隊に入るのを妨げる必要がある。將校による兵士の徹底的教育と、あらゆるかゝる印刷物の届出は上述の宣傳に對抗するに先づ以て適當である。その上將校が部下に對する配慮、理解及部下の信頼を得、これを維持することを以て最上の任務と考へ、身を以て之を行ふならば、上述の危険な流れが軍隊に入らない最上の保證であると考へる。」と。

獨逸の反抗に對してノースクリフ卿の宣傳は更に強化された。ノースクリフ卿の宣傳は獨逸國民の統一のみならず、獨逸とその同盟國との間の統一をも破壊せんと努め、ドイツの國民精神の強さと統一とを破壊する革命的宣傳を同盟國側に希望した。パンフレットには聯合國は獨逸國に惡意は全然ないが、獨逸人が理性を持つこと、そして侵略した土地を拋棄すべきことを述べた。その時には一切は急速に回復するであらう。獨逸人は平和裡に、諸民族の永遠の平和裡に生活し得よう。祖國の内部の平和は新しい軍隊と政府が保つであらう。さすれば現在の戰爭の後に祝福すべき平和が來

やう。戰爭の續行は無意味だ。ともある。(ヒルデンブルグ、自叙傳一二版、ライプチヒ、一九二〇年三三五頁參照)

ドイツに於ける社會主義的革命的政團體と中立國に於けるそれ等との接觸は國際的情報通信の中心地を通して行はれた。各敵國が何の程度に革命宣傳に關與したかに付ては、パンフレットの密輸入による直接的宣傳と、間接的活動、即ち就中オランダ及スイスに於て獨逸君主政に反對して攪亂した革命家の結社との協力とに區別せねばならぬ。

スウェーデンに於てもノースクリフ卿の宣傳は猛烈に行はれた。宣傳員は獨逸獨立社會民主主義の二、三の過激な指導者と協力して、スウェーデンから獨逸にストライキと不安を惹起させようと企てた。「北部出版中央部」の商號の下に出來た電信發信所はスウェーデンに於て専らこの任務に従事した。オランダでは有効に革命宣傳を爲したのは就中ミニスター及チンスレーの機關であつた。ロシアが共和制になつた時に、宣傳指導者たる英國將校は戰爭を權力に對する自由の戰爭と名付けることによつて、對獨逸戰爭の爲の新標語をロシアの國民に與へんとした。ソビエトの宣傳によつて完成された此の宣傳は獨逸東部戦線に於ける革命的傳染に非常に貢獻する所があつた。(ニコライ、情報事業、一六三頁) イギリスの宣傳は革命を起す企圖の發見されることを期待し、獨逸の國民代表者の逮捕と、政府の一般的威信失墜を約束される政治的醜態に至ることを希望してゐたといふことは間違ないらしい。(調査委員會議事録のデールマンの場合、二部一〇卷、二七一頁以下參照)

獨逸革命家との協力の方法に付てはイギリスの宣傳に關する著述は何事も漏してゐない。獨逸獨立社會民主主義の代表者すらそれに就て詳細な説明を與へなかつた。獨逸に共和制を布き、軍國的君主政的組織を倒し、獨逸帝國主義を徹底的に排斥し、勞働者の支配の道を開拓する努力は獨逸の社會主義的新聞に強い反響を發見した。佛蘭西の新聞界に於て「人道主義」によつて代表された革命宣傳はイギリスの新聞には何等の對象をも持たなかつた。ノースクリフ卿の新聞はクリュー・ハッス宣傳目的を計畫的に支持せんとした。そして事實は聯合國の侵略的戰爭の目的を欺瞞し去る目的を追つたに過ぎない聯合國の平和的要求に適合せんとした。

第二節 平和の準備

聯合國軍の西部戦線に於ける一九一八年八月及九月の戦勝、フランス及セルビア軍のバルカンに於ける九月中旬の進撃、バレスチナに於けるアレクサンドル皇太子のトルコ軍に對する勝利、イギリス軍及アメリカ軍による九月二九日のヒンデンブルグ戦線の動搖は戰爭の終末が近きにあることを明かに示したので、聯合國は急に平和の目的を確定することと決意した。(スチード、二卷、二四二)戰爭宣傳及革命宣傳は一直線に獨逸國民の精神的及び意思的弱點に影響を與へた。今や從來の革命宣傳の如くに「平和條件の宣傳」を統一的且緊密に遂行することが必要となつた。

ノースクリフ卿は總ての英國宣傳員が同一の調子で喋ることが益々必要なることを看取した。故

に彼は宣傳を司る官廳を招集し、「英國の戰爭の使命の爲の政治委員會」或は「各省聯合委員會」を作つた。英國戰時内閣、海軍省、外務省、陸軍省、大藏省、情報省、航空省、殖民省、インド省、戰爭目的委員會、新聞局がそれ々々全權委員をクリュー・ハッスに於ける一九一八年十月四日の政治委員會の會議に派遣した。(スチード、二卷、二四二)平和のプログラムの作成の爲に小委員が任命された。小委員會が取扱つた資料の中にウイカム・スチードの平和の條件に關する論文があつた。それは「エデンバラ評論」に一九一六年四月號に載せられたのであつた。チャルマース・ミツチェル、セトン・ワトソン、ハミルトン・ファーフ、C. J. フォイリツプス、S. A. デュエストが平和の最後のプログラムの責任ある編纂者であつた。そのプログラムは政治委員會で十月九日に可決され、二、三改良して十月十九日に批准されたのである。

政治委員會の最初の會議では、聯合國、中立國及敵國で爲された色々の領土的、政治的、經濟的その他の提案を總括した。委員會は次の活動を決議した。(1) 平和條件の研究、(2) 敵國民の勢力ある代表者の言説がどの位信用し得るか、且それに對し如何なる答が爲さる可きかを決定する爲に、それらの人の發表の研究、(3) 聯合國代表者により爲さるべき發表案の提出及其の文言並に内容に關する考慮、(4) 獨逸の民主化の經過に關する發表の取扱方に就ての考慮である。

その後數日の後開かれた政治委員會の特別會議で、ノースクリフ卿は一つの提案を爲した。それ

はウィルソン大統領の通知に基いたものであり、委員会で採擇された。平和のプログラムがその中で要求したことは次の通りである。(スチード、二卷、二四二頁以下。ステュアート、二二二頁以下。ニュートン卿、ランズダウン卿、ロンドン、一九二九年、四四一頁及四六九頁。)

- (1) ベルギーの完全なる領土的的政治的回復。機械の回復を含む全責任の引受。戦争期間の賃金及非戦闘員に與へた一切の損失及損害の適當なる賠償の保證及獨逸によるベルギーの戦争負債の消却。
- (2) フランス領土の解放。被侵略地方の回復及非戦闘員の一切の損失及損害の賠償。
- (3) アルプス・ロートリンゲンの佛蘭西への返還。それは領土的侵略及戦争の損害賠償としてではなくて、一八七一年に始められた不正義の回復としてである。指導者はフランスへの歸屬を選んだのに、この兩地方の住民はその意思に反して獨逸に合併せられたものである。
- (4) 出来るだけ民族的國境を維持してイタリヤ北部國境の規制。
- (5) オーストリー・ハンガリーの全民族に世界の自主國民間に伍するの地位を確保し、現在のオーストリー・ハンガリーの國境を越えて同民族と合同する權利を確保すること。
- (6) 以前ロシア帝國に屬せる一切の領土の明渡。敵國の國民代表者との間に革命以來締結せられたる條約及取極を含む一切の約束にして、以前のロシアの領土或ひは利益に關するものゝ失效及前ロシア帝國の各民族が自分自身の政治形式を決定し得る爲の條件作成の爲の同盟國の協力。

- (7) 主としてポーランド人が住民の大部分を占める地域を含む海に通ずる獨立のポーランド國を作ること。その荒廢に責任ある國によるポーランドに對する損害賠償。
- (8) ブカレス平和條約の廢棄。ルーマニヤ、セルビヤ及モンテネグロの明渡し及回復。
- (9) 出来るだけ非トルコ民族に對するトルコの支配を除去すること。
- (10) シュレスウィツヒの住民は國家歸屬の自由なる決定權を有すること。
- (11) ドイツ及オーストリー・ハンガリーによつてなされた潜水艦戰の賠償として、これらの國は聯合國及中立國に屬し無法に損害を受け或ひは破壊された商船の噸數を返還する義務がある。
- (12) 戦争法規及人道法則を犯したものととして訴へられた戦争指導者に對し公平なる審判を爲す裁判所の任命。
- (13) 獨逸の前植民地は獨逸のベルギーに對する違法な攻撃によつて失はれること。
審議に値するものとして擧げられた平和の條件は (1) 戦争の行爲から必然に生じ且不動條件の中に入らない損害賠償要求の整理。(2) 將來の戦争を防止し、國際關係を改善する目的を有する自由なる民族の同盟の設立及その會員となる條件とであつた。
政治委員會によつて平和の條件が採擇せられて後、ロイド・デジョーデの覺書の形式で呈示された。ロイド・デジョーデ、ノースクリフ卿、ウイカム・スチード及チャルマース・ミツチエルの間で個々の點

が突込んで論議された。ロイド・デューヂは差し當つて覺書に反対した。彼はバルフォアの賛否如何に同意を掛らしめた。

バルフォアは覺書に賛成したのみならず十三項を次の如く嚴重に變更することを要求した。「獨逸の前植民は、ベルギーに對する違法な攻撃によつて得たのであるから、決して獨逸に歸してはならぬ。」と。(スチード、II、二四六)この變更と共に戦時内閣は覺書を宣傳の爲に用ひることに同意した。

ロンドンに於ける一九一八年十月二十二日の米國將校に對する演説に於てノースクリフ卿は始めて平和の條件の宣傳を發表した。クリュー・ハウスに於ける十月二十八日の政治委員會の會議でこの覺書を基礎として各省の行動が確定され、認容され、パンフレット及ビラの用意が開始せられた。

一九一八年十一月四日、停戦の一週間前、ノースクリフ卿は覺書の原文全部に解説をつけて「タムス」に箇條書で發表した。覺書の原文は一流の獨逸新聞にも轉載せられた。「戦争から平和へ」なるノースクリフ卿の論説はクリュー・ハウスの宣傳事業の最上のものであつた。論説はカナダ、オーストラリア、ニージーランド、南アフリカ、ニューファンドランド、インド、英國植民地、アメリカ合衆國、南アメリカ、フランス、イタリア、スペイン、オランダ、ノールウェイ、スエトデン、デンマーク、日本共の他の諸國に發表せられ特に獨逸では熱心に論せられた。

ドイツ政府が停戦の條件を容れ、ノースクリフ卿がロイド・デューヂに宛て、宣傳の指導者として

の地位を返すといふ手紙を書いた時にロイド・デューヂは之に答へて特に曰く、「貴殿がその職にある間聯合國の爲に盡された偉大なる功績に對して感謝してゐることを確言したい。貴殿の貴重な仕事の成功及オーストリー並にドイツに於ける敵の力の劇的破滅に貴殿の功績せられた範圍に關する多くの直接の證據を余は有する。」と。

一九一八年の終りに「英國の戦争傳道」の仕事は、整理せられ、クリュー・ハウスは宣傳所としての終りを告げた。

平和は來つたが宣傳は續けられた。獨逸の防禦作業によつて敵の宣傳に對して作られた柵は革命によつて破壊された。敵の情報事業はその目的と全く計畫的な煽動作業と共に獨逸に障害なく入ることが出來た。獨逸に於ける宣傳の支配はベルサイユ及サン・ゼルマンに於ける條約により保證された。敵の宣傳は尙ほよく軍力によつて占領されてゐる所に於てのみ無くなつた。

第四章 ノースクリフ新聞の宣傳

ノースクリフ卿が對獨逸に於て如何に大きな影響を與へたかといふ事は同時に政治史であり新聞史である。彼は目的がすべてであり手段を重要視せぬところの政治的煽動の創始者となつた。ノースクリフ卿を英國の政治史及新聞史から抹殺することは出來ない。

一九一四年迄は英國は現代帝國主義の最も重要にして且最も顯著な代表者であつた。「より偉大

なる英國」は英國の新聞の標語でもあつた。一八七〇年後就中一八九〇年後の獨逸の經濟的躍進は帝國主義的論調の新聞に獨逸に對する反感を惹起した。英國は強力な競争者によつて脅かされるのを感じた。ジエームソン博士の出現の際の居酒屋の主人の電信により、更に以上イギリスの軍事的弱點と獨逸の指導下に大陸諸國の結合の可能性を曝露せる南阿戰爭によつて變動が惹起された。(ツイルソン、一三〇頁)英國は獨逸の帝國主義を許容せぬであらうといふトライチケの豫感
はイギリスの新聞紙上に事實となつて現はれた。一切の政治問題に於て統一の強化が感ぜられた。英國の歴史に於ては英國の目的が外來の力によつて危険に曝されると見ると、一切があたかも一人の人間の如く一切の手段を以て敵を打倒せんとする考へを持つのである。二十世紀の英國は唯平和を欲するに不拘、獨逸は平和を亂し絶えず戰爭に備へてゐるといふ好んで唱へられた英國新聞の主張は南阿戰爭及び英國の新しい聯合政策によつて覆へされた。(フライ、二一〇頁)しかしそのことはイギリスの新聞が進路を變更するのを妨げなかつた。反對に新聞は非歐洲民族に對するイギリスの世界的支配を古い倫理的な帝國主義の意味に於て正當づけ意味づけることによつて問題に答へんとしたのであつた。

ノースクリフ卿が世界大戰勃發に關與した點は少くない。ノースクリフ卿の戦前の宣傳を詳細に述べることは本書の目的の範圍外である。卿の「タイムス」「デイリー・メール」はアスクキズ及グレ

イの政策を支持したのである。ノースクリフ新聞を自由黨内閣が利用したのではない。大體に於てイギリス政府は戰爭中でもノースクリフ新聞にはあまり影響を與へなかつた。ノースクリフ卿は公然とこの獨立を自慢した。彼の新聞は多くの出版によつて「富」んでゐたので政府側からの援助を必要としなかつた。(S・B・フェイ、歐洲に於ける戦前の新聞の影響、ホストン、一九三三、一〇頁)

一九〇〇年乃至一九一四年の間にノースクリフ新聞は非常に購讀者を廣めた。「デイリー・メール」は一八九六年英國の對獨宣傳の一里塚となつたが、一九〇七年には「タイムス」の買収はノースクリフ卿に世界の輿論の影響と啓蒙の爲に最も有力な武器を與へた。ノースクリフ卿は彼の巨大な新聞機構をイギリス帝國主義の御用に立てることによつて、イギリスの最大の新聞王となり又英國の最も有力な戰爭煽動者となつた。「タイムス」「デイリー・ミラー」「デイリー・メール」「ウイークリー・デスバッチ」「オブザバー」「イブニング・ニュース」は戦前専らノースクリフ卿の命令下にあつた。彼は戰爭或ひは平和が民族の生活に如何なる役割を演ずるかを規定した。イギリス大帝國の脅威は獨り獨逸であり、その優越と軍國主義は歐洲の平和を攪亂すると見た。彼は戰爭に備へる教育と戰爭手段の出來る限りの完成を勸告した。彼はイブニング・ニュースをして、獨逸帝國は絶えず他の國民を戰爭に巻き込み、そこから自分の利益を引き出さうと努力してゐると主張せしめた。(ローレンツ、イギリス新聞、ハル、一九〇七年、一二三頁)彼はイギリスが戰爭に参加した原因を巧妙に隱蔽

する作業に關與した。

世界大戦勃發と共にノースクリフ卿は獨逸の忿怒的となり、他而世界の自由の守護者としてイギリスの賞讃の的となつた。彼の新聞の讀者は獨逸の攻撃及侵略の意思或ひはベルギーの中立を侵害する獨逸の不道徳に關する若干の疑問を除かれた。ベルギーの自由擁護の叫びを以て、ノースクリフ卿は戦争の爲の又獨逸の野蠻な力を破壊する爲のあらゆる宣傳手段を正當づける所の道徳的理山を見出した。その爲には最も非道徳的な誹謗も正しく正當であつた。特にそれが同時に獨逸の世界に於ける信用を傷け、ノースクリフから見れば遂に非戰闘的なイギリス國民の戰闘精神を強め、ノースクリフ新聞の出版部數を増すに力があつた場合に於て然りであつた。(ストットテルハイム、五〇頁)自由黨及保守黨の政治家が一致した確固たる基礎の上に協力せることは結局ノースクリフ卿の新聞のお蔭であつたのである。(チャーチル、世界の危機、ロンドン、一九二七—一九二九、一巻、一四一)すべての人が一方の側に立ちそして敵が他の側に立つたのだ。

ノースクリフ新聞は始めからロイテル社と絶えず協力し、ロイテル社はバリのアパス通信社と聯絡し、それと協力して例へばブリッセル新聞に情報を供給してゐた。新聞宣傳の爲にはノースクリフ卿の手中にあつた外國新聞が非常に重要であつた。それはイギリスの爲に利用された。

新聞宣傳及ノースクリフ卿の一般的宣傳は同一觀點から行はれたのであつた。それらはイギリス

國民の獨逸に對する惡感情を沸騰點に迄高め且その状態を持続させる爲に互に助け合つた。新聞宣傳の内容に就てはも早や細い點まで述べる必要はない。一般的宣傳を述べた際に宣傳の重要な手段と目的とは述べておいた。ノースクリフ新聞の宣傳の効果とクリュー・ハウスの宣傳の効果とを見積ることは容易でない。その効果は世界大戦の結末に於ける獨逸の崩壞の原因の問題と密接な關聯がある。

ノースクリフ新聞の宣傳事業は同一方向にある反獨的英國輿論の維持にとつて最も價値があつた。クリュー・ハウスの宣傳はドイツ軍の精神的破滅を招來した。一戰線宣傳は言はず他の手段を以てする新聞宣傳の延長であつた。如何なる宣傳をノースクリフ卿は個人的に最も高く評價したかに就てはイギリス側の證據を我々は持たない。兩方の宣傳は非常な壓力と實行力を以てその思想を獨逸及英國の民衆に注込んだので遂には街頭に於ける最後の一人迄も影響の下に立ざるを得なかつたといふことは確かである。

ノースクリフ卿が新聞コンツェルンをイギリスに作つた時に彼を導いたものは經濟的利益の外に無数の紙に印刷した戦争宣傳を一ヶ所から指導しそれにより聯合國の爲に多數の軍隊に代る武器を鑄造し得るといふ思想であつた。(デスター、新聞制度、プレスラウ、一九二八、八一頁。ノースクリフ卿、戦争に際して、ロンドン、一九一四、二四九—二五四頁。その中には對獨戦争に於けるイ

ギリスの宣傳を強化せんとするノースクリフ卿の決意が表現されてゐる。

戦争新聞宣傳の中心に最も成功を収めたイギリスの大衆新聞たる「デイリー・メール」があつた。(ブレックス、世間騒がせ、一八九六—一九一四年のデイリー・メール、ロンドン、發行年不詳) 情報事業の技術的、組織的完成及讀者獲得の法則に適つた情報の適切且詳細な整理に就てはデイリー・メールの敵はなかつた。政治的センセーションは最上の讀者獲得手段であつた。反獨的宣傳に當つては人道的同情を強調することによつて政治的情報の効果を高め得ることをノースクリフ卿は知つてゐた。セーセーショナルな形式で戦争事件は取扱はれ誹謗と歪曲と欺瞞とに門戸が開かれた。ノースクリフ卿が嘗て生徒によつて生徒の爲に書かれた新聞と呼んだ、「デイリー・メール」は今や判断と影響とを與へたが、事實を與へたのは稀であつた。情報と報告は神聖でなくなり、傾向的になり虚偽になつた。(キルヘル、ノースクリフ。一九二二年八月三〇日附フラクフルター・ツァイツング) 憎悪は仕事である外に國民的な大きな祈禱になつた。ノースクリフ卿は大衆の理性に訴へることは確に正しい。彼が大戦時代の他の如何なる人よりも以上に「避け難き戦争」の爲に働いたといふのに寄與したといふことは全く確かだ。(キルハー、イギリス人、フランクフルト・アム・マイン、一九二六、三〇一頁以下)

「デイリー・メール」は特に艦隊政策に於て反獨的であつた。親獨的變化は「大いなる幻影」(獨逸初版。ライプツヒ、一九一〇年。イギリス初版。一九一四年、ロンドン、ハイネマン)の作家、前パリ通信員ノーマン・エンヂェルに於て唯一度確め得た。彼はその故にノースクリフ卿によつて辭めさせられた。(ノーマン・エンヂェルは一九〇五—一九一二年同デイリー・メールのバリ特派員であつた。戦争の同獨逸に對する偏頗な判断から離れてゐた。戦後はケーンズ及ベイシユと共にベルサイユ條約の修正といふ考への闘士となつた。)「外國新聞の特徴」(一卷、イギリス、二版、ベルリン、一九一六年)によればデイリー・メールのベルリン通信員フレデリック・ワイルは一九一四年八月ベルリンで逮捕された。彼は獨逸系のアメリカ人であつたが、英國の愛國者であつた。彼はアメリカ大使館の要求により、直ちにアメリカに歸り、戦争の間記者としてロンドンでは働かないといふ誓約をして釋放された。ワイルはしかしロンドンに止り、彼の賞讃に値する著作「皇帝をめぐる人々」(ベルリン、一九一三年、ロンドン、一九一四年)を誹謗の書に變へた。

「マンチエスター・エディション」デイリー・メールの南阿戦争間の出版及バリ版「コンチネンタル・デイリー・メール」の創始は宣傳にとつて重大であつた。(シモンズ、印刷術、ジャーナリズム内幕史、ロンドン、一九一七年、六一頁)ベルリンに「デイリー・メール」を設立せんとする計畫は失敗した。「デイリー・メール」の「海外版」は、ノースクリフ卿の手により一九一〇年八月二十七日

創立された所の帝國主義を目的とする世界各地に於て約十二萬人の會員を有する海外クラブにとつて通信紙として役立つた。

戦争の始めノースクリフ卿はキツチナー卿を賞讃し、自由黨の陸軍大臣ホールデンの辭任を要求した。蓋しホールデンは餘りにも獨逸哲學に没頭してゐたからである。(ホールデン、獨逸、我が心の故郷)(アンデエル、新聞及社會組織、ケムブリヂ、一九三三年、一八頁)キツチナー卿は陸軍大臣となつた。彼は偉大な努力をしたので全英國は驚いた。しかし間もなくノースクリフ卿はこの大臣が氣に入らなくなつた。蓋し一般的兵役義務の輸入に關する論争に於て彼を充分支援しなかつたからであつた。論争は盛に行はれ、ノースクリフ新聞によつて有効に支持された。キツチナー卿は戦線に働いて「デーリー・メール」の通信員に特權を拒んだ。彼は「デーリー・メール」の議論に賛成せず、兵役義務に對する命令的な要求に賛成することを拒んだ。時々起る軍需品の缺乏はロイド・デョーデを新設の軍需品省の大臣にする端緒となつた。若しもデーリー・メールによつて要求された政策が實行されなければアスクキス首相が辭職しなければならぬ危険を惹起したところの、益々高まる兵役義務の要望は徴兵法の急速なる實施を齎す方向に作用したことは疑ひない。「デーリー・メール」の説明によれば、戦時に於ては全國民の信賴を背後に持たねば政府は公務を行ふことは出来ない。ノースクリフ卿の宣傳出動に對して、アスクキスは激昂せる輿論に向つて、彼の職務を政黨内閣

で引受けることはこれ以上出来ない旨を説明した。故に彼はノースクリフ卿の政黨が自ら直接政權を握つて責任を持つ、聯合内閣の組織を決議した。「デーリー・メール」はキツチナー卿に對する攻撃により國民によつて非常に重大なりと認められる過ちを犯したとはいへ、(デーリー・メールはロンドン取引所で燒棄てられ、購讀者の大減少を來した)この闘争方法は新聞が戦つた目的を達し得たことは疑なかつた。アスクキスは十二人の自由黨員、八人の保守黨員、一人の勞働黨員、一人の將軍即陸相キツチナー卿から成る新内閣を作り、表面上「デーリー・メール」に勝つたとはいへ、イギリスの輿論はこの内閣を熱狂して迎へたのではなかつた。ノースクリフ新聞は聯合内閣はあまり續かず、これに反し同一政黨員からなる、互に信賴し合つた内閣が特に戦時に於て歓迎され、あらゆる點で強力である旨を強調した。

ノースクリフ新聞のアスクキス聯合内閣に對する攻撃は沈黙しなかつた。個人的調査とイギリスの本營との間の協議によつて戦線には貧弱な彈丸が不十分に供給されてゐるに過ぎないといふ情報をも、一九一五年三月中旬ノースクリフ卿は手に入れた。ノースクリフ卿はこの情報を評論といふ迂路によつて纔かに發表することが出来た。それは賣國奴取締法を發動させると同時に、イギリス國民の偶像たるキツチナー卿を攻撃する大膽な芝居であつた。(ペンバートン、一五四、一五五頁)ノースクリフ卿はキツチナー卿をイギリス軍統帥の失敗の責任者として攻撃せねばならぬと信じた。

三月二十一日「デーリー・メール」には「榴弾の悲劇、キッチナー卿の大失策」の見出しで、センセイショナルなノースクリフ卿の論説が掲げられた。(ウィルソン、二三二頁)ノースクリフ卿の見識は正確なことが証明された。イギリス政府は彼に對して敢て何事も企てなかつた。ノースクリフ新聞の報告によつてロイド・デョーデが聯合内閣總理になつた。

一九一五年三月二十六日の國民聯合内閣に於けるロイド・デョーデの地位は、ノースクリフ卿の新聞によつて益々鞏固にせられた。ロイド・デョーデは祖國の爲に決然立つた男といふ名聲を博したが、彼の最も有力な盟友たるノースクリフ卿は以前は急進自由黨に對して用捨なく攻撃したのであつたが、確實なる勝利を保證する完全なる軍統帥の變革をロイド・デョーデに期待した。榴弾下で決断しないで熟慮してゐる、弱體にして目標をもたぬ内閣の中にある強力な男として、「デーリー・メール」はロイド・デョーデを賞揚した。

ノースクリフ卿はミス・キャベルの死刑によつて惹起せられた愛國的激情を利用して、明かにアスクキス内閣倒壞の輿論を作らうとした。ノースクリフ卿は今や兵役義務を標榜せずして、指導的大臣の個人的無能を攻撃するに至つたことは重要であつた。「大なる元氣と創意とを持つ總理大臣であるならば、二十二人の大臣よりなる内閣に於ても見通しと急途なる實行とをなし得たであらうといふことは考へ得る。併しそれはアスクキスの最大の賞讃者の見解に従つても、アスクキスの性格で

はないのだ。」(一九一五年十月二十五日付「デーリー・メール」及「タイムズ」)ダーダネルス海峡に於ける計畫の失敗、ブルガリアの攻撃、兵役義務の施行躊躇は「デーリー・メール」にアスクキスに對する手痛い批判の材料を與へた。ノースクリフ卿はアスクキス内閣を二十二の頭を持つ蛇と呼んだ。ノースクリフ新聞の壓力は自由黨の陣營に於ける弱き且不明瞭な主張のしなければならなかつた任務を完成した。

一九一五年の終りにイギリスにとつて危険となつた戦況は内閣の決定的改造を要求した。ノースクリフ新聞は議會の決定を迫つた。ノースクリフ新聞は新聞や議會で武器、彈丸、榴弾を前例のない程作らせた軍需品省の行動に鋭い批判を向けた自由黨の一部の不滿と闘つた。ノースクリフ卿は一九一六年の初、數頁に互る論文を物して再び兵役義務の問題を組上に揚げ、國民兵役義務の導入を戦争の繼續、成功にとつて必ずしも必要でないとした自由黨の政策に判決を與へた。五月二十五日一般兵役義務の速時導入を目的とする政府の提案は皇帝の裁可を得た。

その後間もなくアスクキスの最後の内閣が出来た。陸軍大臣キッチナーの後繼者には一九一六年六月ロイド・デョーデが成つた。ノースクリフ卿は再度勝利を博した。

一九一六年の終頭「デーリー・メール」には再びアスクキス内閣の實行力及戦争に對する決意の缺乏に對する非難が重ねられた。(スチード、アスクキスの世界史に於ける地位。現代史。二八卷、一號、

一九二八年、四二頁以下）軍事上の問題を先づ戦時内閣で議し次にも一度全體内閣で永い會議を開いて徹底的に審議するアスクキスのやり方は、急速な決断を不可能とした。自由黨の徹底的分裂は明かとなり、自由黨内閣員の大部分は戦争遂行の責任をこれ以上負ふことを拒んだ。事態を認識せる更に小さな内閣を要望せるノースクリフ新聞の催促は自由黨の崩壊を不可避にした。ノースクリフ卿によれば「グレイすら外務大臣たるにも早や適當ではなかつた。」「グレイは戦時外交は知つてゐる。しかし彼は戦争を知らぬ。」とノースクリフ卿はリデル卿に説明した。（リデル卿、一九一四—一八年戦争日記、ロンドン、一九二三、九九頁）ノースクリフ卿はチャーチルも戦争指導の失策に責任があると信じた。（チャーチル、一巻二五一）

一九一六年十二月九日ロイド・デュードは英國國民の大多數の賛成を得て總理大臣となつた。戦時内閣は海軍大臣サー・E・カーゾン、外務大臣バルフォア、陸軍大臣ダービー卿、封鎖大臣セシル、軍需品大臣チャーチルで組織した。戦時内閣の脊樑はノースクリフ新聞であつた。戦争から停戦に至るイギリスの政策を理解する爲には、ロイド・デュードが就中ノースクリフ卿の新聞の支持で斷乎として何等の顧慮なくプロシヤ軍國主義の壊滅に努力したといふ事實は歴史的に重要である。（ビーバーブルック卿、政治家と一九一四—一六に於ける戦争、ロンドン、二巻、一二二頁、一九九頁。チャーチル、一巻、二四五頁。リデル卿の戦争日記、九二頁—九三頁、二二五頁。ファイフ、二〇一、

二〇二頁。クラーク、二〇二頁以下。カの虚飾、一二〇頁以下。パーケンヘッド伯、同時代の人、ロンドン、一九二四、三八頁。O. E. ブレイン、一九一四—一六年に於ける戦時の社會、ロンドン、一九三一、一八一頁。エンサイクロペヂヤ・ブリタニカ、三二巻、七七九—七八五頁）

ロイド・デュードは彼自身及彼の戦時政策に對する勞働者の輿論を獲得したので、大なるストライキと不安が大英帝國に起り軍事的・政治的に戦争遂行の有害な影響を與へはしないかと云ふ、平和時代及最初の戦争時代抱かれた危懼を國民から拭ひ去ることに成功した。ロイド・デュードは平和宣傳の爲の公の會合を嚴重に禁ずることをも敢て爲し得た。（モーゼル、七三頁）ドイツがとゞめを刺されるまでは平和は來ない。このノースクリフ新聞の要求をロイド・デュードは最後の決心を以て代表したのであつた。

彼の首相としての登場はあらゆる獨逸の平和の努力に對する拒絶を意味した。イギリスの戦争熱は増大したが、他方獨逸の戦争熱は衰へ始めた。ロイド・デュードの悪魔はノースクリフ卿であつた。彼は憎惡・復讐心・所有慾を掻き立て、鼓舞し、國民の熱狂に對して責任ある態度を呼返さうとするあらゆる運動を脅迫したり約束したりして除いた。（グリーンズレンデル・ウイスマン、ロイド・デュード、ミュンヘン、一九二二年、七九頁。ウォルター・ロツホ、ロイド・デュードと戦争、ロンドン、一九二〇年、一六四頁以下）彼の先輩アスクキスが恐らく決して理解しなかつたであらうと思はれ

る方策にロイド・チョーデは歩を進めた。彼は彼によつて合目的に新しく作られた、對敵宣傳の一切の分野を一つの統一體に包括する内閣の對外宣傳部の指導をノースクリフ卿の手に委ねた。

ノースクリフ卿は彼の新聞に於て政治史を作つた。「デーリー・メール」は「タイムス」と共にイギリス政府の最も確固たる支柱であつた。敵對行動の始まつた頃から、英國最高軍事機關は戰爭通信員の派遣を拒んだ。最高軍事機關は單に公の「目撃者」を許し、その報告が新聞に通知された。「戰爭通信員」の性質を有する最初の「公の目撃者」は既に一九一四年九月のスキントン將軍であつた。ノースクリフ卿は戰爭通信員任命につき指導者を説き伏せることが出来なかつた。「デーリー・メール」は戰爭通信員を初めから要求してゐた。併しノースクリフ卿は自らベルギー人、フランス人、イタリア人の客として戰場に行くことが出来た。そして自ら他の新聞が沈黙せざるを得なかつた事件を報告し得た。(ウイルソン、二四五頁)ノースクリフ新聞の信望が確められた時に、ノースクリフ卿はイギリスはたゞ情報によつてのみで救はれることが出来ると信じて、かくの如き情報を集めに戦線に向つた。彼の収集した情報は大部分は彼自身の新聞に公表されたが、その外イギリス新聞及多くの外國新聞にも公表された。

「エンチクロペヂヤ・ブリタニカ」(三一巻、一一四七頁)に依ればノースクリフ卿は一九一六年三月四日ベルダンの戦の間戦線を訪ひ、ベタン將軍と會談し、同夜更にバリに向ひ、そこで彼はベル

ダン要塞の陥落し難きことについてセンセシヨナルな一文を書いた。その論文は三千に互る中立國及聯合國の新聞に公表せられた。

ノースクリフ卿は併しそれで満足しなかつた。彼は通信員を獨逸に派遣した。通信員は敵の情報を齎らす使命を有してゐた。その情報は眞實で、人道に訴へるものであつた。かくしてイギリス政治家を用捨なく且手痛く苦めたので、遂にはイギリス本營に戰爭通信員を置くことを許された。(ウイルソン)ノースクリフ卿は彼の行動に於て就中リデル卿、バーンハム子爵、キツチナー卿に援助された。一九一五年五月の最初の週に六人の通信員が許された。その報導は檢閲をうけた。(エンチクロペヂヤ・ブリタニカ、三一巻、一一〇八頁、三〇巻、五九二頁)西部戦線に於けるノースクリフ卿の五人の戰爭通信員はフイリツプ・ギブス、バーンバル・フイリツプス、ペリー・ロビンソン、ハーバート・ラッセル及ビッチ・トーマスであつた。彼等はノースクリフ新聞の缺くことのできぬ支柱であつた。(彼らは「偉大なる五人」としてイギリスでは有名である。フランス戦線では有名な戰爭通信員ゲラルド・キヤムベル(タイムス及デーリー・メール)H・ワーナー・アレン(モーニング・ポスト)レスター・ローレンス(ロイター通信)が活躍した。イタリア戦線ではJ・M・N・ジェフリー(タイムス及デーリー・メール)G・ワード・ブライス(新聞聯合)レイマン・ワトソン(ロイター通信)ジュリウス・ブライス(中央通信)が活躍した。「戦場に於ける新聞と軍隊との關係」及帝國

合同通信に宛てたりデル卿の手紙、一九二二年三月二五日参照)

デーリー・メールの宣傳に付てはこの研究書では繰り返して指示しておいた。絶えず所謂獨逸の慘行及秘密に關する同一の虚言が廣められ、又、短い印象的な文句が作られ世界中の讀者に刻み込まれた。購讀者獲得の確かな又實驗濟の法則に従つて見出しにはセンシヨナルな取扱によつて標語が印刷せられ、絶えず繰り返された。聯合國は權利の爲に、自由の爲に、人道の爲に戦つたのだ。併し獨逸はこれに反し侵略の爲に戦ひ、人類をプロシヤの軛の下に低頭せしめんとするのだ。先づ最初にベルギーが犠牲になつた。デーリー・メールは完全なる回復と賠償とを要求した。ベルギーの慘狀及ベルギーに於ける獨逸人の野蠻の支配が「デーリー・メール」の通信欄一杯に書かれた。それから次にエルサス・ロートリンゲンが宣傳の中心となつた。エルサス・ロートリンゲンは常に佛領であつた。住民はアレマンネン人であり全く獨逸語を話さないといふ事に就て歴史が證人に呼び出された。實例は百倍された。イギリス人は「デーリー・メール」を「デーリー・虚言者」「デーリー・哀哭」と戲翻した。それは「デーリー・メール」が絶えず英國外交の無能を訴へたからであつた。「兵士の新聞」として「デーリー・メール」は「戦争に勝つ」といふ標語を與へた。ヘンダーソンの率ゐる労働黨は自己の機關を持つてゐなかつたので、「デーリー・メール」は「フェアプレーの精神」といふ自由なる意見發表欄を與へた。而して或る時「デーリー・メール」は忘れ得ぬ一文を載せた。即ち「イギ

リスは形式の上では民主政を持つてゐるが國民は嘗て統治したことはなかつた」と。(一九二〇年十月九日「日」参照)

「デーリー・メール」と竝んで一世紀以上に亘つて有名な世界的新聞としての獨特な地位を占めてゐた「タイムス」が、ノースクリフ卿の明白なる戦争宣傳新聞になつた。ノースクリフ卿がタイムスを買収し「デーリー・メール」と同様の内容を「タイムス」に與へた時に、彼は「デーリー・メール」を小「タイムス」とせずして、反對に「タイムス」を強力なる「デーリー・メール」に服従せしめた。(力の虚飾、ニューヨーク、一九二二年、一九八頁)

ロスシルド卿及クローマー卿と共にノースクリフ卿は七十五萬ポンド(千五百萬マルク)の資本金を以て會社を建て、「タイムス」はその中に入れられた。ノースクリフ卿は株の大半を收めた。この新聞の世界的影響の上に立つて、彼はより大なる勢力と、より強められた成功の見通しを以て、獨裁權を握ることが出来た。宣傳の主要手段はセンシヨナルな情報の仕事と學問的論說との結合であつた。「タイムス」の情報の仕事は明かに憎むべきであり、非良心的に眞理を歪曲し、大衆を煽動する目的に従つて一切を着色した。(外國新聞手帳。戦争新聞應外國部編。ベルリン、一九一八年、四九頁、五〇頁)英國の識者を信せしめる爲に、輝しき一流専門家の手に成る微細の點迄「極めて客觀的」な論文が公にされた。レピングトンのドイツからの演習評は客觀的であつた。彼の戦争

報告は煽動的であつたが、「タイムス」は政府の支持に決して重きを置かなかつた。「タイムス」は常に獨立を保つことが出来た。決して或る政黨のメガフオンになることはなかつた。數世代以來「タイムス」の反獨的論調はその特色であつた。デレイン(デレインは一八四七年から一八七七年の間「タイムス」の主筆であつた)の下に於てすらこの態度は他の英國の全新聞に比して著しかつた。その後は段々と保守黨の新聞になつてしまつた。(レーブ、紙の敵。對獨憎惡の煽動者としての世界新聞、アツグスブルグ、一九一八年、一〇四頁)政治的宣傳に役立つたのは大戰前に於ては「タイムス」の政治的「附録版」であつた。「ロシア附録版」は一九一三年以來規則的に、ロシアの政治的輿論を作る爲に、ロシア政府と緊密に聯絡して發行された。ロシア政府はその爲に多大の補助金を與へた。「政治家」(コペンハーゲン)及「ダジェンス・ニヘーテル」(ストックホルム)に對する緊密な關係の證據は今迄には明にされてゐない。

世界大戰はノースクリフ新聞を例外なく一樣にした。確實な編輯を特徴とした「タイムス」すら高等政治の情報や宣傳戰に於ては戰争宣傳の爲に使はれた。それはノースクリフ卿がアスクキス自由黨内閣の政策に反對して實行したものであつた。「タイムス」はアスクキスを倒し、ロイド・ジョーヂを賞揚し、勢力ある人々を個人的誹謗のあらゆる方法を以て退却せしめ、愛國心を沸騰せしめるに助力した。いはゞ「タイムス」は憲法上の機關として政府の上の位を占めるの觀を呈した。イ

ギリス議會は益々權威を失墜し、ノースクリフ卿が「タイムス」によつて勢力を握つた。(シモンズ、二三頁以下)

一九一四年八月一日、「文明に對する罪」と稱せられる所のセルビヤ及ロシアの意味に於て、獨逸との戰争に反對する英國學者の檄を「タイムス」が公にした。それはノースクリフ卿が七月獨佛間の戰争が起る場合には英國は佛蘭西に加擔するといふ事を明かに見て取つた後の事であつた。一九一四年九月十八日に五十人の英國文士の惡評ある檄「正しき戰争」が出た。戰争の間は「タイムス」は獨逸に對するキプリングの憎惡の虚構とH・H・ウェルズの論説を掲げた。該論説は獨逸の野蠻にして弱者を強壓する權力學說と英國の自由、人道主義及弱者保護の見解とを對立せしめ、それからイギリスの世界に於ける使命を導き出した。

「編輯者への手紙」程イギリスに於て政治的戰争の精神を高めた計畫はない。此計畫は道德的限界を遙かに越えてゐた。こゝでは唯、編輯者が名士からの返事を要求したり或は又寄せられた返事を握りつぶしたりした事實を附加して競争新聞に發表された時には、ノースクリフ新聞の實際のない虚言も非常にむづかしくなつたといふ事を指摘しておかう。(カントロヴィッツ、イギリス政治の精神及獨逸を包圍する妖怪、ベルリン一九二九年、八〇頁)ノースクリフ卿は、「編輯者への手紙」を獨逸文明と英吉利文明との比較を目的とする質問を爲すことによつて、有效なる宣傳材料とした。

「フリート街のナポレオン」(フリート街とは英國ではロンドン新聞全體の總稱或ひは屢々全イギリス新聞の總稱に一般に用ひられてゐる。實際はフリート街は「ストランド」と「ラッドゲイト・ヒル」とを結ぶ街路である。こゝには殆んど全ロンドン新聞が本店を置き、而してこの新聞中心地には地方新聞、通信社、植民地新聞、外國新聞のロンドンの營業所がある。(コックス・グリューンベック、大英帝國の新聞・その精神的經濟的構造、ミュンヘン、一九三四年、六六頁) 尚ジョンズ、フリート街とダウニング街、ロンドン、一九一九年参照) といはれるノースクリフ卿は繪入新聞「デーリー・ミラー」を主として繪入宣傳に用ひた。「デーリー・ミラー」には獨逸の將校が常にその部下を虐待するのに用ひると謂はれる鞭の有名な繪が載せられた。それは兵士が衣服をたたく鞭の繪が巧妙に改變されてゐたのである。「祭壇の亂痴氣騒ぎ」には獨逸の兵士がなみ／＼と注いだ神聖の盃と一緒に彼の仲間を呑むといふ變行の繪が書かれてあつた。一九一五年三月十日の「デーリー・ミラー」の繪には、皇帝が血の附いた刀と兇様の襦袢を持ち各時代の残忍な人々に取巻かれた追刺の姿で描かれてゐた。一九一五年三月十一日には刑務所の着物を着た皇帝と皇子の度外れに侮辱的な繪が掲載せられた。

ノースクリフ卿の「イヴニング・ニュース」は戦争の始めから一切の獨逸の官吏の追放とその他の獨逸人の逮捕とを要求した。度々逸獨人が放火の罪を着せられた。色々の國民の氣持と流れを極め

て巧妙に尊重し、之を利用し、國民精神と個々の目的と、その經濟事情とを最もよく認識し、各國に於ける政論界によく精通したことに、「イヴニング・ニュース」の新聞宣傳の勢力は基づいたのである。

ノースクリフ新聞トラストに屬する全新聞即ち「サンデー・ピクトリアル」「ウイークリー・デスバツチ」地方新聞「リーズ・マーキュリー」「グラスゴー・ヘラルド」「マンチエスター・クーリアー」の中に宣傳は容赦なく入つて行つた。シル・ヴァア(英國政治家、ベルリン、一九一六年、三三二頁)は「世界の危險物ノースクリフ卿」を適切に特徴づけてゐる。曰く「而して朝大タイムズに御神託が下ると同じ日の夕方にはそのイヴニング・ニュースやオヴザバーやそのバリー版がこれを引用し、翌日にはデーリー・メールが註釋し、又その次の日にはデーリー・ミラーが繪を入れ、又彼のリーズ・マーキュリーやグラスゴー・ヘラルドやマンチエスター・クーリアーがそれを複製する。彼のマンモス審音機の根は巨大であり、彼のメガフォンは毎週少くとも三千萬人に呼び掛ける。」と。

ロシア皇帝の絶對的支配は憎むべきであるからロシアとの協力は不可能であるとなす思想にはノースクリフ卿は餘り重きを置かなかつた。古い二國同盟と英國との間の接近の成立は、外交の成果のみでなくて「ノライエ・ウレムヤ」の政治的宣傳の成果でもあつた。ノライエ・ウレムヤは完全にノースクリフ卿の掌中にあつた。一九一二年ノライエ・ウレムヤは新しく設立された株式會社に組み

入れられ、株式の大多数は或る金融會社に手渡された。その社長はノースクリフ卿であつた。歴史家で、ドゥーマの第一回大統領であり且十月革命の指導者であるグッチュコフが「ノライエ・ウレムヤ」の精神的指導者となり、財政上の指導はノースクリフ卿の手に移つた。(レープ、九八頁)かくしてビーターズブルグはノースクリフ卿の努力によつて對獨英露新聞論陣の中心點となつた。特に所有の交換は當時獨逸では全然注意されなかつた。對獨宣傳に於ては「ノライエ・ウレムヤ」は益々煽動的になり、僭越になり、遂にサンノー及スコムリノフが戦を遂行した時には、新聞の書き振りは「デーリー・メール」と最早や區別し得なくなつた。

戦前ノースクリフ卿及スワリンの指導下に多數の新聞記者がビーターズブルグで活躍した。その中には「モーニング・ポスト」「グラフィック」「デーリー・メール」及「デーリー・テレグラフ」の記者がゐた。自由黨系の新聞例へば「デーリー・ニュース」「デーリー・クロニクル」「ウエストミンスター・ガゼット」「マンチエスター・ガーディアン」はロンドンにゐるロシア新聞記者に、ロシア情報を供給する義務を負はした。彼等の中には無政府主義者クラボトキンの婿ルラツ及娘ザクサ・クラボトキンがゐた。多數のロシア及ポーランドの追放者はイギリス新聞に於てロシアの爲に活躍した。彼らは主としてイギリスとロシアの緊密なる結合は彼らの祖國に進歩を齎すと考へたのであつた。彼らがロシア政府を擁護したことは稀であつたとは云へ、彼らは活潑にロシアの宣傳に寄與

し、而して獨逸はロシアを經濟的に絞殺せんとし、獨逸のみがロシアの現状に對する責任者であるといふ主張を繰返した。この廣く行はれた宣傳の結果、英國に於ては獨逸人に對する憎惡が深められた。

パリの新聞「マタン」と緊密に共同したことは既に指摘した。パリではド・ボイダツツが「タイムス」と非常に有利な契約を結んだ。それによれば彼は「タイムス」の全情報を年十五萬フランで確保した。ロンドン電報は自分の電線によつて「マタン」に通達せられた。

イタリヤ新聞「セコロ」は既にクリスピ時代にて斷乎三國同盟に反對した。それはイレデント黨の機關であつた。ノースクリフ卿は「セコロ」をも「タイムス」と緊密に協力せしめ、その新聞を自分の宣傳目的に用ひた。

最も緊密な聯絡がアムステルダムとの間に出来た。一九一五年九月アムステルダムに事務所が作られた。それはヘーグに於けるイギリス及フランスの公使館にドイツ及ベルギーに對するオランダからの密輸出に關する資料を與へる爲のものであつた。直接の任命者はサー・フランシス・オペンハイムであつた。彼は英國貿易事務官であり、既述の如く、オランダに在る反獨的貿易スパイを指導した。「タイムス」は屢々「テレグラフ」を引用した論説を載せたが、その原文はそれから數日たつてやつと「テレグラフ」に載るといふ様なことが屢々起つた。「テレグラフ」

の主たる所有者ホルダートはノースクリフ卿とも緊密に連絡してゐた。(ノースクリフ卿による世界大戦の爲の新聞の準備に就て参照すべきもの左の如し。O. J. ヘル、獨逸及外交の革命、ロンドン、一九二一年、一一二九頁。ウォルター・レイライ、戦争と新聞、オックスフォード、一九一八年、一五頁。ハリ・エルマー・バーンズ、世界大戦の發生、ニューヨーク、一九一六年、五一六頁及五二八頁。テオドル・ロレンツ、イギリスの新聞、九頁以下。ユング、戦争に於ける七強國、ベルリン、一九一六年、六二頁以下。レーブ、上掲、五三頁。レーブ、エドワードの不幸なる世嗣、アウグスブルグ、一九一五年、六頁以下。シーマン、我々の敵の新聞は如何にして戦争を準備し強制したか、ベルリン、一九一九年。更に参照すべきもの左の如し。エデンバラ評論、一九一八年四月、新聞の力。十九世紀、一九二二年七月、眞實か虚言か。現代評論、一九一六年一月、新聞神。三月月評論、一九二三年一月、デレーンよりノースクリフに至る「タイムス」。更に参照すべきもの左の如し。ジョン・エヴェライン・ウレンチ、奮闘の生活の最初の段階、ロンドン、一九三四年。(中にノースクリフ一九〇一—一九二二あり)

ノースクリフ卿のスウェーデンに對する攻撃は一九一八年三月に始つた。スウェーデンの情報の中心スウェスカ・テレグラム・バイランはロイター、新聞聯合、アバスから最早や情報を受けるのをやめ、全スウェーデンの新聞及それと共にスウェーデンの輿論に聯合國の爲に統一的に影響を及ぼ

す爲に、新事務所を作らねばならぬといふことになつた。スウェーデンの新聞發行者聯盟はこの新事務所の設立に反對した。その聯盟にはあらゆる方面の約百六十の新聞が加盟してゐた。即ち事務所の新設はスウェーデンの新聞の獨立不羈の地位に適當しないといふのであつた。「ダヂェンス・ニヘーテル」及「アフトン・チドニンゲン」の事務所新設の宣傳にも不拘ノースクリフ卿は彼の計畫を遂行し得なかつた。「北部新聞中央部」の名の下に創設された電信所は、獨逸社會民主主義者とスウェーデンの左翼黨との協同が電信所を通じて行はれたと言へスウェーデンに對する影響に取つてはあまり重要な役割は果さなかつた。

ノースクリフ卿の新聞獨裁に對して、一九一七年に始めてチュエリヒに出版された「反ノースクリフ大雜誌」が反抗した。同誌英語版の任務が第一號の表題面に發表された。曰く「ノースクリフ卿は去らねばならぬ!! 黄色ジャーナリズムは戦争に對しては責任がある。戦争の原因は黄色新聞の十二年間の毒である。その結果は二十三ヶ國とその領土が戦争に引入られた。最後の結果はすべての國民の貧困である。黄色新聞の富裕である」と。二枚半に亘つて強烈な繪入のページの全内容が「全人類の最も危険な敵」に關する啓蒙に捧げられた。ノースクリフ新聞の讀者に喰ひ込む爲に、その雑誌はセンセシヨナルな情報を誘惑的に取扱つた。ノースクリフ卿の「黄色新聞」が宿命的な影響をイギリスの政治に與へ、戦争の勃發に付一半の責任があることは無数の例から明瞭である。

雑誌の將來の目的としては現在戦つてゐる國民間及工業家と學者の間の戦後の親善關係の促進が眼目とされた。イギリスでは「反ノースクリフ大雜誌」の輸入は禁止された。

同じ出版社からフェムといふ匿名で「狡猾なる日本人及歐洲の蛇」といふ標題でパンフレットが出版された。(英語及獨語で出版された)それは益々強大となりつゝある日本の脅威を適時且有効に除去する爲に全ヨーロッパが結合するのを妨げてゐるのはたゞ英國のノースクリフ新聞のみであるといふ見解を代表してゐた。日英同盟は英國の政策の第一の失策であり、英獨同盟は世界の救済策であつたが、此處に於て再びノースクリフ新聞は宿命的な分裂的役割を演じた。日本の政治家は英國が數世紀來遂行し來つた政策を模範としたといふことは明である。即ち兩國は同じく島國である結果日本が極東に於て欲するところを英國は歐洲大陸に對して既に完成したのである。(フェム、狡猾なる日本人及歐洲の蛇、二頁、尙トマス・C・ホール、英國黃色新聞、ニューヨーク、一九一五年參照)

この意味に於て無名の編纂者は歐洲及人道の爲に、ノースクリフ及日本に對して、眞理と文明の爲に戦ふ「反ノースクリフ同盟」の結成を要求した。「確にまだ不敵な男はゐる。亦歐洲反ノースクリフ聯盟を設立するに必要な資金はある。反ノースクリフ聯盟は全歐洲、否全世界を實行力ある宣傳によつて、全人類の生命を蠶食する新聞の力から解放し、それを斷然停止するものである。世界

は軍國主義を病んでゐるのでなく、ノースクリフ主義を病みそして出血してゐるのだ!! 歐洲は痛切に革命を必要としてゐる。ノースクリフ精神、即ち歐洲の蛇に對する革命を必要としてゐる!! 諸君よ此の意味の革命家に成れ!!」と。(フェム、三〇頁)獨逸側では「大反出版會社」の出版宣傳の計畫は直接であるか間接であるかは分らぬが、ノースクリフ卿から出たものであり、或は彼が協力してゐるものと信せられた。ドイツ新聞のこの主張の證據はなかつた。この主張の蓋然性は殆どない。

このパンフレットの配布は英國では禁止された。戦争の間イギリス貿易省はドイツ新聞及雜誌の輸入を禁止したが、獨逸では同様なイギリス新聞の禁止はなかつた!!

ノースクリフ新聞にはドイツのパンフレットも抵抗した。それは屢々個人的非難の形式でノースクリフ卿は俗惡の權化なりといふ烙印を與へた。ノースクリフよ、余は汝を非難する。汝は一九〇三年—一九〇四年のスペインの反君主政革命、一九〇五年—一九〇七年のロシアの革命、一九一六年の支那及希臘の革命を起さしめた革命の元兇である。そして又スペイン王アルフォン、現ロシア皇帝ニコラス及皇太子、希臘王コンスタンチン及その家族、愛蘭國權黨員ケースメント及ブル首相ドゥツエーを無き者とする爲に刺客を傭つた革命の元兇である。最後に余は汝がオーストリー皇太子フランツ・フェルデナンド及その妃に對するサラエヴォの卑怯なる暗殺を惹起し、人類を世界

大戦の名状し難き不幸に陥れたことを非難する。」と。(フリードリッヒ・オットー・エンゲルハルト、英國資本主義的帝國主義の世界支配の計畫遂行に於ける犯罪的な方法。英國及聯合國の獨裁者は誰か。余は獨裁者に暗殺の責任ありと訴へる。デュッセルドルフ、一九一七)

かゝる宣傳は火薬と彈丸でノースクリフ卿を撃たなかつたが道徳的憤怒を以て撃つた。しかしそれはノースクリフの宣傳の影響を不啻に誇張したので、結局根本に於て影響を與へ得なかつた。他而英國の宣傳が獨逸の墾壕と獨逸内部に於て大成功を収めたといふ主張によつて、ノースクリフ卿の大功績が證明された。ノースクリフ新聞はかゝる肯定的證明を注意深く印刷した。而してノースクリフ卿の名聲をイギリスに高めたのは戦争中にあつては或る程度獨逸新聞自身であつた。英國政治家の演説が英國にとつて二萬磅の價值があるとすれば、獨逸人がそれを複製すれば五萬磅の價值になり、それに答へねば十萬磅の價值になるといふノースクリフ卿の主張は不當ではなかつた。

イギリスの大衆は新聞所有者の意向によつて、或外國を愛する様にも憎む様にも導くことが出来た。その新聞所有者は直接、間接大資本の影響の下にあつた。英國とロシアの敵對關係が望まれる場合には、ノースクリフ卿の新聞はロシアの政治犯人の虐待及フィンランド竝にポーランドの壓迫の記事によつて満された。外交政策が聯合國結成への決定的方向轉換をした後は、ノースクリフ新聞はそれに追隨して獨逸を唯一の平和の攪亂者なりと指摘するに努めた。この頃から對獨新聞宣傳

は誹謗の論陣に變つた。それは戦争中如何なる他の國も比肩し得ぬ論評であつた。フリート街總指揮官たるノースクリフ卿は唯一の目的たる獨逸の壊滅しか知らなかつた。

第三編 ノースクリフ卿

卿の人となり

ノースクリフ卿は名はアルフレッド・チャールズ・ウイリアム・ホームスワースと云ひ、一八六五年七月十五日愛蘭のダブリン近郊のチャペライズッドで辯護士の長男に生れた。(次の傳記参照、トム・クラーク著「ノースクリフ卿の思ひ出」ロンドン一九三二年發行。ハミルトン・ファーフ著「親友ノースクリフ傳」ロンドン、一九三〇年發行。R. M. ウィルソン著「ノースクリフ卿研究」ロンドン、一九二七年發行。マックス・ペンバートン著「ノースクリフ卿回顧録」ロンドン、一九二三年發行。ウイリアム・イ・カストン著「ノースクリフ」ニューヨーク、一九一八年發行。ルイス・オーエン著「ノースクリフ卿の眞の姿」(ノースクリフ卿のジャーナリストとしての初期のスケッチ、ロンドン)。(ヤーゴウが彼の回想録中に述べてゐる所の、ノースクリフ卿がドイツ系のユダヤ人なりとする説を確認する材料を予は何處よりも得る事は出来なかつた。ホームスワースの父(一八三七—一八八九)はハムプシャアの古い家の出であり、辯護士であると共に久しく北部鐵道會社の顧問をしてゐた。母のゲラルディン・マリーイ(一八三八年十二月廿四日生)は名聲ある愛蘭人の銀行家ウイリアム・マ

フエトの娘であつた。)

既にスタムフォード文典學校時代から彼はジャーナリズムに接觸してゐた。ホームスワースは一八七八年には十三才の若さで校友會誌を創立したが、之は始めは彼の筆に成つてゐたのである。後にこの雜誌が幾らか讀者を得てから、このヘンリー・ハッス誌を彼が管理する事に同意した一印刷者と連契を行つた。

子供らしい遊び半分のものではあるが、この始めての文士としての活動から若いホームスワースはジャーナリズムに身を投じた。學校卒業前から彼は郷里の大人物の傳記に精通し、それらの人々の眞似をして喜んだ。父の希望に従つて辯護士の仕事の準備をすべく彼はケンブリッジ大學に進んだ。こゝで彼はギリシヤやラテン文學の根底ある知識を非常に重要視する、島帝國の貴族階級の教育を受けた。しかしながら如何なるクラシックも理想主義も若きホームスワースを満足させなかつた。彼にはジャーナリズムの血が、然も經濟上の結果のみを問ふ日刊ジャーナリズムの血が傳はつてゐた。實際のジャーナリストとしての活動を熱望する心が高まつて來た。ロンドンへロンドンへと彼の心は誘はれ、魅せられた。斷乎として彼は父の意志による學業を中斷してロンドンへ行つた。彼の實社會の生活は一八八〇年にジラス氏の出版する小地方週刊新聞ハムプステッド・アンド・ハイゲイトの通信員として開始された。同時に彼はロンドンの新聞や週刊雜誌に通信や論説を書い

た。彼が雑誌ユースに発表した煙火といふ論説が、イラストレイテッド・ロンドン・ニュースの発行者
ウィリアム・イングラム卿に認められ、十七才にして週給三一・五シリングで、ユースの副編輯人に
任せられた。効果的な活躍によつて間もなくこの雑誌の主筆の重職に抜擢せられた。モーニング・ポ
スト、セント・ジエームス・ガゼット、ボール・マール・ガゼット、デイリー・テレグラフ等のロンド
ン日刊新聞に發表された論説や通信は彼の筆によるものであつた。ハームスワースはユースの主筆
の地位を間もなく去つた。廿一才にしてコヴェントリーに於てメッスルズ・ウィリアム・イリフ・ア
ンド・サンズの印刷所から申込を受ける迄、彼の自由なジャーナリストとしての生活が續けられた。
イリフは彼に、ミッドランド・デイリー・テレグラフ、バイシクリング・ニュース、ザ・サイクリスト等
を引渡した。彼は之等を二年間編輯した。

ハームスワースはやがて、ロンドンの大新聞たるタイムスやモーニング・ポスト等が、餘りにも生
真面目で無味乾燥であり、イギリスの大衆の讀者は殆ど満足してゐないといふ事を見て取つた。自己
の新聞を持たうといふ一つの望が彼の腦裏に浮んだ。彼はこの目的の爲に所得の大部分を貯蓄した。
當時デューデ・ニッンスがタイトビッツを創立して、英新聞界に新しい必要をもたらした。彼は
讀者に「レッカー・ビッセン」を提供した。即ち生活や知識のあらゆる範圍から何等かの問を提出せ
しめ、同時に解答を與へたのである。ニッンスは成功したが、之は大部分編輯人の熟練のお蔭であ

つた。コヴェントリーとウィリアム・イリフに別れて來た青年ハームスワースの力があつたのであ
る。しかし間もなく週刊新聞の經營を行ひ得る二千ポンドの貯金が出来た。

ニッンスより遙に老練な峻烈な方法で、一八八八年廿三才のハームスワースはイギリス民衆の前
に濃黄色の表紙の一ペニイの新聞アンサーズ・ツウ・コレス・ボンデンツ（略してアンサーズ）を初め
た。この週刊新聞にニッンスが前に始めた問答の遊の考へを利用し盡した。初は非常に少なかつた
この週刊新聞の發行數は忽ち二萬に増加した。一八八九年に、ある期間内に英蘭銀行の金の在高を
言ひ當てた讀者に對して、一週一ポンドの終身年金を保證すると發表した時には、創立一年半にし
て發行部數は廿萬に躍進した。ハームスワースは餘分の社員を充分に持つてゐた。之によつて更に
「コミック・カッツ」「チツプス」「フオグット・ミー・ノット」「フアニー・ワンダー」等の他の週刊
新聞を更に創立する爲であつたが、其の中コミック・カッツは直ちに發行數五十萬に達した。引續き
彼は宗教的の日曜新聞サンデー・コンパニオンを創立した。「宗教も他の商品の如く宣傳が必要であ
る」と青年ハームスワースは喝破し、エルサレムの聖地からヨルダン川の水を三つのタンクに取寄
せ、爲替で申込んだ者に小さな水差しに尊い水を満して送つた。

一八九四年ハームスワースは、後のローザミア卿たる弟とイヴニング・ニュースを買収した。これは
九十年代の初から保守黨の所屬となつてゐた。同黨は當時勢力を増してゐたのであつたが、新聞は

讀者を増加し得なかつたものであつた。ハームスワースはジャーナリストとして初めの間師としてゐたW・J・イヴンスや、ケネディ・ジョーンズ等の監督の下に、イヴニング・ニュースに全力を打込んだ。當時ハームスワースの得た多くの知識経験は其後の實際生活に甚だ役立つものであつた。(ストウツターハイム、五二頁)イヴニング・ニュースの財政上の収益によつて、ハームスワースの擴張の熱意はますます強くなつた。しかも彼は一八九六年デイリー・メール紙の創立によつて劃期的なジャーナリストイッシュユな創造を英國新聞界に齎した。

ハームスワースは一八九六年二月十五日以來非公式の無数のデイリー・メール宣傳紙によつて新聞の最後の形式を定めた後、同年五月四日遂にデイリー・メールの第一號を出した。(忙しい人の新聞)とハームスワースに命名せられた宣傳紙は英國博物館に保管されあり。)デイリー・メール紙は値は僅か半ペニー(四ブフェニツヒ)で一ペニー新聞の判であつた。冒險的な計畫は見事に當つた。發行部数は創刊號に於て既に卅九萬七千二百十五部に達した。(ウィルソン氏の著の百廿二頁)南阿戰爭の時に既に六十萬に昇り、更は一九〇〇年には百萬臺を算し、一九〇一年のエドワード七世の戴冠式を期として百廿五萬に躍進した。(モリス著「エドワード七世と彼の時代」バリ、一九三三年、二八三頁)

デイリー・メールの發刊と共にハームスワースは彼の所有新聞を半ペニーで賣らせ、又殘餘の新聞

にも之にならほしめて、英新聞界に一大エポックを劃した。之は多くの新聞の破産を意味した。英新聞の大部分は定價を約半分に切下げた。デイリー・メール紙の成功の秘訣は測知し得ざる程のものではなかつた。最大の秘訣は單に新聞紙の形式や内容が目新しいセンセーショナルなものであつたからに過ぎぬ。大量販賣の設備が良く整へられてあり、大衆の嗜好や必要に適應し、嚴密に國家主義的精神を保持し、しかも半ペニーの新聞紙であつた故、デイリー・メール紙の發行部数は忽ちの中に他の古い、高價な新聞を凌駕した。ハームスワースは大新聞が讀者に文化のタイプを押し付けるといふ誤をやつて居るが、自分の新聞はさうでないと思つてゐた。「讀者の欲する所を與ふ。」との標語は云つてゐる。彼は諷刺の使用を禁じた。「讀者には諷刺は殆んど解らず、少しも好まれぬ。」と云つた。(モリス、前掲、二八二頁―八四頁)デイリー・メール紙は所謂黄色新聞の模範となつた。屢々目新しい試をしてはアツと云はせ、内容は帝國主義で、然も極端な愛國主義の思想を保持した。

卅代に於て彼は徹底的な國家主義の策略を遂行し、しかも慎重な商略を行つた。彼の發行したものは常に大衆を捕へる資料をもたらした。大衆の判斷には彼は無條件で従つた。彼は發行部数を増加しようと思つた。その目的を達する爲に如何なる手段によるかは、彼は全然顧慮しなかつた。彼の手中にあつた武器の道德的價值は殆ど考へなかつた。南阿戰爭によつて、デイリー・メールには盛

時が廻り來つた。ドイツに對する反感が盛に煽動された。

世紀が改るやホームスワースは英新聞界の一大トラストを形成するといふ案を始めて公式に提出した。彼は同年中にウィークリー・デイスバッチ、サンデー・ピクトリアルを買収し、一九〇三年十一月二日より婦人に管理される婦人新聞として、始めてデイリー・ミラーを發刊した。デイリー・ミラーは最初の繪入りの半ペニの日刊新聞として、重要且つ優秀なものとなつた。之によつて新聞寫眞は日刊新聞同業者の間で非常に尊重されるに至つた。即ち寫眞の係は殆どペンを武器とする者と同じ位重要になつたのである。

ホームスワースの新聞は全大英帝國に於て最高の發行數を有し、最も廣い販路を有してゐた。彼はバルフォア卿の推薦により、エドワード王より從男爵の稱號を受けた。(ウィルソン、前掲、一六四頁)英政府がフランスと和親條約を締結した年にこの爵位が行はれたといふ事は思ひ出として附記しておいてもいいであらう。一九〇五年に彼の新聞を以て保守黨に盡した功を以てノースクリフ卿として上院議員に列せられた。

なほ一九〇四年に彼はデイリー・メール海外版を發刊した。又一九〇五年五月二十二日ノースクリフ卿はデイリー・メール大陸版をバリーに於て創設した。一九〇五年にはオヴヅグアアがコンツェルンに加入した。そして「聯合新聞社」を創立したが、之は「デイリー・メール新聞社」、「イヴニン

グ・ニウス社」、「ニウス・ペイパー・シンデケート社」等を合併したものである。定款の條項に従ひノースクリフ卿は終身社長となつた。彼は取締役及社員の任命權、並びに取締役會の總ての決定の非認權を持つてゐた。(ノヴィオン、英國新聞界とその大新聞、バリ、一九二五、六頁)

ノースクリフ卿は一九〇六年に一般の製紙市場から獨立する爲に、ニューファウンドランド殖民地を建設して新聞用紙の供給を確保したが、一九〇七年—八年に於て、終にタイムスを獲得して彼の統一の事業が完成した。此等の世界新聞の所有の争ひは多くの劇的な事件を生じた。幾多の経過を経て、ノースクリフ卿は絶倫の精力を以て、タイムスの支配權を獲得した。タイムスは既に百年以上も出版王ヅルター家の所有してゐたものであつた。(新機械が採用され、タイムスの版は大きくなつた。一九一四年四月ノースクリフ卿は一ペニに値下した。タイムスの版は増大した。大戦中六〇%もの紙價の騰貴によつて、ノースクリフ卿は止むなく舊價格の三ペンスに値上げした。)タイムス獲得後のノースクリフ卿は全英新聞界に於て、最大の業者となつた。(マーゴット・オックスフォード著「思ひ出」。ロンドン、一九三三年、四九頁)彼の財産は大戦前に於て既に十萬ポンドに達したと見積られてゐる。

ノースクリフ卿は巨大な財力によつて、賢明な販路擴張を行つた。之によつて彼は輿論の獨占的支配を行ひ得る様になつた。彼は「リーズ・マーキユリー」、「グラスゴー・ヘラルド」、「マンチェスター

「クイリアー」等の地方大新聞を彼の支配の下に置き、彼の政治的見解に近い、アメリカの「トリビューン」「サン」「ニューヨーク・ヘラルド」「ニューヨーク・タイムズ」や、フランスの「マタシ」ロシアの「ノヴォエ・ウレムヤ」ポーランドの「テレグラフ」や、イタリーの「セコロ」等と提携を行った。その外イギリスの領土、殖民地に、出張所が無数にあつた。

世界大戦によつて愛國者ノースクリフの名聲は其の最高潮に達した。敵對行動の勃發と共に、直ちに彼はその巨大な情報並びに宣傳の機關を政府に提供した。大衆の欲する所に迎合するといふ主義を有してゐた爲彼の新聞は著しく國家主義的であつた。従つて英國の對獨參戰と共に、ノースクリフ新聞の政論が非常な對獨憎惡感によつて滿されたのは當然であつた。大戦中は勝たんが爲のあらゆる方法が彼にとつては正しかつた。全世界を通じての宣傳戰は概して有利に行はれ、同盟側の諸國は今猶ほ完全に除去され得ざる程の恐るべき大損害を蒙つた。戰爭によつて經濟的に富裕になり、領土を擴張し、政治的に強力にならうといふ確固たる目的はイギリス的なものであつた。又ノースクリフ卿が其の愛國心をドイツ打倒に向けた場合の全くの無懸念はイギリス的なものであつた。

ノースクリフの新聞の支持がなかつたならば、恐らく英政府は一般の兵役義務の様な非常に有效な手段を取る事は出来なかつたであらう。ノースクリフ卿は英國の民間や軍部の権力者達を、一寸

した誤を指摘されてもすぐ彼から免職にされる編輯人の様に取扱つた。(ストウツターハイム、前掲、六二頁)

彼は驚く程大膽であつて、戰場に於ける彈藥の缺乏の様な殆ど反逆的な曝露さへ敢てした。總ての國際間の協定に反して彼はドイツの爆發物製造を妨げる爲、綿を戰事禁制品とみなすといふ宣言を強行した。ノースクリフ卿の障害となつたハーディン卿、キッチナー卿、アスクキス、サー・エドワード・グレイ等は、大臣の席から驅逐された。しかし唯一人大戦中ノースクリフ卿の恩寵を受けた者がある。ロイド・ジョージである。彼はこの爲に總理大臣となつた。J・ゼリコー、サー・ダグラス・ヘーグ、ウィリアム・ロバートソン等は西部戦線の指揮官となつたが、その軍事上の處置に關しノースクリフ卿の辛辣な批評を受けた。(英國の戰遂行に關するウィリアム・ロバートソン著「大戦中の兵士と國民」ベルリン、一九二七年)

ノースクリフ卿はアメリカ滯在中には、アメリカの參戰の爲に運動して莫大な金をバラ散いた。ネルソンの様な大英雄が現れずしてノースクリフの様な人が現れたり、キッチナー將軍の率ゐる國民兵の攻撃力が不充分の爲人々が相手を饑餓に陥れる事に期待したり、戰術上の觀念の不足から技術的の熟練へと走つたり、武器が餘りにも鈍い事が證明された爲に人々が武器を捨て、經濟戦へ移つたり、更に又英國をして遂に一九一八年六月二日米大統領ウィルソン宛の著名な聯合國の文書で

即刻米國の強力な援助無くば戦は敗北に歸すべき旨申送らざるを得ざらしめたのは全く將帥のあらざるによると言はれた。(メツチ、「將帥なき戦争」オルデンブルグ、一九三二年、三八頁)

英國民衆の粘り強い勝利に對する欲望に基く宣傳意志は、ノースクリフ新聞に後れていた。戦争中その誹毀の中に立つてゐるノースクリフ新聞はあだかも鬼神の如くであつた。ノースクリフ卿がこの意味に於てひき起したり自身書いたり説いたりしたことは彼はその根本思想に於ては確かに自ら信じてゐた。(その限りに於て彼の新聞の未曾有の論調を惹起せしめたものはこの「人間のナイヤガラ」の氣質であつた。)しかしノースクリフ卿や彼の援助者は彼等のなした個々の主張や又惹起したセンセーションは虚偽のものであることを意識してゐた。(キルヘル、ノースクリフ、フランクフルト新聞)ノースクリフ卿が一九一八年二月に對敵宣傳の指導を引受けた時には、アングロ・サクソン國家のチュートン人に對する戦争の意味における革命宣傳及び平和宣傳は、たゞ大規模に組織的にノースクリフ新聞の宣傳を擁護するに止つてゐた。

ロイド・デョーデは戦争終局後なほ新聞王に戦勝の榮譽に對する功績を稱へ、子爵の稱號を與へて感謝したのであつたが、彼とノースクリフ卿との關係は其の後間もなく非常に面白くなつた。大戦中彼等の關係は變つた。ロイド・デョーデとノースクリフ卿は時には意見を同じくしたが、又屢々ノースクリフの新聞はロイド・デョーデを攻撃した。ロイド・デョーデは數回和解しよう

とした。ノースクリフ卿は政治家を輕蔑した。「國民は彼等には信頼出来ぬ。」と彼は口癖の様云つてゐた。(フアイフ、二五五頁)そして休戦後お互の關係は完全に打切られてしまつた。

ノースクリフ卿は一九一八年十一月四日十三條の論點を發表した。之は彼が、將來の平和會議の際には、當然全權委員として列せられるだらうと豫想してゐた時公表されたものであつた。ノースクリフ卿は屢々ヅエルサイユ平和會議の論席に於ける協力者として、聯合諸國の首相と交渉することを申出た。ノースクリフの新聞は全く勝利者の平和に向つて進んでゐた。終にデイリイ・メールは十一月十三日、前獨逸皇帝は總てを聯合軍に引渡すべきことを要求した。(ツイルソン、二八二頁)三日後同紙は敗戦國獨逸の、嚴重な封鎖から開放せよといふ要求に對し激怒して反對した。見出しには、フシ人がパンを求めて泣くと書かれ、社説には次の如く述べられてゐた。「世間にはドイツの食料不足に呻吟してゐるのを救はんとする親切者がゐる。」と。(ヘラルド・ニコルソン著「一九一九年の平和成立」ロンドン、一九三三年、六〇頁以下)普通選挙に際してデイリイ・メールは同業者に、「フシに對して何等か寛容を示してゐる」候補者を決して援助せぬ事を要求した。しかし既に十二月十日には、如何にして武器によらずしてドイツを束縛するかといふ様な問題に立入らずして、直に復員を宣傳した。ノースクリフ新聞の獨逸に對する確乎たる過激國家主義的な誹謗に最早歩調を合はせて行かぬロイド・デョーデにタイムズ紙は敵意ある攻撃を行つた。ノースクリフ卿を平和會議に

派遣せしめんとする總ての運動をロイド・デューデは拒絶した。ロイド・デューデが英國独自の政治を行ひ、フランスの凱旋軍から離れんとすればする程、ノースクリフの新聞は幾度も彼に對して戦を挑んだ。ノースクリフの平和會議の参加に對する拒絶はロイド・デューデに對する個人的憎惡を生じ、ノースクリフ卿は二度とこの憎惡を棄てなかつた。(チャーチル前掲)

平和會議の初期の中はノースクリフの新聞は「厚顔フン」と「打倒レーニン」の兩問題に力を注いだ。デイリー・メール紙は次の如く述べてゐる。「ドイツが平和條約に如何なる見解を有するかは、吾人の關知する所ではない。吾人の義務は、ドイツ人が彼等の欲する所を述べたてようとも、吾人の物質的安全を保證する條約を作る事である。」(ニコルソン、六三頁)デイリー・メールの題字の頁に瀟洒たる縁をつけて次の文句がある。即ち「貴族は諸君を欺くであらう。」と。この小さな標語は毎日社説の一番先に現はれた。この警語は第二の文句によつて補充されてゐた。即ち「我々が六十七萬九百八十六人の戦死者、百四萬一千人の負傷者、卅五萬二百四十三人の行方不明者を忘却せぬ爲に。」と。

一九一九年四月七日の下院に於けるロイド・デューデのノースクリフ卿に對する攻撃後、ノースクリフ新聞はフランス陸軍省の宣傳員に身をまかした。「ルシタニヤ號事件」や、キャメル女史の事件はどの社説にも引き出されてゐた。これはロイド・デューデが、機略と節制のほんの僅かの部分で

も平和條約に入れるのを妨げることを豫期したものであつた。(ニコルソン、前掲)ノースクリフの新聞のヒステリーの態度は主として、パリ會議にノースクリフ卿が參與せんとする希望が拒絶された事に源を發してゐるのであるが、之はヴェルサイユ平和會議の最後の署名の時迄續いた。ロイド・デューデは非常に恰情であり、終了した議事の重要な部分は、彼は他から制肘を受けずして自由に談判を爲し得たにもかゝらず、必ず内閣に於て意見を問ふた。毎回内閣は彼の處置を一致して認めた。

ノースクリフ卿とロイド・デューデとの鬭争は猶續けられた。「ヴェルサイユの平和は眞の平和ではない。」と彼のデイリー・メールやタイムスの警語は叫んでゐる。そしてフランスはロイド・デューデによつて勝利者の平和を欺かれてゐるのだといふ證明を大掛りに行はんとした。一九一九年六月タイムスは更に一步を進め、次の如く叫んだ。「ハーディングの招請せるワシントン會議に、英國代表としてロイド・デューデを出席せしめる事は出來ない。それは全世界中一人として彼を信頼する者が無いからである。」と。英帝國代表としての本質は誠實且つ公明正大でなければならぬ。ロイド・デューデは之等に缺けてゐる。アメリカに於ては、ロイド・デューデはバリー・ウイルソンを困惑せしめたのだといふ感情を有してゐる、と。

ロイド・デューデは彼の人身攻撃に應じて、彼はノースクリフ・コンツェルンの全機關に對して、

情報をとる爲に外務省内へ記者を派遣するといふ從來許されてゐた便宜をさへ剝奪し、これによつてノースクリフの新聞が、他の「優遇」せられたる新聞よりも情報を受け難い様な處置を講じた。ロイド・デューヂは聲明して曰くノースクリフ卿は疑もなく偉大な公明正大な愛國者であるが、彼は何と云つても新聞人であり、政治家ではない、と。これは既にロイド・デューヂが首相になる前に云つた見解である。(フランシス・デイルノット、「ロイド・デューヂ、彼の人となりと経歴」一九一七年、ロンドン、一二九頁。リデル卿、平和會議及その後の日記。ロンドン、一九三三、三頁、一〇四頁、一三四頁。アデソン、四年六ヶ月、ロンドン、一九三四。ミルス、ロイド・デューヂ、ロンドン、一九三四。)

タイムスは外務省から得た報告に基いて改めてロイド・デューヂに對する攻撃を行つたが、バリーの諸新聞は、既にノースクリフのコンツェルンに屬してゐるマタンを先鋒として、何れもロイド・デューヂに對する猛烈な非難を行つた。曰く、「ツェルサイユの平和は決して眞の平和ではない。全世界の一致せる希望により、ワシントン會議の最高の裁判にかける事によつて眞の平和に變へることはあり得るが。」(マタン、一九二一年七月十七日所載)バリー會議の間ウィツカム・スチードはノースクリフ卿にとつてなくてはならない股肱であつた。彼は毎日デイリー・メール・バリー版に社説を書いてゐたのだ。(スチード、二卷、二五九頁)

ノースクリフ卿はフランス國內における對獨宣傳を猶も繼續した。彼はイギリス政府の反對の希望に對して無關心に、フランス權力政策を斷乎支持した。ジェノア會議中彼は英國の政策を無條件に、フランス外交に従はしめんとする企圖を極端迄行つた。一九二一年夏ノースクリフ卿は半ば政府の命令でアメリカ及アジアに旅行を行つた。到る所に於て所謂新なるドイツの危機について煽動し、日本人を見ては東洋のプロイセン人だと警戒した。ノースクリフ卿は旅行中の見聞を「我が世界一週旅行」(ロンドン一九二三年發行)中に書いてゐる。

一九二二年彼はブロンと名乗つて微行で占領したラインランドに宣傳旅行をした。彼はこの旅行から新聞に興味豊かな描寫をもたらしたが、此等は今もライン地方のフランスの宣傳を助けてゐると云はれてゐる。昔馴染の様な顔をしてクルン新聞を訪問した。彼がドイツより得る記事は疑もなく、ドイツに對する新しい宣傳戦の開始を豫期したものであつた。彼の寄稿はイギリスに於ては一般の不評を買つた。重い神經病がノースクリフ卿の精神を亂してゐるといふ事が既に認められて來たので、彼の新聞は編輯に際して、彼の論文を印刷する事を拒否した。短編叢書の發刊は挫折し、ノースクリフの著したロンドンの新聞に關係ある富豪の事を書いた小冊子(ノースクリフ卿、新聞とその百萬長者、附我々に關する若干の冥想、ロンドン、一九二二)の販賣は中止された。ノースクリフ新聞はノースクリフ卿はブトメイン中毒の爲心臟病を發して大陸より歸つたと發表した。

ノースクリフ卿は一九二二年八月十四日に死んだ。腦軟化症及び精神錯亂の突發で彼の生涯は急轉直下に終つた。彼の生命の最後の一瞬迄一地方から他の地方へと彼を追まはして行つた妄想觀念は彼が煽動的宣傳によつて行つた事をめぐつてゐたのである。ノースクリフ卿の共働者の一人たるハンネン・スワツプファー（彼は後に「デイリー・ヘラルド」の劇評家となつた。）は記述してゐる。「彼の肉體は疲れ果て、精神は混亂し、彼の生命は決して彼を救さぬであらうと思はれる獨逸人によつて脅かされてゐるのだと妄想しつゝ歸宅した。」（世界新聞、一九三二）ノースクリフは氣狂ひのローマ皇帝の様に死んだ。（ストウツター・ハイム「ジョンブルの擴聲器、大英國の新聞」一九三四、三月、二十三日、ベルリネル・ターグブラット）

ノースクリフ卿の死後、タイムスの専務取締役のサー・キャムベル・ステュアートはデイリー・メールの出版人の重職を辭した。ノースクリフ卿が有してゐたデイリー・メール、キヅニング・ニュース、ツイークリイ・デイスバツチ、デイリー・メール海外版等の四十萬の株は總て弟のローザミア卿に引継がれた。購入の爲に財産を現金に變ずる爲にデイリー・メール・トラストが編成された。ローザミア卿はこのトラストに屬するデイリー・ミラー、サンデイ・ピクトリアルや其他の新聞業を所有してゐた。デイリー・メール・トラストの管理はサー・トーマス・マローウ、サー・アンドリュウ・カード、サー・ジョージ・サトン、サー・ボメリイ・パトソンに委託せられた。デイリー・メール紙の百五十萬の

發行部數は後遂に、ビーバーブルック卿のデイリー・エックスプレス紙に凌駕された。タイムスは陸軍少將J・J・アスターと設立者のツルター一家に譲られた。タイムスをして再び英國の精良新聞ならびに世界新聞として完全な獨立及び政治上の自治を確保する爲に、所有株が確固たる手中にあり、商品とみなされぬ様に而して最高落札者に賣却されたりすることを防止する爲に、之を監視すべき任を有する精神的取締役にタイムスは從屬される事になつた。この監督官廳に屬したのは英蘭銀行總裁、大審院長及その他の公職關係者であつた。（ベルマー著、國際新聞界、ベルリン、一九三四年、四八頁、ゲツシエン叢書）

ノースクリフ卿は恐らく歴史上に、世界の大事事即ち世界大戰の最も不運な姿として残るであらう。彼の絶大な勢力は何に基くのであらうか。彼の能力や業績の秤量は決して容易な問題ではない。誰一人として心からの同情なくしては彼の人格の評価は行ひ得ぬであらう。必然的に文書や傳記に現れた如くに、意見の相違を惹起したのである。

ドイツ國內に於ても意見は區々であつた。以前の對敵手ドイツに於てすら統一の見解は見出し得なかつた。傳記作家達はノースクリフ卿に對しては彼の英國新聞史上に演じた役割を評價して彼の眞價を一般に認めしめるのにすぎなかつた。ノースクリフ卿が戰時宣傳家として演じた役割は絶讃さるべきものであり、こゝに於ては彼の對獨憎惡は必要にして正常なものと認められた。

ドイツ内に於て昔烈に行はれた煽動は、確かに彼のジャーナリストとしての活動の出発點であるよりは寧ろ三角洲の如きものであつた。しかしながら反獨宣傳は彼の業務上の成果の目的への手段であり、又同時に觀念上の自己目的でもあつた。ノースクリフ卿の愛國心は正直にして眞面目なものであつた。(ビーバーブルック著「大戦と政治家」二卷、ロンドン、一卷九頁、二卷一五八頁。フエイ著書の一五頁にもあり。ドヴィファットが「新聞學」(ベルリン、一九三二)第一卷、二五、九五、一一五頁に引用するノースクリフ卿の次の言葉は特徴的である。「新聞の力は鎮壓である。」「利益と熱狂は性格への唯一の扉である。」「ジャーナリズムの耐久力を記憶せよ。」「彼の根本主義は元來疑もなく業務上の成果のみである。彼はジャーナリスト的な鋭敏さによつて支配下の立派な機關新聞の内容を、全く讀者界の希望や嗜好に適合せしむる事を會得してその成果を得たのである。彼は感情移入や想像の力を持つてゐた。しかし本能的行爲から危険を去る所の認識と批判といふ補充を缺いてゐた。彼は新聞や技術に關しては何でも知つていたし、限られた一部の人間や世間についても多く知つてゐたが、他のことには無知であつた。驚くべき權力意志と前例のない堅忍不拔の精神により彼はジャーナリストの仕事を始め、以來例のない程その目的を追究するを得た。彼は民衆の感情大衆の要求をしつかりと觀察した。彼は嘗てこう云つたことがある。「自分が新聞界に入つた時には、全部の新聞はロンドン・シテイの人や、クラブの人や、政治家の様な三百萬位の富裕な階級

の爲に書かれてゐたにすぎなかつた。あとの三千七百萬の人には誰がかまふのだらうか。誰も居ない。私はそれをやらうと決心した。」と。

ノースクリフ卿が政治的影響に成功したのは、彼の新聞が政治的であつたからではなく、正にその反對であつた。先づ彼の新聞は抽象的な事物や論争の問題に殆ど觸れず、むしろ總ての讀者を人間のつかむ一寸した日常事を主とした。この様な方法により讀者層を確立してから、新聞の政治的意見を定め、輿論を政治的に動かした。ノースクリフ卿は勞働者さへも徐々にこの感化の圈内へ投せしめたのである。

彼がこの際示した忍耐、大膽、動活力や、事業遂行の際利益を總て彼に歸せしめ、成功に成功を重ねて行く有様は、相手方をさへ讚美感嘆せしめた。彼は新聞界の領域に於ては勿論、商業上、政治上又宣傳家としての半面に於ても疑もなく天才であつた。しかし彼のかち得た力を利用する手段によつて、英國新聞の大部分が害された。従つて彼の行動からはイギリスにとつても長く幸福が榮えなかつた。斷乎たる讀者獲得の方法や、なほ危険なるイギリス新聞のトラスト結成や、それによる少数人への勢力の集中に對してノースクリフ卿に責任があるのである。

ノースクリフ卿は自身、自己が餘りにも多くの破壊的の力を有してゐるのみで、殆ど創造的能力のない事を知つてゐた。(ニコルソン、前掲、五九頁)彼は破壊する事はいくらでも出来たが、建設

する事は殆ど知らなかつた。傳記作家達は彼の飛躍性や獨創的性質等と共に、特別な柔和、説きつける術、民衆を彼の思想のとりこにしてしまふ無双の腕前を賞讃した。彼等はノースクリフのロマンティックの氣質の中に彼の權力意思の源泉を見出すと信じた。L・J・マックスはノースクリフ卿を一九一七年の「ナショナル・レビュー」の七月號の中に「大戦中の我國における偉大な強い力」と評してゐる。ノースクリフの「パンフレットの誇大の精神」(塵拂ひを持つた紳士、英政府の模範、ロンドン、一九二〇年、四九頁以下)は用捨なく人間といふ物質をもてあそび、壓迫し、踏み倒して進み得た。鬭争の對象が彼をいざなふと言ふよりも、むしろ彼に氣に入つたのは鬭争の機會であつた。一九一七年十一月にノースクリフ卿がフランス首相カイヨーに對して行つた新聞戦は彼が平和主義者に對する軍國主義者の敵對に對する誹謗の一例である。(ミッケル・コーデー著「バリー側面觀日記一九一四—一九一八年」ロンドン、一九三三年、二九四頁)

ノースクリフ卿のドイツに對する憎惡の念は決して本來のものではなかつた。十九世紀の終頃フランスに對して持つた憎惡や鬭争の方法と殆ど同じ様なものであつた。彼は絶倫な精力と、組織を作る驚くべき天稟の才を有する人であつたが、思想や力を活動せしめる倫理的實質には乏しいものがあつた。彼は精神的價值と技術的價值を區別する能力なく、次々にセンセーションを引き起して行つた。(塵拂ひを持つた紳士)深い修養の缺乏や、投機的計畫に傾倒することは、數十萬、數百

萬もの人に知識や經驗を仲介する又しなければならぬ職業の人に於いては眞に悲劇的なものになるのである。(キルヘル著、英國人。又I・A・ファレル著、エドワード七世の御代に於ける英國、ロンドン一九二三年、一四三頁参照)

文學的にはノースクリフ卿は著しい天分を有して居らなかつた。彼の著書の「戦に臨んで」、(ロンドン、一九一四年)「ノースクリフ卿大戦讀本」(ニューヨーク、一九一六年)は内容的にも外見的にも、特色ある優秀なものではなかつた。フランスの「國民新聞」(一九一七年八月廿二日)は彼の大戦に關する著書を評して「誰にでも與へ得る優れたる家族的な書籍である」と云ひ、ハミルトン・ファイフは、「別に良い記事はない。」と認めた。(ファイフ、一九七頁)

彼の成功の大部分は巧妙に共同者を選択した事に負ふのである。最たるものはトム・クラークである。彼は現在はニュース・クロニクルの發行人をしてゐるが、ノースクリフの時代にはデイヴィイ・メーの一新聞記者であつた。彼はノースクリフと十年間共に働いてゐる間、カームル教僧の家に於て日々の出來事について日記を書いてゐた。この日記は彼については新聞のみにおける天才の一面性と不屈の精神を明瞭にした。ノースクリフ卿は何事かを成就したジャーナリストに對しては、常に個人的の祝電を打つた。彼の秘訣は、最も高い報酬によつて最良の仕事させるといふにあつた。忠實や尊敬の念を起さしめたのは彼が仕事を良く知つてゐた事によるものでなく、勞働者達に對し

て極端に親切であつた事によつたのだといふ事を彼は良く知つてゐた。(フレデリック W・ウィルソン著、ノースクリフと彼の部下、日録、一九二二年六月二二日ベルリン)

デイリー・メールの廣告はノースクリフの横顔を示してゐた。「美しい顔であつた。高い誇らかな眉は半ば髪におほはれてゐた。目は明るくバツチャリと開いてゐた。顔の輪廓は氣高い面をはつきりさせてゐた。口は痙攣した様であつた。髯はなく、頭を半分前の方に廻轉せしめると不自然に病的に肥滿してゐるのを認め得た。」(キルヘル、英國人。ジル・ヅアラ、前掲、二三二頁)シル・ヅアラの叙述によれば、ノースクリフ卿は壯年期には強い質實な普通より少し大きい男で、縮つた廣い平なつるくりに髪を剃つた顔をしてゐた。そしてまあ、セシル・ローツの様な形の顔をしてゐた。彼は會社や國家を推進する人間で、頬骨の中にある強い意思はこゝでは圓滿さでおほはれてゐた。眼は何かに着目した時には鋭く明るく輝いた。髪は亂雑に眉にかぶさつてゐた。ノースクリフ卿は顎を握り拳にのせた横顔を好んで寫真にとらせた。

ノースクリフ卿は自分の姿勢や容貌が大ナポレオンに似てゐるといふ事を非常に自慢してゐた。彼はこの征服者の胸像を常に机の上においてゐた。實際彼がノースクリフなる稱號をえらんだのは、署名をナポレオンの頭字Nを以て現はし得るからであつた。(塵拂を持つ紳士、五十頁)トム・クラークはノースクリフのフォンテンブロー訪問について語つてゐる。「澤山心付をやつて彼は番兵達

にナポレオンの二つの尖頭のある帽子を持たせた。ノースクリフ卿は有名な帽子をかぶり、祈禱して姿を鏡にうつして見た。「フリート街のナポレオン」は彼の氣に入りの綽名であつた。

此等の癖や趣味によつて、デイベリウツスが廿世紀のマキアベリと名附けたノースクリフの像を完成する事が出来るであらう。事業家、成功家としてのノースクリフの名は強く議論され、批評されてゐる。最も鋭い批評はデイリー・ニュースの前主筆ガーデイナーがノースクリフ卿に下したものである。「彼は道徳を知らず、感覺もなく、理論も人生觀も持つてゐない。彼は全く單純に誰が勝つかを考へ、最も良いチャンスを握むことを期待する側に味方した。ノースクリフ卿が彼の時代に與へたものはこのジャーナリズムの完全に商業的な見解であつた。」と。

カイヨーは一九一七年ノースクリフ卿を、公開状態で新聞や宣傳による誹謗の獨占について非難した。ノースクリフの優遇を受けた共同者ハミルトン・ファイフは彼の回顧録を、「樂天家の養成」なる題の下に發刊したが、(ロンドン一九二二年、二五二、二頁)其の中に於て彼はノースクリフを見棄て、主人に反對して政治的、道徳的思想を完全に變ずる事の能力に關して有利な證言を行つた。ドイツ系アメリカ人フェルデinand・ハンゼン及びヘルマン・ゲオルグ・シエツファウエルは戦後激しくノースクリフ卿を非難した出版物を公にした。(フェルデinand・ハンゼン著英國將校並びに國民に與へる公開狀。ハンゼン著後悔なきノースクリフ。共にハンブルグに於て發行。ハンゼン

著、首かせと證人、ハンブルグ、一九二〇年、二四三頁以下。シエフアツエル著、我獨逸人なりせば、一九二五年、ライプツヒ、六七頁以下)

ノースクリフ卿の眞價を認める爲には我々は驚嘆の感情と皮肉の感情の間に境界線を引かねばならぬ。彼は國民の眞の指導者ではなかつた。彼の愛國心は大であつたが、他を絶滅せんとする意思の外は何物もなかつた。彼は新聞と共に生き、新聞と共に死んだ。死の數日前タイムスの編輯長ツイツカム・スチードを呼び寄せ、タイムスの一頁を追悼文として捧ぐることを依頼した。

彼の死後ローヅミア卿はデイリイ・メールの記念建築物を作り、「ノースクリフ館」と命名した。

ローヅミア卿やセシル・ハームスワースは彼の記念の爲に、最新英文學のノースクリフ講座、英國言語學のノースクリフ教授職をロンドン大學に創設した。

英首都の記念碑は彼の生涯の活動を示してゐる。

—完—

昭和十三年一月二十五日印刷

昭和十三年一月二十八日發行

(非賣品)

